

2018（平成30）年度

経営学研究科

社会科学研究所経営学専攻

授業概要・履修案内

首都大学東京大学院経営学研究科
首都大学東京大学院社会科学研究所

目 次

I	経営学研究科経営学専攻	3
1	博士前期課程	5
	(1) 経営学プログラム (MBA)	10
	(2) 経済学プログラム (MEc)	14
	(3) ファイナンスプログラム (MF)	18
2	博士後期課程	22
II	社会科学研究科経営学専攻	25
1	博士前期課程 (高度専門職業人養成プログラム) (MBA)	27
2	博士前期課程 (高度金融専門人材養成プログラム) (MF)	32
3	博士前期課程 (研究者養成プログラム) 及び博士後期課程	36
III	授業概要	41
1	博士前期課程	41
2	博士後期課程	181
IV	各キャンパス授業時間割について	253
V	交通機関運休の場合等の授業の取り扱いについて	254
VI	学生生活の手引き	256
VII	首都大学東京学位規則 (抜粋)	257
VIII	丸の内サテライトキャンパス平面図	262

I 経営学研究科経営学専攻

1 博士前期課程

博士前期課程授業科目の科目区分とプログラムごとの群指定

科目区分	授業科目名	経営学プログラム	経済学プログラム	ファイナンスプログラム	頁
経営A	経営学	A群	C群	C群	43
	経営組織	A群	C群	C群	44
	ヒューマン・リソース・マネジメント	A群	C群	C群	45
	意思決定	A群	C群	C群	46
	ベンチャービジネス	A群	C群	C群	47
	経営戦略	A群	C群	C群	48
	経営戦略演習	A群	C群	C群	49
	テクノロジー・マネジメント	A群	C群	C群	50
	マーケティング・マネジメント	A群	C群	C群	51
	マーケティング・サイエンス	A群	C群	C群	52
	マネジメント・サイエンス I	A群	C群	C群	53
	統計学基礎	A群	A群	C群	54
	経営分析	A群	C群	C群	55
	管理会計	A群	C群	C群	56
財務会計	A群	C群	C群	57	
経営B	組織行動	B群	C群	C群	58
	マネジメント・サイエンス II	B群	C群	C群	59
	経営数理	B群	C群	C群	60
	ビジネスイノベーション演習	B群	C群	C群	61
	企業経済学	B群	B群	C群	62
	コーポレートファイナンス概論	B群	C群	C群	63
	証券投資	B群	C群	C群	64
	経営学特別講義	B群	C群	C群	65～70
	経営学演習	B群	C群	C群	71～77
経済A	ミクロ経済学	C群	A群	C群	78
	マクロ経済学	C群	A群	C群	79
	計量経済学	C群	A群	C群	80
	経済数学	C群	A群	C群	81
	ミクロ経済学演習	C群	A群	C群	82
	マクロ経済学演習	C群	A群	C群	83
	ミクロ経済学概論	B群	A群	C群	84
	マクロ経済学概論	B群	A群	C群	85
	経済史概論	B群	A群	C群	86
	経済史演習	C群	A群	C群	87

科目 区分	授業科目名	経営学 プログラム	経済学 プログラム	ファイナンス プログラム	頁
経済 B	金融論	C群	B群	C群	
	国際金融論	C群	B群	C群	
	ミクロ経済学特論	C群	B群	C群	
	マクロ経済学特論	C群	B群	C群	88
	ゲーム理論	B群	B群	C群	89
	公共経済学	C群	B群	C群	90
	日本経済論	B群	B群	C群	91
	ミクロ計量経済学	C群	B群	C群	
	時系列解析	C群	B群	C群	92
	日本経済史	B群	B群	C群	93
	西洋経済史	C群	B群	C群	94
	アジア経済史	B群	B群	C群	95
	社会経済史	C群	B群	C群	96
	経済思想史	B群	B群	C群	97
経済学特別講義	C群	B群	C群		
ファイ ナンス A	資産運用論	C群	C群	A群	98
	ポートフォリオ理論	C群	C群	A群	99
	実証ファイナンス	C群	C群	A群	100
	債権投資とALM	C群	C群	A群	101
	オプション理論	C群	C群	A群	102
	期間構造モデル	C群	C群	A群	103
	クレジットデリバティブ	C群	C群	A群	104
	上級オプション理論	C群	C群	A群	105
	金融リスク管理概論	C群	C群	A群	106
	マーケットリスク管理	C群	C群	A群	107
	信用リスク管理	C群	C群	A群	108
	プログラミング基礎	C群	C群	A群	109
	金融数値解法	C群	C群	A群	110
	シミュレーション	C群	C群	A群	111

科目区分	授業科目名	経営学プログラム	経済学プログラム	ファイナンスプログラム	頁
ファイナンスB	確率解析	C群	C群	B群	112
	上級確率解析	C群	C群	B群	113
	金融における最適化	C群	C群	B群	114
	金融データサイエンス	C群	C群	B群	115
	金融時系列解析	C群	C群	B群	116
	金融経済学	C群	C群	B群	117
	コーポレートファイナンス	C群	C群	B群	118
	ファイナンス特別講義	C群	C群	B群	119~120
	金融工学特別講義	C群	C群	B群	121
必修	経営学特別演習	必修	C群	C群	122~127
	経済学特別演習	C群	必修	C群	128~131
	ファイナンス演習	C群	C群	必修	132
	ファイナンス考究	C群	C群	必修	133
	研究指導	必修	必修	必修	
経営B2	経営学特別研究	B群	C群	C群	134
	組織理論特別研究	B群	C群	C群	135
	組織理論特別演習	B群	C群	C群	134、135
	ヒューマン・リソース・マネジメント特別研究	B群	C群	C群	136
	ヒューマン・リソース・マネジメント特別演習	B群	C群	C群	136
	意思決定特別研究	B群	C群	C群	137
	意思決定特別演習	B群	C群	C群	137
	ベンチャービジネス特別研究	B群	C群	C群	138
	ベンチャービジネス特別演習	B群	C群	C群	139
	経営戦略特別研究	B群	C群	C群	140、142
	経営戦略特別演習	B群	C群	C群	141、142
	テクノロジー・マネジメント特別研究	B群	C群	C群	143
	テクノロジー・マネジメント特別演習	B群	C群	C群	143
	マーケティング特別研究	B群	C群	C群	144
	マーケティング特別演習	B群	C群	C群	144
	マーケティング・サイエンス特別研究	B群	C群	C群	
	マーケティング・サイエンス特別演習	B群	C群	C群	
	統計学特別研究	B群	C群	C群	145
	統計学特別演習	B群	C群	C群	145
	経営科学特別研究	B群	C群	C群	146、148、150
経営科学特別演習	B群	C群	C群	147、149、151	
企業金融論特別研究	B群	C群	C群		

科目 区分	授業科目名	経営学 プログラム	経済学 プログラム	ファイナンス プログラム	頁
経営 B 2	企業金融論特別演習	B群	C群	C群	
	会計学特別研究	B群	C群	C群	152
	会計学特別演習	B群	C群	C群	153
	財務会計特別研究	B群	C群	C群	154
	財務会計特別演習	B群	C群	C群	155
	管理会計特別研究	B群	C群	C群	156
	管理会計特別演習	B群	C群	C群	157
経済 B 2	ミクロ経済学特別研究	C群	B群	C群	158
	ミクロ経済学特別演習	C群	B群	C群	158
	マクロ経済学特別研究	C群	B群	C群	159
	マクロ経済学特別演習	C群	B群	C群	160
経済 B 2	計量経済学特別研究	C群	B群	C群	161
	計量経済学特別演習	C群	B群	C群	162
	金融論特別研究	C群	B群	C群	
	金融論特別演習	C群	B群	C群	
	金融経済学特別研究	C群	B群	C群	163
	金融経済学特別演習	C群	B群	C群	163
	日本経済論特別研究	C群	B群	C群	164
	日本経済論特別演習	C群	B群	C群	164
	ゲーム理論特別研究	C群	B群	C群	165
	ゲーム理論特別演習	C群	B群	C群	166
	数理統計学特別研究	C群	B群	C群	167
	数理統計学特別演習	C群	B群	C群	167
	公共経済学特別研究	C群	B群	C群	168
	公共経済学特別演習	C群	B群	C群	168
	国際金融論特別研究	C群	B群	C群	169
	国際金融論特別演習	C群	B群	C群	169
	都市環境経済学特別研究	C群	B群	C群	170
	都市環境経済学特別演習	C群	B群	C群	171
	財政学特別研究	C群	B群	C群	172
	財政学特別演習	C群	B群	C群	172
日本経済史特別研究	C群	B群	C群	173	
日本経済史特別演習	C群	B群	C群	174	
経済思想史特別研究	C群	B群	C群	175	
経済思想史特別演習	C群	B群	C群	175	
西洋経済史特別研究	C群	B群	C群		

科目 区分	授業科目名	経営学 プログラム	経済学 プログラム	ファイナンス プログラム	頁
経済 B 2	西洋経済史特別演習	C群	B群	C群	
	アジア経済史特別研究	C群	B群	C群	176
	アジア経済史特別演習	C群	B群	C群	177
ファイナンス B 2	金融工学特別研究	C群	C群	B群	178
	金融工学特別演習	C群	C群	B群	178
	金融リスク特別研究	C群	C群	B群	179
	金融リスク特別演習	C群	C群	B群	179

2018 (平成30) 年度 首都大学東京経営学プログラム (MBA) 学年暦

MBA

	日	月	火	水	木	金	土	行事等
4月	1	2	3	4	5	6	7	4月7日 入学ガイダンス
	8	9	10	11	12	13	14	4月8日 入学式(全学)
	15	16	17	18	19	20	21	4月9日 前期授業開始
	22	23	24	25	26	27	28	4月中旬～下旬(別途通知) 前期履修申請
	29	30						
5月			1	2	3	4	5	5月1日、2日 休講日(補講日)
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			
6月						1	2	
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
7月	24	25	26	27	28	29	30	
	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	7月13日 修士論文・課題研究中間審査申請締切
	15	16	17	18	19	20	21	7月31日 〈9月修了生〉修士論文・課題研究提出締切
8月	22	23	24	25	26	27	28	7月31日～8月10日(8月4日を除く) 補講日
	29	30	31					8月4日 修士論文・課題研究中間審査
				①	②	③	④	
	5	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	11	8月13日～9月30日 夏季休業(集中授業期間)
9月	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		
							1	9月1日 前期一般入試
	2	3	4	5	6	7	8	9月2日 前期一般入試予備日
10月	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	9月29日 〈9月修了生〉学位記授与式
	30							
		1	2	3	4	5	6	10月1日 後期授業開始
11月	7	8	9	10	11	12	13	10月上～中旬(別途通知) 後期履修申請
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				
12月					1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30		
1月							1	
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	12月25日～28日 補講日
	16	17	18	19	20	21	22	12月29日～1月3日 冬季休業
	23	24	25	26	27	28	29	1月4日 後期授業再開
2月	30	31						1月10日 修士論文・課題研究提出締切
			1	2	3	4	5	〈9月修了生〉中間審査申請締切
	6	7	8	9	10	11	12	1月29日～2月1日、2月5日～9日 補講日
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
3月	27	28	29	30	31			
						①	②	2月2日 修士論文・課題研究審査、〈9月修了生〉中間審査
	3	4	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	2月9日 後期一般・公共経営入試
	10	11	12	13	14	15	16	2月12日から 春季休業
	17	18	19	20	21	22	23	2月16日 後期一般・公共経営入試予備日
3月	24	25	26	27	28			
						1	2	
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	3月22日 卒業式(全学、荒川キャンパス以外)
3月	24	25	26	27	28	29	30	3月23日 学位記授与式
	31							

- ※ 通常授業日と補講日は白のセル、その他は色付きのセルです。補講日には丸印がついています。
- ※ 休講日には通常授業はありません。丸の内サテライトキャンパスは開いています。
- ※ 数字が白抜きの日は休日です。丸の内サテライトキャンパスには入構できません。
- ※ 変更がある場合は掲示等でお知らせします。必ず所定の掲示板を確認してください。

経営学プログラム（MBA）専任教員等一覧

1 専任教員

職	氏名	研究室	研究室電話（直通）
教授	浅野 敬志	4階 314	042 (677) 2329
教授	桑田 耕太郎	4階 415	042 (677) 2328
教授	高尾 義明	2階 224	042 (677) 2314
教授	竹田 陽子	2階 225	042 (677) 1829
教授	長瀬 勝彦	4階 404	042 (677) 1152
教授	野口 昌良	4階 418	042 (677) 2308
教授	細海 昌一郎	2階 233	042 (677) 2311
教授	松田 千恵子	4階 406	042 (677) 2323
教授	室田 一雄	4階 402	042 (677) 2322
教授	山下 英明	4階 413	042 (677) 2326
准教授	高橋 勅徳	3階 306	042 (677) 2324
准教授	西村 孝史	3階 305	042 (677) 2331
准教授	松尾 隆	2階 236	042 (677) 1136
准教授	水越 康介	2階 235	042 (677) 2313
准教授	森 治憲	4階 412	042 (677) 2325
准教授	森口 聡子	3階 312	042 (677) 2321

※1 研究室はいずれも南大沢キャンパス3号館

※2 今年度の授業を担当する教員のみ掲載

2 非常勤講師

岡本 享 二
 坂卷 敏 史
 坂本 雅 明
 鶴見 裕 之
 照屋 華 子
 中岡 英 隆
 松林 伸 生
 溝田 宗 司

経営学専攻（経営学プログラム）の修了要件

経営学専攻博士前期（修士）課程経営学プログラムを修了するためには、所定の単位を取得したうえで修士論文又は特定の課題についての研究成果（以下「課題研究論文」という）を提出し、最終試験に合格しなければなりません。

学位取得の条件は以下の通りです。修士論文提出者と課題研究論文提出者とでは必要取得単位数が異なるので注意して下さい。

なお、修士論文と課題研究論文の選択は、1年次末に決定される指導教員による指導の過程において行います。

1 修士論文を提出して学位を取得するもの

- ① A群科目から12単位以上、合計30単位以上を取得
- ② 経営学特別演習 2 単位以上及び研究指導 4 単位（注）を履修し、修士論文を提出

2 課題研究論文を提出して学位を取得するもの

- ① A群科目から12単位以上、合計36単位以上を取得
- ② 経営学特別演習 2 単位以上及び研究指導 4 単位（注）を履修し、課題研究論文を提出

注. 研究指導は半期 2 単位の計 4 単位（4 単位を超えて履修することはできない）

※ 経営学特別演習（注：経営学演習でない）及び研究指導は必修科目であり、修了に必要な単位数（合計30単位または36単位）に含まれる。

※ 研究指導は1年次生は履修できない。

※ 一度単位を取得した科目については、再度履修することはできない（研究指導を除く）。

3 専攻に準ずる科目

- 指導教員が教育上有益と認めるときは、10単位を上限として他の研究科の専攻の授業科目又は学部の授業科目を履修し経営学専攻の履修単位数に充当することができる。
- 専攻に準ずる科目の履修については、履修前にその科目を担当する教員の許可と経営学研究科教授会の承認を必要とする。

4 科目区分について

必ず、「Ⅲ. 授業科目一覧」の入学年度の授業科目を参照し、履修に関し不明な点がある場合は、事務担当に相談すること。

経営学プログラム (MBA) 授業科目一覧

MBA

区分	頁	授業科目名	単位	担当教員
A 群 科 目	43	経営学	2	桑 田 耕太郎
	44	経営組織	2	高 尾 義 明
	45	ヒューマン・リソース・マネジメント	2	西 村 孝 史
	46	意思決定	2	長 瀬 勝 彦
	47	ベンチャービジネス	2	高 橋 勅 徳
	48	経営戦略	2	竹 田 陽 子
	49	経営戦略演習	2	松 田 千 恵子
	50	テクノロジー・マネジメント	2	松 尾 隆
	51	マーケティング・マネジメント	2	水 越 康 介
	52	マーケティング・サイエンス	2	鶴 見 裕 之
	53	マネジメント・サイエンス I	2	森 口 聡 子
	54	統計学基礎	2	森 治 憲
	55	経営分析	2	浅 野 敬 志
	56	管理会計	2	細 海 昌 一 郎
	57	財務会計	2	野 口 昌 良
B 群 科 目	58	組織行動	2	高 尾 義 明
	59	マネジメント・サイエンス II	2	山 下 英 明
	60	経営数理	2	室 田 一 雄
	61	ビジネスイノベーション演習	2	高 橋 勅 徳
	62	企業経済学	2	松 林 伸 生
	63	コーポレートファイナンス概論	2	中 岡 英 隆
	64	証券投資	2	坂 卷 敏 史
	65	経営学特別講義 (経営戦略とリアルオプション)	2	中 岡 英 隆
	66	経営学特別講義 (戦略経営 I)	2	坂 本 雅 明
	67	経営学特別講義 (戦略経営 II)	2	坂 本 雅 明
	68	経営学特別講義 (企業倫理)	2	岡 本 享 二
	69	経営学特別講義 (CSR)	2	岡 本 享 二
	70	経営学特別講義 (知的財産法)	2	溝 田 宗 司
	71	経営学演習 (財務戦略)	2	松 田 千 恵子
	72	経営学演習 (ケース)	2	西 村 孝 史
	73	経営学演習 (ロジカル・ライティング I)	2	照 屋 華 子
	74	経営学演習 (ロジカル・ライティング II)	2	照 屋 華 子
	75	経営学演習 (公共経営アクションリサーチ)	2	竹田・長瀬・西村
	76	経営学演習 (グループ研究 I)	2	オムニバス
	77	経営学演習 (生産戦略)	2	松 尾 隆
	84	ミクロ経済学概論	2	渡 辺 隆 裕
	85	マクロ経済学概論	2	荒 戸 寛 樹
	86	経済史概論	2	竹 内 祐 介
	89	ゲーム理論	2	渡 辺 隆 裕
	91	日本経済論	2	村 田 啓 子
	93	日本経済史	2	小 林 延 人
	95	アジア経済史	2	竹 内 祐 介
	97	経済思想史	2	高 見 典 和
	134	経営学特別研究・組織理論特別演習 (*)	2	桑 田 耕太郎
	135	組織理論特別研究・特別演習 (*)	2	高 尾 義 明
	136	ヒューマン・リソース・マネジメント特別研究・特別演習 (*)	2	西 村 孝 史
	137	意思決定特別研究・特別演習 (*)	2	長 瀬 勝 彦
	138、139	ベンチャービジネス特別研究・特別演習 (*)	2	高 橋 勅 徳
	142	経営戦略特別研究・特別演習 (*)	2	松 田 千 恵子
	140、141	経営戦略特別研究・特別演習 (*)	2	竹 田 陽 子
143	テクノロジー・マネジメント特別研究・特別演習 (*)	2	松 尾 隆	
144	マーケティング特別研究・特別演習 (*)	2	水 越 康 介	
145	統計学特別研究・特別演習 (*)	2	森 治 憲	
148、149	経営科学特別研究・特別演習 (*)	2	室 田 一 雄	
146、147	経営科学特別研究・特別演習 (*)	2	山 下 英 明	
150、151	経営科学特別研究・特別演習 (*)	2	森 口 聡 子	
152、153	会計学特別研究・特別演習 (*)	2	野 口 昌 良	
154、155	財務会計特別研究・特別演習 (*)	2	浅 野 敬 志	
156、157	管理会計特別研究・特別演習 (*)	2	細 海 昌 一 郎	
	122~127	経営学特別演習	2	各 教 員
		研究指導	2	各 教 員
C群科目		A群科目・B群科目ならびに必修科目以外の科目 (主に経済学プログラム及びファイナンスプログラム提供科目、但し除外科目あり)		

- ※ 経営学特別演習及び研究指導は必修科目
- ※ (*) は B 2 科目、主に南大沢キャンパスで昼間に開講
- ※ 今年度の開講科目のみ掲載

2018（平成30）年度 首都大学東京経済学プログラム（MEc）学年暦

MEc

	日	月	火	水	木	金	土	行事等
4月	1	2	3	4	5	6	7	4月7日 入学ガイダンス
	8	9	10	11	12	13	14	4月8日 入学式(全学)
	15	16	17	18	19	20	21	4月9日 前期授業開始
	22	23	24	25	26	27	28	4月中旬～下旬(別途通知) 前期履修申請
	29	30						
5月			1	2	3	4	5	5月1日、2日 休講日(補講日)
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			
6月						1	2	
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
7月	24	25	26	27	28	29	30	
	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
8月	22	23	24	25	26	27	28	7月31日～8月10日(8月4日を除く) 補講日
	29	30	③					
			①	②	③	4		
	5	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	11	8月13日～9月30日 夏季休業(集中授業期間)
9月	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		
							1	9月1日 前期入試
	2	3	4	5	6	7	8	9月2日 前期入試予備日
10月	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
	30							
		1	2	3	4	5	6	10月1日 後期授業開始
11月	7	8	9	10	11	12	13	10月上～中旬(別途通知) 後期履修申請
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				
					1	2	3	
12月	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30		
							1	
1月	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	12月25日～28日 補講日
	23	24	25	26	27	28	29	12月29日～1月3日 冬季休業
	30	31						1月4日 後期授業再開
2月			1	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	1月29日～2月1日、2月5日～9日 補講日
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			
3月						①	2	2月2日 修士論文・課題研究審査、〈9月修了生〉中間審査
	3	4	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	2月9日 後期一般
	10	11	12	13	14	15	16	2月12日から 春季休業
	17	18	19	20	21	22	23	2月16日 後期入試予備日
	24	25	26	27	28			
4月							1	
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	3月22日 卒業式(全学、荒川キャンパス以外)
	24	25	26	27	28	29	30	
							31	

- ※ 通常授業日と補講日は白のセル、その他は色付きのセルです。補講日には丸印がついています。
- ※ 休講日には通常授業はありません。丸の内サテライトキャンパスは開いています。
- ※ 数字が白抜きの日は休日です。丸の内サテライトキャンパスには入構できません。
- ※ 変更がある場合は掲示等でお知らせします。必ず所定の掲示板を確認してください。

経済学プログラム (MEc) 専任教員等一覧

1 専任教員

職	氏名	研究室	研究室電話 (直通)
教授	飯 星 博 邦	2階 226	042 (677) 1137
教授	飯 村 卓 也	2階 232	042 (677) 1138
教授	田 中 敬 一	3階 313	042 (677) 2318
教授	村 田 啓 子	4階 414	042 (677) 2327
教授	脇 田 成	4階 405	042 (677) 2307
教授	渡 辺 隆 裕	4階 411	042 (677) 1139
准教授	荒 戸 寛 樹	4階 403	042 (677) 2309
准教授	小 方 浩 明	3階 318	042 (677) 2320
准教授	小 林 延 人	3階 317	042 (677) 2319
准教授	高 見 典 和	4階 419	042 (677) 2332
准教授	竹 内 祐 介	3階 316	042 (677) 1151
准教授	森 本 脩 平	4階 417	042 (677) 2330

※1 研究室はいずれも南大沢キャンパス3号館

※2 今年度の授業を担当する教員のみ掲載

2 兼任教員

職	氏名	研究室	研究室電話 (直通)
教授	朝 日 ちさと	1階 107	042 (677) 3144
准教授	金 子 憲	1階 102	042 (677) 3130

※1 研究室はいずれも南大沢キャンパス2号館

3 非常勤講師

大 西 晴 樹

経営学専攻（経済学プログラム）の修了要件

経営学専攻博士前期課程（経済学プログラム）を修了するためには、以下に定める所定の単位を取得したうえで修士論文を提出し、最終試験に合格しなければなりません。

- ① 30単位以上を修得しなければならない。
- ② 経済学プログラムが定めるA群科目から8単位以上、経済学特別演習2単位以上(上限4単位)、研究指導4単位以上(上限6単位)を修得しなければならない。これらは上記の30単位に充当することができる。
- ③ 上記の30単位に他の研究科の授業科目および学部の授業科目を合計で10単位まで充当することができる。ただし、これらを履修するためには、指導教授が教育上有益と認めたとうえで、当該科目の担当教員の許可と経営学研究科教授会の承認が必要である。

※経済学特別演習及び研究指導に関する上限単位数を越えて履修した場合には、その超過単位数は修了要件には充当しない。

経済学プログラム (MEc) 授業科目一覧

区分	頁	授業科目名	単位	担当教員
A 群 科 目	78	ミクロ経済学	2	飯 村 卓 也
	79	マクロ経済学	2	荒 戸 寛 樹
	80	計量経済学	2	飯 星 博 邦
	81	経済数学	2	田 中 敬 一
	82	ミクロ経済学演習	1	飯 村 卓 也
	83	マクロ経済学演習	1	荒 戸 寛 樹
	84	ミクロ経済学概論	2	渡 辺 隆 裕
	85	マクロ経済学概論	2	荒 戸 寛 樹
	86	経済史概論	2	竹 内 祐 介
	87	経済史演習	2	竹 内・高 見
	54	統計学基礎	2	森 治 憲
	B 群 科 目	88	マクロ経済学特論	2
89		ゲーム理論	2	渡 辺 隆 裕
90		公共経済学	2	森 本 脩 平
91		日本経済論	2	村 田 啓 子
92		時系列解析	2	小 方 浩 明
93		日本経済史	2	小 林 延 人
94		西洋経済史	2	大 西 晴 樹
95		アジア経済史	2	竹 内 祐 介
96		社会経済史	2	竹 内 祐 介
97		経済思想史	2	高 見 典 和
62		企業経済学	2	松 林 伸 生
158		ミクロ経済学特別研究・特別演習 (*)	2	飯 村 卓 也
159、160		マクロ経済学特別研究・特別演習 (*)	2	脇 田 成
161、162		計量経済学特別研究・特別演習 (*)	2	飯 星 博 邦
163		金融経済学特別研究・特別演習 (*)	2	田 中 敬 一
164		日本経済論特別研究・特別演習 (*)	2	村 田 啓 子
165、166		ゲーム理論特別研究・特別演習 (*)	2	渡 辺 隆 裕
167		数理統計学特別研究・特別演習 (*)	2	小 方 浩 明
168		公共経済学特別研究・特別演習 (*)	2	森 本 脩 平
169		国際金融論特別研究・特別演習 (*)	2	荒 戸 寛 樹
170、171		都市環境経済学特別研究・特別演習 (*)	2	朝 日 ちさと
172		財政学特別研究・特別演習 (*)	2	金 子 憲
173、174		日本経済史特別研究・特別演習 (*)	2	小 林 延 人
175	経済思想史特別研究・特別演習 (*)	2	高 見 典 和	
176、177	アジア経済史特別研究・特別演習 (*)	2	竹 内 祐 介	
	128~131	経済学特別演習	2	各 教 員
		研究指導	2	各 教 員
C 群 科 目		A群科目・B群科目ならびに必修科目以外の科目（主に経営学プログラム及びファイナンスプログラム提供科目、但し除外科目あり）		

※ 経済学特別演習及び研究指導は必修科目

※ (*) はB 2科目、主に南大沢キャンパスで昼間に開講

2018 (平成30) 年度 ファイナンスプログラム (MF) 学年暦

MF

暦	日	月	火	水	木	金	土	行事等
4月	1	2	3	4	5	6	7	4月7日 入学ガイダンス
	8	9	10	11	12	13	14	4月8日 入学式(全学)
	15	16	17	18	19	20	21	4月9日～6月8日 1Q授業日
	22	23	24	25	26	27	28	4月中旬～下旬(別途通知) 前期履修申請
	29	30	1	2	3	4	5	5月1、2日 休講日
5月	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31	1	2	
6月	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	6月11日～15日 集中授業期間、1Q補講
	17	18	19	20	21	22	23	6月18日～8月10日 2Q授業日
7月	24	25	26	27	28	29	30	
	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
8月	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31	1	2	3	4	
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	8月13日～17日 2Q補講
	19	20	21	22	23	24	25	18月13日～9月28日 集中授業期間
9月	26	27	28	29	30	31	1	8月20日～9月28日 夏季休業
	2	3	4	5	6	7	8	9月1日 前期一般入試
	9	10	11	12	13	14	15	9月2日 前期一般入試(予備日)
	16	17	18	19	20	21	22	9月21日 修士論文中間審査申請締切
	23	24	25	26	27	28	29	9月28日 修士論文中間審査
10月	30	1	2	3	4	5	6	10月1日～11月26日 3Q授業日
	7	8	9	10	11	12	13	10月上～中旬(別途通知) 後期履修申請
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
11月	28	29	30	31	1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
12月	25	26	27	28	29	30	1	11月27日～30日 3Q補講
	2	3	4	5	6	7	8	12月3日～2月2日 4Q授業日
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	12月29日～1月3日 冬季休業
1月	30	31	1	2	3	4	5	1月4日 休講日
	6	7	8	9	10	11	12	1月10日 修士論文提出締切
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31	1	2	1月31日 修士論文審査
2月	3	4	5	6	7	8	9	2月5日～8日 4Q補講
	10	11	12	13	14	15	16	2月12日から 春季休業
	17	18	19	20	21	22	23	2月9日 後期入試
	24	25	26	27	28	1	2	2月16日 後期入試(予備日)
3月	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	3月22日 卒業式(南大沢C)
	24	25	26	27	28	29	30	3月23日 学位記授与式
	31							

※ 通常授業日と補講日は白のセル、その他は色付きのセルです。補講日には丸印がついています。
 ※ 休講日には通常授業はありません。丸の内サテライトキャンパスは開いています。
 ※ 数字が白抜きの日は休日です。丸の内サテライトキャンパスには入構できません。
 ※ 変更がある場合は掲示等でお知らせします。必ず所定の掲示板を確認してください。

ファイナンスプログラム (MF) 専任教員等一覧

1 専任教員

職	氏名	研究室	研究室電話 (直通)
教授	足立 高德	研究室03	03 (6268) 0542
教授	内山 朋規	南 2階237	042 (677) 2315
教授	室町 幸雄	南 2階223	042 (677) 2306
准教授	竹原 浩太	研究室02	03 (6268) 0532
准教授	八木 恭子	研究室01	03 (6268) 0529

2 特任教員

職	氏名	研究室	研究室電話 (直通)
教授	磯貝 孝	研究室04	03 (6268) 0549
教授	加藤 康之	—	—
教授	原 千秋	—	—
教授	林 高樹	—	—
教授	Christopher Hian	—	—
	Ann TING	—	—
准教授	小池 祐太	—	—

3 兼任教員

職	氏名	研究室	研究室電話 (直通)
教授	室田 一雄	南 4階402	042 (677) 2322
准教授	荒戸 寛樹	南 4階403	042 (677) 2309

※研究室欄に「南」という表記があるものは、南大沢キャンパス3号館を指す。

4 非常勤講師

市川 達夫
西原 理

経営学専攻（ファイナンスプログラム）修了要件

経営学専攻博士前期課程（ファイナンスプログラム）を修了するためには、次のとおり所定の単位を取得したうえで修士論文を提出し、最終試験に合格しなければなりません。

- ① A群科目から12単位以上取得
- ② ファイナンス演習 2 単位、ファイナンス考究 2 単位及び研究指導 4 単位（注1）をすべて取得
- ③ 合計30単位以上を取得（注2）
- ④ ①～③を満たした上で、修士論文を提出し、最終試験に合格すること

注1. 研究指導は、半期 2 単位の計 4 単位を取得する必要があります。また研究指導及びファイナンス考究は 2 年次生のみ履修することができます。

注2. C群科目を 8 単位まで含めることができます。C群科目は、A群科目・B群科目ならびに必修科目以外の科目（主に経営学プログラム及び経済学プログラム提供科目、但し除外科目あり）です。

1 専攻に準ずる科目

専攻に準ずる科目とは他の専攻の科目を履修することで、10単位までを経営学専攻の単位に加えることができます。

専攻に準ずる科目の履修については、履修前にその科目を担当する教員の許可と経営学研究科教授会の承認が必要となります。

履修登録にあたっては、掲示板等で案内します。指導教員（一年次生はプログラムディレクター）に相談の上、別途定められた期間内に、事務室に所定の申請書を提出して下さい。

2 科目区分について

科目区分については**入学年度の授業科目**を参照し、履修に関し疑問がある場合は、事務担当に相談して下さい。

ファイナンスプログラム (MF) 授業科目一覧

区分	頁	授業科目名	単位	担当教員	備考	
A 群 科 目	98	資産運用論	2	加藤 康之		
	99	ポートフォリオ理論	2	内山 朋規		
	100	実証ファイナンス	2	内山 朋規		
	101	債券投資とALM	2	市川 達夫		
	102	オプション理論	2	竹原 浩太		
	103	期間構造モデル	2	室町 幸雄		
	104	クレジットデリバティブ	2	竹原 浩太		
	105	上級オプション理論	2	竹原 浩太		
	106	金融リスク管理概論	2	磯貝 孝		
	107	マーケットリスク管理	2	磯貝 孝		
	108	信用リスク管理	2	室町 幸雄		
	109	プログラミング基礎	2	八木 恭子		
	110	金融数値解法	2	八木 恭子		
	111	シミュレーション	2	八木 恭子		
B 群 科 目	112	確率解析	2	足立 高德		
	113	上級確率解析	2	足立 高德		
	114	金融における最適化	2	室田 一雄		
	115	金融データサイエンス	2	林 高樹		
	116	金融時系列解析	2	林 高樹		
	117	金融経済学	2	原 千秋		
	118	コーポレートファイナンス	2	西原 理		
	119	ファイナンス特別講義 (証券市場の均衡分析)	2	原 千秋		
	120	ファイナンス特別講義 (Bloombergを活用した定量分析)	2	内山・竹原・室町		
	121	金融工学特別講義 (Quantitative Investment and Trading)	2	Christopher Hian Ann TING		
	178	金融工学特別研究・特別演習 (*)	2	内山 朋規		
	179	金融リスク特別研究・特別演習 (*)	2	室町 幸雄		
	必修					
		132	ファイナンス演習	2	各教員	
	133	ファイナンス考究	2	各教員		
		研究指導	2	各教員	シラバスなし	
C群 科目	A群科目・B群科目ならびに必修科目以外の科目 (主に経営学プログラム及び経済学プログラム提供科目、但し除外科目あり)					

- ※ ファイナンス演習、ファイナンス考究及び研究指導は必修科目
- ※ 今年度の開講科目のみ掲載
- ※ (*)はB2科目、主に南大沢キャンパスで昼間に開講

2 博士後期課程

博士後期課程 2018年度学年暦

入 学 式		4 月 8 日 (日)
前	授業開始	4 月 6 日 (金)
	定期健康診断	4 月下旬 (予定)
	博士学位申請受付 (課程博士論文提出)	5 月 10 日 (木)
期	* 対大阪府立大学定期戦 (エール交換含む)	7 月 6 日 (金) ~ 7 月 8 日 (日)
	* 夏季休業	8 月 13 日 (月) ~ 9 月 30 日 (日)
	博士後期課程 9 月修了者学位授与	9 月 28 日 (金) (予定)
後	授業開始	10 月 1 日 (月)
	博士学位申請受付 (課程博士論文提出)	10 月 31 日 (水)
	* 大学祭 (準備・片付を含む)	11 月 1 日 (木) ~ 11 月 4 日 (日)
期	* 冬季授業	12 月 25 日 (火) ~ 1 月 3 日 (木)
	授業再開	1 月 4 日 (金)
	* 大学入試センター試験設営	1 月 18 日 (金)
	* 大学入試センター試験	1 月 19 日 (土) ~ 1 月 20 日 (日)
	授業終了	2 月 8 日 (金)
	* 春季休業	2 月 9 日 (土) ~ 3 月 31 日 (日)
学位授与式		3 月 25 日頃予定

注記 * 対大阪府立大学定期戦エール交換日および当日は休講
 * 大学祭期間中は休講
 * 大学入試センター試験の前日および当日は休講

博士後期課程修了要件

修了には以下の要件をすべて満たさなければならない。

- (a) 3 年間の在学期間を満たすこと
- (b) 博士後期課程の授業科目について 20 単位以上修得すること
- (c) 「博士候補者 (Candidate)」の資格を得ること
- (d) 学位論文を提出し、最終試験に合格すること

※ 「博士候補者 (Candidate)」の資格等については、詳しくは新入生向け冊子を参照のこと。

博士後期課程教員及び研究分野一覧

◇経営学専攻

浅野 敬志	財務会計論
朝日ちさと	政策評価研究
飯星 博邦	計量経済学
飯村 卓也	ミクロ経済学
岩間 俊彦	西洋経済史
内山 朋規	ファイナンス
桑田耕太郎	経営学
芝田 隆志	ファイナンス工学
高尾 義明	経営学
竹田 陽子	経営戦略論
田中 敬一	数理ファイナンス
長瀬 勝彦	意思決定論
野口 昌良	財務会計論
細海昌一郎	管理会計論
松田千恵子	経営・財務戦略、資本市場論
村田 啓子	日本経済論
室田 一雄	経営科学
室町 幸雄	金融リスク管理
山下 英明	経営科学
脇田 成	理論経済学
渡辺 隆裕	ゲーム理論
荒戸 寛樹	マクロ経済学
小方 浩明	統計学
金子 憲	財政学
小林 延人	日本経済史
高橋 勅徳	ベンチャービジネス論
高見 典和	経営学説史
竹内 祐介	アジア経済史
竹原 浩太	金融工学
中山 厚穂	マーケティング・サイエンス
西村 孝史	経営学
松尾 隆	経営戦略論
松岡多利思	理論経済学
水越 康介	マーケティングマネジメント
森 治憲	統計学
森口 聡子	経営科学
森本 脩平	公共経済学
八木 恭子	金融工学

博士後期課程授業科目一覧

頁	授業科目名	単位	担当教員
183	経営学特殊研究	2	桑田 耕太郎
183	経営学特殊演習	2	桑田 耕太郎
184	組織理論特殊研究	2	高尾 義明
185	組織理論特殊演習	2	高尾 義明
186	ヒューマン・リソース・マネジメント特殊研究	2	西村 孝史
187	ヒューマン・リソース・マネジメント特殊演習	2	西村 孝史
189	意思決定特殊研究	2	長瀬 勝彦
189	意思決定特殊演習	2	長瀬 勝彦
190	ベンチャービジネス特殊研究	2	高橋 勲徳
191	ベンチャービジネス特殊演習	2	高橋 勲徳
193	経営戦略特殊研究	2	竹田 陽子
193	経営戦略特殊演習	2	竹田 陽子
194	経営戦略特殊研究	2	松田 千恵子
194	経営戦略特殊演習	2	松田 千恵子
195	テクノロジー・マネジメント特殊研究	2	松尾 隆
195	テクノロジー・マネジメント特殊演習	2	松尾 隆
196	マーケティング特殊研究	2	水越 康介
197	マーケティング特殊演習	2	水越 康介
197	統計学特殊研究	2	森 治憲
198	統計学特殊演習	2	森 治憲
199	経営科学特殊研究	2	山下 英明
200	経営科学特殊演習	2	山下 英明
202	経営科学特殊研究	2	室田 一雄
203	経営科学特殊演習	2	室田 一雄
205	経営科学特殊研究	2	森口 聡子
206	経営科学特殊演習	2	森口 聡子
208	会計学特殊研究	2	野口 昌良
209	会計学特殊演習	2	野口 昌良
211	財務会計特殊研究	2	浅野 敬志
212	財務会計特殊演習	2	浅野 敬志
214	管理会計特殊研究	2	細海 昌一郎
215	管理会計特殊演習	2	細海 昌一郎
217	ミクロ経済学特殊研究	2	飯村 卓也
217	ミクロ経済学特殊演習	2	飯村 卓也
219	マクロ経済学特殊研究	2	脇田 成
220	マクロ経済学特殊演習	2	脇田 成
222	計量経済学特殊研究	2	飯星 博邦
223	計量経済学特殊演習	2	飯星 博邦
225	金融経済学特殊研究	2	田中 敬一
225	金融経済学特殊演習	2	田中 敬一
226	日本経済論特殊研究	2	村田 啓子
227	日本経済論特殊演習	2	村田 啓子
228	ゲーム理論特殊研究	2	渡辺 隆裕
229	ゲーム理論特殊演習	2	渡辺 隆裕
231	数理統計学特殊研究	2	小方 浩明
231	数理統計学特殊演習	2	小方 浩明
232	公共経済学特殊研究	2	森本 脩平
233	公共経済学特殊演習	2	森本 脩平
234	国際金融論特殊研究	2	荒戸 寛樹
235	国際金融論特殊演習	2	荒戸 寛樹
237	都市環境経済学特殊研究	2	朝日 ちさと
237	都市環境経済学特殊演習	2	朝日 ちさと
238	財政学特殊研究	2	金子 憲
239	財政学特殊演習	2	金子 憲
240	日本経済史特殊研究	2	小林 延人
241	日本経済史特殊演習	2	小林 延人
243	経済思想史特殊研究	2	高見 典和
243	経済思想史特殊演習	2	高見 典和
245	アジア経済史特殊研究	2	竹内 祐介
246	アジア経済史特殊演習	2	竹内 祐介
248	金融工学特殊研究	2	内山 朋規
248	金融工学特殊演習	2	内山 朋規
249	金融リスク特殊研究	2	室町 幸雄
249	金融リスク特殊演習	2	室町 幸雄
250	オプション理論特殊研究	2	竹原 浩太
250	オプション理論特殊演習	2	竹原 浩太
251	金融数値解法特殊研究	2	八木 恭子
251	金融数値解法特殊演習	2	八木 恭子

※ 今年度の開講科目のみ掲載

Ⅱ 社会科学研究科経営学専攻

2018 (平成30) 年度 首都大学東京高度専門職業人養成プログラム学年暦

	日	月	火	水	木	金	土	行事等
4月	1	2	3	4	5	6	7	4月7日 入学ガイダンス
	8	9	10	11	12	13	14	4月8日 入学式(全学)
	15	16	17	18	19	20	21	4月9日 前期授業開始
	22	23	24	25	26	27	28	4月中旬～下旬(別途通知) 前期履修申請
	29	30						
5月			1	2	3	4	5	5月1日、2日 休講日(補講日)
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			
6月						1	2	
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
7月	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	7月13日 修士論文・課題研究中間審査申請締切
	15	16	17	18	19	20	21	7月31日 〈9月修了生〉修士論文・課題研究提出締切
	22	23	24	25	26	27	28	7月31日～8月10日(8月4日を除く) 補講日
	29	30	31					8月4日 修士論文・課題研究中間審査
8月	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	8月13日～9月30日 夏季休業(集中授業期間)
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		
9月							1	9月1日 前期一般入試
	2	3	4	5	6	7	8	9月2日 前期一般入試予備日
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	9月29日 〈9月修了生〉学位記授与式
	30							
10月		1	2	3	4	5	6	10月1日 後期授業開始
	7	8	9	10	11	12	13	10月上旬～中旬(別途通知) 後期履修申請
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				
11月					1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30		
12月							1	
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	12月25日～28日 補講日
	30	31						12月29日～1月3日 冬季休業
1月			1	2	3	4	5	1月4日 後期授業再開
	6	7	8	9	10	11	12	1月10日 修士論文・課題研究提出締切
	13	14	15	16	17	18	19	〈9月修了生〉中間審査申請締切
	20	21	22	23	24	25	26	1月29日～2月1日、2月5日～9日 補講日
	27	28	29	30	31			
2月						1	2	2月2日 修士論文・課題研究審査、〈9月修了生〉中間審査
	3	4	5	6	7	8	9	2月9日 後期一般・公共経営入試
	10	11	12	13	14	15	16	2月12日から 春季休業
	17	18	19	20	21	22	23	2月16日 後期一般・公共経営入試予備日
	24	25	26	27	28			
3月							1	
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	3月22日 卒業式(全学、荒川キャンパス以外)
	24	25	26	27	28	29	30	3月23日 学位記授与式
	31							

- ※ 通常授業日と補講日は白のセル、その他は色付きのセルです。補講日には丸印がついています。
- ※ 休講日には通常授業はありません。丸の内サテライトキャンパスは開いています。
- ※ 数字が白抜きの日は休日です。丸の内サテライトキャンパスには入構できません。
- ※ 変更がある場合は掲示等でお知らせします。必ず所定の掲示板を確認してください。

高度専門職業人養成プログラム専任教員等一覧

1 専任教員

職	氏名	研究室	研究室電話（直通）
教授	浅野 敬志	4階 314	042 (677) 2329
教授	桑田 耕太郎	4階 415	042 (677) 2328
教授	高尾 義明	2階 224	042 (677) 2314
教授	竹田 陽子	2階 225	042 (677) 1829
教授	長瀬 勝彦	4階 404	042 (677) 1152
教授	野口 昌良	4階 418	042 (677) 2308
教授	細海 昌一郎	2階 233	042 (677) 2311
教授	松田 千恵子	4階 406	042 (677) 2323
教授	室田 一雄	4階 402	042 (677) 2322
教授	山下 英明	4階 413	042 (677) 2326
准教授	高橋 勅徳	3階 306	042 (677) 2324
准教授	西村 孝史	3階 305	042 (677) 2331
准教授	松尾 隆	2階 236	042 (677) 1136
准教授	水越 康介	2階 235	042 (677) 2313
准教授	森 治憲	4階 412	042 (677) 2325
准教授	森口 聡子	3階 312	042 (677) 2321

※1 研究室はいずれも南大沢キャンパス3号館

※2 今年度の授業を担当する教員のみ掲載

2 非常勤講師

岡本 享 二
 坂卷 敏 史
 坂本 雅 明
 鶴見 裕 之
 照屋 華 子
 中岡 英 隆
 松林 伸 生
 溝田 宗 司

経営学専攻（高度専門職業人養成プログラム）の修了要件

経営学専攻博士前期（修士）課程高度専門職業人養成プログラムを修了するためには、所定の単位を取得したうえで修士論文又は特定の課題についての研究成果（以下「課題研究論文」という）を提出し、最終試験に合格しなければなりません。

学位取得の条件は以下の通りです。修士論文提出者と課題研究論文提出者とは必要取得単位数が異なるので注意して下さい。

なお、修士論文と課題研究論文の選択は、1年次末に決定される指導教員による指導の過程において行います。

1 修士論文を提出して学位を取得するもの

- ① 第Ⅰ群科目から12単位以上、合計30単位以上を取得
- ② 経営学特別演習 2 単位以上及び研究指導 4 単位（注1）を履修し、修士論文を提出
- ③ 第Ⅲ群科目（注2）を 8 単位まで含めることができる。

2 課題研究論文を提出して学位を取得するもの

- ① 第Ⅰ群科目から12単位以上、合計36単位以上を取得
- ② 経営学特別演習 2 単位以上及び研究指導 4 単位（注1）を履修し、課題研究論文を提出
- ③ 第Ⅲ群科目（注2）を 8 単位まで含めることができる。

注1. 研究指導は半期 2 単位の計 4 単位

平成28年度入学生から研究指導は 4 単位を履修上限とする。

2. 第Ⅲ群科目とは、以下の科目をさす。

- ・ マクロ経済学
- ・ 高度金融専門人材養成プログラム開講科目（但しファイナンス特別講義（コーポレートファイナンス）、ファイナンス演習、ファイナンス考究、研究指導は除く）
- ・ 研究者養成プログラム（南大沢キャンパス）開講科目（但し研究指導は除く）
- ・ 経営学研究科経済学プログラム開講科目（但し経済学特別演習、研究指導は除く）

※ 経営学特別演習（注：経営学演習でない）及び研究指導は必修科目であり、修了に必要な単位数（合計30単位または36単位）に含まれる。

※ 研究指導は1年次生は履修できない。

※ 一度単位を取得した科目については、再度履修することはできない（研究指導を除く）。

3 専攻に準ずる科目

- 専攻に準ずる科目とは他の専攻の科目であり、10単位を上限として経営学専攻の単位に加えることができる。
- 専攻に準ずる科目の履修については、履修前にその科目を担当する教員の許可と社会科学研究所教授会の承認を必要とする。

4 科目区分について

必ず、「Ⅲ. 授業概要」の**入学年度の授業科目**を参照し、履修に関し不明な点がある場合は、事務担当に相談すること。

高度専門職業人養成プログラム用授業科目一覧

区分	頁	授業科目名	単位	担当教員	備考
第Ⅰ群 科目	43	経営学特論	2	桑田 耕太郎	
	48	経営戦略特論	2	竹田 陽子	
	49	経営戦略特別演習	2	松田 千恵子	
	44	経営組織特論	2	高尾 義明	
	46	意思決定特論	2	長瀬 勝彦	
	50	テクノロジー・マネジメント特論	2	松尾 隆	
	63	コーポレート・ファイナンス特論	2	中岡 英隆	
	53	マネジメント・サイエンス特論Ⅰ	2	森口 聡子	
	51	マーケティング・マネジメント特論	2	水越 康介	
	52	マーケティング・サイエンス特論	2	鶴見 裕之	
	62	企業経済学基礎特論	2	松林 伸生	
	55	経営分析特論	2	浅野 敬志	
	56	管理会計特論	2	細海 昌一郎	
	57	財務会計特論	2	野口 昌良	
	第Ⅱ群 科目	64	証券投資特論	2	坂巻 敏史
54		経営データ分析特論	2	森 治憲	
58		組織行動特論	2	高尾 義明	
45		ヒューマン・リソース・マネジメント特論	2	西村 孝史	
77		生産戦略特論	2	松尾 隆	
47		ベンチャービジネス特論	2	高橋 勅徳	
61		ビジネスイノベーション特別演習	2	高橋 勅徳	
59		マネジメント・サイエンス特論Ⅱ	2	山下 英明	
60		経営数理特論	2	室田 一雄	
73		ロジカル・ライティングⅠ	2	照屋 華子	
74		ロジカル・ライティングⅡ	2	照屋 華子	
76		経営学演習（グループ研究Ⅰ）	2	オムニバス	
71		経営学演習（財務戦略）	2	松田 千恵子	
75		経営学演習（公共経営アクションリサーチ）	2	竹田・長瀬・西村	
70		経営学演習（知的財産法）	2	溝田 宗司	
65		経営学演習（経営戦略とリアルオプション）	2	中岡 英隆	
68		経営学演習（企業倫理）	2	岡本 享二	
69		経営学演習（CSR特論）	2	岡本 享二	
66		経営学演習（戦略経営Ⅰ）	2	坂本 雅明	
67		経営学演習（戦略経営Ⅱ）	2	坂本 雅明	
72	経営学演習（ケース）	2	西村 孝史		
第Ⅲ群 科目	122～127	経営学特別演習	2	各教員	
		研究指導	2	各教員	
第Ⅲ群 科目		研究者養成プログラム（南大沢キャンパス）、高度金融専門人材養成プログラム及び経済学プログラム開講科目、但し除外科目あり			

※ 経営学特別演習及び研究指導は必修科目

※ 今年度の開講科目のみ掲載

MBA

2018 (平成30) 年度 高度金融専門人材養成プログラム学年暦

暦	日	月	火	水	木	金	土	行事等
4月	1	2	3	4	5	6	7	4月7日 入学ガイダンス
	8	9	10	11	12	13	14	4月8日 入学式(全学)
	15	16	17	18	19	20	21	4月9日～6月8日 1Q授業日
	22	23	24	25	26	27	28	4月中旬～下旬(別途通知) 前期履修申請
	29	30	1	2	3	4	5	5月1、2日 休講日
5月	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31	1	2	
6月	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	6月11日～15日 集中授業期間、1Q補講
	17	18	19	20	21	22	23	6月18日～8月10日 2Q授業日
7月	24	25	26	27	28	29	30	
	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
8月	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31	1	2	3	4	
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	8月13日～17日 2Q補講
9月	19	20	21	22	23	24	25	18月13日～9月28日 集中授業期間
	26	27	28	29	30	31	1	8月20日～9月28日 夏季休業
	2	3	4	5	6	7	8	9月1日 前期一般入試
	9	10	11	12	13	14	15	9月2日 前期一般入試(予備日)
10月	16	17	18	19	20	21	22	9月21日 修士論文中間審査申請締切
	23	24	25	26	27	28	29	9月28日 修士論文中間審査
	30	1	2	3	4	5	6	10月1日～11月26日 3Q授業日
	7	8	9	10	11	12	13	10月上～中旬(別途通知) 後期履修申請
11月	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31	1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	
12月	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	1	11月27日～30日 3Q補講
	2	3	4	5	6	7	8	12月3日～2月2日 4Q授業日
1月	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	12月29日～1月3日 冬季休業
	30	31	1	2	3	4	5	1月4日 休講日
2月	6	7	8	9	10	11	12	1月10日 修士論文提出締切
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31	1	2	1月31日 修士論文審査
3月	3	4	5	6	7	8	9	2月5日～8日 4Q補講
	10	11	12	13	14	15	16	2月12日から 春季休業
	17	18	19	20	21	22	23	2月9日 後期入試
	24	25	26	27	28	1	2	2月16日 後期入試(予備日)
3月	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	3月22日 卒業式(南大沢C)
	24	25	26	27	28	29	30	3月23日 学位記授与式
	31							

- ※ 通常授業日と補講日は白のセル、その他は色付きのセルです。補講日には丸印がついています。
- ※ 休講日には通常授業はありません。丸の内サテライトキャンパスは開いています。
- ※ 数字が白抜きの日は休日です。丸の内サテライトキャンパスには入構できません。
- ※ 変更がある場合は掲示等でお知らせします。必ず所定の掲示板を確認してください。

高度金融専門人材養成プログラム専任教員等一覧

1 専任教員

職	氏名	研究室	研究室電話（直通）
教授	足立 高德	研究室03	03 (6268) 0542
教授	内山 朋規	南 2階237	042 (677) 2315
教授	室町 幸雄	南 2階223	042 (677) 2306
准教授	竹原 浩太	研究室02	03 (6268) 0532
准教授	八木 恭子	研究室01	03 (6268) 0529

2 特任教員

職	氏名	研究室	研究室電話（直通）
教授	磯貝 孝	研究室04	03 (6268) 0549
教授	加藤 康之	—	—
教授	原 千秋	—	—
教授	林 高樹	—	—
教授	Christopher Hian	—	—
	Ann TING	—	—
准教授	小池 祐太	—	—

3 兼任教員

職	氏名	研究室	研究室電話（直通）
教授	室田 一雄	南 4階402	042 (677) 2322
准教授	荒戸 寛樹	南 4階403	042 (677) 2309

※研究室欄に「南」という表記があるものは、南大沢キャンパス3号館を指す。

4 非常勤講師

市川 達夫
西原 理

経営学専攻（高度金融専門人材養成プログラム）修了要件

経営学専攻博士前期課程（高度金融専門人材養成プログラム）を修了するためには、次のとおり所定の単位を取得したうえで修士論文を提出し、最終試験に合格しなければなりません。

- ① 第Ⅰ群科目から12単位以上取得
- ② ファイナンス演習2単位、ファイナンス考究2単位及び研究指導4単位（注1）をすべて取得
- ③ 合計30単位以上を取得（注2）
- ④ ①～③を満たした上で、修士論文を提出し、最終試験に合格すること

注1. 研究指導は、半期2単位の計4単位を取得する必要があります。また研究指導及びファイナンス考究は2年次生のみ履修することができます。

注2. 第Ⅲ群科目を8単位まで含めることができます。第Ⅲ群科目は、「高度専門職業人養成プログラム」「研究者養成プログラム」開講科目のうち、経営学特別演習と研究指導を除いたものです。

1 専攻に準ずる科目

専攻に準ずる科目とは他の専攻の科目を履修することで、10単位までを経営学専攻の単位に加えることができます。

専攻に準ずる科目の履修については、履修前にその科目を担当する教員の許可と社会科学研究所教授会の承認が必要となります。

履修登録にあたっては、掲示板等で案内します。指導教員（一年次生はプログラムディレクター）に相談の上、別途定められた期間内に、事務室に所定の申請書を提出して下さい。

2 科目区分について

科目区分については**入学年度の授業科目**を参照し、履修に関し疑問がある場合は、事務担当に相談して下さい。

高度金融専門人材養成プログラム用授業科目一覧

区分	頁	授業科目名	単位	担当教員	備考	
第Ⅰ群 科目	98	資産運用論	2	加藤 康之		
	99	ポートフォリオ理論	2	内山 朋規		
	100	実証ファイナンス	2	内山 朋規		
	101	債券投資とALM	2	市川 達夫		
	102	オプション理論	2	竹原 浩太		
	103	期間構造モデル	2	室町 幸雄		
	104	クレジットデリバティブ	2	竹原 浩太		
	105	上級オプション理論	2	竹原 浩太		
	106	金融リスク管理概論	2	磯貝 孝		
	107	マーケットリスク管理	2	磯貝 孝		
	108	信用リスク管理	2	室町 幸雄		
	109	プログラミング基礎	2	八木 恭子		
	110	金融数値解法	2	八木 恭子		
	111	シミュレーション	2	八木 恭子		
第Ⅱ群 科目	112	確率解析	2	足立 高德		
	113	上級確率解析	2	足立 高德		
	114	金融における最適化	2	室田 一雄		
	115	金融データサイエンス	2	林 高樹		
	116	金融時系列解析	2	林 高樹		
	117	金融経済学	2	原 千秋		
	118	ファイナンス特別講義 (コーポレートファイナンス)	2	西原 理		
	119	ファイナンス特別講義 (証券市場の均衡分析)	2	原 千秋		
	120	ファイナンス特別講義 (Bloombergを活用した定量分析)	2	内山・竹原・室町		
	121	金融工学特別講義 (Quantitative Investment and Trading)	2	Christopher Hian Ann TING		
	必修					
		132	ファイナンス演習	2	各教員	
		133	ファイナンス考究	2	各教員	
		研究指導	2	各教員	シラバスなし	
第Ⅲ群 科目	高度専門職業人養成プログラムおよび研究者養成プログラム開講科目、但し研究指導は除く					

※ ファイナンス演習、ファイナンス考究及び研究指導は必修科目

※ 今年度の開講科目のみ掲載

**社会科学研究科経営学専攻
博士前期課程（研究者養成プログラム）及び
博士後期課程2018年度学年暦**

入 学 式		4月8日（日）
前 期	授業開始	4月6日（金）
	定期健康診断	4月下旬（予定）
	博士学位申請受付（課程博士論文提出）	5月10日（木）
	＊対大阪府立大学定期戦（エール交換含む）	7月6日（金）～7月8日（日）
	修士学位申請受付（9月修了者論文提出日）	7月31日（火）
＊夏季休業	8月13日（月）～9月30日（日）	
博士前期及び後期課程9月修了者学位授与		9月28日（金）（予定）
後 期	授業開始	10月1日（月）
	博士学位申請受付（課程博士論文提出）	10月31日（水）
	＊大学祭（準備・片付を含む）	11月1日（木）～11月4日（日）
	＊冬季休業	12月25日（火）～1月3日（木）
	授業再開	1月4日（金）
期	修士学位申請受付（3月修了者論文提出日）	1月10日（木）
	＊大学入試センター試験設営	1月18日（金）
	＊大学入試センター試験	1月19日（土）～1月20日（日）
	授業終了	2月8日（金）
	＊春季休業	2月9日（土）～3月31日（日）
学位授与式		3月25日頃予定

注記 ＊対大阪府立大学定期戦エール交換日および当日は休講
 ＊大学祭期間中は休講
 ＊大学入試センター試験の前日および当日は休講

研究者養成プログラム教員及び研究分野一覧

◇経営学専攻

浅野 敬志	財務会計論
朝日ちさと	政策評価研究
飯星 博邦	計量経済学
飯村 卓也	ミクロ経済学
岩間 俊彦	西洋経済史
内山 朋規	ファイナンス
桑田耕太郎	経営学
芝田 隆志	ファイナンス工学
高尾 義明	経営学
竹田 陽子	経営戦略論
田中 敬一	数理ファイナンス
長瀬 勝彦	意思決定論
野口 昌良	財務会計論
細海昌一郎	管理会計論
松田千恵子	経営・財務戦略、資本市場論
村田 啓子	日本経済論
室田 一雄	経営科学
室町 幸雄	金融リスク管理
山下 英明	経営科学
脇田 成	理論経済学
渡辺 隆裕	ゲーム理論
荒戸 寛樹	マクロ経済学
小方 浩明	統計学
金子 憲	財政学
小林 延人	日本経済史
高橋 勅徳	ベンチャービジネス論
高見 典和	経営学説史
竹内 祐介	アジア経済史
竹原 浩太	金融工学
中山 厚穂	マーケティング・サイエンス
西村 孝史	経営学
松尾 隆	経営戦略論
松岡多利思	理論経済学
水越 康介	マーケティングマネジメント
森 治憲	統計学
森口 聡子	経営科学
森本 脩平	公共経済学
八木 恭子	金融工学

博士後期課程授業科目一覧

頁	授業科目名	単位	担当教員
183	経営学特殊研究	2	桑田 耕太郎
183	経営学特殊演習	2	桑田 耕太郎
184	組織理論特殊研究	2	高尾 義明
185	組織理論特殊演習	2	高尾 義明
186	ヒューマン・リソース・マネジメント特殊研究	2	西村 孝史
187	ヒューマン・リソース・マネジメント特殊演習	2	西村 孝史
189	意思決定特殊研究	2	長瀬 勝彦
189	意思決定特殊演習	2	長瀬 勝彦
190	ベンチャービジネス特殊研究	2	高橋 勅徳
191	ベンチャービジネス特殊演習	2	高橋 勅徳
193	経営戦略特殊研究	2	竹田 陽子
193	経営戦略特殊演習	2	竹田 陽子
194	経営戦略特殊研究	2	松田 千恵子
194	経営戦略特殊演習	2	松田 千恵子
195	テクノロジー・マネジメント特殊研究	2	松尾 隆
195	テクノロジー・マネジメント特殊演習	2	松尾 隆
196	マーケティング特殊研究	2	水越 康介
197	マーケティング特殊演習	2	水越 康介
197	統計学特殊研究	2	森 治憲
198	統計学特殊演習	2	森 治憲
199	経営科学特殊研究	2	山下 英明
200	経営科学特殊演習	2	山下 英明
202	経営科学特殊研究	2	室田 一雄
203	経営科学特殊演習	2	室田 一雄
205	経営科学特殊研究	2	森口 聡子
206	経営科学特殊演習	2	森口 聡子
208	会計学特殊研究	2	野口 昌良
209	会計学特殊演習	2	野口 昌良
211	財務会計特殊研究	2	浅野 敬志
212	財務会計特殊演習	2	浅野 敬志
214	管理会計特殊研究	2	細海 昌一郎
215	管理会計特殊演習	2	細海 昌一郎
217	ミクロ経済学特殊研究	2	飯村 卓也
217	ミクロ経済学特殊演習	2	飯村 卓也
219	マクロ経済学特殊研究	2	脇田 成
220	マクロ経済学特殊演習	2	脇田 成
222	計量経済学特殊研究	2	飯星 博邦
223	計量経済学特殊演習	2	飯星 博邦
225	金融経済学特殊研究	2	田中 敬一
225	金融経済学特殊演習	2	田中 敬一
226	日本経済論特殊研究	2	村田 啓子
227	日本経済論特殊演習	2	村田 啓子
228	ゲーム理論特殊研究	2	渡辺 隆裕
229	ゲーム理論特殊演習	2	渡辺 隆裕
231	数理統計学特殊研究	2	小方 浩明
231	数理統計学特殊演習	2	小方 浩明
232	公共経済学特殊研究	2	森本 脩平
233	公共経済学特殊演習	2	森本 脩平
234	国際金融論特殊研究	2	荒戸 寛樹
235	国際金融論特殊演習	2	荒戸 寛樹
237	都市環境経済学特殊研究	2	朝日 ちさと
237	都市環境経済学特殊演習	2	朝日 ちさと
238	財政学特殊研究	2	金子 憲
239	財政学特殊演習	2	金子 憲
240	日本経済史特殊研究	2	小林 延人
241	日本経済史特殊演習	2	小林 延人
243	経済思想史特殊研究	2	高見 典和
243	経済思想史特殊演習	2	高見 典和
245	アジア経済史特殊研究	2	竹内 祐介
246	アジア経済史特殊演習	2	竹内 祐介
248	金融工学特殊研究	2	内山 朋規
248	金融工学特殊演習	2	内山 朋規
249	金融リスク特殊研究	2	室町 幸雄
249	金融リスク特殊演習	2	室町 幸雄
250	オプション理論特殊研究	2	竹原 浩太
250	オプション理論特殊演習	2	竹原 浩太
251	金融数値解法特殊研究	2	八木 恭子
251	金融数値解法特殊演習	2	八木 恭子

※ 今年度の開講科目のみ掲載

首都大学東京大学院学則（抜粋）及び履修について

1 目的

首都大学東京大学院は広い視野に立って、専門分野に関する専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、都民の生活と文化の向上及び発展に寄与することを目的とする。

2 課程

大学院に博士課程を置く。博士課程は、これを前期2年の課程（博士前期課程）及び後期3年の課程（博士後期課程）に区分し、博士前期課程は、修士課程として取扱うものとする。

3 社会科学研究科の教育研究上の目的

社会科学研究科博士前期課程は、広い視野に立って社会科学の精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うことを目的とする。

社会科学研究科博士後期課程は、社会科学の各分野において、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

4 学年・修業年限・在学年限

学年は、前期に入学するものにあつては4月1日から翌年3月31日までとし、後期に入学するものにあつては10月1日から翌年9月30日までとする。

博士前期課程の標準修業年限は2年とし、博士後期課程の標準修業年限は3年とする。

博士前期課程の在学期間は4年を、博士後期課程の在学期間は6年を超えることができない。

5 修了要件

博士前期課程の学生は、2年の在学期間を満たし、正規の授業を受け、博士前期課程専攻所定の授業科目について30単位以上を習得し、さらに学位論文を提出し、かつ、最終試験を受けなければならない。

前項の場合において、指導教授が教育上有益と認めるときは、30単位のうち10単位以内に限り、当該研究科のほかの専攻の授業科目若しくは他の研究科の専攻の授業科目又は学部の授業科目を履修し、これを充当することができる。

博士後期課程の学生は、3年の在学期間を満たし、正規の授業を受け、博士後期課程専攻所定の授業科目について20単位以上を習得し、更に学位論文を提出し、かつ、最終試験を受けなければならない。

6 休学／復学／退学

休学

- ①疾病その他やむを得ない事由のため引き続き6か月以上就学することができない者は、その事由を具し、保証人連署の上学長に願い出てその許可を得て休学することができる。
- ②病気を事由とする休学願には医師の診断書を添付しなければならない。

- ③休学は、原則として1年以内とする。ただし、特別の事情がある場合には引き続き許可を願い出ることができる。
- ④休学期間は課程ごとに通算して3年を超えることができない。
- ⑤休学期間は修業年限により在学すべき年数に算入しない。ただし3ヶ月以内に復学した場合は、教授会の判断によりこの規定を適用しないことがある。

復学

- ①休学期間が満了する時は、学長に復学を願い出なければならない。
- ②休学期間中であっても休学事由がなくなったときは学長の許可を得て復学することができる。
- ③休学期間が満了してもなお復学を願い出ない者は、これを除籍する。

退学

- ①疾病その他やむを得ない事由で退学しようとする者は、その事由を詳記し、保証人連署の上、学長に願い出てその許可を得なければならない。

7 履修方法

学生は、入学当初に、指導を受けようとする教授（指導教授）の指定を受ける。

学生は、毎年度当初に、その学年に履修しようとする授業科目につき、予め指定された方式に従い受講を申請し、その承認を得なければならない。

履修申請関係

社会科学研究科教授会の承認が必要な事項

①専攻に準ずる事項

博士前期課程（修士課程）修了に必要な30単位のうち10単位以内限り、社会科学研究科の他の専攻・分野の授業科目若しくは他の研究科の専攻の授業科目又は学部の授業科目を履修し、これを充当することができる。

②教育職員免許又は学芸員資格取得を目的として、学部科目の授業を履修する場合

「学部授業履修手続（大学院学生用）」により、申請すること。必要書類の配布は4月上旬、受付は4月中旬（掲示板に注意すること）。

その他

①関連科目

指導教授が必要と認め、社会科学研究科の他の専攻の授業科目若しくは他の研究科の専攻の授業科目又は学部の授業科目の履修を指定した場合の単位は、課程修了の単位外の扱いとなる。

②教育職員免許又は学芸員資格取得以外で、学部科目の授業を履修する場合は、一般の科目等履修生として出願すること（有料）。

2018年度の履修申請・確認

後日、掲示等によりお知らせします。博士前期課程（研究者養成プログラム）の学生は履修承認表による申請、博士後期の学生はWeb（CAMPUS SQUARE for WEB）による申請となります。

Ⅲ 授業概要

(博士前期課程)

2018年度以降入学生	経営学	P0003	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特論	P003	高度専門 職業人養成Ⅰ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	桑田 耕太郎		前期Ⅰ	土曜日		3時限、4時限
①授業方針・テーマ	経営学は現代産業社会の基礎的構成要素である企業を対象とし、企業およびそのベースとなっている産業社会の構造や行動のメカニズムを解明する学問です。この授業では、ビジネススクール入学前に、特に経営学のトレーニングを受けていない学生を主要な対象として、企業の外部環境への適応と、内部統合・経営管理の主要なトピックスについて、具体的な事例をひきつつ、経営学の基礎知識と経営学的な思考様式を学ぶことを目的としています。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営学は現代産業社会の基礎的構成要素である企業を対象とし、企業およびそのベースとなっている産業社会の構造や行動のメカニズムを解明する学問です。この授業では、企業の外部環境への適応と、内部統合・経営管理の主要なトピックスについて、具体的な事例をひきつつ、経営学の基礎知識と経営学的な思考様式を学ぶことを目的としています。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>I 経営学の基本的フレームワーク</p> <p>第1回 なぜ経営学を学ぶのか</p> <p>第2回 企業と経営</p> <p>第3回 組織の概念と経営者の役割</p> <p>第4回 意思決定の概念とプロセス</p> <p>II 経営行動の分析—デザインパースペクティブ</p> <p>第5・6回 経営戦略のデザイン</p> <p>第7・8回 競争優位の獲得</p> <p>第9・10回 経営組織構造のデザイン</p> <p>第11・12回 組織の中の人間と管理</p> <p>III 企業成長と経営政策</p> <p>第13回 企業の成長と発展</p> <p>第14・15回 現代企業の諸課題</p>					
④テキスト・参考書等	<p>テキスト：特に指定しないが、随時紹介する。桑田耕太郎・田尾雅夫『組織論』有斐閣は事前に読んでおくことが望ましい。</p> <p>参考文献：</p> <p>伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社</p> <p>A. D. チャンドラー『組織は戦略に従う』ダイヤモンド社</p> <p>C. I. バーナード『経営者の役割』ダイヤモンド社</p>					
⑤成績評価方法	随時おこなうレポート（50%）および授業への貢献（50%）による。					
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	<p>これまで経営学を学んだことのない学生に、特に推奨する</p> <p>経営戦略、経営組織論、ヒューマンリソースマネジメント、経営行動論、マーケティングなどを専攻する学生にとっては、特に重要な導入科目である。</p> <p>授業に必要な資料や課題の配布、質問、相談、アポイントメントは、メール<kkuwada@tmu.ac.jp>等を活用して行う。</p>					

2018年度以降入学生	経営組織	P0015	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営組織特論	P015	高度専門 職業人養成Ⅰ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	高尾 義明		前期	火曜日		5時限
①授業方針・テーマ	個人に還元できない組織の創発特性をよりよく理解するために、組織を巨視（マクロ）的な視座から捉えるマクロ組織論を中心に、組織についての理論を紹介することを通じて、経営と組織の関係についての考察を深めていきます。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	「組織の時代」である現代において組織に何らかのかたちで関わっていない人はいませんが、自らの経験にのみ依拠した持論だけで組織を捉えている人が少なくありません。そこで、本講義では、理論に基づいて組織の創発的側面について理解を深めるとともに、組織の有効性に影響を与える要因を分析するための知識の獲得を目標とします。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：組織観の把握</p> <p>第3回：合理的システムとしての官僚制</p> <p>第4回：官僚制の逆機能と自生的システム</p> <p>第5回：組織の構造とその設計</p> <p>第6回：組織文化のマネジメント</p> <p>第7回：組織アイデンティティ</p> <p>第8回：組織的意思決定と（非）合理性</p> <p>第9回：組織学習とそのジレンマ①</p> <p>第10回：組織学習とそのジレンマ②</p> <p>第11回：ナレッジマネジメント</p> <p>第12回：組織間関係と学習</p> <p>第13回：組織変動へのマクロ的視点①</p> <p>第14回：組織変動へのマクロ的視点②</p> <p>第15回：総括ディスカッション</p> <p>【授業方法】 文献の発表、ディスカッション、グループワークを組み合わせる授業を行います。</p> <p>【授業外学習】 毎回、リーディング・アサイメントを事前に読んで授業に臨んでください。また、毎回事前課題の提出を求めます。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>各回のリーディング・アサイメントを事前に配布します。</p> <p>参考書（授業の履修にあたって購入する必要はありませんが、適宜参照すると理解が深まると思います）</p> <p>[1] 桑田耕太郎・田尾雅夫（2010）『組織論 補訂版』（有斐閣、定価2,100円）</p> <p>[2] 金井壽宏（1999）『経営組織』（日本経済新聞社、定価860円）</p>					
⑤成績評価方法	成績評価方法発表・発言などによる授業に対する積極的貢献（85%）および学期末レポート（15%）によって評価します（詳細は第1回に説明します）。					
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	<p>【オフィスアワー】 オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメールでアポイントメントをとってください。</p> <p>【連絡先】ytakao@tmu.ac.jp</p>					

2018年度以降入学生	ヒューマン・リソース・マネジメント	P0044	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ヒューマン・リソース・マネジメント特論	P044	高度専門職業人養成Ⅱ	高度金融専門人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	西村 孝史		前期Ⅰ	月曜日	5時限、6時限	
①授業方針・テーマ	この授業では、日本の人事に欠けていることが多い戦略人材マネジメントの考え方を【2コマ続き】で身につけることを重視します。戦略人材マネジメントとは、企業の競争力を高め、企業業績に連結する経営活動の一環として人材マネジメントを捉える視点です。 また、この授業では、理論的にも、実務的にも戦略人材マネジメントの視座に基づいて人事管理システムを考察できるように、理論的な学習のほかにもケース分析、グループ討議・発表、個人のフィールドリサーチなど、多様な方法を用いて分析手法を磨いていくことも重視します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	人材マネジメント論の基礎的な概念・枠組み・理論を学習し、それらの概念や枠組みを実際の企業や組織に応用することで、最終的には、人事管理システムの分析・評価・デザインができるようになることを目的とします。 また、他社の「ベストプラクティス」を探ることで満足してしまうのではなく、自らの会社で何が起きているのかを推論する力を養うことを目的とします。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p><前後の入れ替えや内容変更の可能性があります></p> <p>1-1 授業の説明と参加者の確認：人材マネジメントとは何か？ 1-2 SHRM論：レクチャーとディスカッション 2-1 インセンティブシステムと人事システムの基本思想 2-2 人材の評価・公正性 3-1 ケース分析（1） 3-2 ケース分析（1）続き 4-1 能力開発・経営者人材（BU長）の育成 4-2 マネージャの役割・職場マネジメント 5-1 ケース分析（2） 5-2 ケース分析（2）続き 6-1 人事部の役割 6-2 人材ポートフォリオ 7-1 ケース分析（3） 7-2 ケース分析（3）続き 8-1 多様な人材と働き方、働きがいのある会社 8-2 ゲストスピーカー※どこに回に入れるかは未定</p>					
④テキスト・参考書等	<p>1) kibaco上に配布するリーディングパッケージ（詳しくは初回に説明：kibacoに掲載） 2) ケース（個人で購入をして下さい） <参考書> 守島基博（2004）『人材マネジメント入門』日本経済新聞社。</p>					
⑤成績評価方法	<p>1) フィールドワークに基づく個人レポート（40%） 2) ケース分析に基づいた個人レポート、3つ（全部で45%：内訳①15%、②15%、③15%） 3) クラス討論への参加（15%）</p>					
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	<p>1. 授業で扱うケースは、著作権が保護された上で販売されているため、各自でBookparkから購入をしてください。 http://www.bookpark.ne.jp/about/partner.asp 2. オフィスアワーは、水曜日12:00-14:30で研究室（3号館305号室）ですが、訪問の際は事前にメールにて教員にアポイントを取ること</p>					

2018年度以降入学生	意思決定	P0033	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	意思決定特論	P033	高度専門 職業人養成Ⅰ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	長瀬 勝彦		前期	水曜日		6時限
①授業方針・テーマ	<p>人間の意思決定について、行動意思決定論に立脚して講ずる。意思決定とは物事を決めることである。学生が食堂で注文の料理を決めるような日常の意思決定もあれば、進学や就職、転職、結婚など人生の一大事の意思決定もある。また企業などの組織の中では、経営者をはじめとするすべての構成員が職務上のさまざまな意思決定を下している。この講義では、人間の意思決定が何に影響を受けてどのようなプロセスでおこなわれているかを議論する。</p> <p>授業は一方の講義ではなく受講生と対話をしながら進行するので、受講者は単に授業の内容をノートにとるだけでなく、積極的に考え発言することが期待される。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>人間の意思決定のありかたは、一般人が思い描いているものとはだいぶ異なっている。人間の意思決定にはさまざまな癖があり、それぞれに「〇〇ヒューリスティック」や「△△バイアス」といった名称が付いている。この講義では数多くのバイアスとヒューリスティックを議論するので、それらの意味内容を習得することを通じて、人間の意思決定について深く理解することがこの講義の目標である。</p>					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>以下が授業で取り上げる主な項目である。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「成功要因」の神話と現実 ② 意思決定の合理モデルとその限界 ③ 人間の意思決定プロセス ④ データの収集・分析のバイアス ⑤ 市場への参入の意思決定 ⑥ M & Aの意思決定 ⑦ 市場からの撤退の意思決定 ⑧ 事業売却の意思決定 ⑨ 利己心と公正感情 ⑩ 返報性 ⑪ コミットメントと一貫性 ⑫ 社会的証明 ⑬ 好意 ⑭ 権威 ⑮ 希少性 					
④テキスト・参考書等	<p>項目①から⑨までの教科書は『意思決定のマネジメント』（長瀬勝彦 [著]、東洋経済新報社、2008年）である。ただし、①から⑥までは授業での気づき体験を重視するので、教科書は復習で使用することを推奨する。⑩以降の教科書は『影響力の武器 [第三版]：なぜ、人は動かされるのか』（ロバート・B・チャルディーニ [著]、社会行動研究会 [訳]、誠信書房、2014年）である（※授業開始の前に新版が出版された場合はそちらを使用する可能性がある）。参考文献は『あなたがお金で損をする本当の理由』（長瀬勝彦 [著]、日本経済新聞出版社）。その他、随時指示する。</p>					
⑤成績評価方法	<p>提出されたレポートや授業のディスカッションへの参加などが50%、期末試験が50%の比率で評価する。</p>					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>特定の前提知識は前提としない。ただし人間の心理についての学術的な興味と、日常の知識に束縛されない論理的な思考力が求められる。</p> <p>【質問受付方法】 メールもしくは授業前後の直接の申し出による予約制とする。メールでの質問も受け付ける。</p> <p>【連絡先】nagase@tmu.ac.jp</p>					

2018年度以降入学生	ベンチャービジネス	P0056	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ベンチャービジネス特論	P056	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	高橋 勅徳		前期	土曜日	1時限	
①授業方針・テーマ	ベンチャービジネスに関する研究は、この10年の間に、単に新奇性の高い事例を記述する研究から、明確な理論的フレームワークと調査方法論を備えた研究領域として、急速に発展しています。そこには、制度派組織論をはじめとした組織論の最先端の議論や、社会構成主義、言説分析、アクターネットワークセオリーといった方法論的展開のエッセンスが含まれています。 そこで本講義では、近年のベンチャービジネスに関する最先端の研究成果を踏まえた上で、起業やイノベーションに関する研究論文を作成する上で必要な、学説史と方法論について、必読文献の精読を通じて学んでいくことにします。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	この講義では、ベンチャービジネスをテーマに論文を作成する上で必要な、理論と調査方法論を身につけることを目標とする					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>授業計画・内容・方法</p> <p>この講義では、企業家研究の各議論について、下記のテーマに基づいた文献の精読を行い、講義形式でレクチャーを行う。</p> <p>①企業家とは何か？ シュムペーターの企業家モデル ②企業家とネットワーク ③企業家と正当化 ④企業家と法規制 ⑤企業家研究の進化論的アプローチ ⑥企業家と地域集積 ⑦企業家と組織① 社内ベンチャー ⑧企業家と組織② ベンチャー企業の管理 ⑨企業家のと業界標準 ⑩制度派組織論における企業家概念 ⑪2000年代の企業家研究① ソーシャルイノベーション ⑫2000年代の企業家研究② まちづくり論 ⑬2000年代の企業家研究③ 農業ベンチャー ⑭2000年代の企業家研究④ 企業家的管理 ⑮まとめ：企業家研究のフロンティア</p> <p>授業外学習 各回の課題テキストを熟読の上、当日の講義に臨むこと。</p>					
④テキスト・参考書等	桑田耕太郎・松嶋登・高橋勅徳（編）『制度的企業家』有斐閣					
⑤成績評価方法	講義に際して必要なテキスト・参考書については、その都度指定する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>出席（10%）、授業への参加（30%）および期末課題（60%）にもとづいて評価を行う。</p> <p>特になし。</p> <p>オフィスアワーについては、メール（misanori@tmu.ac.jp）でスケジュールを調整の上、実施する。</p>					

2018年度以降入学生	経営戦略	P0037	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営戦略特論	P037	高度専門 職業人養成Ⅰ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	竹田 陽子		前期Ⅰ	金曜日	5時限、6時限	
①授業方針・テーマ	経営戦略の主要理論を、文献・ケース討議、グループワーク、事例研究を通じて実践と結びつけて学びます。ある企業がどのような範囲で事業を営み、どのような付加価値を生み出すのか。利潤獲得のために他社とどのように競い、協力するのか。自社にしかないものは何であり、これから何ができるようになりたいのか。今はまだ存在しない新しい付加価値を生み出すにはどうしたらよいか、について議論します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営戦略に関する主要な理論を理解し、学んだ概念を企業や社会で起こっている諸問題にあてはめて分析できるようになること、さらには、社会実践において自らフレームワークを構築する力をつけることを目標とします。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画】 各回は5・6限連続です。</p> <p>第1回 われわれはどのような存在であるのか 垂直統合、多角化、事業ドメイン</p> <p>第2回 利潤獲得の位置どり：ポジショニング・アプローチ 業界構造、基本戦略、価格戦略、製品差別化</p> <p>第3回 企業間のインタラクション：ゲーム・アプローチ ゼロサムゲームと協力ゲーム</p> <p>第4回 ビジネス・エコシステム 企業間の対立と協調、プラットフォーム戦略</p> <p>第5回 われわれにしかないものは何か：資源アプローチ リソース・ベースド・ビュー</p> <p>第6回 変革する力：動的能力アプローチ 動的能力、組織革新、組織学習、技術革新</p> <p>第7回 創造の戦略 創発と創造</p> <p>第8回 期末課題発表会 事例研究の発表、期末レポートの相談</p> <p>【授業方法】 各回に講義のほか、文献・ケース討議、グループワークがあります。</p> <p>【授業外学習】 毎回、事前課題や文献・ケース討議の予習が必要です。 期末課題は、計画的に準備をすすめて下さい。</p>					
④テキスト・参考書等	討議用の教材は、事前に配布します。参考文献は随時紹介します。					
⑤成績評価方法	事前課題30%、授業参加（討議貢献、グループ発表など）30%、期末課題（レポート）40%					
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	オフィスアワーは特に設定しませんが、質問等がある場合は事前にメールでアポイントメントをとってください。メールアドレスは初回授業で告知します。					

2018年度以降入学生	経営戦略演習	P0009	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営戦略特別演習	P009	高度専門 職業人養成Ⅰ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	松田 千恵子		前期Ⅱ	火曜日	5時限、6時限	
①授業方針・テーマ	本演習は、ケーススタディ方式によって進められる。企業の具体的な事例を通じて、企業経営と資本市場の間にある諸問題を経営者としての立場から考え、参加者間で討議をしながら理解を深めていく。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営戦略、財務戦略の知識を、実際の企業経営、実務において活用できるようになることを目的とする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>〈授業計画〉</p> <p>①不連続な環境変化への対処—事業・財務・組織を統合して考える ②企業分析と戦略評価の手法(1)—市場進化の方向性と競合のメカニズム ③企業分析と戦略評価の手法(2)—競争優位性の所在と将来の方向性 ④企業分析と戦略評価の手法(3)—企業経営者の視点・投資家の視点 ⑤成長戦略と資本政策—会社の値段は幾らなのか ⑥負債政策と信用リスクへの対処—その格付けは正しいか ⑦グループ経営におけるコーポレートファイナンスの応用 ⑧コーポレートファイナンスと企業統治・情報開示・企業の社会的責任</p> <p>〈授業方法〉 授業方針に記載の通り。具体的な企業の事例を用いたグループワークが中心となる。</p> <p>〈授業外学習〉 事前に必要資料を読み、グループワークの準備を行った上で授業に参加のこと。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>テキスト：松田千恵子『グループ経営入門 第三版』税務経理協会、2016 松田千恵子『コーポレートファイナンス実務の教科書』日本実業出版社、2016</p> <p>その他のテキストや参考書は演習中に適宜指示する。また、必要に応じてパワーポイント等の資料を提示する。</p>					
⑤成績評価方法	演習中のレポートやプレゼンテーションの作成、演習への貢献度により評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>〈特記事項〉 経営学演習（財務戦略論）を受講していることが望ましい。</p> <p>〈オフィスアワー〉 質問や連絡がある場合にはメールにて随時受け付ける。メールアドレスは授業中に指示する。</p>					

2018年度以降入学生	テクノロジー・マネジメント	P0017	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	テクノロジー・マネジメント特論	P017	高度専門職業人養成Ⅰ	高度金融専門人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	松尾 隆		前期	木曜日		6時限
①授業方針・テーマ	技術は企業マネジメント、企業戦略の双方にとって、重要な資源であるとともに、企業行動に制約をもたらす。本講義では、そうした技術とマネジメント、戦略との関係を取り上げる。毎回の講義では、1、2本の論文を取り上げ、それについての発展的な議論を行う。そのため、事前にその回のテーマに即したレポートを提出してもらう。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	テクノロジー・マネジメントに関する基本的内容と今日的トピックを理解し、現実の企業行動の分析に適用することを目指す。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	①テクノロジーとマネジメント ②テクノロジーと戦略 ③技術のライフサイクル ④製品アーキテクチャ ⑤イノベーターのジレンマ ⑥ユーザー・イノベーション ⑦技術統合 ⑧ゲートキーパー ⑨標準化と技術 ⑩オープン・イノベーション ⑪イノベーションと組織 ⑫～⑮発展的な内容を講義の進展に応じて扱う					
④テキスト・参考書等	特に教科書は指定せず、毎回、文献を配布する。多くは研究論文を取り上げる予定なので、基礎知識に不安がある場合は、延岡健太郎『MOT [技術経営] 入門』日本経済新聞社などを事前に読んでおく方が良い。					
⑤成績評価方法	毎回のレポートの内容と講義中の発言による。					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	・オフィスアワー：特にオフィスアワーは設けないが、事前にメールでアポイントをとってくれば、随時対応する。					

2018年度以降入学生	マーケティング・マネジメント	P0006	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マーケティング・マネジメント特論	P006	高度専門職業人養成Ⅰ	高度金融専門人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	水越 康介		前期Ⅱ	金曜日	5時限、6時限	
①授業方針・テーマ	<p>マーケティング・マネジメントは、顧客との関係の創造と維持をその目的とする、市場志向の活動である。本講義では、マーケティング・マネジメントとしてマーケティングの基本的な枠組みを理解するとともに、研究上の論点を探ることを目標とする。</p> <p>本講義では、事前グループワーク、講義内での報告・ディスカッション、および各自レポート作成・提出を一つのサイクルとする。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>本講義では、マーケティングの基本的な枠組みの理解、および、マーケティング研究上の主要な論点を学ぶことができる。</p>					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、およびグループ設定 2. マーケティング・マネジメント1 3. マーケティング・マネジメント2 4. 製品政策1 5. 製品政策2 6. 価格政策1 7. 価格政策2 8. 流通政策1 9. 流通政策2 10. プロモーション政策1 11. プロモーション政策2 12. 関係性マーケティング1 13. 関係性マーケティング2 14. ソーシャル・マーケティング1 15. ソーシャル・マーケティング2 <p>※講義内容は初回オリエンテーションの状況をもとに、変更の可能性がある。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎（2013）『ゼミナール マーケティング入門 第2版』日本経済新聞社。</p> <p>池尾恭一・青木幸弘・南知恵子・井上哲浩（2010）『マーケティング』有斐閣。</p> <p>Kotler, Philip & Kevin Lane Keller, Marketing Management 13e, Pearson Education, Inc., 2009.</p> <p>Solomon, Michael R., Consumer Behavior: Buying, Having, and Being, 11e, Pearson Education, Inc., 2014.</p> <p>その他授業内に適宜指示。</p>					
⑤成績評価方法	<p>授業報告、およびレポート</p>					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	<p>オフィスアワー：授業中に提示するメールアドレスに連絡をし、予約をとること。</p>					

2018年度以降入学生	マーケティング・サイエンス	P0004	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マーケティング・サイエンス特論	P004	高度専門職業人養成Ⅰ	高度金融専門人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	鶴見 裕之		前期	水曜日		6時限
①授業方針・テーマ	現在の情報社会において、求められている能力の一つは、データの背後に存在している関係や傾向を読み解くための分析力です。特に、客観的なデータにもとづいた分析力がグローバルで情報があふれる社会において重要視されています。よって、本講義では、市場におけるマーケティング現象を理解するための代表的なモデルと、マーケティング意思決定に利用される方法論について学び、効果的な意思決定を行うための方法を身につけることを目指します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	事例と例題を通じて、どのように各手法がSTP戦略やマーケティング・ミックスなどを立案するために活用されるのかについて体験することを目標とします。また、講義を通じて、市場におけるマーケティング現象をどのように読み解くことができるのかということについての理解を深めるとともに、データ分析を通じて客観性をもって論証するための数学的な論証能力を身につけることを目標とします。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>第1回 マーケティングサイエンス入門</p> <p>第2回 セグメンテーション：アプリオリ・セグメンテーション</p> <p>第3回 セグメンテーション：クラスタリング・セグメンテーション（階層クラスター分析）</p> <p>第4回 セグメンテーション：クラスタリング・セグメンテーション（非階層クラスター分析）</p> <p>第5回 ポジショニング：主成分分析と因子分析</p> <p>第6回 ポジショニング：コレスポネンス分析</p> <p>第7回 ポジショニング：選好回帰</p> <p>第8回 4P：コンジョイント分析とトライアル・リピート分析</p> <p>第9回 4P：市場反応分析（集計データ1）</p> <p>第10回 4P：市場反応分析（集計データ2）</p> <p>第11回 4P：市場反応分析（非集計データ）</p> <p>第12回 4P：ABC分析とアソシエーション分析</p> <p>第13回 4P：デシル分析とRFM分析</p> <p>第14回 総合実習</p> <p>第15回 まとめ・試験</p> <p>【授業外学習】 講義での実習のための準備、実習課題、レポート課題を適宜設定する予定である。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 特に指定しない。講義時に適宜資料を配布する。</p> <p>【参考書】 照井伸彦・佐藤忠彦「現代マーケティング・リサーチ-市場を読み解くデータ分析」有斐閣 古川一郎・守口剛・阿部誠「マーケティング・サイエンス入門」有斐閣アルマ</p>					
⑤成績評価方法	期末試験と発表の内容、討論への参加程度、授業外学習としての課題レポートの内容によって成績を評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>【オフィスアワー】 毎週水曜日19:00～20:00をオフィスアワーに設定するので、質問等があれば事前にメールでアポイントメントをとるようにして下さい。これ以外の時間帯に担当教員に会いたい場合も同様に事前にメールでアポイントメントをとって下さい。またメールによる質問も随時受け付けます。 連絡先：tsurumi@ynu.ac.jp</p> <p>【前提知識】 履修にあたっては、高校レベルの数学と学部教養レベルの統計学についての基礎知識が前提知識として必要になります。</p>					

2018年度以降入学生	マネジメント・サイエンス I	P0018	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マネジメント・サイエンス特論 I	P018	高度専門職業人養成 I	高度金融専門人材養成 III	研究者養成	2単位
担当教員	森口 聡子		前期	金曜日		5時限
①授業方針・テーマ	<p>情報技術が支える経営活動において、各現場での短期的、オペレーショナルな問題に対する意思決定から、中長期的な戦略的レベルの課題への意思決定に及ぶまで、様々な意思決定が存在する。これらの意思決定では、科学的方法に基づく合理的な意思決定を導く経営科学（マネジメント・サイエンス）が重要な役割を果たしている。本講義では、経営科学の手法のうち、最適化技術を中心に紹介する。物流、在庫管理、SCM、スケジューリング、プロジェクト管理における意思決定での最適化（最小コスト、最大利益、不公平感最小化の計算など）を取り上げ、最適化技術による優れた意思決定の事例と、最適化アルゴリズムによる具体的な計算方法について説明する。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>経営科学における最適化技術とその周辺分野について、モデリング・定式化から、ソフトウェアによる求解について学習する。学習者はこの講義を通じて以下の知識や能力を習得することを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 最適化アルゴリズムによる優れた意思決定の事例（物流、スケジューリング、プロジェクト管理における意思決定での最適計算、最小コスト、最大利益など） 2) グラフ理論の基礎とグラフによる問題のモデル化 3) ネットワーク計画（最短路問題、最大流問題など） <p>経営戦略を科学的に決定することの理解を深め、実際の問題を数理モデルにモデル化し、求解する能力、オペレーションズ・リサーチの手法、解法の手間を評価する方法を身に付けることができる。数学・数理が実際の社会と繋がっていて有用なものであるという一般的な理解と感覚を身につけることができる。</p>					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義ガイダンス、経営科学における最適化技術の位置づけ 2. 最適化問題、最適化アルゴリズムの分類と計算複雑性理論 3. 最適化問題による数理モデル化（1）線形計画問題 4. 最適化問題による数理モデル化（2）整数計画問題 5. 最適化問題を解くアルゴリズム 6. 最適化ソルバー（ソフトウェア） 7. グラフ理論の基礎 8. ネットワーク最適化（1）最短路問題と最短路問題を解くダイクストラ法 9. ネットワーク最適化（2）最大流問題と最大流問題を解くフロー増加法 10. ネットワーク最適化（3）最大流問題の応用例、プロジェクト管理におけるクリティカルパス法 11. ネットワーク最適化（4）最小費用流問題と最小費用流問題を解く負閉路消去法 12. 実問題のモデリングと求解プロセスの演習（1）（グループワークを予定するが、受講者数により個人演習となることもある） 13. 実問題のモデリングと求解プロセスの演習（2） 14. 実問題のモデリングと求解プロセスのディスカッション 15. まとめ <p>【授業方法】 プロジェクトを用いた講義形式を基本とするが、講義の間に簡単な例題や課題を示し、学生の理解を確認しながら講義を進める。講義の要点はWEBに資料の形で用意する。グループワークによるモデル化と最適化の演習も導入する。</p> <p>【授業外学習】 用意された資料を講義の前に目を通してテーマを把握する（予習）。講義の直後に再度、資料を読んで講義内容を確実に理解する（復習）。個人課題、グループワーク課題を課す。ディスカッション、プレゼンテーションの為の事前準備をしっかりと行ってくること。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>毎回配付するレジュメをテキストとして用いる。</p> <p>【参考書】</p> <ol style="list-style-type: none"> [1] 松井泰子、根本俊男、宇野毅明『入門オペレーションズ・リサーチ』東海大学出版、2008 [2] 久保幹雄『組合せ最適化とアルゴリズム（インターネット時代の数学シリーズ）』共立出版、2000 [3] Ravindra K. Ahuja, Thomas L. Magnanti, James B. Orlin『Network Flows: Theory, Algorithms, and Applications』Prentice Hall、1993 					
⑤成績評価方法	<p>個人レポート、（グループワーク実施時）グループ成果物、プレゼンテーションおよび試験により評価する。</p>					
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	<p>【前提知識】 高校程度の数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ）を用いる。 この講義では、文科系出身の学生も履修できるように、初歩的な数学しか前提とせず、簡単な例を用いて出来るだけ平易な解説を行い、学生がこれらの手法の本質と最適化問題によるモデリングの有用性を理解できるよう心がける。</p> <p>【オフィスアワー】 原則として、木曜12：10-13：00（メールでアポイントメントをとること）。</p>					

2018年度以降入学生	統計学基礎	P0031	経営学A	経済学A	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営データ分析特論	P031	高度専門 職業人養成Ⅰ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	森 治憲		前期	土曜日		2時限
①授業方針・テーマ	取り上げる内容は授業計画に書いた標準的なトピックである。ただし、受講者が文科系学部出身であり、統計学の勉強を優先できないという事情を考慮して、分析する能力を身に付けることを、この授業の目的とはしない。与えられた問題に対して分析が適切かどうかを判断し、その結果を正しく理解するための能力を身に付けることを目的とする。ここが標準的な統計学の授業と異なる点である。簡単な演習も行うため、母平均の検定などの初等的な分析は自力でできるようになるはずだが、例えば「複雑な確率モデルをベイズ推定する」ことはまず無理である。ここは注意してほしい。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	統計学を用いた分析結果を理解し、活用するための能力。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1次元のデータ：度数分布表とヒストグラム、代表値と散らばりの尺度 2次元のデータ：分割表と散布図、相関関係と相関係数 記述統計学としての回帰分析 推定の考え方 確率変数 母集団分布と推定 仮説検定の考え方 仮説検定の理論 推測統計学としての回帰分析 <p>授業方法</p> <p>講義中心となるが、具体的な問題を分析する簡単な演習も行う。</p> <p>授業外学習</p> <p>この授業は独立したいくつかの話題を解説するのではなく、最初から最後まですべてが繋がっています。授業で学習した内容を習得するには、毎回の復習が不可欠です。</p>					
④テキスト・参考書等	授業で用いる資料（スライドや練習問題など）はkibacoを用いて配布する。					
⑤成績評価方法	授業への参加状況と数回のレポートに基づいて成績を評価します。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	高校レベルの数学（文系数学）を理解していることが望ましい。 土曜日3時限をオフィスアワーとする。					

2018年度以降入学生	経営分析	P0012	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営分析特論	P012	高度専門 職業人養成 I	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	浅野 敬志		後期	金曜日		6時限
①授業方針・テーマ	<p>スチュワードシップ・コード（金融庁、2014年2月、改訂版2017年5月）、伊藤レポート（経済産業省、2014年8月）、伊藤レポート2.0（経済産業省、2017年10月）、コーポレートガバナンス・コード（東京証券取引所、2015年3月）が公表され、わが国のガバナンス改革が加速し、資本コストを意識した経営、投資家によるエンゲージメント（目的を持った対話）、社外取締役によるモニタリングなど、企業外部の論理が反映されやすい経営やガバナンス体制が構築されようとしている。ROE、ROA、資本コストなどの会計指標（KPI）を企業評価の視点から再確認するとともに、これらを意識した経営やガバナンス体制が企業価値の向上や日本経済の再生にとって望ましいのかどうかを検討する。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>アベノミクスの三大ガバナンス改革であるスチュワードシップ・コード、伊藤レポート（2.0を含む）、コーポレートガバナンス・コードについて企業価値の視点から理解を深めるとともに、市場（機関投資家）の論理が反映されやすい経営やガバナンス体制の是非について、自ら仮説を立て、検証できるようにすること。</p>					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（日本経済の再生と企業価値向上） 2. 財務諸表の概要と企業価値評価 3. 会計指標（KPI）と企業価値評価 4. 機関投資家のガバナンス改革と企業価値（スチュワードシップ・コード） 5. 企業のガバナンス改革と企業価値（コーポレートガバナンス・コード） 6. 企業開示制度改革と企業価値（伊藤レポート、伊藤レポート2.0） 7. 三大ガバナンス改革と企業価値（まとめ） 8. 現金保有と企業価値 9. 資本構成と企業価値 10. 株主還元策と企業価値 11. インセンティブと企業価値 12. エンゲージメント（企業との対話）と企業価値 13. ESG（環境、社会、ガバナンス）と企業価値 14. M&Aと企業価値 15. まとめ <p>【授業方法】 講義、グループによる発表、ディスカッションを組み合わせる授業を行う。</p> <p>【授業外学習】 リーディング・アサインメントを事前に読み授業に臨むこと。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>伊藤レポート（経済産業省、2014年） 伊藤レポート2.0（経済産業省、2017年） スチュワードシップ・コード（金融庁、2014年、改訂版2017年） コーポレートガバナンス・コード（東京証券取引所、2015年） スティーブン・ボーゲル『新・日本の時代』（日本経済新聞社、2006年） 伊藤邦雄『新・企業価値評価』（日本経済新聞、2014年） 手島直樹『ROEが奪う競争力』（日本経済新聞社、2015年） 柳良平『ROE革命の財務戦略』（中央経済社、2015年） 菊地正俊『日本株を動かす外国人投資家の設け方と発想法』（日本実業出版社、2017年） 水口剛『ESG投資』（日本経済新聞社、2017年） 日本証券アナリスト協会『価値向上のための対話』（日本経済新聞出版社、2017年） 池尾和人・幸田博人『日本経済再生25年の計』（日本経済出版社、2017年） その他、企業価値評価やガバナンスに関する書籍・論文</p>					
⑤成績評価方法	<p>発言などによる授業に対する積極的貢献（30%）、発表（20%）、レスポンスペーパー（20%）、期末レポート（30%）によって評価する。</p>					
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	<p>授業後をオフィスアワーとする。また、メールによる質問も随時受け付ける。</p> <p>【連絡先】 takasano@tmu.ac.jp</p>					

2018年度以降入学生	管理会計	P0045	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	管理会計特論	P045	高度専門 職業人養成Ⅰ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	細海 昌一郎		後期	土曜日		4時限
①授業方針・テーマ	<p>管理会計は企業内部の経営者に対して経営管理に必要な経済的情報を提供することを目的とした会計といえますが、その主要な役割は大きく2つに分けられます。1つは、合理的な経営上の意思決定を行えるようにする役割であり、もう1つは、意思決定されたことが達成されるようにコントロールする役割です。</p> <p>本講義では、こうした意思決定や業績評価に有効な管理会計技法のうち代表的なものを取り上げ、数値例を用いて解説・検討します。具体的には、管理会計の基礎を概説したのち、CVP分析、予算管理、分権組織の業績評価、業務的意思決定、戦略的意思決定、財務情報分析などを取り上げ、その基礎と応用について解説・検討する予定です。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>本講義を履修することによって、受講者は企業活動を客観的な会計数値で分析・評価する基本的な能力を身に付け、企業活動の改善点や目標を明確することが期待されます。</p>					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>①イントロダクション：講義内容の概略 ②管理会計の基礎 ③CVP分析（1）：利益計画とCVP分析 ④CVP分析（2）：原価分解 ⑤CVP分析（3）：固定費に関わる論点 ⑥CVP分析（4）：損益シミュレーションほか ⑦予算管理（1）：予算管理の基礎、固定予算と変動予算 ⑧予算管理（2）：予算差異分析、予算管理の行動科学的課題ほか ⑨分権組織の業績評価（1）：業績評価の基礎、事業部の業績評価指標（BSC等を含む）、内部振替価格 ⑩分権組織の業績評価（2）：EP(EVA)と業績評価、MVAについて ⑪業務的意思決定（1）：業務的意思決定の基礎、最適セールス・ミックス、LPとスループット会計 ⑫業務的意思決定（2）：在庫管理の基礎、経済的発注量（EOQ）とJIT ⑬戦略的意思決定（1）：戦略的意思決定の基礎、投資プロジェクトの評価方法 ⑭戦略的意思決定（2）：不確実性下の投資意思決定 ⑮財務情報分析：企業価値評価法の基礎 ※講義の内容・順序を一部変更することがあります。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>・テキストは、特に指定しません（レジュメ配布）。</p> <p>・以下、参考文献を示します（購入する必要はありません）。</p> <p>青木雅明『管理会計』同文館出版、2005。</p> <p>石塚博司共著『意思決定の財務情報分析』国元書房、1985。</p> <p>大塚宗春『意思決定会計講義ノート』税務経理協会、2008。</p> <p>加藤勝康・豊島義一『Q&A管理会計入門』同文館出版、2003。</p> <p>小林健吾『体系予算管理』東京経済情報出版、2003。</p> <p>佐藤紘光・齋藤正章『改訂新版管理会計』放送大学教育振興会、2006。</p> <p>知野雅彦・日高崇介『予算管理の進め方』日本経済新聞出版社、2007。</p> <p>平岡・大野・井出・細海『原価計算・工業簿記演習第3版』創成社、2003。</p> <p>門田安弘編著『管理会計レクチャー〔基礎編〕、〔上級編〕』税務経理協会、2008。</p> <p>山根節『新版ビジネス・アカウンティング-MBAの会計管理 - 』中央経済社、2008。</p> <p>Higgins, Robert C., Analysis for Financial Management, McGraw-Hill, Inc, 2003.</p> <p>Horngren, C.T., G.Foster, S.M.Datar, Cost Accounting -A Managerial Emphasis, Prentice-Hall, 2006.</p> <p>Horngren, C.T, G.L.Sundem, W.O.Stratton, Introduction to Management Accounting, Prentice-Hall, 2002.</p> <p>Shim, Jae K., and Joel G.Siegel, Modern Cost Management & Analysis, Barron's Business Library, 2000.</p> <p>Shim, Jae K., and Joel G.Siegel, Budgeting Basics and Beyond Second Edition, John Wiley & Sons, Inc, 2005.</p>					
⑤成績評価方法	<p>・講義参加度と演習課題に基づいて評価します。</p>					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>・本講義では受講者の理解を深めるため、毎回、講義内容についてひと通り解説したのち、PCを用いた演習を行う予定です。</p> <p>・基本的な企業会計の知識と基本的なPCの能力を前提に行います。</p> <p>・PC演習用データを配布します。</p> <p>・オフィスアワー：原則として木曜日5時限目としますので、質問等があれば研究室（3-233）に来てください。</p> <p>・連絡先：hosomi@tmu.ac.jp</p>					

2018年度以降入学生	財務会計	P0049	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	財務会計特論	P049	高度専門 職業人養成Ⅰ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	野口 昌良		前期	水曜日		5時限
①授業方針・テーマ	<p>優良企業（組織）の選別にあたっては、企業業績に関する情報を提供する公表財務諸表を中心に分析が行われる。開示された情報を正確に把握するためには、財務諸表の機能と構造を十分に理解することが必要になる。この講義では、現代社会において財務諸表が果たす役割について考察し、その機能と構造を理解することを目標とする。国際財務報告基準（International Financial Reporting Standards；IFRS）などとの比較を行い、わが国の会計（基準）をとりまく現状についても理解を深めたい。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>1. 企業業績に関する情報を提供する財務諸表の機能と構造を理解することができる。 2. 1. をベースにして財務諸表を作成・分析する能力を修得できる。 3. 1. および2. をベースにして日本の会計基準を取り巻く現状を理解することができる。</p>					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】 ①ガイダンス ②財政状態計算書 ③損益計算書および包括利益計算書 ④キャッシュフロー計算書 ⑤連結財務諸表 ⑥金融商品会計 ⑦棚卸資産会計 ⑧中間試験 ⑨固定資産会計 ⑩退職給付会計 ⑪税効果会計 ⑫収益認識 ⑬企業結合会計 ⑭外貨換算会計 ⑮定期試験・解説</p> <p>【授業方法】 講義を中心とした授業を実施するが、適宜ディスカッション（一部グループワークの形式も取り入れる予定）も実施して、学生の理解度を確認しながら、到達目標に必要な知識の修得に努める。講義は、概念等について説明を行った後に、演習問題を解くかたちでその計算方法の修得に努める。期央に中間試験を実施する。</p> <p>【授業外学習】 事前配布するハンドアウトおよび演習問題その他資料の予習・復習が必要となる。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 教科書は指定しないが、e-learningシステムkibacoを通じて講義資料を配布するので、事前に学習しておくこと。</p> <p>【参考書等】 桜井久勝『財務会計講義』（中央経済社） 伊藤邦雄『新・現代会計入門』（日本経済新聞出版社）</p>					
⑤成績評価方法	<p>基本的に定期試験と中間試験のスコアに準拠して評価するが、適宜実施するディスカッションもクオリティに応じて評価する。 評価のウェイトは定期試験と中間試験のスコアを70%、ディスカッションの内容を30%とする予定である。 定期試験と中間試験は、到達目標に照らして、財務諸表の機能と構造に関する知識を通じて、財務諸表を作成・分析する能力を修得できているか否かを確認するために実施する。具体的には、財務諸表の作成・分析に必要な概念について説明を求める記述問題と、財務諸表の作成に必要な情報を収集・分析・加工することを求める総合計算問題が中心となる。</p>					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>【他の授業科目との関連性】 初回の講義において事前（プレ）テストを実施する予定である。その結果に基づいて講義内容を多少とも変更することを予定しているので、さしあたっては特別な前提知識を必要としない。 【オフィスアワー】 水曜日の3時限目とするが、メールによる質問も受け付ける。</p>					

2018年度以降入学生	組織行動	P0019	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	組織行動特論	P019	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	高尾 義明		後期	火曜日		5時限
①授業方針・テーマ	組織行動論の考察対象は、組織における人間行動及び集団行動です。組織行動論はミクロ組織論と呼ばれることもあるように、微視（ミクロ）的な視座から組織を捉えます。本講義では、組織行動論の代表的な概念について理論的に解説するとともに、それらの応用の可能性について検討を行います。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本講義で修得できる理論枠組みは、組織における人間行動・集団行動の説明・予測・方向付けに役立てることができます。また、組織のメンバーとしてどのように組織とかわり、ふるまうべきかを内省する手がかりとなる枠組みの獲得を目指します。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>第1回：イントロダクション 第2回：ワーク・モチベーション 第3回：組織における公正 第4回：組織市民行動 第5回：リーダーシップとフォロワーシップ 第6回：リーダーシップ開発 第7回：コミュニケーション 第8回：組織内ネットワーク 第9回：集団行動とチーム 第10回：組織社会化 第11回：組織と個人の関係 第12回：組織とキャリア 第13回：職場学習 第14回：ポジティブ組織行動 第15回：総合ディスカッション</p> <p>【授業方法】 文献の発表、ディスカッション、グループワークを組み合わせる授業を行います。</p> <p>【授業外学習】 毎回、リーディング・アサイメントを事前に読んで授業に臨んでください。また、毎回事前課題の提出を求めます。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>各回のリーディング・アサイメントを事前に配布します。</p> <p>参考書（授業の履修にあたって購入する必要はありませんが、適宜参照すると理解が深まると思います） ・二村敏子編（2004）『現代ミクロ組織論』有斐閣</p>					
⑤成績評価方法	発表・発言などによる授業に対する積極的貢献（85%）および学期末レポート（15%）によって評価します（詳細は第1回に説明します）。					
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	<p>【オフィスアワー】 オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメールでアポイントメントをとってください。</p> <p>【連絡先】ytakao@tmu.ac.jp</p>					

2018年度以降入学生	マネジメント・サイエンスⅡ	P0034	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マネジメント・サイエンス特論Ⅱ	P034	高度専門職業人養成Ⅱ	高度金融専門人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	山下 英明		前期	水曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	経営科学は、経営活動において生じる種々の問題に対する合理的な意思決定をするために科学的方法を提供する学問領域である。この講義では、経営科学の手法のうち、不確実性を伴う確率モデルに対し、確率論を用いた理論解析や、乱数を用いて数値実験を行うモンテカルロ・シミュレーションについて紹介する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	確率モデルに対する理論的解析とモンテカルロ・シミュレーションの方法について本質的に理解する。経営戦略を科学的に決定することの理解を深め、実際の問題を確率モデルにモデル化し、システムの分析を行う能力を身に着ける。 論理的思考力、総合的問題思考力、コミュニケーション能力を育成する。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】【授業方法】</p> <p>第1回～第11回 講義中心の授業 授業時間内では、教員が確率モデルの理論解析やシミュレーションの方法について説明し、講義内容に関する課題について、グループで検討し、解答を導く。授業時間外では、授業で学習した方法についての演習問題を解き、次の授業において解答を確認し、理解を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション、確率モデル 2. 確率変数と離散的な確率分布 3. 連続的な確率分布と中心極限定理 4. 乱数の性質と生成 5. 在庫管理問題と経済的発注量 6. 定期発注方式と発注点方式 7. 需要が変動する在庫管理問題のシミュレーション 8. 待ち行列モデルのシミュレーション 9. 待ち行列モデルとリトルの公式 10. 電車の待ち時間 11. M/M/1待ち行列の解析 <p>第12回～第14回 学生発表中心の授業 参考書にある実際のシステムの解析例について発表し、討論する。</p> <p>第15回 身近な問題をモデル化し、シミュレーションを行い、結果を発表する。</p> <p>【自宅学習】 毎回、授業で学習した解法についての演習問題を課す。このうち、2週間に1度程度提出を義務づける。 参考書にある実際のシステムの解析例について発表する準備を行う。 身近な問題をモデル化し、シミュレーションを行い、発表する準備を行う。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>テキストは使用しない。</p> <p>参考書：塩田茂雄他『待ち行列理論の基礎と応用』共立出版（2014） 尾崎敏治『確率モデル入門』朝倉書店（1996） 森雅夫、宮沢政清他『オペレーションズ・リサーチⅡ』朝倉書店（1989） 森雅夫、松井知己『オペレーションズ・リサーチ』朝倉書店（2004） 高橋勝彦他『シミュレーション工学』朝倉書店 2007。 森戸晋、逆瀬川浩孝『システムシミュレーション』朝倉書店 2000。 荒木勉『Excelで学ぶシミュレーション』実教出版 2000。 尾崎俊治『確率モデル入門』朝倉書店 1996。 L.クラインロック（手塚慶一他訳）『待ち行列システム理論（上下）』マグロウヒル好学社 1978。 豊田秀樹『マルコフ連鎖モンテカルロ法』朝倉書店 2008。 牧本直樹『ビジネスへの確率モデルアプローチ』朝倉書店 2006。 宮沢政清、『確率と確率過程』近代科学社 1993。</p>					
⑤成績評価方法	数回おこなう演習問題、解析例の発表、平常の理解度によって専門的知識と論理的思考力を評価し、各自モデルのシミュレーションの発表により総合的問題思考力、コミュニケーション能力を評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	この講義は、高校、大学初等程度の数学を用いることもあるが、簡単な例を用いて出来るだけ平易な解説を行う。 授業内容の質問については、まず質問者がメールで教員に連絡し、必要があれば教員が面談の日時を質問者と相談の上設定する方式をとる。メールアドレス等、詳しくは初回の授業において説明する。					

2018年度以降入学生	経営数理	P0023	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営数理特論	P023	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	室田 一雄		後期	火曜日		6時限
①授業方針・テーマ	機械学習の数理的な側面に重点をおいて概説する。講義では基本的にテキストに沿って説明するが、テキストに含まれていない重要な話題であるサポートベクターマシンとニューラルネット（深層学習）についても講義する。機械学習では、統計学や最適化の数学が多用されるので、それらについて、適宜、基礎的なことを整理して示す。また、最適化ソフトウェアの利用法についての基礎事項を説明する。数式のもつ本質的な意味をできるだけ図や言葉で伝えるようにし、今後の研究活動や実務において、機械学習の考え方が活かせるような形を目指す。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	科学的方法論として近年進展の著しい機械学習について、その枠組みと考え方を理解し、さらに機械学習の基礎を成す数理的基礎を理解する。その過程で、数式の読み解き方などの基本的な技術も学習する。また、最適化ソフトウェアを使うための基礎的な技術を習得する。それによって、研究活動や実務における数理的解析力と問題解決力を習得する。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、機械学習へのイントロダクション 2. 最小2乗法（線形回帰、正規方程式） 3. 機械学習の基礎概念（汎化能力、過学習、交差確認） 4. 最尤推定法（確率分布、期待値、正規分布、推定量） 5. 最適化の基礎1（線形計画、勾配法、凸関数） 6. パーセプトロン（分類、オンライン学習、確率勾配法） 7. ロジスティック回帰 8. 最適化の基礎2（双対問題、双対性） 9. サポートベクターマシン（概要、定式化、カーネル法） 10. 最適化ソフトウェア 11. ニューラルネット：深層学習 12. ROC曲線 13. k平均法（クラスタリング、教師なし学習） 14. EMアルゴリズム（混合分布） 15. ベイズ推定（ベイズの定理、事前分布、事後分布） 演習について討論と講評 <p>【授業方法】 テキストの要点をまとめたスライドによる講義形式を基本とするが、講義の間に簡単な例題や課題を示し、学生の理解を確認しながら講義を進める。テキストに含まれない内容については、講義資料を用意する。また、発展的な話題を扱った資料をWEB上に用意し、自主的な学習の手助けとする。</p> <p>【授業外学習】 講義の前にテキストに目を通してテーマを把握する（予習）。講義の直後に、テキストと資料を読んで講義内容を確実に理解する（復習）。各自の興味に応じて、自主的に、WEB上に用意された資料を利用して、発展的な内容を理解する。授業の内容に関連して出題される課題に取り組み、レポートを提出する。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中井悦司：ITエンジニアのための 機械学習理論入門、技術評論社、2015。 <p>【機械学習の参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中川裕志：機械学習、丸善出版、2015。 ・C. M. ビンヨップ著、元田浩他訳：パターン認識と機械学習（上、下）、丸善出版、2012。 ・竹内一郎、烏山昌幸：サポートベクトルマシン、講談社、2015。 ・岡谷貴之：深層学習、講談社、2015。 ・松尾豊：人工知能は人間を超えるか、KADOKAWA、2015。 <p>【統計学の参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・杉山将：機械学習のための確率と統計、講談社、2015。 <p>【最適化の参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田村明久、村松正和：最適化法、共立出版、2002。 ・藤澤克樹、後藤順哉、安井雄一郎：Excelで学ぶOR、オーム社、2011。 ・S. Boyd and L. Vandenberghe: Convex Optimization, Cambridge University Press, 2004。 					
⑤成績評価方法	出席状況とレポート課題により評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>【前提知識】 統計学と最適化理論の基礎事項を一通り習得していることが望ましい。</p> <p>【オフィスアワー】 原則として木曜5限（メールでアポイントメントをとることが望ましい）。</p>					

2018年度以降入学生	ビジネスイノベーション 演習	P0039	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ビジネスイノベーション 特別演習	P039	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	高橋 勅徳		後期	土曜日		1時限、2時限
①授業方針・テーマ	<p>これまでビジネスイノベーションは、まったく新しいテクノロジーやアイデアの下でイノベーションを主導する、特殊なパーソナリティの持ち主たる企業家と共に語られてきました。確かに、巷間に溢れる雑誌・新聞・TVからの情報を見聞きする限り、ビジネスイノベーションとはそのような現象として理解できるかもしれません。</p> <p>しかしながら、そのように現象を捉えてしまうと、ベンチャービジネスとは通常のビジネス実践から乖離した、特殊な存在となります。しかし、イノベーションを実現するためには、単なるテクノロジー／アイデアや企業家の有無という問題ではなく、顧客、同業他社、関係会社、銀行など様々な主体と関係を取り結び、自社にとって有利な方向へと導いていく社会関係のマネジメントが求められます。そこでこの講義では、ケーススタディと当事者の講演を通じて、イノベーションのマネジメントを学んでいきます。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>この講義では、ベンチャー企業の創出、新技術／サービスの普及、既存企業（行政組織を含む）のイノベーションのプラクティカルな知識を、具体的なケーススタディに基づくディスカッションを通じて学びます。</p>					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>授業計画・内容・方法</p> <p>この講義は隔週2コマ連続で開講します。1コマ目に検討するベンチャー企業についてのケースディスカッションを行い、2コマ目にケースに取り上げた企業経営者による講演とディスカッションを実施します。本年度の出講予定者については10月中旬にアナウンスします。</p> <p>第一回 ガイダンス 第二回 ケースディスカッション① 第三回 ケースディスカッション② 第四回 ケースディスカッション③ 第五回 ケースディスカッション④ 第六回 ケースディスカッション⑤ 第七回 期末グループワーク① 第八回 期末グループワーク+報告会</p> <p>授業外学習</p> <p>講義に先立って配布するケーススタディを熟読の上、出講企業の事前調査を行い質問項目をまとめておくこと。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>テキスト・参考書については、必要に応じてその都度指定する。</p>					
⑤成績評価方法	<p>ディスカッションへの参加（20%）および議論への貢献度（20%）、期末グループワーク（40%）による。</p>					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>オフィスアワーについては、メール（misanori@tmu.ac.jp）でスケジュール調整の上、適宜実施する。原則隔週で2コマ連続の、変則開催とします。</p>					

2018年度以降入学生	企業経済学	P0026	経営学B	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	企業経済学基礎特論	P026	高度専門 職業人養成Ⅰ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	松林 伸生		後期	木曜日		6時限
①授業方針・テーマ	<p>企業の問題を考える上で、経済学は、複数の主体（企業、消費者等）が相互に関連しあう状況下での意思決定とそれに基づく結果を分析するための科学的方法論として重要な役割を果たします。この講義では、ミクロ経済学やゲーム理論の基本的な事項について、経営上の意思決定への応用という観点を意識して解説していきます。多くのトピックを扱いつつも、それらの根底に共通する考え方を体得して頂くことを目標とします。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>(1) 習得できる知識・能力： ミクロ経済学やゲーム理論に関する基本的知識と、ビジネスにおける意思決定の方法論としての基本的な考え方。</p> <p>(2) 授業の到達目標： ビジネスにおいて観察されるさまざまな競争・協調行動、あるいは戦略的な意思決定について、企業経済学（ビジネス・エコノミクス）の考え方をを用いて理解を深められるようになること、そして実際に意思決定の場面において、企業経済学（ビジネス・エコノミクス）を援用した合理的な問題解決を自ら提案できるようになることを目標とします。</p>					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>① 経営のための経済学とは？ ② 数学的準備 ③ 消費者の合理的行動の定式化と需要関数 ④ 企業の合理的行動の定式化と供給関数 ⑤ 完全競争と市場均衡 ⑥ パレート最適性 ⑦ 不完全競争（独占、寡占）の理論（1） ⑧ 不完全競争（独占、寡占）の理論（2） ⑨ 演習（1） ⑩ 非協力ゲームのモデル化と均衡概念 ⑪ 価格差別の理論 ⑫ ネットワーク外部性、プラットフォームの理論 ⑬ 製品差別化の理論 ⑭ 演習（2） ⑮ 履修者による自主課題のプレゼンテーション</p> <p>〈授業外学習〉 ・初回の講義時に講義に関連した資料を紹介するので、毎回それを用いて予習・復習を行ってください。 ・最終回のプレゼンテーション（実施する場合。後述参照）に向けては、そのテーマや内容について日頃より検討を行い、充実した成果を出せるよう努力してください。これも詳しくは初回の講義時に説明します。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>教科書は指定しません。毎回配布する資料をもとに講義を進めます。なお、講義資料は講義終了後に所定のホームページ（初回の講義で紹介）にもアップします。参考書は初回の講義の中で紹介しますが、一部を下記にも記しておきます。</p> <p>[1] 「経営の経済学」丸山雅祥著、有斐閣 [2] 「ミクロ経済学の力」神取道宏著 日本評論社 [3] 「入門ミクロ経済学」（原著第5版）ハル・R・ヴァリアン著（佐藤隆三訳）、勁草書房 [4] 「MBAのためのミクロ経済学入門（1）、（2）」デビッド・M・クレプス 著（中泉真樹、他訳）、東洋経済新報社 [5] 「ミクロ経済学－戦略的アプローチ」松井彰彦 & 梶井厚志著、日本評論社</p>					
⑤成績評価方法	<p>講義への出席・質疑応答（20%）、自主課題のプレゼンテーション（60%）、最終レポート（20%）により評価します。ただし、履修人数が想定よりも多い場合にはプレゼンテーションではなく期末試験を実施する可能性があります。詳細については初回の講義時に話すようにします。</p> <p>評価にあたっては、上述した授業の到達目標と照らし合わせてどの程度のレベルまで理解できているかをともに評価します。なお、プレゼンテーションや最終レポートの詳細については別途講義内に、それぞれ印刷物を配布して説明します。</p>					
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	<p>・講義は数学を用いて展開されます。2回目の授業で理解に必要な最低限な数学的準備を行います。できるだけ事前に大学教養（学部）レベルの経済数学（特に偏微分）を習得しておいて下さい。</p> <p>・オフィスアワーについては、他大学勤務につきメールで随時連絡してください。 松林：nobuo_m*@ae.keio.ac.jp（*@*は削除して使用のこと）</p>					

2018年度以降入学生	コーポレート ファイナンス概論	P0005	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	コーポレート・ ファイナンス特論	P005	高度専門 職業人養成Ⅰ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	中岡 英隆		後期	月曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	<p>企業のグローバル化が進み、日本企業においても国内外でのM&A戦略が経営上の最重要課題となっている。こうした企業の戦略的な投資や企業価値創造に関わる意思決定には、オプション理論を取り入れた最新の企業価値評価の手法が不可欠である。本講義では、伝統的なコーポレート・ファイナンスの基礎を概観した上で、会社法や契約、ビジネスモデルに織り込まれたオプションの仕組みを解き明かして、オプション理論を活用した投資戦略や株主価値、負債価値、資産価値、信用リスクの評価の手法を学ぶ。さらに、その実践的な応用を目指して、Excelを用いた演習として、事例に基づくオプション戦略の評価を行い、さらに、ケース・ワークにより企業の財務分析を行った上で、企業価値、負債コスト、デフォルト確率などを測定する演習を行う。また、最前線の企業活動のケースを読み解きながら、ファイナンスや経営資源、コーポレートガバナンスの視点から、マネジメントによる企業価値創造力やM&Aに対する市場の評価を理論的・実証的に分析し、M&Aの戦略・経済性について洞察を深める。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>伝統的なコーポレート・ファイナンスとコーポレート・ガバナンスやResource-Based Viewの経営戦略論などの視点を融合して、オプション理論を活用した投資戦略や株主価値、負債価値、資産価値、信用リスクの評価の手法を学ぶことにより、不確実性下における企業価値の評価やM&A戦略、マネジメントの価値創造力についての洞察力・実践力を高め、論理的思考力、総合的問題解決力を高める。さらに、ケース・ワークによる演習を通じて情報活用能力を高めるため、実際の企業買収や買収防衛策など最前線の企業活動にフォーカスして、自身でWebデータの収集や有価証券報告書の分析を行い、それらのデータとオプション評価モデルを使って投資戦略や企業価値、信用リスクの評価ができるようになることを目指す。また、マネジメントによる企業価値創造力やM&Aに対する市場の評価を理論的に分析し、実際のケースを通じてM&Aの戦略・経済性についての洞察を深めて、総合的問題解決力を高める。</p>					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>① M&Aの経済性と事業価値 ② 資本構成と配当政策 ③ 企業金融とガバナンス論 ④ M&Aと買収防衛策の事例研究 ⑤ M&A戦略と経営資源 ⑥ オプションと企業価値 ⑦ 離散時間モデルとリスク中立化法 ⑧ 離散時間モデルのExcel演習 ⑨ Mertonモデルと負債・資産の市場価値・信用リスク評価 ⑩ 演習「TBSの買収防衛策と株主価値・負債価値・信用リスク」 ⑪ 演習「買収対象企業の財務分析」(ホットなM&A事例を取り上げます) ⑫ 演習「市場データに基づく負債・資産価値・信用リスクの測定」 ⑬ 事例研究「日本の優秀企業の株主価値・負債価値・qレシオ」 ⑭ 事例研究「マネジメントの経営価値創造力とイベントスタディ」 ⑮ ファイナンス理論の現状と課題</p> <p>授業外学習： ①演習問題やレポート課題を自宅学習すること。 ②本講義では、演習問題やレポート課題において、基本的なファイナンス理論の手法やオプション・モデルなどのExcel演習を取り入れる。Excelの基本操作については、各自で自宅学習しておくこと。 ③授業の際の不明な点や高校数学・統計の基礎知識について、授業中に示された参考文献などで自宅学習すること。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>[テキスト] 毎回配布のレジユメによる。 [参考文献] [1] 中岡英隆 [2009]、「企業における資源開発事業の統合リスク評価」『ジャフィー・ジャーナル：ベイズ統計学とファイナンス』日本金融・証券計量・工学学会、179-205、朝倉書店。 [2] 中岡英隆 [2011]、「マネジメントの価値創造力とM&Aの評価」『ジャフィー・ジャーナル：バリュエーション』日本金融・証券計量・工学学会、114-133、朝倉書店。 [3] リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ、藤井真理子他訳 [2002]、『コーポレート・ファイナンス 上・下』日経BP社。 [4] 木島正明、中岡英隆、芝田隆志 [2008]、『リアルオプションと投資戦略』朝倉書店。 [5] ミシェル・クルーイ、ダン・ガライ、ロバート・マーク、三浦良造他訳 [2004]、『リスクマネジメント』共立出版。</p>					
⑤成績評価方法	出席状況および授業への参加姿勢と課題発表・レポートにより評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>概ね文系レベルの数学とEXCELの知見を前提とする。</p> <p>オフィスアワー： ①授業終了後 ②授業開始前（メールにて事前予約をすること）</p>					

2018年度以降入学生	証券投資	P0025	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	証券投資特論	P025	高度専門 職業人養成Ⅰ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	坂巻 敏史		後期	月曜日		5時限、6時限
①授業方針・テーマ	本講義では、証券投資・資産運用に関する基本概念・理論の習得に加え、証券投資に関するリスク管理、ミクロ・マクロ経済分析などのより実践的な課題についても学習の対象とする。特に、ポートフォリオ投資のあり方、リスクリターン分析の枠組み、投資戦略、リスク指標などの項目を重点的に扱う。また、最近の動きにも触れ、より深い理解を促す。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	証券投資に関する基礎的な概念やツールの理解、実践的な活用能力の向上を目指す。特に、具体的な証券投資の場面において、リスクリターンのバランスをどのようにアプローチし決定するかに、役立つ知識や考え方の習得を重視する。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>本講義で取り上げる範囲は、先ず、証券投資理論の基礎、標準的な投資戦略の知識や分析の枠組みに触れる。加えて、発展的な話題として、金融リスク管理や最近注目されている投資戦略などの話題も扱う。</p> <p>講義の効果を高めるために、ディスカッションへの参加を期待する。また、具体的な数値例に基づく計算課題などの複数回のレポート提出を予定している。</p> <p>各講義の主な内容は以下の通りである：</p> <p>①－② 証券投資のリターンとリスク、効用理論、ポートフォリオと分散投資</p> <p>③－④ 平均分散モデル、ポートフォリオの最適化、効率的市場仮説、分離定理、リスクプレミアム、ベータ</p> <p>⑤－⑥ 資本資産評価モデル (CAPM)、投資戦略 (アルファ、アクティブ運用、インデックス運用)、裁定価格理論 (APT)、マルチファクターモデル</p> <p>⑦－⑧ アセットアロケーション、ポートフォリオのリスク特性、計算</p> <p>⑨－⑩ 株式価値評価モデル、計算</p> <p>⑪－⑫ 債券分析</p> <p>⑬－⑭ デリバティブズ</p> <p>⑮ 行動ファイナンス</p> <p>※可能であれば、リスクベースポートフォリオ、スマートベータ、ETF、ファクター投資なども扱う</p>					
④テキスト・参考書等	<p>(参考書)</p> <p>小林・芹田「新・証券投資論Ⅰ」(日本経済新聞出版社) 2009年第1版</p> <p>伊藤・荻島・諏訪部「新・証券投資論Ⅱ」(日本経済新聞出版社) 2009年第1版</p> <p>ツヴィ・ボディー「インベストメント 上・下」(日本経済新聞出版社) 2010年第8版</p> <p>井出・高橋「ビジネスゼミナール 証券分析入門 (ビジネス・ゼミナール)」(日本経済新聞出版社) 2005年</p> <p>その他、必要に応じて、資料を配布します。</p>					
⑤成績評価方法	講義中の議論への貢献・参加姿勢、課題・レポートの提出に基づく評価					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	証券金融分析の基礎の理解、初歩的な統計学・数学の理解があることが望ましい。統計ソフトを用いた課題を行うことがある(具体的なツールについてはその都度指示する)。オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、授業前後のタイミングでアポイントメントを取って下さい。					

2018年度以降入学生	経営学特別講義 (経営戦略とリアルオプション)	P0002	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学演習 (経営戦略とリアルオプション)	P002	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	中岡 英隆		前期	月曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	<p>企業の経営は、不確実性下における戦略的な投資や企業価値創造に関わる様々なオプションに対する戦略的意思決定である。シナリオプランニングは、こうした観点から、近未来に起こり得る社会の構造的変化が自社にもたらすチャンス・危機を事前に描き出し、そのシナリオをstory tellingという形で組織内に共有して、構造変化に対して戦略的かつ俊敏に対応できる組織能力を育む為の経営手法である。本講義では、この米国経営者に最もポピュラーな経営手法の一つと言われているシナリオプランニングをグループ・ワークによる演習を通じて実践的に体得することを目指す。また、金融のオプション理論を実物資産の評価に拡張したリアルオプションは、不確実性下における戦略のフレキシビリティを評価できる最新の経営科学として、経営戦略や投資戦略、M&A戦略などに対するマネジメントの意思決定の最適化に不可欠な経営手法と言っても過言ではない。本講義では、最前線の企業活動のケースを通じて、優れたグローバル企業の経営戦略のデザインを洞察し、その中に織り込まれているオプションの仕組みについて実践的かつ直観的な理解を深めながら、オプション理論の基礎を直観的に理解し、リアルオプションの分析のフレームワークと実際の解法を習得する。そして、不確実性下におけるマネジメントの意思決定をサポートするための二つの重要な方法論であるシナリオプランニングとリアルオプションの融合という文脈において、新しいマネジメントの手法を洞察する。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>本講義では、シナリオプランニングとリアルオプションという二つの経営手法の新たな融合を目指して、まずシナリオプランニングの方法を学んだ上で、グループワークによる演習を通じてシナリオ分析の実践的な体得を図る。演習では、対象企業および産業に関する広範なデータ・スキニングと情報活用能力が求められ、グループ・ワークを通じてコミュニケーション能力、論理的思考力、総合的問題解決能力が高められる。次に、リアルオプションについては、まず優れたグローバル企業のケースを通じて、リアルオプションがどのように企業の経営戦略のデザインに織り込まれているのかを概観し、リアルオプションの基本的な仕組みの直観的な理解と、それを応用したビジネス戦略の本質的な仕組みについての洞察力を高める。これらにより、オプション理論の基礎的な考え方の直観的な理解が促され、それを踏まえてリアルオプションの分析のフレームワークと実際の解法が順を追って習得される。また、代表的な企業戦略の応用問題についてのケース・スタディを行いながら、リアルオプションの基本理論のさらなる直観的な理解を深め、不確実性下の企業戦略オプションに対するマネジメントの意思決定の最適化を考察することを通じて、論理的思考力、総合的問題解決力が高められる。最後に、シナリオプランニングとリアルオプションの融合という文脈において、新しいマネジメントの手法を洞察する。</p>					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>① 不確実性下の経営戦略と投資の意思決定 ② 創発的戦略とシナリオプランニング ③ 戦略のデザインとリアルオプション ④ NPV法とリアルオプション ⑤ 離散時間モデルとリスク中立化法 ⑥ シナリオプランニング・グループ演習 ⑦ 確率積分と伊藤の公式 ⑧ シナリオプランニング・グループ演習 ⑨ リアルオプションの基本モデル（新規参入戦略） ⑩ シナリオプランニング演習結果グループ発表 ⑪ 基本モデルにおける意思決定の最適化 ⑫ 撤退戦略の最適化（プラズマテレビ事業の最適撤退戦略） ⑬ 操業停止・再開の最適化戦略 ⑭ 多品種少量生産戦略の最適化（スイッチング・オプション） ⑮ 医薬品研究開発プロジェクトの評価</p> <p>授業外学習： ①演習問題やレポート課題を自宅学習すること。 ②シナリオ・プランニングのグループ・ワークでは、対象企業に関してのデータ・スキニングやグループ・メンバーとの情報交換、シナリオ作成、プレゼン資料作成を自宅で行うこと。また、必要に応じて、グループ・メンバーが集まり、ドライビングフォースの洞察やシナリオ・マトリクスの構築をグループ・ワークにより行うこと。 ③授業の際の不明な点や高校数学・統計の基礎知識について、授業中に示された参考文献などで自宅学習すること。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>[テキスト] 毎回配布のレジュメによる。 [参考書] 木島正明、中岡英隆、芝田隆志 [2008]、『リアルオプションと投資戦略』朝倉書店。(毎回易しいレジュメにして配布予定) [参考文献] [1] キース・ヴァン・デル・ハイデン [1998]、グロービス監訳、『シナリオ・プランニング』ダイヤモンド社。 [2] マーサ・アムラム、ナリン・クラティラカ、石原雅行他訳 [2001]、『リアル・オプション』東洋経済新報社。 [3] トム・コーブランド、ウラジミール・アンティカロフ、栃本克之監訳 [2002]、『決定版リアル・オプション』東洋経済新報社。 [4] Dixit, A.K. and R.S. Pindyck (1994), Investment under Uncertainty, Princeton University Press.</p>					
⑤成績評価方法	出席状況および授業への参加姿勢と課題発表・レポートにより評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>概ね文系レベルの数学を前提とする。</p> <p>オフィスアワー： ①授業終了後 ②授業開始前（メールにて事前予約をすること）</p>					

2018年度以降入学生	経営学特別講義（戦略経営Ⅰ）	P0054	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学演習（戦略経営Ⅰ）	P054	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	坂本 雅明		前期	木曜日	5時限、6時限	
①授業方針・テーマ	<p>経営戦略が戦略の内容を対象にするのに対し、戦略経営では戦略のプロセス（策定—実行—評価）を対象にします。戦略経営という言葉は馴染みが薄いかもしれませんが、米国ではStrategic Managementという題名で、多数のテキストが出版されています。</p> <p>戦略経営Ⅰでは、戦略の策定プロセスを扱います。戦略に関する理論や分析ツールについて、個別には理解している人は多いと思いますが、それでは戦略を策定することはできません。それらが策定プロセスの中で統合されなければなりません。何をどの順番で使うか、またどんな情報をインプットしてどう分析し、次工程のために何をどのような形でアウトプットにするかを理解する必要があります。もちろん、戦略策定プロセスは企業によって異なりますし、業種・業態によっても変わります。ここではどの企業でも必要になる最も汎用的なプロセスを紹介します。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>企業の経営企画担当者やコンサルタントにとって必要な戦略策定メソッドを学びます。レクチャーを聞いて単に理解するだけでなく、ケース演習等を通じて再現可能なレベルで習得することを目指します。</p> <p>戦略論のレクチャーはいたしますが、それらを理解・深耕することは本コースの目的ではありません。実務で応用できるようになることを目的としています。</p>					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>戦略策定プロセスを便宜的にいくつかのフェーズに分け、各フェーズでは講義の後に、ケーススタディーによってアウトプットしていただきます。ケースは事前課題として取り組んでいただきます。ただし1時間程度で完了する分量です。</p> <p>授業当日は、初めに講義をした後にスモールグループ・ディスカッション（3-4人）を行い、その後全体討議をいたします。そして最後に再び講義を行います。講義とケースディスカッションの割合はおおよそ2:1です。</p> <p>●使用ケース プラス、村田製作所、ローム、パイオニア、協働型ロボット、その他架空企業のケース等を予定。市販のケースではなく、講義で学んだ分析ができるように必要情報を盛り込んだ作成したオリジナルケースです。すべてこちらで用意しますので、購入・準備いただく必要はありません。</p> <p>●授業内容 01-02（4/09）環境分析 : 外部・内部分析 03-04（5/10）事業機会の検討 : 3C分析、事業コンセプト、重要成功要因 05-06（5/24）市場戦略の策定 : 顧客・競合分析、差別化戦略 07-08（6/07）競争戦略の策定 : 業界構造分析、競争戦略、協調戦略 09-10（6/21）企業戦略の策定 : ドメイン、PPM、多角化、シナジー 11-12（7/05）内部システム : 利益モデル、ビジネスシステム 13-14（7/19）戦略検討会議 : 戦略検討会議設計とファシリテーション 15-16（8/02）前期の振り返りと最終試験</p> <p>※木曜日隔週・2コマ連続</p>					
④テキスト・参考書等	<p>毎回レジュメを配布します。また、下記書籍で補足します。 坂本雅明（2016）『事業戦略策定ガイドブック』同文館出版。 配布講義開始以前には読まないようお願いいたします。毎回の授業で、予習もしくは復習する章を指示します。</p>					
⑤成績評価方法	<p>2回（4コマ）を超える欠席をしないことが最低条件です。 その上で、宿題、授業中の発言を考慮して成績を付けます。</p>					
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	<p>戦略策定に関する幅広い知識を体系的に学ぶことができますので、M1での受講をお勧めします。前提知識は不要です。基本的知識はすべて説明します。また難しい理論は使いません。理論を深く学びたい方は、経営戦略論で補完してください。</p> <p>何よりも出席を心がけてください。また遅刻も控えてください。毎回の授業は教育効果を考えて3時間のスケジュールを設計しています。会社業務の関係で授業開始時間に間に合わないことがはっきりされている方は、履修は難しいと思います。働きながら通われる方に対して酷かもしれませんが、授業の品質を保つためです。どうかご理解ください。</p> <p>【連絡先】sakamoto.tum@gmail.com</p>					

2018年度以降入学生	経営学特別講義（戦略経営Ⅱ）	P0055	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学演習（戦略経営Ⅱ）	P055	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	坂本 雅明		夏季集中	別途案内		
①授業方針・テーマ	<p>経営戦略が戦略の内容を対象にするのに対し、戦略経営では戦略のプロセス（策定—実行—評価）を対象にします。戦略経営という言葉は馴染みが薄いかもかもしれませんが、米国ではStrategic Managementという題名で、多数のテキストが出版されています。</p> <p>戦略経営Ⅱでは、戦略の実行プロセスを扱います。Strategic Managementのテキストのほとんどすべては、戦略実行については最終章に僅かに掲載されているだけです。それは、組織論、管理会計、組織行動学、人材マネジメント、あるいはアカデミックでは扱われない（しかし実務では非常に重要な）問題解決など、多岐の領域にまたがるのが影響しています。ここでは、それらについて戦略を実現するためのという文脈で説明します。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>事業部長やミドルマネジャーとして、策定された戦略を推し進めていくための施策展開や進捗管理、あるいは周囲を動かす方法を学びます。</p> <p>戦略の策定段階は論理性が求められますが、戦略の実行段階ではそれだけでは足りません。戦略を実行するのは第一線社員であり、彼ら彼女らは理屈だけでは動いてくれません。また、利害が必ずしも一致するわけではない関連組織の説得も必要になります。そうした対人関係マネジメントの習得も目指します。</p>					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>戦略実行に関するスキルを便宜的にいくつかの領域に分け、各領域では講義の後に、ケーススタディーによってアウトプットしていただきます。一部のケースは事前課題として取り組んでいただきます。ただし1時間程度で完了する分量です。</p> <p>授業当日は、初めに短い講義をした後に個人でケースに取り組んでいただきます。その後、スモールグループ・ディスカッション（3-4人）と全体討議を行い、最後に再び講義をいたします。講義とケースディスカッションの割合はおおよそ1:1です。</p> <p>●使用ケース パナソニック、ジャパネットたかた、有機ELディスプレイ、その他架空企業のケースを予定。市販のケースではなく、講義で学んだ分析ができるように必要情報を盛り込んだ作成したオリジナルケースです。すべてこちらで用意しますので、購入・準備いただく必要はありません。</p> <p>●授業内容 01-02 (8/16) 実行マネジメント : 戦略実行の全体像と自己診断 03-04 (8/17) 戦略のマネジメント (1) : バランス・スコアカード 05-06 (8/18) 組織のマネジメント (1) : 組織構造とその他の変数の設計 07-08 () 組織のマネジメント (2) : 組織開発による組織の活性化 09-10 (8/30) 戦略のマネジメント (2) : 現状の問題把握と戦略再構築 11-12 (8/31) 戦略コミュニケーション : 経営層への戦略説明と部下の説得 13-14 (9/01) 新規事業の推進 (1) : 新技術開発と事業化プロセス 15-16 () 新規事業の推進 (2) : イノベーションと組織問題</p> <p>●授業日程 平日（8/16、8/17、8/30、8/31）は2コマ連続、土曜日（8/18、9/01）は4コマ連続</p>					
④テキスト・参考書等	<p>毎回レジュメを配布します。</p> <p>参考文献として下記を勧めますが、授業では使いません。 坂本雅明（2016）『戦略の実行とミドルのマネジメント』同文館出版。 S.P.ロビンス（2009）『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社。</p>					
⑤成績評価方法	<p>4コマ分を超える欠席をしないことが最低条件です。</p> <p>その上で、宿題、授業中の発言を考慮して成績を付けます。</p>					
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	<p>戦略経営Ⅰが履修済みであることが望まれます。戦略経営Ⅱのみを履修する場合は、坂本雅明（2016）『事業戦略策定ガイドブック』同文館出版を熟読することが条件です。</p> <p>マネジメントに関する幅広い知識を体系的に学ぶことができますので、M1での受講をお勧めします。前提知識は不要です。基本的知識はすべて説明します。また難しい理論は使いません。理論を深く学びたい方は、経営組織論やHRM論、管理会計論で補完してください。</p> <p>何よりも出席を心がけてください。また遅刻も控えてください。毎回の授業は教育効果を考えて3時間のスケジュールを設計しています。会社業務の関係で授業開始時間に間に合わないことがはっきりされている方は、履修は難しいと思います。働きながら通われる方に対して酷かもしれませんが、授業の品質を保つためです。どうかご理解ください。</p> <p>【連絡先】 sakamoto.tum@gmail.com</p>					

2018年度以降入学生	経営学特別講義（企業倫理）	P0032	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学演習（企業倫理）	P032	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	岡本 享二		前期	木曜日		5時限
①授業方針・テーマ	<p>最近の米国MBAプログラムの傾向として、「社会・環境問題に関連するBusiness Ethicsは欠かせない」と言われている。『企業倫理論』ではBusiness Ethics に関する世界動向を的確にとらえながら、企業と社会の間に生じる倫理問題を幅広く検証していく。</p> <p>先進国と発展途上国との、いわゆる南北問題の主因である「行き過ぎた金融資本主義」、地球温暖化問題に代表される「グローバルな環境問題」、我が国では見過されがちな児童労働、難民、貧困などの「国際的な社会問題」、後を絶たない国内の「企業事故/不祥事」、食料の確保と生産量拡大を狙った「遺伝子組み換え問題」など、興味深い具体例を示しながら、現在の企業倫理を説いて行く。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・企業倫理は従来の道徳や社会規範の範疇を越えて、CSR(企業の社会的責任)で扱われているグローバルな環境問題と社会問題を抜きには語るができない。当講座では最新のCSR情報を踏まえながら、俯瞰的かつ企業の現実にも即した倫理論を展開していく。 ・AIやIoTに代表される最新科学技術の発展により、あらゆるモノがガラス張りになる傾向にある。「時代の変化」に気付かず、Business Ethicsに遅れをとると、「社会の要請」を見過ごし、マーケットからの退場を強いられることになる。 ・企業の事故/不祥事の事例を取り上げて、背景にある倫理観の欠如、だれも責任を取ろうとしない社会風潮、生半可な対応策で何度も繰り返される不祥事の事例を検証する。その上で、倫理問題を単なる道徳や哲学で片付けるのではなく、ビジネスとして明確に事象をとらえ、具体的な解決策を提示していく。 ・「SCM(サプライチェーン・マネジメント)」や「遺伝子組み換え」に関する最新情報も企業倫理の観点から提供しているのもこの講座の特徴である。 					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) オリエンテーション（講座の全体像の紹介とガイダンス） (2) 「最新のTechnology」と企業倫理の関係性、および今後の動向 (3) 国際社会と企業倫理（CSR Matricsと企業倫理の関係） (4) 欧米や日本の江戸時代に学ぶ企業倫理 (5) 地球温暖化/生物多様性に関する倫理問題 (6) 企業不祥事の検証と対応策①（不祥事の事例研究） (7) 企業不祥事の検証と対応策②（不祥事の背景と原因） (8) 企業不祥事の検証と対応策③（Holistic Management System） (9) 第4次産業革命と企業倫理 (10) 企業と社会問題（どう倫理観を持って対応するか） (11) 先進国の消費問題とエシカル購入 (12) グリーンエコノミーとブルーエコノミー、Biomimicryなどの動向 (13) 金融資本主義の限界と企業倫理のあり方 (14) 遺伝子組み換え作物開発の現状と倫理問題 (15) 企業経営に活かす「企業倫理の変遷と今後の動向」 <p>【授業方法】</p> <p>講義は双方向コミュニケーションになるように皆さんにテーマを課して、研究成果を発表していただきながらディスカッションを行う。授業内容のテーマに沿って課題が提供される（3～4回）。優秀なレポートを選んで次回の講義で発表していただく（3人程度）。講義録は原則としてコピーを配布する。発表レポートはkibakoに掲載する。受講生には、出身母体を念頭に入れて、ご自身の考えをまとめていただくことをお願いしている。</p> <p>【授業外学習】</p> <p>予習は特に必要としない。目新しい内容やテーマが多いと思われるので、復習をお願いしている。また、講座内で3～4回提供する課題が予習になるので、真摯に取り組んでいただきたい。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>基本的には最新の資料を毎回の講義時に配布する。</p> <p>「進化するCSR」岡本享二 著 JIPMソリューション 「CSR入門」岡本享二 著 日経文庫 「次世代CSRとESD」岡本享二（共著） ぎょうせい 「農業生物資源の利用と将来」農業生物資源研究所 丸善プラネット 「エシカル購入」山本良一・中原秀樹 編著 環境新聞社</p>					
⑤成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・出席日数、授業中の発表/討論、課題レポートの内容による。 ・配点の目安は出席（40%）、発表/討論（30%）、課題レポート（30%）。 ・期末試験はしないで総合的に評価する。 					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<ul style="list-style-type: none"> ・後期の『CSR』と合わせて学ぶと効果が大きい。 ・講座を終ると一冊の本ができる（ボリュームがある）。 ・連絡先：kyojibm@icloud.com 					

2018年度以降入学生	経営学特別講義 (CSR)	P0035	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学演習 (CSR)	P035	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	岡本 享二		後期	金曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	21世紀の企業は経済的な成長と共に、環境・社会問題への対応が幅広く求められている。CSR(企業の社会的責任)は1990年代初頭に欧州から始まり、今や先進国のみならず、途上国においても環境悪化や労働・人権問題の高まりから強い関心を示している。CSRの推進は従来のReactiveな対応から、最新科学技術(AI、IoTなど)の発展と共に、Proactiveな対応が望まれるようになった。すなわち、経営の根幹にCSRを据えることで企業の競争優位を確立する動きである。この授業では最新のCSRの動向を開陳する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ CSRを学ぶことによって、「時代の変化」と「社会の要請」がどのように変わってきたかがわかる。特に近年の最新科学技術(AIやIoT)の発展によって、どのような「時代の変化」が起こり、企業に対してどのような「社会の要請」を期待しているかが理解できる。 ・ 環境問題と企業との関わり、複雑な社会問題と企業の対応、またそれらの根源とも言える「行き過ぎた金融資本主義」についても学ぶ。 ・ CSRにはISO26000、AA1000、GRI、IIRCなどの国際基準やガイドラインがある。それらの内容、起源、効果などを学ぶ。 ・ 「時代の変化」によりCSRの精神を企業の根幹に据えた、Ankle BiterやDigital Giantと呼ばれる新興企業軍が出現している。従来から存続する巨大企業はどのように立ち向かえば良いのか。これらの現状と対応策を学ぶ。 					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) オリエンテーション(講座の全体像の紹介とガイダンス) (2) 最新のTechnologyとCSR (3) CSRを巡る各種ルール(国際基準とガイドライン) (4) CSRを巡る各種ルール(国際基準とCSR関連Key Word) (5) 先進国の消費のあり方(発展途上国の貧困問題。グローバル化の負の部分) (6) CSRの根本要因としての資本主義を問う (7) カール・ポランニーの経済学書『大転換』から現代の資本主義を俯瞰する (8) 行き過ぎた資本主義の弊害(中谷蔵、ロバート・B・ライシュらに学ぶ) (9) 企業の事故・不祥事に学ぶCSR(企業の事例発表 その1) (10) 企業の事故・不祥事に学ぶCSR(企業の事例発表 その2) (11) ホリスティック・マネジメント・システムの紹介とCSRへの適用 (12) SCM(サプライ・チェーン・マネジメント)とCSR (13) CSRの展望(自然資本主義、Biomimicry、生態系や生物多様性に学ぶ経営) (14) 環境・CSR報告書に学ぶ(現代企業のCSR実践と課題①) (15) 環境・CSR報告書に学ぶ(現代企業のCSR実践と課題②) <p>【授業方法】</p> <p>講師からの講義と受講生の発表によって構成される。 授業内容のテーマに沿って課題が提供される(3~4回)。 優秀なレポートを選んで次回の講義で発表していただく(3人程度)。 資料は原則としてコピーを配布する。発表レポートはkibakoに掲載する。</p> <p>【授業外学習】</p> <p>目新しい内容やテーマが多いと思われるので、復習をお願いしている。 講座中に3~4回提供する課題が予習になるので、真摯に取り組んでいただきたい。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>基本的には最新の資料を毎回の講義時に配布する。 「進化するCSR」岡本享二著 JIPMソリューション 「CSR入門」岡本享二著 日経文庫 「次世代CSRとESD」岡本享二(共著)ぎょうせい</p>					
⑤成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出席日数、授業中の発表/討論、課題レポートの内容による。 ・ 配点の目安は出席(40%)、発表/討論(30%)、課題レポート(30%)。 ・ 期末試験はしないで総合的に評価する。 					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前期の『企業倫理論』と合わせて学ぶと効果が大きい。 ・ 講座を終えると一冊の本ができる(ボリュームがある)。 ・ 連絡先: kyojibm@icloud.com 					

2018年度以降入学生	経営学特別講義 (知的財産法)	P0036	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学演習 (知的財産法)	P036	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	溝田 宗司		後期	金曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	<p>日本の競争力が損なわれて久しい。日本が競争力を取り戻すにはどうすればよいか。</p> <p>担当教員は、新卒時は日立製作所知財部に始まり、現在は特許権侵害訴訟を主な業務内容とする弁護士であり、社会人生活のほとんどを特許を使った紛争の間で生きてきた。紛争には、勝ち負けがつきまとい、それ故、その勝ち負けの理由を考えることも多い。</p> <p>負ける企業は何が悪いのだろうか。日本が競争力を取り戻すヒントもそこに隠されているように思う。負ける企業は、ひとことでいえば「特許」を理解していないように思う。もちろん、「特許」という用語を新聞の紙面等で見ない日はないし、「そのくらい分かっているよ」という人も多いだろう。しかし、そうではなく、本質的に「理解」していない。例えば、少し前に越後製菓と佐藤食品工業が切り餅の侵害訴訟で世間を賑わせた。結果は佐藤の負けだ。会社の規模でいえば、両者ともそれほど変わらないし、負けた佐藤もそれなりの数の特許を保有していた。少なくとも「そのくらい分かっているよ」というレベル以上に特許をわかっていたことは明らかだ。</p> <p>ではなぜ佐藤は負けたのか。</p> <p>もちろん、判決文を読めば負けたことの直接的な理由はわかる。しかし、重要なのはそうではなく、佐藤の何が悪かったのだろうか。</p> <p>また、最近では、ベンチャー企業の躍進が著しい。おそらく東京五輪頃までは、このブームが続くと思われるが、ベンチャー企業にとって、特許とはどのようなものなのだろうか。</p> <p>日本の競争力の源泉は「技術」である、いや「技術」であったことは確かである。技術を保護するのが特許であるが、この技術に基づく競争力が損なわれたことには、このような特許に対する「理解」不足がその一因となっているのだと考えている。</p> <p>本講義では、特許法の基礎・特許業界の構造を概説し、その後、担当教員が実務で経験した事例をベースとした特許戦略の基礎を概説する。</p> <p>講義をしっかりと理解できれば上記の問題には自ずと答えられよう。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産法（主に特許法）の基礎 法律のみならず実務的な視点で解説する ・特許戦略の基礎 					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>第1回、第2回：知財法の概説 第3回から第10回：知財法及び知財実務の基礎 第11回以降：特許戦略</p> <p>講義の進行に応じて、柔軟に変更する。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>特になし。教員がテキストの代わりとなるスライドを用意する。</p> <p>もっとも、特許に関する記事などには目を通したり、ネットで得られるレベルの知識は身につけて置くことが必須。また、池井戸潤の「下町ロケット」を見ておくとイメージをつかみやすいので、講義前に読んでおくことをおすすめする。</p>					
⑤成績評価方法	<p>出席2割、講義への貢献3割、レポート5割 ただし、三回以上の欠席は不可とする。15分以上の遅刻は欠席扱い。</p> <p>レポートのテーマは、「知的財産と経営」</p>					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)						

2018年度以降入学生	経営学演習（財務戦略）	P0008	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学演習（財務戦略）	P008	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	松田 千恵子		前期Ⅰ	火曜日	5時限、6時限	
①授業方針・テーマ	今日の経営環境においては、事業の意思決定はファイナンスを無視して行い得るものではなく、また財務的な意思決定には事業への深い洞察が益々必要とされるようになってきている。従って、経営戦略及びコーポレートファイナンス双方の理論を有機的に結びつけ、統合された知識に基づき、実践的な経営判断を行っていくことは、これからの経営者にとって必須の能力である。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	この授業では、上記の問題意識に基づき、企業経営における財務戦略、資本市場の動向とその背景にある考え方の理解に主眼を置く。実践的なコーポレートファイナンスの活用と、その経営戦略との関係性について習得し、経営者として必須の知識を身に付けることを目的とする。本講義は、実例を多く取り上げながら行うため、2時限連続の講義とする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>〈授業計画〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 企業を巡る環境変化－コーポレートファイナンスと経営戦略 ② 企業価値の評価と向上（1）－財務分析と指標の意味 ③ 業価値の評価と向上（2）－戦略策定と将来予測 ④ コーポレートファイナンスの要諦（1）－企業に対する期待収益率とその実現 ⑤ コーポレートファイナンスの要諦（2）－最適資本構成と信用リスク ⑥ コーポレートファイナンスの要諦（3）－現在価値と企業及び投資の評価 ⑦ 資本政策（出資）と企業経営－IPO、M&A、LBO、投資ファンド、コーポレートガバナンスの基礎 ⑧ 負債政策（融資）と企業経営－銀行借入、社債、格付、ターンアラウンド、ステークホルダーマネジメントの基礎 <p>〈授業方法〉 内容説明に加えて、ディスカッションやケーススタディ、グループワークなどを行う。</p> <p>〈授業外学習〉 授業前にテキスト・参考書等に関して指示された箇所を目を通しておくこと。 授業時に課題が出されることがあるので、指定した期日までに行っておくこと。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>ロバート・C・ヒギンズ『ファイナンシャル・マネジメント 改訂3版－企業財務の理論と実践』ダイヤモンド社、2015年</p> <p>松田千恵子『コーポレートファイナンス実務の教科書』日本実業出版社、2016年</p> <p>各回ごとにパワーポイント資料を提示する。その他参考書等については講義中に適宜指示する。</p>					
⑤成績評価方法	レポートの提出を持って行う。ディスカッションを多く行うため、積極的な参加、授業への貢献についても加味する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>〈特記事項〉 受講条件は特に設けない。</p> <p>〈オフィスアワー〉 質問や連絡がある場合にはメールにて随時受け付ける。メールアドレスは授業中に指示する。</p>					

2018年度以降入学生	経営学演習（ケース）	P0063	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学演習（ケース）	P063	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	西村 孝史		前期Ⅱ	月曜日	5時限、6時限	
①授業方針・テーマ	この授業では、人材マネジメント・組織行動論を中心としたビジネスケース分析を【2コマ続き】で実施します。ケースを通じて多くの組織や個人がなぜ成功（失敗）するのか、その背後に何が存在するのかを分析する視座を養います。特にグループでの討議の時間を多く取ることで、同じケースでも人によって見え方や解釈が異なることを体感してもらい、様々な分析視角を得ることを目指します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	この授業では、1) 様々な科目で学んだ知識を総合的に用いることで実際の企業を分析する力を養うこと、2) ケースに書かれている事象と背後にある抽象的なメカニズムをつなげる思考を養うことで、ケース以外の様々な場面でも抽象度を上げたり下げたりできるようになること、の2点を目的とします。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	基本的には、各人がケースを読んで課題を解いてくる⇒当日にランダムなグループで話し合い⇒各グループの発表⇒全体討議⇒まとめ、という流れで授業が構成されます。 具体的に、最初の1コマでグループで話し合いを行い、次の2コマ目で各グループごとに発表をしてもらい、他のグループからの質疑応答を受けつつ全体討議を行います。 毎回1本のケースを読み、それぞれにケースレポートが課されます。					
④テキスト・参考書等	どのようなケースを扱うかは初回で説明をしますが、原則として購入が必要なものをを用いる予定です。どこで入手可能かは初回で説明します。					
⑤成績評価方法	授業への参加（40%）、積極的貢献及びレポート（60%）により評価します。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	1. 「ヒューマン・リソース・マネジメント特論」・「経営組織特論」・「組織行動特論」から1科目以上を履修済み（または履修中）であることが望ましい。 2. 授業で扱うケースは、著作権が保護された上で販売されているため、各自でBookparkから購入をしてください。 http://www.bookpark.ne.jp/about/partner.asp 3. オフィスアワーは、水曜日12:00-14:30で研究室（3号館305号室）ですが、訪問の際は事前にメールにて教員にアポイントを取ること					

2018年度以降入学生	経営学演習 (ロジカル・ライティングⅠ)	P0024	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ロジカル・ライティングⅠ	P024	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	照屋 華子		前期	木曜日	5時限、6時限	
①授業方針・テーマ	この授業では、ロジカル・ライティング—論理的に、分かりやすく書くこと—の基本手法を「準備・組み立て・表現」の3フェーズに体系化して学びます。 重要な事柄ほど文書化が求められるビジネスの実務において、ロジカル・ライティングは必須科目ともいえるものです。 また、組織のリーダーには、効率的・効果的な情報伝達や意思決定のためにロジカル・ライティングを組織に浸透させていくという視点も必要です。 ロジカル・ライティングはトレーニングによって習得できる「技術」です。授業では、実践的な演習の反復を通してトレーニングに取り組みます。 ご自身のビジネス・ライティング力を磨きたい方はもちろん、組織の伝える力のスキルアップに関心のある方、研究活動のためのライティング力向上を図りたい方の参加も歓迎します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>1. ロジカル・ライティングの基本手法を体系的に理解し、その使い方を習得します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの準備： ビジネス文書の基本の型、またそれを効率的に書くために必要な準備を理解する。 ・メッセージの組み立て： ロジカル・シンキングをベースにしたメッセージ構成法を理解する。この構成法は口頭説明や英語のメッセージ構成にも活用できる。 ・メッセージの表現： 組み立てたメッセージを速く正確に読みとってもらえるための表現方法を、記述スタイルと日本語表現の両面から学ぶ。ビジネス文書で特に重要な、組み立てを視覚化する記述方法にフォーカスする。 <p>2. 自分のライティングの強化点を具体的に見出し、それを意識して日々の文書作成に取り組めるようになることを目指します。</p>					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p><テーマ></p> <p>①オリエンテーションとメッセージ組み立ての準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義のねらいとロジカル・ライティングの全体像 ・コミュニケーションの仕組みとメッセージの基本の型 ・コミュニケーションの準備として確認すべき2つの事柄 <p>②メッセージの組み立て（1）「本論—思考の整理」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本論の要素 ・グループ化とMECE ・So What?/Why So? <p>③メッセージの組み立て（2）「本論—論理構成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理の基本構造と並列型・解説型 ・要旨の要素、および結論が充足すべき要件 ・論理構成の手順 <p>④メッセージの表現（1）「視覚化記述スタイル」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文書の心臓部とWhy So?の流れ ・見て分かるように表現するためのテクニック <p>⑤メッセージの組み立て（3）「導入部」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文書の導入部の役割 ・導入部に必要な要素 <p>⑥メッセージの表現（2）「日本語表現」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本動作 ・具体性・簡潔さ・論理性を支える日本語表現 <p>⑦～⑧総合的な演習とまとめ</p> <p>※授業の進捗状況によって、予定変更もあり得ます。</p> <p><授業方法></p> <p>各回、講義で解説した内容を、演習で確認・実践していきます。 演習は基本的に個人ワークで取り組みますが、グループ・クラス討議も組み合わせます。</p> <p><授業外学習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各回、テキストの該当箇所を事前リーディングして参加していただきます。 該当箇所は初回に指定します。 ・期末課外とは別に、理解確認のための課題を2回ないしは3回出します。 ・授業の進行によって、演習の一部を次回までの宿題にすることもあり得ます。 					
④テキスト・参考書等	<p>テキスト：照屋華子著『ロジカル・ライティング』東洋経済新報社、および配布資料</p> <p>参考書：〔1〕 照屋華子・岡田恵子著『ロジカル・シンキング』東洋経済新報社 〔2〕 野矢茂樹著『大人のための国語ゼミ』山川出版社 その他、必要に応じて指定します。</p>					
⑤成績評価方法	<p>授業への参加・貢献を30%、課題・期末課題の成績を70%の割合で評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加・貢献は、授業に出席したうえで、演習アウトプットのクラスでの共有や討議に積極的に参加したかどうかを評価します。 ・課題・期末課題は、いずれも文書作成もしくはメッセージの構成です。 授業で取り上げた構成・表現のポイントが反映されているかどうかを評価します。 					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>興味があればどなたでも履修できます。 オフィスアワー：授業後の時間帯とします。 連絡先：初回授業時にメールアドレスをお知らせします。</p>					

2018年度以降入学生	経営学演習 (ロジカル・ライティングⅡ)	P0027	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ロジカル・ライティングⅡ	P027	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	照屋 華子		後期	木曜日	5時限、6時限	
①授業方針・テーマ	この授業は、ロジカル・ライティング—論理的に、分かりやすく書くこと—の実践コースです。授業では、初回に「ロジカル・ライティング」の基本手法を概説します。2回目以降の各回では、ビジネス・パーソンが書く頻度が高い、異なるタイプの文書を取り上げ、タイプ別に特に重要な組み立て・表現のポイントについて理解を深めます。授業は演習中心に進め、そのアウトプットをクラスで共有することによって、相互からの学びも重視して進めます。「ロジカル・ライティング」の実践力を磨きたい方の参加を期待します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. パワーポイント形式の資料の要旨、報告書、提案書、メール・レター、記事・論文を取り上げ、それぞれについて3点を学びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・基本の型とは ・基本の型を作るためには、ロジカル・ライティングの基本手法の特に何が重要か ・基本手法以外に、どのような視点を加えるとよいか 2. ドラフトを内容・構成、および表現の両面で推敲するセルフ・エディティングの手順とチェック・ポイントを学びます。 3. 部下・後輩のライティングに改善点・アドバイスを提供する際の着眼点を理解します。 					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>(テーマ)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①オリエンテーションと基本手法の概説 <ul style="list-style-type: none"> ・講義のねらいと全体像 ・ロジカル・ライティングの基本手法 ②パワーポイント資料の要旨の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・メッセージが確実に伝わるための4つのポイント ・要旨作成のステップと勘所 ③報告書の作成(ワード形式) <ul style="list-style-type: none"> ・論理パターン組み立ての手順と勘所 ・組み立てを視覚化する記述スタイルの要点 ④提案書の作成(ワード形式・パワーポイント形式) <ul style="list-style-type: none"> ・空・雨・傘のストーリー構成 ・構成上の勘所 ・導入部の要点 ⑤ビジネスメールの作成 <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスメールの基本の型 ・メッセージが速く伝わる「見て分かる」メールの要件～メール作成によるロジカル・ライティングの鍛え方 ・好感度の高い日本語表現 ⑥記事・論文の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・汎用性の高い構成と構成上の要点 ・段落記述スタイルの要点 ・接続表現の使い方 ⑦セルフ・エディティング <ul style="list-style-type: none"> ・ドラフトをより良くするためのセルフ・エディティングの全体像 ・構成のエディティングの要点 ・表現のエディティングの要点 <p>※授業の進捗状況によって、予定変更もあり得ます。 ロジカル・ライティングⅠ既修者の割合によっては、②③④の順序を変更することもあり得ます。</p> <p>(授業方法) 各回、講義で解説した内容を、演習で確認・実践していきます。 演習は基本的に個人ワークで取り組みますが、グループ・クラス討議も組み合わせます。</p> <p>(授業外学習) ・最終課題とは別に、理解確認のための課題を2回出題する予定です。 ・授業の進行によって、演習の一部を次回までの宿題にすることもあり得ます。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>テキスト：照屋華子著『ロジカル・ライティング』東洋経済新報社、および配布資料 参考書：[1] 照屋華子・岡田恵子著『ロジカル・シンキング』東洋経済新報社 [2] 野矢茂樹著『新版 論理トレーニング』産業図書 [3] 野矢茂樹著『大人のための国語ゼミ』山川出版社 [4] 中村明著『日本語 語感の辞典』岩波書店 [5] 菊池康人『敬語』講談社学術文庫 その他、必要に応じて指定します。</p>					
⑤成績評価方法	<p>授業への参加・貢献を30%、課題・最終課題の成績を70%の割合で評価します。 ・参加・貢献は、授業に出席したうえで、演習アウトプットのクラスでの共有や討議に積極的に参加したかどうかを評価します。 ・課題2つと最終課題は、いずれも文書(A4—2枚程度)作成を予定しています。授業で取り上げた構成・表現のポイントが反映されているかどうかを評価します。</p>					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>履修にあたって前提知識は必要ありません。 ロジカル・ライティングⅠを未修の場合は、テキスト『ロジカル・ライティング』を通読してご参加下さい。 オフィスアワー：授業後の時間帯とします。 連絡先：初回授業時にメールアドレスをお知らせします。</p>					

2018年度以降入学生	経営学演習 (公共経営アクションリサーチ)	P0050	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学演習 (公共経営アクションリサーチ)	P050	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	竹田 陽子、長瀬 勝彦 西村 孝史		冬季集中	別途案内		
①授業方針・テーマ	公共組織が共通に抱える問題を、实际的に「経営課題」として発見し、その解決策を、経営戦略論、経営組織論、マーケティング論など経営学の視点から探索し、具体的なフィールドワークをもとに報告書を作成することを目的とする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	学術的知見に基づいた調査計画の作成、フィールドワークの実施、および報告書の作成を到達目標とする。調査の計画・実施及び報告書の作成を通じて、修士論文・課題研究論文の執筆に必要な研究を進めていくために必要なスキルを獲得できる。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>本学の「公共経営の人材育成プログラム」は、平成19年度に文部科学省「大学教育改革支援プログラム」として採択され、3年間の支援を受けたものである。文科省の支援事業終了後も、本学の教育改革推進事業に採択され、「東京都と連携した高度専門人材の養成」のための取り組みとして継続し、今日に至っている。</p> <p>これまでに取り上げたテーマは、「超少子高齢化社会に求められる組織間コラボレーション」、「コンテンツ利用の地域振興」、「島しょ地域の抱えた問題と地域経済の活性化」、「インバウンド観光の課題と地域振興」、「オリンピック・パラリンピック開催とスポーツマネジメント」など多岐に渡る。</p> <p>本年度のテーマは、「デザイン思考で再構築するパブリック・リレーション」である。まず、問題意識を深めるためにデザイン思考のワークショップを合宿形式でおこない、そもそも問題は何かを発想した後に、各グループで調査研究を実施する。</p> <p>【授業方法】：デザイン思考のワークショップ、招聘講師の講義、グループワークが中心となる。</p> <p>【授業外学習】：調査計画の作成、調査の実施、報告書の作成は、授業外に行う。</p> <p>※ワークショップは8月25日（土）-26日（日）の1泊2日を予定している（変更の可能性がある）。</p>					
④テキスト・参考書等	必要に応じてその都度指定する。					
⑤成績評価方法	ワークショップ、最終報告書の完成、およびグループ研究への参画度と研究成果の内容によって評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>【他の授業科目との関連性】 特に関連の強い科目はない。</p> <p>【オフィスアワー】 オフィスアワーは特に設定しない。質問等は随時メール等で受け付ける。</p> <p>【連絡先】 初回の授業で伝える。</p> <p>【その他】 本講義は変則日程の集中講義となる。後期開始後の日程については、他の授業との重なりはないように調整する（一部のみ重複する可能性はある）ので、他の後期授業は通常通り履修可能である。ワークショップ参加に必要な往復交通費、宿泊代は一定限度内で大学が負担する。それ以外は個人負担とする。 本講義は、その性格上、無制限の人数募集を行うことができないため、希望者多数の場合には一部受講制限を行う可能性がある。</p>					

2018年度以降入学生	経営学演習（グループ研究Ⅰ）	P0061	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学演習（グループ研究Ⅰ）	P061	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	オムニバス		前期Ⅱ	土曜日	3時限、4時限	
①授業方針・テーマ	経営学の多様なアプローチを一望し、研究法の基礎を学ぶ。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	「経営組織・HRM・意思決定」、「経営戦略」、「マーケティング」の各分野について、研究法の基礎を習得する。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	前半は「経営組織・HRM・意思決定」、「経営戦略」、「マーケティング」の各分野の研究手法について担当教員が交代で講義する。後半は、いくつかの課題が与えられ、受講生は課題ごとにグループに編成される。グループごとに課題について研究をおこない、最終回では報告会で報告して教員がコメントする。					
④テキスト・参考書等	随時案内する。					
⑤成績評価方法	授業への貢献、研究報告等による。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	1年次生を対象とした科目である。「経営組織・HRM・意思決定」、「経営戦略」、「マーケティング」のプロジェクトに所属する1年次生は履修することが望ましい。 学部レベルの行動意思決定論の知識があることを受講の条件とする。 【質問受付方法】各回の授業の内容については各担当教員が質問を受け付ける。履修に関する質問等は長瀬が受け付ける。 【連絡先】nagase@tmu.ac.jp					

2018年度以降入学生	経営学演習（生産戦略）	P0053	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	生産戦略特論	P053	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	松尾 隆		後期	土曜日		3時限
①授業方針・テーマ	<p>生産（ここでは、製造に限定せずサービスを含む）と戦略との関係について議論していく。特に組織能力を重視した戦略論を中心に扱う予定である。したがって、必ずしも生産に特化した内容ではなく、オペレーショナルな企業活動がどのように競争優位に結びつくのか、その限界はどこにあるのかを考えることが主たる目的である。</p> <p>毎回の講義では、事前にその回のテーマに即したレポートを提出してもらう。講義は、そのレポートに基づいたディスカッションを中心に行う。</p> <p>製造業における生産機能に限定せず、オペレーション機能や組織能力による競争優位獲得に興味を持つ方に役に立つ内容となることを目指す。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>組織能力という考え方に立脚して、日常的なオペレーション活動と競争優位の関係を理解し、実際の業務運営や戦略立案に結び付けられるようになることを目指す。</p>					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>① 組織能力と競争優位 ② 製品開発プロセス ③ デザイン戦略 ④ サプライチェーン ⑤ 製品開発の国際化 ⑥ 生産プロセスと組織能力 ⑦ 生産能力を源泉とした競争優位の現在性 ⑧ サービスプロセスと組織能力 ⑨ アーキテクチャ ⑩～⑮ 発展的な内容を講義の進展に応じて扱う</p>					
④テキスト・参考書等	<p>特に教科書は指定せず、毎回、文献を配布する。多くは研究論文を取り上げる予定なので、基礎知識に不安がある場合は、藤本隆宏『ものづくりの経営学』光文社新書などを事前に読んでおくが良い。</p>					
⑤成績評価方法	<p>毎回のレポートの内容と講義中の発言による</p>					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)						

2018年度以降入学生	ミクロ経済学	P0200	経営学C	経済学A	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ミクロ経済学	P678	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	飯村 卓也		前期Ⅰ	月曜日 5時限	水曜日 6時限	
①授業方針・テーマ	消費者および生産者の最適化行動の理論と、交換経済および生産経済の一般均衡分析について講義を行う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	消費者理論と生産者理論では標準的な理論を習得し、かつ、ミクロ経済学の分析手法に慣れることを目標にする。一般均衡分析に関しては、ワルラス的視点とパレートの視点を中心に交換経済と生産経済の一般均衡について解説を行う。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画】 以下の内容を講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生産技術 2. 利潤最大化 3. 利潤関数 4. 費用最小化 5. 費用関数 6. 選好 7. 効用最大化 8. 支出最小化 9. 間接効用関数と支出関数 10. 需要関数と補償需要関数 11. 交換（1） 12. 交換（2） 13. 生産（1） 14. 生産（2） 15. 試験 <p>【授業方法】 講義を中心に授業を行う。</p> <p>【授業外学習】 講義内容の復習を行い、テキストの練習問題に取り組むこと。</p>					
④テキスト・参考書等	教科書: Hal R. Varian, Microeconomic analysis, 3rd ed., W.W.Norton					
⑤成績評価方法	試験および取り組み方から総合的に評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>ミクロ経済学演習（P0204）を併せて履修してください。</p> <p>【オフィスアワー】 メール等でアポイントメントをとって下さい。</p>					

2018年度以降入学生	マクロ経済学	P0201	経営学C	経済学A	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マクロ経済学	P671	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	荒戸 寛樹		前期Ⅱ	月曜日 5時限	水曜日 5時限	
①授業方針・テーマ	マクロ経済学の基本モデルである新古典派成長モデル、世代重複モデル、確率的成長モデルについて講義する。合わせて、これらのモデルを解く際に必要な動的計画法と最適制御理論の基本について紹介する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・マクロ経済学および隣接分野に関する学術論文を読み自力でマクロ経済分析を行うために必要な、いくつかの基本モデルについて理解する。 ・各モデルの仮定の重要性和、そこから生じる結果の相違やモデルの限界についても理解する。 					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>《授業計画・内容》</p> <p>【第1回】ソローモデル：設定と均衡動学</p> <p>【第2回】ソローモデル：人口成長と技術進歩</p> <p>【第3回】集計問題：代表的個人・代表的企業</p> <p>【第4回】動学的最適化：離散時間・連続時間</p> <p>【第5回】新古典派成長モデル：設定と均衡動学</p> <p>【第6回】新古典派成長モデル：競争均衡の最適性</p> <p>【第7回】新古典派成長モデル：政策</p> <p>【第8回】世代重複モデル：設定と均衡動学</p> <p>【第9回】世代重複モデル：競争配分の最適性</p> <p>【第10回】世代重複モデル：年金と資本蓄積</p> <p>【第11回】世代重複モデル：バブル</p> <p>【第12回】不確実性下での動学的最適化</p> <p>【第13回】確率的成長モデル：景気循環</p> <p>【第14回】確率的成長モデル：不完備市場</p> <p>【第15回】期末試験とまとめ</p> <p>《授業方法》 講義形式で行う。使用言語は日本語。ただし、配布資料や板書は原則として英語を用いる。</p> <p>《授業外学習》 毎週課題を出す。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 Acemoglu, D. (2009) Introduction to Modern Economic Growth, Princeton University Press.</p> <p>【参考書】 二神孝一 (2012) 『動学マクロ経済学 成長理論の発展』、日本評論社。 Blanchard, O. J. and S. Fischer (1989) Lectures on Macroeconomics, MIT Press. (ブランチャード・フィッシャー (1999) 『マクロ経済学講義』、多賀出版。) Barro, R. and X. Sala-i-Martin (2003) Economic Growth, 2nd ed., MIT Press. (バロー・サライマーティン (2006) 『内生的経済成長論I, II』、九州大学出版会。) Ljungqvist, L. and T. J. Sargent (2012) Recursive Macroeconomic Theory, 3rd ed., MIT Press.</p>					
⑤成績評価方法	課題40%、期末試験60%で評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<ul style="list-style-type: none"> ・経済学プログラム科目「経済数学」「ミクロ経済学」の内容を前提として講義を行う。 ・「マクロ経済学演習」をあわせて受講すること。 <p>《オフィス・アワー》 特定の時間は設定しないが、質問がある場合は遠慮なくメールにてアポイントメントを取ること。</p>					

2018年度以降入学生	計量経済学	P0202	経営学C	経済学A	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	計量経済学	P679	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	飯星 博邦		前期Ⅱ	火曜日 5時限	木曜日 6時限	
①授業方針・テーマ	本科目では、大学院の修士課程で履修すべき計量経済学の基本的項目について扱う。具体的には、線形回帰モデルの推定と検定の行列計算を中心に、非線形モデルの推定法である一般化モーメント法(GMM)や最尤推定法に敷衍する。また、理論的な理解だけでなく、実際にデータ分析ができるように、MATLABやR、EViewsなどの計量ソフトウェアの利用法についても講義していく予定である。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・計量経済学の基本的項目である古典的線形回帰モデルの小標本と大標本の性質を理解できる。 ・非線形モデルに拡張できるGMM(一般化モーメント法)と最尤法の推定法や検定法、漸近的特性を理解できる。 ・MATLABやR、EViewsなどの計量ソフトウェアを使い、古典的線形回帰モデル、GMM、最尤法によるデータ分析ができる。 					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】</p> <p>各回の講義予定は教科書であるHayashi (2000) Econometricsに基づき、以下のとおりであるが、講義の進捗状況により、前後する場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回 古典的線形回帰モデル (OLS) とその行列表現 (OLSの小標本の特性 #1) 2回 OLSにおける仮説検定、最尤法とGMM (OLSの小標本の特性 #2) 3回 大標本理論 (大数の法則と中心極限定理) 4回 大標本理論 (OLS推定値での漸近分布) 5回 大標本理論 (仮説検定) 6回 大標本理論 (不均一分散) 7回 GMM(一般化モーメント法) と操作変数法 8回 GMM(一般化モーメント法) の大標本理論 9回 GMM(一般化モーメント法) 尤度比検定 10回 GMM(一般化モーメント法) の不均一分散 11回 GMM(一般化モーメント法) と同時方程式体系 12回 最尤推定法と一致性 13回 最尤推定法と漸近分布 14回 最尤推定法における仮説検定 15回 試験と解説 <p>【授業外学習】</p> <p>毎回の講義ノートはあらかじめEラーニングシステム「KIBACO」にアップロードするので、教科書と合わせて予習しておくこと。また、レポートとして、教科書にある演習問題と計量ソフトウェア「Matlab」もしくは「R」を利用したデータ分析の出題を行う。</p>					
④テキスト・参考書等	Hayashi (2000) Econometrics, Princeton Univ. Press					
⑤成績評価方法	講義中に出題するレポート2題 (50%) および期末試験 (50%) により評価を行う。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<ul style="list-style-type: none"> ・計量ソフトウェアとして「Matlab」もしくは「R」を利用する。 ・本科目は、後期に実施予定の「経済学特別演習 (計量経済学)」の前提科目である。 					

2018年度以降入学生	経済数学	P0203	経営学C	経済学A	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済数学	P680	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	田中 敬一		前期Ⅰ	火曜日 5時限	木曜日 6時限	
①授業方針・テーマ	大学院の経済学のコースワークの学習に必要な数学の概念と手法について微分を中心に講義する。					
②習得できる知識・ 能力や授業の目的・ 到達目標	ミクロ経済学で用いる制約付き最適化問題の解法を習得することを目的とする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画】 テキストおよび資料に沿って講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関数、極限、連続性、逆関数 2. 1変数関数の微分、積の微分、合成関数の微分 3. 1変数関数の最大値・最小値問題、1階条件・2階条件 4. 連立方程式、行列の演算、逆行列 5. 行列の基本変形、行列式 6. 一次独立、階数 7. 多変数関数の微分、全微分、方向微分 8. 陰関数定理、逆関数の微分 9. 微分・行列の演習 10. 最適化問題、1階条件・2階条件 11. 制約付き最適化問題、Lagrange法 12. 包絡線定理、Lagrange乗数 13. Kuhn-Tucker Theorem 14. 最適化問題の演習 15. 試験、解説 <p>【授業外学習】 課題を数回課す。</p>					
④テキスト・参考書等	テキスト：Simon, Blume "Mathematics for Economists"; 随時資料を配付する。					
⑤成績評価方法	期末試験により評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	高校数学で扱う微分の知識を前提とする。 説明は日本語で行うが、板書・配布資料の言語は英語を用いる。					

2018年度以降入学生	ミクロ経済学演習	P0204	経営学C	経済学A	ファイナンスC	1単位
2017年度以前入学生	ミクロ経済学演習	P681	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	1単位
担当教員	飯村 卓也		前期 I	水曜日	5 時限	
①授業方針・テーマ	練習問題を解くことを通じて、ミクロ経済学への理解度を高める。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ミクロ経済学をしっかりと学ぶには、練習問題を解くことが効果的と言われています。本演習では、ミクロ経済学（授業番号P0200）で学んだ知識を確かなものにするために、同授業の教科書にふんだんにある練習問題に取り組み、このことを実践します。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画】 ミクロ経済学（P0200）の授業計画に沿って行います。各回の内容は、そちらのシラバスをご覧ください。</p> <p>【授業方法と授業外学習】 演習時間内では要点の要約と例題の解法を示します。多くの練習問題は宿題として課され、その解答が、また演習時間内に示されます。</p>					
④テキスト・参考書等	教科書：Hal R. Varian, Microeconomic analysis, 3rd ed., W.W.Norton					
⑤成績評価方法	宿題提出状況によって評価します。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>ミクロ経済学（P0200）を併せて受講して下さい。</p> <p>【オフィスアワー】 メール等でアポイントメントをとって下さい。</p>					

2018年度以降入学生	マクロ経済学演習	P0205	経営学C	経済学A	ファイナンスC	1単位
2017年度以前入学生	マクロ経済学演習	P682	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	1単位
担当教員	荒戸 寛樹		前期Ⅱ	水曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	「マクロ経済学」の講義に連動して、問題演習を行う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	問題演習を通して、マクロ経済モデルの理解を深める。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>《授業計画・内容》</p> <p>【第1回】 ガイダンス 【第2回】 ソローモデル 【第3回】 動学的最適化 【第4回】 新古典派成長モデル 【第5回】 世代重複モデル 【第6回】 不確実性下の動学的最適化 【第7回】 実物的景気循環モデル 【第8回】 不完備市場モデル</p> <p>《授業方法》 授業は日本語。ただし、課される問題は英語（解答は日本語でも英語でも良い）。</p> <p>《授業外学習》 事前に問題を配布するので、授業までに解いておくこと。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>【教科書】 問題を配布するので、教科書は指定しない。</p> <p>【参考書】 大学院経済学プログラム科目「マクロ経済学」に準ずる。</p>					
⑤成績評価方法	演習問題に対する解答の質などの出来栄えや授業への貢献度に応じて評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>大学院経済学プログラム科目「マクロ経済学」を合わせて受講すること。</p> <p>《オフィス・アワー》 質問がある場合はメールでアポイントメントを取ること。</p>					

2018年度以降入学生	ミクロ経済学概論	P0206	経営学B	経済学A	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ミクロ経済学概論	P683	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	渡辺 隆裕		前期	土曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	<p>本講義は、学部でミクロ経済学を履修していない者を想定し、ミクロ経済学の概略を伝えることを目的としています。経済学プログラムのコア科目である「ミクロ経済学」だけでも、大学院レベルのミクロ経済学を十分に学ぶことが可能と考えていますが、数式による理論展開と解を求めるため技術的な部分が強調されがちなミクロ経済学の講義だけでは、初学者にとっては理論の全体像が見えにくく、不足点も多いと考えられます。</p> <p>本講義は、細かさや厳密さを排して。概略を伝えることに徹することで、ミクロ経済学のイメージを掴んでもらうことをテーマとします。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>ミクロ経済学の基本的な考え方を理解することです。消費者や生産者の経済活動について理解すると共に、完全競争市場の概念とその働きについて理解します。また市場に任せておくだけでは必ずしも効率的な資源配分を達成できない市場の失敗と呼ばれる現象や、政府の役割について理解を深めることが到達目標です。</p>					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画】</p> <p>1回 イントロダクション</p> <p>2回 人々の意思決定、市場経済と政府の役割、一国全体の経済活動（生産性、インフレ、貨幣供給、雇用、景気循環）</p> <p>3回 財・サービスと貨幣の流れ、財・サービス市場、労働・資本などの生産要素市場、生産可能性フロンティア</p> <p>4回 交換の利益</p> <p>5回 市場における需要と供給の作用：需要（消費者のモノに対する需要）</p> <p>6回 市場における需要と供給の作用：供給（生産者のモノの供給）</p> <p>7回 市場における需要と供給の作用：均衡（市場における価格と取引量）</p> <p>8回 需要、供給、および政府の政策：弾力性</p> <p>9回 需要、供給、および政府の政策：価格規制</p> <p>10回 需要、供給、および政府の政策：税金</p> <p>11回 消費者、生産者、市場の効率性：消費者余剰、生産者余剰</p> <p>12回 消費者、生産者、市場の効率性：市場の効率性、税と効率・公平</p> <p>13回 市場の失敗：外部性と市場の非効率性</p> <p>14回 市場の失敗：外部性に対する公共政策・当事者間による解決法</p> <p>15回 まとめ</p> <p>【授業方法】 スライドを用いて講義を行う予定です。</p> <p>【授業外学習】 講義内容の復習を行い、テキストの練習問題や宿題に取り組むこと。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>テキスト：N・グレゴリー・マンキュー [著]、足立英之、石川城太、小川英治、地主敏樹、中馬宏之、柳川隆 [訳]、『マンキュー入門経済学（第2版）』東洋経済新報社、2014年</p> <p>参考書：N・グレゴリー・マンキュー [著]、足立英之、石川城太、小川英治、地主敏樹、中馬宏之、柳川隆 [訳]、『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2013年</p>					
⑤成績評価方法	<p>宿題と授業中の態度により評価する予定ですが、人数が多い場合や理解が不足していると考えられる場合は最終試験を行うこともあります。宿題は、レポートとkibacoを用いた演習を予定しています。</p>					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>オフィスアワーは特に設けませんが、質問は積極的に受けつけます。</p> <p>メール、kibacoでアポイントメントを取って下さい。</p> <p>講義前後の時間を使い、質問に答える予定です。</p>					

2018年度以降入学生	マクロ経済学概論	P0207	経営学B	経済学A	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マクロ経済学概論	P684	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	荒戸 寛樹		前期	土曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	大学でマクロ経済学を履修していない学生、理解度に不安のある学生のためにマクロ経済学の概論を講義する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済情勢をマクロ的観点から考察できる ・より進んだマクロ経済分析を学ぶための基礎知識や、基本的なモデルの直観的意味を得る 					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>《授業計画・内容》</p> <p>【第1回】マクロ経済循環 【第2回】GDPの定義 【第3回】生産・所得・支出の決定 【第4回】経済成長の定型化された事実 【第4回】ソローモデル：資本の蓄積と経済成長 【第5回】ソローモデル：人口の増減と経済成長 【第6回】ソローモデル：技術進歩と経済成長 【第7回】景気変動の定型化された事実 【第8回】ケインジアン交差モデル：在庫変動と景気 【第9回】IS-LMモデル：利子率と景気変動 【第10回】IS-LMモデル：景気安定化政策 【第11回】IS-LMモデル：流動性の罫 【第12回】消費行動（1）：消費性向に関する実証研究 【第13回】消費行動（2）：消費理論 【第14回】経済政策についての論争 【第15回】まとめ</p> <p>《授業方法》 講義形式で行う。 使用言語は日本語だが、必要に応じて英語の文献も紹介する。</p> <p>《授業外学習》 予習：指定された文献を読んで疑問点を明確にしておくこと。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>【テキスト】</p> <p>N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー マクロ経済学I 基本篇』第4版、2017年。 N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー マクロ経済学II 応用篇』第3版、2012年。 その他、授業中に参考文献を提示する。</p>					
⑤成績評価方法	課題40%、期末レポート60%の割合で評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の課程までの数学の知識（四則演算・1次関数・2次関数）は前提とする。 ・高校の課程で履修する程度の微分の知識（定義や意味、簡単な計算）はあった方が望ましいが前提とはしない。 <p>《オフィス・アワー》 特定の時間は設定しないが、質問がある場合は遠慮なくメールでアポイントメントを取ること。</p>					

2018年度以降入学生	経済史概論	P0208	経営学B	経済学A	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済史概論	P685	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	竹内 祐介		前期	金曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	この授業では、日本や日本を取り巻く世界の経済社会の歴史的歩みと、いかに人びとが経済社会を思考してきたかということについて講義する。そして、過去・現在・未来の経済社会を相互に関連づけながら、経済社会の歴史や思想の意義について考える。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済社会の歴史に関する基本的な知識や思考方法と、経済社会を基礎に形成された思想を理解する基本的な方法を習得する。 ・過去の経済社会と現在の経済社会を相互に比較しながら考える複眼的視点を養う。 ・市場、資本主義、グローバル化について、日本や世界の歴史や思想という視点から理解する力を養う。 					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>前半部（第2～10回）は、経済史的なものの見方と、世界および日本の経済社会の歴史について講義する。後半部（第11～14回）は、代表的な経済学者の経済思想とその社会的背景について講義する。</p> <p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 大いなる分岐 3 西洋の勃興 4 産業革命 5 工業化の標準モデル 6 偉大なる帝国 7 南北アメリカ 8 アフリカ 9 後発工業国と標準モデル 10 ビッグプッシュ型工業化 11 アダム・スミスと市場経済の発展 12 カール・マルクスと共産主義思想 13 ジョン・メイナード・ケインズと大恐慌 14 ミルトン・フリードマンと金融政策 15 講義のまとめ <p>【授業方法】 配布資料にもとづき、黒板（ホワイトボード）やスライドを使って解説する。また原則として、授業時間の最後の20分程度は質疑応答や議論の時間とする。</p> <p>【授業外学習】 指定のテキストおよび参考書を用いた予習と復習。</p>					
④テキスト・参考書等	第2～10回のテキスト：ロバート・C・アレン『なぜ豊かな国と貧しい国が生まれたのか』NTT出版。 第11～14回の参考書：ロバート・ハイルブローナー『入門経済思想史 世俗の思想家たち』ちくま学芸文庫					
⑤成績評価方法	平常点 50% 期末レポート 50%					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	【オフィスアワー】 原則として、毎週水曜3限。前日までにメールで予約をした上で南大沢C研究室（3号館316室）まで。もしくは授業中の議論の時間や、授業前後の時間にも質問などを受け付ける。					

2018年度以降入学生	経済史演習	P0209	経営学C	経済学A	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済史演習	P686	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	竹内 祐介、高見 典和		前期	金曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	この授業では、テキストを素材に、参加者同士での議論を通じて、経済史、経済学史・思想史を学ぶ意義やその視角・方法論の変遷、また歴史研究の分析に不可欠な資料（史料）についての理解を深めることを狙いとする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済史、経済学史・思想史についての多様な思考方法を習得する。 ・資料（史料）の意味や利用方法および調査方法を習得する。 ・以上を通じて、経済史、経済学史・思想史についてのレポート・論文を書く基礎的な能力を習得する。 					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 経済史認識の展開 3 日本経済史の視角 4 日本における西洋経済史研究 5 経済史の手法 6-7 資料論：文献資料、統計資料／海外資料 8-10 経済思想の歴史的展開 11-12 原典の読解 13-14 経済思想史と経済史の接点 15 講義のまとめ <p>【授業外学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定のテキストを事前に読み、疑問点・論点を考えてくること。 ・授業で紹介された種々の学説について文献に目を通したり、資料（史料）を実際に検索・調査・収集したりすることを通じて、期末レポートの作成準備をすること。 					
④テキスト・参考書等	〈参考書〉石井寛治・原朗・武田晴人編 [2010]『日本経済史 6 日本経済史研究入門』東京大学出版会。その他、授業の際に適宜参考文献を指定する。					
⑤成績評価方法	平常点 50% 期末レポート 50%					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>【オフィスアワー】</p> <p>【竹内】 原則として、毎週水曜3限。前日までにメールで予約をした上で南大沢C研究室（3号館316室）まで。もしくは授業中の議論の時間や、授業前後の時間にも質問などを受け付ける。</p> <p>【高見】 原則として、毎週木曜2限をオフィスアワーに設定します。質問がある場合は、前日17時までには必ずメールで予約をした上で研究室（3号館419室）まで来てください。</p>					

2018年度以降入学生	マクロ経済学特論	P0210	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マクロ経済学特論	P687	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	脇田 成		後期	水曜日		5時限
①授業方針・テーマ	本講義は大学院レベルのマクロ経済学を概説する。なお受講者は学部レベルのマクロ経済学を理解し、初歩の線形代数・静学的最適化問題の理解が必須である。これらの準備の不十分なものは学部レベルの教科書などで講義に先立って補充しておくこと。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	講義では教科書に沿って、能率良く現在のマクロ経済学を展望するが、単位取得のためには計算問題の宿題ならびに課題を課す。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>第1回 ケインズ経済学と新古典派のマクロ経済学：マクロ経済学の課題と歴史 学部レベルのマクロ経済学の復習と近年のマクロ経済学の発展を概観した後、数学ならびにエコノメトリックスの最低限に解説を加える。ただしこれらの準備の不十分なものは必ず先立って補充しておくこと。</p> <p>第2回 基本的動学モデル 1：新古典派最適成長理論・RBCモデルと時間を通じた選択</p> <p>第3回 基本的動学モデル 2：世代重複モデルと高齢化・少子化 以上が一般均衡動学モデルの基礎であり、また変分法・DP・MPなどの動学的最適化理論の解説は動学モデルに即して適宜行う。このあと部分均衡的な動学モデルを検討する。以下の諸モデルは実証分析が盛んな分野でもあることに注意。</p> <p>第4回 主体均衡分析 1：家計の通時的最適化と消費関数の理論：高すぎる株式収益率のパズル</p> <p>第5回 主体均衡分析 2：企業の通時的最適化と投資関数の理論：タイミングを決める理論 以上を基礎編とする。さらに応用編として、時間の許す限り</p> <p>第6回 新ケインジアン経済学と協調の失敗：財市場における不完全競争と名目価格硬直性</p> <p>第7回 契約とサーチの理論：労働市場と実質賃金硬直性の理論</p> <p>第8回 貨幣と信用の諸モデル・金融仲介ならびに国際金融：日本のバブルの物語</p> <p>第9回 内生的成長理論：ますます富める国と貧しいままの国</p> <p>第10回 カオスと複数均衡</p> <p>第11回 マクロ経済政策分析：ゲーム理論の応用</p> <p>第12回 マクロ経済学と実証分析：非定常時系列分析</p> <p>第13回 マクロ経済学と日本的労働慣行</p> <p>第14回 マクロ経済学と日本的経済システム</p> <p>第15回 期末試験と解説</p> <p>の講義も行う予定。なお詳細な講義予定・文献リストは講義の初回に配布する。</p> <p>授業外学習 テキストをよく読むこと</p>					
④テキスト・参考書等	<p>教科書：脇田成（1998）『マクロ経済学のパースペクティブ』日本経済新聞社。</p> <p>参考書： Blanchard, O. J., and S. Fischer, Lectures on Macroeconomics, (MIT Press, 1989). Lucas R. E., Jr., Models of Business Cycles, Oxford: Basil Blackwell, 1987(邦訳「マクロ経済学のフロンティア」清水訳東洋経済新報社)。 岩井克人・伊藤元重編（1994）『現代の経済理論』東京大学出版会。</p>					
⑤成績評価方法	期末試験70% 宿題30%					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>受講希望者はテキストを調整するのでwakita@tmu.ac.jpに第1回の授業前に前もってメールすること</p> <p>授業外学習 テキストをよく読むこと</p> <p>質問は随時受け付けるのでメールでアポイントを取ること</p>					

2018年度以降入学生	ゲーム理論	P0211	経営学B	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ゲーム理論	P688	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	渡辺 隆裕		後期	土曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	大学院の経済学で必要となるゲーム理論の知識を身につけ、習得する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	以下についての基本的な知識を習得することを目標とする：戦略形ゲームと展開形ゲーム、戦略の支配とナッシュ均衡、クールノー競争とベルトラン競争、情報集合と展開形ゲームの戦略形ゲームへの変換、混合戦略、繰り返しゲームの基礎、交渉、不完備情報ゲームの戦略形と展開形、協力ゲーム。 経済学の理論においてゲーム理論を応用する場合は、産業組織論や国際経済学などで用いられるクールノー競争とベルトラン競争への応用が多いと考えられる。本講義では、これらのトピックへの応用を早期に多く講義することが特徴である。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画】</p> <p>第1回 ガイダンス、ゲーム理論の歴史、ゲームの分類</p> <p>第2回 戦略形ゲームと支配戦略、ナッシュ均衡、代表的なゲームを知る（囚人のジレンマ、瀬戸際戦略、コーディネーションと両性の戦い、タカハトゲーム、マッチングペニー）</p> <p>第3回 戦略形ゲームへの応用（1）：複占と寡占への応用、同質財のクールノー競争とベルトラン競争</p> <p>第4回 戦略形ゲームへの応用（2）：異質財（製品差別化）のクールノー競争とベルトラン競争</p> <p>第5回 戦略の支配再考：支配されないナッシュ均衡、均衡の精緻化、支配された戦略の繰り返し削除</p> <p>第6回 混合戦略</p> <p>第7回 展開形ゲーム（1）：完全情報の展開形ゲームとバックワードインダクション、一般の展開形ゲーム</p> <p>第8回 展開形ゲーム（2）：戦略形ゲームへの変換、展開形ゲームを解く、部分ゲーム完全均衡</p> <p>第9回 不完備情報ゲーム（1）：不完備情報ゲームの戦略形と展開形</p> <p>第10回 不完備情報ゲーム（2）：シグナリングゲーム、完全ベイズ均衡</p> <p>第11回 繰り返しゲームの基礎</p> <p>第12回 交渉と実験経済学</p> <p>第13回 非協力ゲームのまとめと進化ゲーム</p> <p>第14回 協力ゲーム：コア、仁、シャープレイ値</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>【授業方法】</p> <p>スライドと板書を並行して講義を行う。講義内容については、簡単にまとめたプリントを配布し、それをテキストとするが、詳細については参考書によって受講者が学習する必要がある。</p> <p>【授業外学習】</p> <p>毎回、宿題として演習問題が出るので、受講者はそれを解き提出する（kibacoによってテストにより提出することも考えている）。受講者は参考書を用いて、予習や復習を行う必要がある。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>【テキスト】</p> <p>講義内容をまとめたプリントをテキストとするが、詳細に関しては以下の参考書を用いて学習する必要がある。</p> <p>【参考書】</p> <p>（1）渡辺隆裕、ゼミナールゲーム理論入門、日本経済新聞社、2008。</p> <p>（2）S. Taldes, Game Theory: An Introduction, Princeton University Press, 2012.</p> <p>（3）岡田章、ゲーム理論 新版、有斐閣、2012。</p> <p>ゲーム理論を学んだことがない者は、少なくとも（1）の講義に該当する部分を読んでおく必要がある。可能であれば講義と並行して、（2）によって学習を進めると良い。更に詳しくゲーム理論を学びたいものは（3）を読むと良い。</p>					
⑤成績評価方法	宿題、授業中の態度と演習によって評価をする。 授業態度、理解度、参加者の人数によっては、期末試験を行うことがある。 宿題は、レポートとkibacoを用いた演習を予定。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	オフィスアワーは特に設けませんが、質問は積極的に受け付けます。 メール、kibacoでアポイントメントを取って下さい。 講義前後の時間を使い、質問に答える予定です。					

2018年度以降入学生	公共経済学	P0212	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	公共経済学	P689	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	森本 脩平		後期	月曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	この授業では、公共財、外部性、情報の非対称性、および社会的選択理論について講義を行い、市場の失敗や社会的選択に関するトピックを学ぶ。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	公共財、外部性、情報の非対称性、および社会的選択理論の標準的なモデルや分析手法を理解することを目的とする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>1回 インTRODクシヨン</p> <p>2回 公共財：公共財の最適供給</p> <p>3回 公共財：公共財の私的供給</p> <p>4回 公共財：リンダール・メカニズム</p> <p>5回 公共財：クラーク・メカニズム</p> <p>6回 外部性：外部性と資源配分</p> <p>7回 外部性：コースの定理、ピグー税</p> <p>8回 外部性：排出権取引</p> <p>9回 情報の非対称性：逆選択</p> <p>10回 情報の非対称性：シグナリング</p> <p>11回 情報の非対称性：スクリーニング</p> <p>12回 情報の非対称性：モラルハザード</p> <p>13回 社会的選択理論：アローの不可能性定理（1）</p> <p>14回 社会的選択理論：アローの不可能性定理（2）</p> <p>15回 まとめ</p> <p>【授業方法】 講義を中心に授業を行う。</p> <p>【授業外学習】 講義内容の復習を行い、課題や参考書の練習問題に取り組むこと。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>テキスト：指定しない</p> <p>参考書：</p> <p>Jehle, G. and P. Reny, Advanced Microeconomic Theory, 3rd edition, Prentice Hall, 2011.</p> <p>Mas-Colell, A., M. Whinston, and J. Green, Microeconomic Theory, Oxford University Press, 1995.</p> <p>Varian, H., Microeconomic Analysis, 3rd edition, W. W. Norton, 1992.</p>					
⑤成績評価方法	レポートにより評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>「ミクロ経済学」の知識を前提とする。また、「ゲーム理論」も同時に履修することを勧める。</p> <p>【オフィスアワー】 メールでアポイントメントを取ってください。</p>					

2018年度以降入学生	日本経済論	P0213	経営学B	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	日本経済論	P690	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	村田 啓子		後期	水曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	経済学の理論を実体経済に応用するためには、理論、データ、制度を踏まえた論考が必要となります。本講義では、基礎的な経済学の概念や分析手法を用いて、現代日本経済の動向とその背景を理解するとともに、実施された政策や問題点についても学ぶことにより、一人一人の学生が、実体経済について自らの問題意識を持ちつつ主体的に考えていく能力を養い、併せて自らの研究課題について鳥瞰的な視野からも思考する能力の育成を目指します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	日本経済の現状と課題及びそれらに関する基本データを理解した上で批判的に検討・分析するための能力を育成し、併せて論文執筆のための研究課題の選定・論考能力を向上させる。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>(以下は現時点で想定しているもの。日本経済の現況や受講生の状況等を踏まえ変更の可能性があります。第1回で説明します。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 概論 2. 日本の経済成長と景気循環 3. 変化する労働市場 4. 家計の消費と貯蓄行動 5. 企業行動と設備投資 6. 物価とデフレーション 7. 金融システムと金融政策 8. 財政システムと財政政策 9. 格差問題 10. 総括 <p>【自宅学習】配布されたレジュメや講義内容、参考書をもとに、自身の学習・研究目的を踏まえ予習・復習を行う。受講生の人数にもよるが、事前に次回講義に関する課題を与えるので、報告者は冒頭で報告することにより、講義内容の理解を深めるようにしたい。</p>					
④テキスト・参考書等	レジュメを配布するほか、参考文献は講義で紹介する。					
⑤成績評価方法	小テスト（1－2回）および期末試験による（小テスト3割、期末試験7割を予定）。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)						

2018年度以降入学生	時系列解析	P0214	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	時系列解析	P691	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	小方 浩明		後期	火曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	時系列データとは、時とともに変動するデータのことであり、日々の株価や為替、GDPなどの多くの経済データがそれにあたります。時系列解析においては、通常、データ同士に相関があると考えられ、独立同一分布を仮定した基本的な統計手法を適用することは適切ではありません。そのような時系列データに対する様々な解析方法を理解し、なおかつ実際の時系列データを統計ソフトウェア「R」を用いて受講者自らが解析できるようになることが本講座のねらいです。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな統計モデルとその性質を理解することができる。 ・時系列データのモデル推定並びに予測方法について理解することができる。 ・統計ソフトウェア「R」を用いて時系列データ解析ができる。 					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>シラバス執筆時点において、以下のトピックを扱う予定です。(多少の変更はあるかもしれません)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Introduction of R ・ Stationarity ・ Trend ・ Models for stationary time series ・ Models for nonstationary time series ・ Model specification ・ Parameter estimation ・ Model diagnostics ・ Forecasting ・ Time Series Models of Heteroscedasticity <p>【授業外学習】 与えられた資料を授業前に読み、大まかな内容を理解してから授業に臨んでください。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>【参考書】 Jonathan D. Cryer & Kung-Sik Chan (2008) Time Series Analysis With applications in R, 2nd ed. Springer.</p>					
⑤成績評価方法	レポートにより評価します。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>配布する資料はkibacoにアップするので参照してください。説明は日本語で行うが、資料は英語です。 【オフィスアワー】 時間は特に設定しないので、質問などがある場合はメールでアポイントメントを取ってください。</p>					

2018年度以降入学生	日本経済史	P0215	経営学B	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	日本経済史	P692	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	小林 延人		後期	火曜日		6時限
①授業方針・テーマ	近世後期～現在に至るまで（19～21世紀）の日本経済史を扱う。本授業では、経済史の応用的な方法論を学ぶとともに、修士論文の執筆に向けた準備をする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・先行研究を正確に理解し、通説として受け入れられている歴史的事実を知識として習得するとともに、先行研究を批判的に検討する姿勢を学ぶ。 ・文献や重要語句の意味を自身で検索し、また短い期間で論文の主旨や問題点を析出する訓練を積むことで、修士論文執筆の上で必要な基礎的技能を身につけることができる。 					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】</p> <p>第1回 近世日本の制度的基盤 第2回 幕府財政 第3回 開港に伴う経済構造の変容 第4回 近世後期の貨幣制度 第5回 明治維新と維新政府の経済政策 第6回 松方財政 第7回 地方自治と農村経済 第8回 官営事業と殖産興業政策 第9回 産業革命論 第10回 日清戦後経営 第11回 戦間期の日本経済 第12回 戦時統制経済 第13回 戦後復興 第14回 高度経済成長 第15回 現代日本経済</p> <p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として講義形式で授業を実施するが、あらかじめリーディングリストを配布し、課題論文を提示する。 ・講義を行った後、講義内容を踏まえた短時間のディスカッションを行う。 <p>【授業外学習】</p> <p>参加者には毎回、課題論文に対するコメントを用意してもらう。事前に課題論文を講読していることを前提として授業を進める。</p>					
④テキスト・参考書等	リーディングリストを配布し、課題論文を提示する。					
⑤成績評価方法	議論への参加 [30%]、期末レポート [70%] <ul style="list-style-type: none"> ・レポートについては、適切に課題が設定されているか、先行研究と関連付けて課題が説明されているか、史料的根拠に立脚して自身の見解を述べているか等を評価項目とし、構成と論理性を重視して評価する。 					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	日本経済史に関わる修士論文を執筆する学生対象の授業であるが、それ以外の学生の参加も広く認める。 【オフィスアワー】 ：原則として授業前後の時間に設定する。メールで事前に連絡すること。					

2018年度以降入学生	西洋経済史	P0216	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	西洋経済史	P693	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	大西 晴樹		後期	金曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	西洋経済史において、近代資本主義発展の「精神構造」について学ぶ。これまで、わが国の学界で支持され、定着してきたものに、ヴェーバーの「資本主義の精神」論、シュンペーターの「革新的企業家」の「新結合の遂行」ないし「創造的破壊」の議論があるが、この授業では、ヴェーバーの「資本主義の精神」論について考える。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ヴェーバーの「資本主義の精神」論を理解するためには、社会科学の古典であり、キリスト教の専門用語が頻出してくる『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を理解する必要がある。1904-5年に発表され、1920年に改訂されたこの論文については、大塚久雄訳・岩波文庫、安藤英治編・未来社、中山元訳・日経BPクラシックという翻訳本がある。まずは、岩波文庫を用いて論文を解説し、そのうえで、この論文をめぐる最新の研究書を読み解いていきたい。そうすることによって、近代資本主義の「精神構造」を知ることができ、この学習から、比較史としての視座を獲得し、各国における資本主義発展の特徴を把握することが出来る。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	第1回 シラバス確認、ガイダンス 第2回 資本主義の精神 第3回 ルター为天職観念 第4回 カルヴァン主義の予定説 第5回 魔術からの解放 第6回 諸宗派：世俗的禁欲の基盤 第7回 禁欲と資本主義の精神 第8回 前半のまとめ 第9回 「理念型」の検討 第10回 産業的啓蒙 第11回 イングランドの工業化とキリスト教諸教会 第12回 合理的信仰と産業革命の知的起源 第13回 産業革命の精神的支柱 第14回 産業革命と労働者 第15回 後半のまとめ 【授業方法】 講読と講義にて授業を行う。 【授業外学習】 テキストの予習・復習と講義内容の復習を行うこと。					
④テキスト・参考書等	テキスト：M.ヴェーバー・大塚久雄訳『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫。山本通著『禁欲と改善』晃洋書房。					
⑤成績評価方法	テキストの輪読形式をとるために、発表がとくに重視される。発表は、たんにテキストを纏めるだけでなく、用語や時代背景の解説にくわえ、現代や他国の「資本主義の精神」、「経済・労働政策」の問題点への言及も望まれる。発表を重ねることが成績向上につながる。発表60点、レポート40点。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)						

2018年度以降入学生	アジア経済史	P0217	経営学B	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	アジア経済史	P694	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	竹内 祐介		後期	月曜日		5時限
①授業方針・テーマ	この授業では、アジア経済史の最新の研究成果を批判的に検討することが目的である。対象とするのは、主に19～20世紀で、アジア各国史ではない、地域横断的な研究成果を、講義での解説を通じて確認する。解説を通してマクロ的視野でアジア経済の歴史および現状を考えられるようにする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済史研究をおこなう上での基礎的素養の習得。 ・帝国論、グローバルヒストリー等、近年のアジア経済史研究を巡る新しい方法論の習得。 ・国際交流に不可欠な、日本と世界とのかかわりについての理解を歴史的・経済的側面から深めること。 					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】</p> <p>第1回 ガイダンス：アジア経済史研究の現在 第2回 アジアとヨーロッパの「大分岐」 第3回 アジア間貿易の形成と構造（1）：19世紀末～第一次大戦期 第4回 アジア間貿易の形成と構造（2）：両大戦間期 第5回 日本帝国経済論 第6回 日本植民地経済史研究（1） 第7回 日本植民地経済史研究（2） 第8回 「大東亜共栄圏」経済史研究 第9回 アジアの脱植民地化過程と冷戦体制 第10回 アジア太平洋経済圏の興隆 第11回 キャッチアップ型工業化論 第12回 開発主義 第13回 中国経済の台頭とアジア経済の変容 第14回 現代アジア経済論 第15回 講義のまとめ</p> <p>【授業方法】 配布資料にもとづき、黒板（ホワイトボード）やスライドを使って解説する。また原則として、授業時間の最後の20分程度は質疑応答や議論の時間とする。</p> <p>【授業外学習】 各講義で指示された指定文献を読むことによる復習。</p>					
④テキスト・参考書等	参考書：杉原薫 [2003]『アジア太平洋経済圏の興隆』大阪大学出版会。各回講義で読むべき文献は、各回で指示する。					
⑤成績評価方法	平常点 50% 期末レポート 50%					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>【オフィスアワー】 原則として、毎週水曜日3限。前日までにメールで予約をした上で南大沢Cの研究室（3-316）まで。もしくは授業中の議論の時間や、授業前後の時間にも質問などを受け付ける。</p>					

2018年度以降入学生	社会経済史	P0218	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	社会経済史	P695	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	竹内 祐介		後期	金曜日		6時限
①授業方針・テーマ	この授業では、主に日本経済史を素材としながら、通史ではなくテーマ別に経済史研究の到達点を確認する。「地域社会」「自然環境」「近代化」「社会環境」といった現代社会にも通じる多様なテーマを、「生活」というキーワードと関連させてみることで、経済史研究をより身近に感じてもらうことが狙いである。また同時に、こうしたテーマが経済史研究として取り組まれてきた背景にある経済思想についても解説する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会を巡る諸問題についての歴史知識を習得すること。 ・経済思想と経済史研究の相互連関についての理解を深めること。 					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 地域社会と生活（1）：家族・地域社会と経済活動 3 地域社会と生活（2）：災害と飢饉 4 地域社会と生活（3）：社会史の方法 5 自然環境と生活（1）：森林資源と土地所有 6 自然環境と生活（2）：エネルギーと経済成長 7 自然環境と生活（3）：進歩と環境 8 近代化と生活（1）：人口で測る経済力 9 近代化と生活（2）：健康と医薬 10 近代化と生活（3）：娯楽と消費 11 近代化と生活（4）：共同体と近代 12 社会環境と生活（1）：教育と労働 13 社会環境と生活（2）：法と福祉 14 社会環境と生活（3）：システムという発想 15 講義のまとめ <p>【授業方法】 配布資料にもとづき、黒板（ホワイトボード）やスライドを使って解説する。また原則として、授業時間の最後の20分程度は質疑応答や議論の時間とする。</p> <p>【授業外学習】 指定のテキストを用いた予習と復習。</p>					
④テキスト・参考書等	中西聡編 [2017]『経済社会の歴史：生活からの経済史入門』名古屋大学出版会					
⑤成績評価方法	平常点 50% 期末レポート 50%					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>【オフィスアワー】 原則として、毎週水曜3限。前日までにメールで予約をした上で南大沢C研究室（3号館316室）まで。もしくは授業中の議論の時間や、授業前後の時間にも質問などを受け付ける。</p>					

2018年度以降入学生	経済思想史	P0219	経営学B	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済思想史	P696	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	高見 典和		後期	火曜日		5時限
①授業方針・テーマ	近年の欧米での経済学史研究を解説します。直接には、近年の研究を参照して執筆した担当講師の記事（日本語）に依拠します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	現在の数理的計量的経済学の直接の起源は、20世紀半ばの一連の数理経済学者の研究にあります。かれらがどのような知的背景をもち、どのような経済学を目指したかを見ることで、経済学は完成された知識ではなく、つねに新しい視点を取り入れてきた学問であることが理解できます。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	担当講師が『経済セミナー』に連載した記事やその他の執筆原稿を用いて、計量経済学、ゲーム理論、行動経済学、IS-LMモデル、成長理論それぞれの誕生や発展の経緯にかんして議論をします。 【授業外学習】 受講者数に応じて変更する可能性はありますが、あらかじめ資料を読んで質問を用意してもらいます。					
④テキスト・参考書等	高見典和「連載：経済学説史」『経済セミナー』（2017年6・7月号～2018年2・3月号）					
⑤成績評価方法	授業への貢献50%、レポート50%					
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	原則として、毎週木曜2限をオフィスアワーに設定します。質問がある場合は、前日17時までに必ずメールで予約をした上で研究室（3号館419室）まで来てください。					

2018年度以降入学生	資産運用論	P0701	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	資産運用論	P701	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	加藤 康之		前期	金曜日	4時限	
①授業方針・テーマ	資産運用に関する基礎的な理論とその実務への応用を習得する。特に実務への応用に重点を置く。具体的な実務テーマを設定した上で、その背景にある理論を学習し具体的な実証研究を行う。対象の分野は資産配分、ファクターモデル、スマートベータ、債券ポートフォリオ、ESG投資、パフォーマンス評価、リスク管理、イベントスタディなどを予定している。講義に加え、重要な論文の講読や実際のデータを使った分析を行う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	資産運用に関する基礎理論や分析手法が習得できる。実務的な資産運用テーマに対し、自分で分析手法を選択し実際に分析して結果を出すことができる能力を身に着けることを目標にする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入部：機関投資家の運用プロセス 2. 資産配分の効果とリスク管理 3. ポートフォリオの最適化とリスクの低減 4. マルチファクターモデルとポートフォリオ構築 5. スタイル分析とアクティブリスクの管理 6. プライスドファクターとスマートベータの構築 7. ESGファクターとポートフォリオ構築 8. 不確実下のキャッシュフロー評価と投資意思決定 9. イールドカーブの推定 10. LDI(負債指向投資)と債券ポートフォリオの構築 11. 資産運用のリスク管理—VaRとリスクバジェティング 12. 為替リスク管理とオーバーレー 13. イベントスタディ 14. 個人の資産運用と機能的アプローチ 15. まとめ <p>[授業方法]</p> <p>授業は、講義、論文購読、演習課題(宿題)のセットで進める。特に講義毎の演習課題(発表を含む)を重視し、具体的な分析手法の習得を狙う。</p> <p>[授業外学習]</p> <p>毎回の授業終了時に示す課題について、レポートを作成して提出すること。</p>					
④テキスト・参考書等	各テーマに沿った書籍や論文をその都度紹介する。					
⑤成績評価方法	提出された講義毎の演習課題およびその発表。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	オフィスアワー：随時受け付けますが、メールにて事前アポを取ってからお願いします。					

2018年度以降入学生	ポートフォリオ理論	P0702	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	ポートフォリオ理論	P702	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	内山 朋規		前期Ⅰ	月曜日 2時限	水曜日 2時限	
①授業方針・テーマ	本講義では資産運用理論を体系的に学習する。前半では、投資家の選好（効用、目的関数）、ポートフォリオの最適化を扱う。後半では、ポートフォリオ（取引戦略）の構築に重要なリスクとリターンとの関係を扱う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ポートフォリオの最適化や均衡、ファクターなどの資産運用理論の習得を目指す。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション ファイナンス数学の基礎、資産価格理論の基礎 2. (テキスト2章) Preference 期待効用、規範vs実証、各種の効用関数 3-4. (テキスト3章) Mean-variance investing 分散効果、平均分散最適化、Black-Littermanモデル、平均分散最適化の欠点、代替的なウェイト法 5-6. (テキスト4章) Investing for the long run 動的最適ポートフォリオ、動的計画法、マルチンゲール法、リバランスプレミアム、取引コスト、負債の考慮 7. (テキスト5章) Investing over the life cycle 人的資本の考慮、ライフサイクル、投資ホライズンの効果 8-9. (テキスト6章) Factor theory ファクター理論、CAPM、均衡、プライシングカーネル、マルチファクターモデル、多期間における数理モデル、リスクプレミアムの数理モデル、効率的市场仮説 10. (テキスト7章) Factor マクロファクター、ボラティリティ、Fama-Frenchファクターモデル、バリュー、サイズ、モメンタム 11. (テキスト8章) Equities エクイティプレミアム、disasterリスクモデル、ロンگرانリスクモデル、予測可能性 12-13. (テキスト9章) Bonds アフィンモデル、金融政策、マクロファクター、インフレリスク、クレジット 14. (テキスト10章) Alpha (and the low-risk anomaly) アルファ、低リスクアノマリー 15. (テキスト14章) Factor investing ファクター投資 <p>[授業方法] 各回の講義のほか、事例や新聞記事などをもとにしたディスカッションがある。</p> <p>[授業外学習] 予習および復習、課題（数回程度）。特に数学面の理解に取り組むこと。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>Andrew Ang (2014) Asset Management: A Systematic Approach to Factor Investing, Oxford Univ Pr. (邦訳：『資産運用の本質—ファクター投資への体系的アプローチ』、金融財政事情研究会、2016年) 上記のテキストを利用するので、授業に持参のこと。資産運用理論に関する近年までの重要なトピックがバランスよく扱われているが、理論の数理的側面が省かれているため、講義ノートを配布し説明する。 以下のテキストも参考になる。</p> <p>John Cochrane (2005) Asset Pricing, Revised Ed., Princeton Univ Pr. Darrell Duffie (2001) Dynamic Asset Pricing Theory, Third Ed., Princeton Univ Pr. John Campbell and Luis Viceira (2002) Strategic Asset Allocation: Portfolio Choice for Long-Term Investors, Oxford Univ Pr. (邦訳：『戦略的アセットアロケーション—長期投資のための最適資産配分の考え方』、東洋経済、2004年) Antti Ilmanen (2011) Expected Returns: An Investor's Guide to Harvesting Market Rewards, John Wiley & Sons.</p>					
⑤成績評価方法	課題レポート、最終レポート					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>確率過程や確率解析などファイナンス数学の基本的な知識が必要。講義内でも解説する。</p> <p>【オフィスアワー】 原則として火・水・金の午後。これ以外の時間帯でも在席時には随時受け付ける。場所は丸の内サテライトキャンパス。</p>					

2018年度以降入学生	実証ファイナンス	P0703	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	実証ファイナンス	P703	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	内山 朋規		後期Ⅰ	月曜日 2時限	水曜日 2時限	
①授業方針・テーマ	理論と実証は両輪であり、近年は実証分析の発展が目覚ましい。本講義では、ファイナンス理論をもとに、金融市場におけるファクト（実証）を学び、金融市場への理解を深める。株式や金利、通貨、デリバティブといった各アセットクラスのリターンや、ファンドのパフォーマンスに関する重要な論文を学習する。教員による講義のほかに、参加者は指定された論文を簡潔にまとめて発表することも行う（1人1回あたり20分程度を予定、数回）。また、実証分析の統計学的手法の解説とMatlabやMathematicaなどを使った実習も行う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	資産運用理論の実践に役立つ、理論をもとにした実証研究に関する知識の獲得を目指す。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>1. イントロダクション 講義の概要、資産価格理論、リスクプレミアム、ファクターモデル、リターンの予測可能性</p> <p>2-5. 分析手法の統計学 回帰分析（時系列、クロスセクション、パネル）、分位別ポートフォリオ、イベントスタディ、自己相関、不均一分散、クラスター、GRS検定 Matlabによる実習</p> <p>6-7. 株式：バリュー Fama and French (1998) Value versus Growth: The International Evidence, JF. など</p> <p>8. 株式：モメンタム Jegadeesh and Titman (1993) Returns to buying winners and selling losers: Implications for stock market efficiency, JF. など</p> <p>9. 株式：収益性、投資 Novy-Marx (2013) The other side of value: The gross profitability premium, JF. など</p> <p>10-11. ファンドパフォーマンス Elton and Gruber (2013) Mutual Funds, Handbook of the Economics of Finance. など</p> <p>12. 金利 期待仮説、予測可能性 Cochrane and Piazzesi (2005) Bond Risk Premia, AER. など</p> <p>13. オプション、ボラティリティ Mathematicaによる演習、VIX Carr and Wu (2009) Variance risk premiums, RFS. など</p> <p>14. 通貨 Burnside, Eichenbaum and Rebelo (2011) Carry Trade and Momentum in Currency Markets, ARFE. など</p> <p>15. クロスアセット Asness, Moskowitz and Pedersen (2013) Value and momentum everywhere, JF. など</p> <p>[授業方法] 講義、計算演習、文献発表。</p> <p>[授業外学習] 予習および復習、課題（数回程度）。特に数学面の理解に取り組むこと。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>講義ノートを毎回配布する。 初回講義で発表論文を指定する。</p> <p>以下のテキストも参考になる。 John Cochrane (2005) Asset Pricing, Revised Ed., Princeton Univ Pr. John Campbell, Andrew Lo, and A. Craig MacKinlay (1997) The Econometrics of Financial Markets, Princeton Univ Pr. (邦訳：『ファイナンスのための計量分析』、共立出版、2003年) William H. Greene (2011) Econometric Analysis, International 7th Ed, Pearson Education. Turan G. Bali, Robert F. Engle, and Scott Murray (2016) Empirical Asset Pricing: The Cross Section of Stock Returns, Wiley.</p>					
⑤成績評価方法	論文発表、議論への参加、課題レポート					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>「ポートフォリオ理論」を履修していることが望ましい。もし履修していない場合には教員の許可が必要。</p> <p>【オフィスアワー】 原則として火・水・金の午後。これ以外の時間帯でも在席時には随時受け付ける。場所は丸の内サテライトキャンパス。</p>					

2018年度以降入学生	債券投資とALM	P0704	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	債券投資とALM	P704	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	市川 達夫		後期	水曜日	4時限	
①授業方針・テーマ	機関投資家にとっての債券投資のあり方を学ぶ。まずは、金利の概念（リスク・リターン）を学習し、様々な分析手法や投資戦略を理解する。次にALM(Asset-Liability-Management)の枠組みにおける債券投資の位置づけを習得し、最終的には規制や会計などの定性要因などを考慮した上での債券投資の実際を概観する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	債券投資の基礎の理解を理論的な観点だけでなく、実務の世界での課題や制約、ALMの枠組みや定性的なリスク要因などを把握することを目的とし、定性要因も加えた総合的な視点から投資判断を行えることを目標とする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>第1～4回：債券投資の基礎 時間価値、デュレーション、コンベクシティ、金利の期間構造など債券投資の基本について講義する。</p> <p>第5～8回：債券投資の実践 デリバティブや外債投資の実際やリスク・リターン分析、投資手法について講義する。</p> <p>第9～11回：定性的なリスク要因 金利変動要因となる金融政策や財政政策、投資家動向、規制・会計動向について解説する。</p> <p>第12～13回：ポートフォリオ戦略とALM 銀行、保険会社、年金基金にとってのマルチアセットのポートフォリオやALM戦略の枠組みにおける債券の位置づけについて講義する。</p> <p>第13～15回：ケーススタディ 債券市場における過去の変動幅が大きく特異な動きがあった局面について解説、ディスカッションを行う。ケーススタディを通じながら投資戦略の立案プロセスを習得する。</p> <p>【授業方法】 各回ではできるだけ実務での応用例や最新のトピックスや課題にも触れながら講義を進めていく。また、2～3回に1度は演習またはディスカッションを含めた双方向の講義形式の時間を作る予定している。ディスカッションのテーマとしては、受講者が幅広い債券投資とALMの様々なテーマの中から興味あるものを自由に選び問題提起や投資戦略の立案をしてもらうアクティブ・ラーニング。</p> <p>【授業外学習】 ブルームバーグ等の情報端末からマーケット・データを取得し、講義で習得した市場動向を復習し、分析手法を応用して投資戦略について考察する。</p>					
④テキスト・参考書等	テキスト・参考書の指定は特になし。 ノートを毎回配布する。					
⑤成績評価方法	出席状況、ディスカッション・演習の参加状況およびレポートによる総合評価					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	オフィスアワーは、原則として毎週水曜日4時限前後のみとしますが、メールでの問い合わせは随時受け付けます。メールアドレスは講義時に伝えます。					

2018年度以降入学生	オプション理論	P0705	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	オプション理論	P705	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	竹原 浩太		前期Ⅰ	月曜日 3時限	水曜日 3時限	
①授業方針・テーマ	本講義では、金融工学におけるもっとも重要なテーマの一つであるオプション理論における基礎的事項を、平易な設定やモデルの下で、その概念や重要性を理解できるように留意しつつ解説する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	オプションの価格付け理論におけるもっとも基本的な手法であるリスク中立化法や適切な測度変換法(フォワード中立化法等)について、自らプライシングの際に適切に利用できるレベルで理解することを目標とする。 また、オプション価格を実際に計算できるようになるために、CRR公式およびBS公式の使い方を習得する。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>第1回 オプション概論 様々なオプションやその性質等について概説する。</p> <p>第2回 二項モデル① 二項モデルによる原資産価格過程の表現等について概説する。</p> <p>第3回 二項モデル② 二項モデルによるデリバティブの価格付け、及びリスク中立確率等について学ぶ。</p> <p>第4回 無裁定と状態価格 無裁定条件とリスク中立確率や状態価格等の関係について学ぶ。</p> <p>第5回 ブラック・ショールズモデル ブラック・ショールズモデルやその性質等について学ぶ。</p> <p>第6-8回 ブラック・ショールズの公式とグリークス ブラック・ショールズ公式の導出を複数の方法で行い、またグリークスについて学ぶ。</p> <p>第9回 ブラック・ショールズモデルの応用 ブラック・ショールズモデルについての様々な応用について概説する。</p> <p>第10-11回 測度変換と価格付け デリバティブ評価において非常に重要な測度変換法や、価格付けとの関係を学ぶ。</p> <p>第12-13回 金利モデルと債券価格 初歩的な金利モデルや債券価格の関係について学ぶ。</p> <p>第14回 フォワード中立化法 フォワード中立化法について学ぶ。</p> <p>第15回 まとめ・発展的問題 講義全体のまとめや、その先の様々な課題について概説する。</p> <p>[授業方法] 基本的に講義による。</p> <p>[授業外学習] 適宜課題等を講義内にて提示する。また、学習効果を高めるため講義前に前回範囲を復習することを強く推奨する。</p>					
④テキスト・参考書等	S.E.Shreve, 'Stochastic Calculus for Finance II, Continuous-Time Models', Springer 2004. 木島正明・田中敬一、'資産の価格付けと測度変換'、朝倉書店、2007。					
⑤成績評価方法	出席状況・レポート等により判断する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	[オフィスアワー] 原則として毎週月・水曜4限をオフィスアワーとして設定する。 それ以外の時間帯に訪ずる場合には、事前にメールでアポイントメントを取ること。					

2018年度以降入学生	期間構造モデル	P0706	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	期間構造モデル	P706	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	室町 幸雄		前期Ⅱ	月曜日 2時限	水曜日 2時限	
①授業方針・テーマ	金融資産の現在価値は将来キャッシュフローを金利で割り引くことで算出されるので、金利のモデル化は実務上非常に重要なテーマである。また、金利には観測可能な期間構造が存在するので、観測と整合的かつ一貫性のあるモデルの構築が求められる。本講義では、代表的な金利期間構造モデルとそれを用いた金利デリバティブの価格付けについて説明する。また、最新の動向も適宜解説する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	代表的な金利期間構造モデルとそれを用いたデリバティブなどの価格付けに関する知識を習得し、金利デリバティブの価格評価を自分で行えるようになることを目指す。解析的な評価だけでなく、数値計算による評価方法も学ぶ。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. さまざまな金利 [単利と複利、スポットレート、フォワードレート、LIBOR、スワップ、OIS、債券と金利など] 2. 金利期間構造の推定 [代表的な推定モデル、ブーツトラップ法、各種のスプレッドなど] 3-4. デリバティブの価格付け [複製、伊藤の公式、マルチンゲール、リスク中立化法、リスクの市場価格、原資産が非市場性資産の場合など] 5-6. スポットレートモデル [Vasicek、CIR、Hull-White、Quadratic Gaussian、債券価格など] 7. ツリーモデルによる評価 [二項ツリーモデル、三項ツリーモデルなど] 8. マルチファクター・アフィンモデルと金利期間構造の実証分析 [割引債価格、期間プレミアム、状態変数モデル、リスクの市場価格など] 9. 債券と金利デリバティブ [先渡価格、先物価格、フォワード中立化法、フォワードLIBOR、Blackの公式、スワップションなど] 10-11. HJMモデル [フォワードレート、リスク中立確率、マルコフモデル、MCシミュレーションなど] 12-13. マーケットモデル [BGMモデル、LIBORマーケットモデル、SWAPマーケットモデルなど] 14. 最近のトピック [確率ボラティリティモデル、マルチカーブモデル、ネガティブ金利への対応など] 15. 期末試験と解説 <p>ただし、理解の定着度をみて一部の項目をスキップすることもありえる。</p> <p>[授業方法] 講義中心であるが、演習も行う。</p> <p>[授業外学習] 毎回の授業後の復習は知識の定着に欠かせない。複数回のレポート提出を求める。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>期間構造モデルと金利デリバティブ、木島正明、朝倉書店。 Interest Rate Modeling, Andersen and Piterbarg, Atlantic Financial Press. Interest Rate Models - Theory and Practice:with Smile, Inflation and Credit, Brigo and Mercurio, Springer.</p>					
⑤成績評価方法	期末試験の成績（50%）、提出したレポートの内容（50%）をもとに評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>参加者は「オプション理論」を履修していること。 オフィスアワー：丸の内サテライトキャンパスにて水曜4限を予定（変更があれば連絡する）。ただし事前にメールで muromachiyukio@tmu.ac.jp 宛てに連絡し、アポイントメントをとること。</p>					

2018年度以降入学生	クレジットデリバティブ	P0707	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	クレジットデリバティブ	P707	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	竹原 浩太		後期Ⅰ	月曜日 3時限	水曜日 3時限	
①授業方針・テーマ	<p>金融市場において近年特に発達の著しい分野の一つがクレジット（信用）に関わる証券である。社債のプライシングに始まり、倒産に対する保険と言えるCDS(クレジット・デフォルト・スワップ)、そしてリーマン・ショックの引き金ともなったCDO(債務担保証券)といった多くの証券に於いて、クレジットリスクの評価は重要な課題である。</p> <p>本講義では、標準的なクレジットリスクのモデリング・計量手法から発展的な内容、さらには近年注目されているCVA(信用価格調整)も含め様々な手法を身につけることを目的としている。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>本講義では構造モデル・誘導モデルといった代表的なクレジットモデルやコンピュータを用いた相互依存関係を考慮したクレジットリスクの計量や証券の価格付け、またヘッジ手法等について学ぶ。</p>					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>第1-2回 クレジット・デリバティブ 社債、優先・劣後証券、CDS、CDO等様々なクレジット証券やヘッジについて概説する。</p> <p>第3回 クレジット・スプレッド クレジット・スプレッドの解説やインプライド倒産確率等について解説する。</p> <p>第4-5回 誘導型モデル① ハザード関数と社債価格やクレジット・スプレッドの関係等について解説する。</p> <p>第6-7回 誘導型モデル② 斉時・非斉時ポワソン過程やCox過程、その応用について解説する。</p> <p>第8回 構造型モデル① Mertonモデル、Black-Coxモデルなどの構造型モデルについて解説する。</p> <p>第9回 構造型モデル② より発展的な構造型モデルやその応用について解説する。</p> <p>第10-12回 デフォルトの相互依存関係 コンピュータを用いたデフォルトの相互関係の創出やインプライド相関、First-to-Default債券等について学ぶ。</p> <p>第13回 CDO CDO(債務担保証券)の価格付けに関する理論について解説する。</p> <p>第14-15回 クレジット・モデルの現在 クレジット・モデルに関する最新の話題や研究について解説する。</p> <p>[授業方法] 基本的に講義による。</p> <p>[授業外学習] 適宜課題等を講義内にて提示する。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>F. J. シェーンブッハー『クレジット・デリバティブ』東洋経済新聞社 2005年 D. ダフィー、K. J. シングルトン『クレジット・リスク』共立出版 2009年 Bielecki, Jeanblanc, Rutkowski, 'Credit Risk Modeling', Osaka University Press, 2009 富安弘毅『カウンターパーティーリスクマネジメント』金融財政事情研究会 2010年</p>					
⑤成績評価方法	<p>出席状況・レポート等により判断する。</p>					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>[オフィスアワー] 原則として毎週月・水曜4限をオフィスアワーとして設定する。 それ以外の時間帯に来訪する場合には、事前にメールでアポイントメントを取ること。</p>					

2018年度以降入学生	上級オプション理論	P0708	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	上級オプション理論	P708	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	竹原 浩太		後期Ⅱ	月曜日 3時限	水曜日 3時限	
①授業方針・テーマ	2項ツリーモデルやBlack-Scholse-Mertonらのモデル・公式の発見によりめざましい発展を遂げたオプション市場は、その後徐々にこれらのモデルの仮定とは不整合をきたすようになっていった。また、オプション自体の構造もより複雑化し、そうした状況に対応するようにより実際のモデル・洗練された手法が開発され続けている。 本講義では、こうしたエキゾチック・オプションに対するプライシングや、様々なモデリング手法について学ぶ。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本講義ではバリアオプションやアベレージオプション等のエキゾチック・オプションに対する価格付けや、局所ボラティリティモデル、確率的ボラティリティモデル、ジャンプモデル等について学ぶ。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>第1－2回 基礎的事項の復習 Black-Scholesモデルやリスク中立評価法・オプション価格公式の復習、及びquanto・バリアオプションのプライシング等について解説をする。</p> <p>第3－4回 局所ボラティリティ・モデル① 局所ボラティリティ・モデルの枠組みやインプライド・ボラティリティとの関係等について解説する。</p> <p>第5回 局所ボラティリティ・モデル② CEVモデルやDisplaced Diffusion Model等やその応用について解説する。</p> <p>第6－7回 確率的ボラティリティ・モデル① HestonモデルやStochastic Skew Model等について解説する。</p> <p>第8回 確率的ボラティリティ・モデル② 近年多くの分野で導入されているSABRモデルと、その応用について解説する。</p> <p>第9－11回 ジャンプ・モデル① Mertonモデルを中心にジャンプを導入したモデルについて解説する。</p> <p>第12－13回 ジャンプ・モデル② より一般のジャンプモデルやLevy過程等について解説をする。</p> <p>第14－15回 近似手法 複雑なモデル下での金融派生証券の価格付けに対する近似手法について、『漸近展開法』を含め解説する。</p> <p>[授業方法] 基本的に講義による。</p> <p>[授業外講習] 適宜課題等を講義内にて提示する。</p>					
④テキスト・参考書等	S.E.Shreve, 'Stochastic Calculus for Finance II, Continuous-Time Models', Springer 2004. J.Gatheral, 'The Volatility Surface', John Wiley & Sons, Inc., 2006.					
⑤成績評価方法	出席状況・レポート等により判断する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	[オフィスアワー] 原則として毎週月・水曜4限をオフィスアワーとして設定する。 それ以外の時間帯に来訪する場合には、事前にメールでアポイントメントを取ること。					

2018年度以降入学生	金融リスク管理概論	P0709	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	金融リスク管理概論	P709	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	磯貝 孝		前期Ⅰ	火曜日 2時限	木曜日 2時限	
①授業方針・テーマ	<p>本講義では、金融機関等における信用・市場・オペレーショナルのリスク管理全般を視野に入れ、金融リスクとは何か、実際のリスク管理はどのような枠組みで行われているのか、定量的なリスク管理手法の概要とその背景にある考え方などについて整理する。</p> <p>合わせて、金融リスク管理を巡る様々な環境変化について、特にバーゼル銀行監督委員会による自己資本規制など、最近の国際的な金融監督規制の変化を概観し、金融機関のリスク管理実務に及ぼす影響や一段と重要度を増すストレステストに関する技術的な課題などについても議論する。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>金融リスク管理に関する導入知識を得ることを主目的とし、金融リスクの多面的な理解とリスク管理の実践に応用可能な考え方を身につけることを目指す。定量的なリスク管理のみならず、金融規制、組織論などの話題に関する理解を深め、マクロレベルでのリスク管理の議論についての関心も深める。講義では、ディスカッションも重視し、各種論点について議論を通じて問題意識を深めることも目指す。</p>					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>講義では、情報の整理に加えて双方向の議論を重視して行う。内容に応じて、最近の内外における事例紹介をもとにしたケーススタディなども行う（適宜各自に課題を出す予定）。</p> <p>各講義の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> ①導入－金融リスクとは何か（リスク・リターンとの関係、金融機関経営の特殊性とリスク管理の重要性） ②金融リスクへの備えに関する考え方（自己資本規制の意味、内部的なリスク管理と規制の関係） ③金融リスクのカテゴリーの整理（信用、市場、オペレーション、流動性、レピュテーション他）とリスク管理の実務的アプローチ ④リスクの量的計測に関する方法論（定性的分析、確率論的アプローチ）とリスク量指標（VaR、ES） ⑤リスクカテゴリー別のリスクモデルの枠組みの整理（理論的背景、計測可能性、実務的な対応） ⑥定量的なリスク指標によるリスク把握の問題点と対応策に関する議論の整理 ⑦リスク量の統合の問題（異なるリスクカテゴリーのリスク合算に関する問題点の整理） ⑧リスクモデルの検証とモデルリスク（リスクの定量的把握の技術的境界） ⑨ストレステスト（シナリオ構築の問題、リスク管理における活用） ⑩－⑪金融危機の発生前後における国際的な金融規制の変化とその背景（規制強化の流れと規制主体における変化等） ⑫リスクアピタイト・ガバナンス、リスクコミュニケーション（内部管理の新たな方向性） ⑬－⑭国際的な金融規制の動向、ストレステストを巡る新たな動き、システムリスクの概念等 ⑮まとめ・補論 <p>授業方法：上記の各内容に関して講義資料および関連資料に言及しつつ、最近の金融実務における動向なども含めて講義する。講義では、内外の監督当局や金融機関が公表した資料をもとにケーススタディ、ディスカッションを行う。</p> <p>授業外学習：講義で事前配布する資料を講義前に一読しておくこと。範囲については、毎回の講義で伝達する。複数回の課題を出す予定。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>講義において適宜参考資料を指定・配布する。</p> <p>(参考書) Quantitative Risk Management: Concepts, Techniques and Tools (McNeil, Frey, and Embrechts, 2015, Princeton Univ Pr), Advanced Financial Risk Management (Van Deventer, Imai, and Mesler, 2005, Wiley)</p>					
⑤成績評価方法	<p>課題・レポートの提出 (60%)、講義における議論への貢献 (40%)</p>					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>リスク管理に関する導入的講義であるため、他のリスク管理関連の講義の受講を特に前提としない。金融実務に関する経験があることが望ましいが、必須ではない。</p> <p>[オフィスアワー]</p> <p>オフィスアワーは特に設定しませんが、質問・相談等は、研究室 (04) で対応する (tisog0a@tmu.ac.jpにコンタクトしてください)。</p> <p>講義の内容は、部分的に入れ替え・変更になることがある。</p>					

2018年度以降入学生	マーケットリスク管理	P0710	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	マーケットリスク管理	P710	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	磯貝 孝		後期Ⅰ	火曜日 2時限	木曜日 2時限	
①授業方針・テーマ	<p>本講義では、価格が観察可能な金融資産が有する価格変動を市場リスクとして定量的に把握し、運用方針のもとで適切な管理を行うために必要とされる基礎知識を整理することを目的とする。リスク計測手法については、複数の確率的アプローチによるリスク計量化手法の比較など複眼的な視点で数理手法の利点・注意点を明らかにすることを旨とする。</p> <p>同時に、市場リスク管理を巡る様々な環境変化について、特にバーゼル銀行監督委員会による自己資本規制の変化の影響など、制度的要因についても理解を深める。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>市場リスク管理に関する汎用的な基礎知識を得ることを主目的とし、金融リスクの多面的な理解とリスク管理の実践に応用可能な考え方を身につけることを目指す。</p> <p>実際の資産価格データからリスク量の計測を行うことができ、かつ計算したリスク量の解釈、活用上の注意点を明らかにできるようにする。</p>					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>本講義では、リスク管理実務で用いられている手法を主に想定して、その数学的な根拠や限界について整理する。市場リスクの定量化に関しては、扱いが比較的容易な株式を想定して実際の計算を行うなどのケーススタディを行う。</p> <p>各講義の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> ①導入、市場リスクの定義（価格の観察可能性、信用リスクなど他のリスクとの関係） ②市場リスクの把握・管理の枠組み（感応度分析、リスク量指標、各種限度枠） ③バーゼル自己資本規制における市場リスクの扱い（歴史的な展開、規制の流れ） ④確率的アプローチによる市場リスクの測定（中心極限定理、テールリスクをどう定量化するか） ⑤～⑦単一アセットのリスク定量化（正規分布近似、ヒストリカル法、極値理論など様々な手法の紹介、計算シミュレーション） ⑧リスク量指標の種類、性格（VaR・ES他、劣加法性の議論など） ⑨～⑩ポートフォリオのリスク量計算（相関の計算、分散共分散法、コピュラ）、リスクの合算 ⑪不均一分散（ボラティリティ）・一般化中心極限定理（ファットテール性の表現） ⑫無条件モデルと条件付きモデル（ボラティリティ変動の扱い）、モデル検証（バックテストの考え方、具体的な方法） ⑬ストレステスト（シナリオ設定、他のリスクとの関連性） ⑭国際的な規制の方向性、流動性リスクとの関係他（銀行勘定の金利リスクなど） ⑮まとめ・補論 <p>授業方法： 上記の各内容に関して講義資料および関連資料に言及しつつ、最近の金融実務における動向なども含めて講義する。講義では、計算演習および各種ケーススタディ、ディスカッションを行う。</p> <p>授業外学習： 講義で事前配布する資料を講義前に一読しておくこと。範囲は、毎回の講義で伝達する。複数回の課題を出す予定。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>講義の内容に応じて、適宜参考資料を配布する。</p> <p>（参考書）Quantitative Risk Management: Concepts, Techniques and Tools (McNeil, Frey, and Embrechts, 2015, Princeton Univ Pr)</p>					
⑤成績評価方法	<p>課題・レポートの提出（60%）、講義における議論への貢献（40%）</p>					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>リスク管理に関する導入的講義であるため、他のリスク管理関連の講義の受講を特に前提としない。金融実務に関する経験があることが望ましいが、必須ではない。</p> <p>〔オフィスアワー〕</p> <p>オフィスアワーは特に設定しませんが、質問・相談等は、研究室（04）で対応する（tisog0a@tmu.ac.jpにコンタクトしてください）。</p> <p>講義の内容は、部分的に入れ替え・変更になることがある。</p>					

2018年度以降入学生	信用リスク管理	P0711	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	信用リスク管理	P711	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	室町 幸雄		後期Ⅱ	月曜日 2時限	水曜日 2時限	
①授業方針・テーマ	金融商品の発行体や取引先が債務を履行できなくなる状態をデフォルトと呼び、デフォルトにより被る直接的あるいは間接的な損失の可能性を信用リスクという。本講義では、金融機関における信用リスクの計量化手法について金融工学の立場から説明する。また、最新のテーマも適宜取り上げる。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	企業の信用リスク評価ツールとして使われるさまざまな手法を理解する。さらに、ポートフォリオの信用リスク量の評価手法を、近似法もあわせて習得する。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>1－2. デフォルトと信用リスク、デフォルト確率とその期間構造 [講義の概観、デフォルトと信用リスク、生存時間解析、データの種類と推定手法など]</p> <p>3－5. 企業の信用リスク評価モデル [線形判別分析、一般化線形モデル、二項ロジット・プロビットモデル、逐次モデル、順序モデル、確率選択モデル、比例ハザードモデル、サポートベクターマシンなど]</p> <p>6. リスクの尺度 [VaR(バリュアットリスク)、期待ショートフォール、コヒーレントリスク尺度など]</p> <p>7－8. デフォルトのモデル化 [状態空間モデル、企業価値モデル、誘導型モデルなど]</p> <p>9－10. デフォルト相関のモデル化 [デフォルト相関、デフォルト時刻の同時分布、条件付独立モデル、伝播デフォルトモデル、コンピュータモデルなど]</p> <p>11. CreditMetrics [単一資産の場合、ポートフォリオの場合、CM2Sモデルなど]</p> <p>12. ファクターコンピュータモデル [1ファクター・ガウシアンコンピュータモデル、コリレーションスマイルなど]</p> <p>13. 極限損失分布とBIS規制 [大数の法則、極限損失分布、バーゼルⅡのフォーミュラなど]</p> <p>14. クレジットデリバティブの価格付け [シングルネームCDS、レバレッジ型など]</p> <p>15. 関連する重要なトピック [将来価値ベースのリスク計測の考え方、金利リスクと信用リスクの統合評価など]</p> <p>上記の内容はやや盛り沢山なので、理解の定着度をみて取捨選択する項目もありうる。</p> <p>[授業方法] 講義中心であるが、課題演習も行う。</p> <p>[授業外講習] 知識の定着には毎回の講義後の復習が必須である。複数回のレポート提出を求める。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>室町幸雄 (2007)、信用リスク計測とCDOの価格付け、朝倉書店。</p> <p>木島正明・小守林克哉 (1999)、信用リスク評価の数理モデル、朝倉書店。</p> <p>A.McNeil, R.Frey, P.Embrechts, Quantitative Risk Management-concepts, techniques and tools-, Princeton University Press.</p>					
⑤成績評価方法	課題やレポートの内容をもとに評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	「金融リスク管理概論」を履修していること。学部水準の経済数学および統計学の知識を有すること。 [オフィスアワー] 丸の内サテライトキャンパスにて水曜4限を予定(変更があれば連絡する)。ただし、事前にメールで muromachiyukio@tmu.ac.jp 宛てに連絡し、アポイントメントをとること。					

2018年度以降入学生	プログラミング基礎	P0712	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	プログラミング基礎	P712	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	八木 恭子		前期Ⅰ	火曜日 3時限	火曜日 4時限	
①授業方針・テーマ	まず、インタプリタ言語及び商用ソフトウェアの例としてMatlab、Mathematicaを採用し、プログラミング基礎に関する講義および演習を行う。次にコンパイラ言語の代表例としてC言語を採用し、プログラミング基礎に関する講義および演習を行う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	Matlab、MathematicaとC言語の基礎を習得することを目的とする。それらを学ぶことで、他のプログラミング言語や商用ソフトウェアを効率的に学習・導入できるようになることが、授業の目標である。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>第1回 プログラミングとは インタプリタ型言語とコンパイラ型言語について説明し、これらの言語がファイナンスにおいてどのように用いられているかを講義する。また、開発環境と商用ソフトウェアについてその概要を解説する。</p> <p>第2回 Matlabの基本と演習 インタプリタ型言語や商用ソフトウェアの例として、他の講義でも使用するMatlabを用いて、その利用方法に関して演習を行う。</p> <p>第3～4回 Mathematicaの基本と演習 インタプリタ型言語や商用ソフトウェアの例として数式処理ソフト Mathematicaを用いて、代数計算、微積分、グラフィックス、リスト、関数、数値積分、シミュレーション、最適化計算の演習を行う。</p> <p>第5～6回 C言語によるプログラミングの基本と演習 コンパイラ型言語の代表としてC言語を採用し、開発環境を準備する。のちに簡単なプログラムの実装とコンパイルを行う。</p> <p>第7～8回 C言語におけるプログラムの流れの分岐と繰り返し</p> <p>第9～10回 C言語における配列と関数</p> <p>第11～12回 C言語におけるポインタと構造体</p> <p>第13～14回 C言語におけるファイル処理とライブラリの利用</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>【授業方法】 演習を中心とした授業を実施する。</p> <p>【授業外学習】 毎回の授業終了時に出す課題について、レポートを作成して提出すること。</p>					
④テキスト・参考書等	商用ソフトウェア：授業でレジュメを配布して講義を行う。 C言語：柴田望洋著「新・明解C言語 入門編」(SBクリエイティブ 2014年) 定価 2,484円					
⑤成績評価方法	数回のレポート課題で総合的に評価する。 ・レポート課題については、到達目標に基づき、プログラミング言語や商用ソフトウェアを効率的に学習・導入できているかを判断し、評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>【他の授業科目との関連性】 特別な予備知識を必要としないプログラミングの入門講座である。</p> <p>【オフィスアワー】 オフィスアワーは特に設定しないが、質問等がある場合は事前にメールでアポイントメントをとってください。</p> <p>【連絡先】 kyagi@tmu.ac.jp</p>					

2018年度以降入学生	金融数値解法	P0713	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	金融数値解法	P713	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	八木 恭子		前期Ⅱ	火曜日 3時限	火曜日 4時限	
①授業方針・テーマ	<p>高度に発達した今日の金融市場において、また複雑化した金融派生証券をはじめとする諸問題について、例えばBlack=Scholes式のような解析解を得ることは大変困難である。こうした諸問題に対応するため、多くの数値計算手法が学界・実務の双方から提案・適用されている。</p> <p>本講義では、主に金融派生証券の価格評価を念頭に、さまざまな数値解法について理解するとともに、実際の問題への応用を通してその手法を身につけることを目標とする。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>ツリーモデル・常微分方程式及び偏微分方程式の数値解法について学び、その原理を理解するとともに応用上の諸問題についても、実際に自ら数値実験を行うことを通して身につける。</p>					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>〈〈授業計画内容〉〉</p> <p>第1回 2項ツリーモデル① ヨーロッパオプションに対して2項ツリーの構築及びオプション価格の計算法・原理及び諸注意を学ぶ。</p> <p>第2回 2項ツリーモデル② バリアオプションやアメリカンオプションに対する2項ツリーを用いた価格評価について学ぶ。</p> <p>第3回 2項ツリーモデル③ 2項ツリーモデルを用いたリスク感応度(Greeks)の評価について学ぶ。</p> <p>第4回 演習① 第3回までに学んだ手法について、実際にプログラムを作成し数値計算を行うことで、さまざまな性質や注意について実際に学ぶ。</p> <p>第5回 偏微分方程式の数値解法① 有限差分法(陽解法)による偏微分方程式の数値解法やその特性について学習する。</p> <p>第6回 偏微分方程式の数値解法② 有限差分法(陰解法)による偏微分方程式の数値解法やその特性について学習する。</p> <p>第7回 偏微分方程式の数値解法③ 有限差分法(Crank=Nicolson法)による偏微分方程式の数値解法やその特性について学習する。</p> <p>第8回 演習② 第5-7回までに学んだ手法について、実際にプログラムを作成し数値計算を行うことで、さまざまな性質や注意について実際に学ぶ。</p> <p>第9回 偏微分方程式の数値解法④ 自由境界値問題に対する解法を学習する。</p> <p>第10回 演習③ 第9回で学んだ手法について、実際にプログラムを作成し数値計算を行うことで、さまざまな性質や注意について実際に学ぶ。</p> <p>第11回 数値積分 さまざまな数値積分法について学び、実際にプログラムを作成する。</p> <p>第12回 常微分方程式の数値解法 Euler法やRunge-Kutta法等の常微分方程式に対する数値解法を学ぶ。</p> <p>第13回 Fourier変換法① Fourier変換を用いたオプション価格評価法について学習する。</p> <p>第14回 Fourier変換法② 高速フーリエ変換(FFT)等の手法について学習する。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>【授業方法】 各項目の講義を行った後、演習を実施する。</p> <p>【授業外学習】 演習終了時に出す課題について、レポートを作成して提出すること。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>森平爽一郎・小暮厚之著「コンピュータシヨナル・ファイナンス」(朝倉書店 1997年) 定価 4,536円 三井斌友著「常微分方程式の数値解法」(岩波書店 2003年) 定価 2,592円 田端正久著「偏微分方程式の数値解析」(岩波書店 2010年) 定価 2,700円 他</p>					
⑤成績評価方法	<p>数回のレポート課題で総合的に評価する。</p> <p>・レポート課題については、到達目標に基づき、ツリーモデル・常微分方程式及び偏微分方程式の数値解法について、その原理を理解するとともに応用上の諸問題についても、実際に自ら数値実験を行うことができるかを判断し、評価する。</p>					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>【他の授業科目との関連性】履修希望者は、第1Qの「プログラミング基礎」を履修済みであることが望ましい。</p> <p>【オフィスアワー】オフィスアワーは特に設定しないが、質問等がある場合は事前にメールでアポイントメントをとってください。</p> <p>【連絡先】 kyagi@tmu.ac.jp</p>					

2018年度以降入学生	シミュレーション	P0714	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	シミュレーション	P714	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	八木 恭子		後期Ⅰ	火曜日 3時限	火曜日 4時限	
①授業方針・テーマ	今日の金融市場に於いては、金利や為替・株式指数等の複数の経済指標を参照するハイブリッド証券や、モーゲージ、CDO等、多くの原資産価格を参照する金融派生証券が数多く存在している。そうした多次元の問題に対しては、偏微分方程式などの数値解法は所謂「次元の呪い」に苦しめられることが多い。これに対して有効と考えられているのがモンテカルロ法を中心とするシミュレーションである。本講義では、モンテカルロ法を中心としたコンピュータ・シミュレーションについて実際の数値実験も行いながら学習する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	モンテカルロ法を中心としたシミュレーション手法について、それぞれの問題への応用法やその際の注意等を、原理の理解とともに自ら数値実験を行うことを通して身につける。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>第1回 モンテカルロ法の原理 モンテカルロシミュレーションの原理や大数の法則、信頼区間等について学習し、ヨーロッパオプションの価格評価を学ぶ。</p> <p>第2回 エキゾチック・オプションの評価 ルックバック、アベレージ、バリアオプション等のエキゾチックオプションや、多変数に依存するデリバティブについてモンテカルロ法を用いた価格評価を学ぶ。</p> <p>第3回 乱数生成 与えられた一様（疑似）乱数から、目的の分布に従う乱数を得る方法について学ぶ。</p> <p>第4-6回 分散減少法 負の相関法、層化抽出法、制御変量法等の分散減少法について学び、実際にプログラムを作成し数値計算を行うことで、様々な性質や注意について実際に学ぶ。</p> <p>第7回 Greeks モンテカルロ法によるリスク感応度（Greeks）の計算手法について学ぶ。</p> <p>第8回 準乱数 準乱数を用いたモンテカルロ法について学ぶ。</p> <p>第9-10回 アメリカン・オプションの評価① アメリカン・オプションに対するモンテカルロ法の応用として、Least-Square法を中心に学ぶ。</p> <p>第11回 アメリカン・オプションの評価② アメリカン・オプションに対するモンテカルロ法の応用として、Duality法を中心に学ぶ。</p> <p>第12回 演習① 第9-11回で学んだ方法について、実際にプログラムを作成し数値計算を行うことで、様々な性質や注意について実際に学ぶ。</p> <p>第13回 離散近似法 Euler-Maruyama法やMilstein法等の離散近似手法について学ぶ。</p> <p>第14回 演習② 第13回で学んだ方法について、実際にプログラムを作成し数値計算を行うことで、様々な性質や注意について実際に学ぶ。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>【授業方法】 各項目の講義を行った後、演習を実施する。</p> <p>【授業外学習】 演習終了時に出す課題について、レポートを作成して提出すること。</p>					
④テキスト・参考書等	テキスト：湯前祥二・鈴木輝好著「モンテカルロ法の金融工学への応用」（朝倉書店 2000年）定価3,888円					
⑤成績評価方法	数回のレポート課題で総合的に評価する。 ・レポート課題については、到達目標に基づき、モンテカルロ法を中心としたシミュレーション手法について、それぞれの問題への応用法やその際の注意等を、原理の理解とともに自ら数値実験を行うことができているかを判断し、評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>【他の授業科目との関連性】 履修希望者は、第1Qの「プログラミング基礎」を履修済みであることが望ましい。</p> <p>【オフィスアワー】 オフィスアワーは特に設定しないが、質問等がある場合は事前にメールでアポイントメントをとってください。</p> <p>【連絡先】 kyagi@tmu.ac.jp</p>					

2018年度以降入学生	確率解析	P0715	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	確率解析	P715	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅱ	研究者養成	2単位
担当教員	足立 高德		前期Ⅰ	月曜日 4時限	水曜日 4時限	
①授業方針・テーマ	金融工学、数理ファイナンスの理解に必要な基礎的な数学（特に初等確率論）を学び、確率解析に必要な基礎的計算力を固める。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	確率統計についての盤石な知識をもとに科学的に推定・検定を行えるようになる。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概観、高校数学の復習Ⅰ(順列と組み合わせ、集合と写像) 2. 高校数学の復習Ⅱ(等差数列、等比数列、2項定理) 3. 確率論の基礎概念(確率空間、確率変数、期待値、分散) 4. 離散確率分布Ⅰ(ベルヌーイ分布、2項分布、幾何分布) 5. 離散確率分布Ⅱ(離散一様分布、ポアソン分布) 6. 離散確率分布Ⅲ(超幾何分布) 7. 連続確率分布Ⅰ(確率密度関数、確率分布関数) 8. 連続確率分布Ⅱ(ガンマ関数、ベータ関数) 9. 連続確率分布Ⅲ(一様分布、指数分布、正規分布、ガンマ分布、ベータ分布) 10. 連続確率分布Ⅳ(χ二乗分布、t分布、F分布、対数正規分布) 11. 連続確率分布Ⅴ(確率母関数、モーメント母関数) 12. 連続確率分布Ⅵ(大数の法則、中心極限定理、多次元連続確率分布) 13. 連続確率分布Ⅶ(確率分布の和・差・積・商) 14. 統計Ⅰ(統計量、区間推定) 15. 統計Ⅱ(検定、最尤推定、回帰分析) 16. 期末試験 <p>[授業方法] 板書を用いた講述</p> <p>[授業外学習] 演習問題に取り組む。</p>					
④テキスト・参考書等	(テキスト) 藤田岳彦「弱点克服・大学生の確率・統計」、東京図書 2010. (参考書) K.L. Chung, "A Course in Probability Theory", 3rd ed., Academic Press 2001. M. Capinski and E. Kopp, "Measure, Integral and Probability", 2nd ed., Springer 2004. D. Williams, "Probability and Martingales", Cambridge University Press 1991. 原啓介「測度・確率・ルベーグ積分」、講談社 2017. G. Casella and R.L. Berger, "Statistical Inference", 2nd ed., Duxbury 2002.					
⑤成績評価方法	課題レポート+期末試験+若干の平常点					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	テキスト1章－6章の基本+標準問題(47単元)を解く。 授業中に解けなかった問題は必ず復習して解き、課題も必ず提出すること。 [オフィスアワー] 月曜日、水曜日 17:30－19:00 とする。					

2018年度以降入学生	上級確率解析	P0716	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	上級確率解析	P716	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅱ	研究者養成	2単位
担当教員	足立 高德		後期Ⅱ	火曜日 3時限	金曜日 3時限	
①授業方針・テーマ	伊藤解析の基礎を学ぶ。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	伊藤の公式を使いこなし、ギルサノフ・丸山の定理やキャメロン・マルティンの定理を使ってデリバティブの価格を計算できる力を身につける。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概観、デリバティブ、現在価値、無裁定 2. 2項1期間モデル、2項2期間モデル 3. リスク中立確率、ブラック・ショールズ偏差分方程式 4. ランダムウォーク、条件付き期待値 5. マルチンゲール、マルチンゲール表現定理 6. 離散伊藤公式、2項T期間モデルでのデリバティブ価格理論 7. 離散から連続へ 8. ブラウン運動、マルチンゲール 9. 伊藤の公式 10. 確率微分方程式 11. コルモゴロフ偏微分方程式 12. ギルサノフ・丸山の定理 13. キャメロン・マルティンの定理 14. ブラック・ショールズ・モデル 15. エキゾティック・オプション 16. 期末試験 <p>【授業方法】 板書を用いた講述</p> <p>【授業外講習】 演習問題に取り組む。</p>					
④テキスト・参考書等	(テキスト) 藤田岳彦「新版 ファイナンスの確率解析入門」、講談社 2017。 (参考書) S.E. Shreve, "Stochastic Calculus for Finance I, The Binomial Asset Pricing Model", Springer 2005. S.E. Shreve, "Stochastic Calculus for Finance II, Continuous-Time Models", Springer 2004. J.M. Steele, "Stochastic Calculus and Financial Applications", Springer 2001.					
⑤成績評価方法	課題レポート＋期末試験＋若干の平常点					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	「確率解析」を履修していること。 授業中に理解が不十分だった例題や問題は必ず復習して解き、課題も必ず提出すること。 [オフィスアワー] 火曜日 15:45-17:15、金曜日 15:45-16:45					

2018年度以降入学生	金融における最適化	P0717	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	金融における最適化	P717	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅱ	研究者養成	2単位
担当教員	室田 一雄		前期Ⅱ	月曜日 3時限	水曜日 3時限	
①授業方針・テーマ	<p>ファイナンスのための最適化手法の概論である。 G. Cornuejols, R. Tutuncu: Optimization Methods in Finance, Cambridge University Press, 2006をテキストとし、最適化理論の枠組みとアルゴリズムの概要に重点を置いて解説する。 ファイナンスにおける最適化理論の応用例に触れるとともに、最適化ソフトウェアの利用法についても基礎事項を説明する。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>最適化の考え方とモデル化の枠組みとともに、最適化のもつ数学的な構造が問題解決に有効に利用できることを理解する。また、最適化ソフトウェアを使うための基礎的な技術を習得する。それによって、ファイナンスにおける数理解析力と問題解決力を習得する。</p>					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス、最適化手法へのイントロダクション 2. 線形計画法の理論 3. 線形計画法のアルゴリズム 4. 線形計画モデルの応用1：資産負債管理 5. 線形計画モデルの応用2：資産価格の基本定理 6. 非線形計画法：無制約最適化 7. 非線形計画法：制約付き最適化 8. 2次計画法：理論とアルゴリズム 9. 2次計画モデル：ポートフォリオ最適化 10. 錐計画法の理論：2次錐計画法、半正定値計画法 11. 整数計画法：理論とアルゴリズム 12. 動的計画法：理論と応用 13. 確率計画法：理論と応用（Value-at-Risk） 14. ロバスト最適化 15. 課題研究のプレゼンテーション <p>【授業方法】 板書による講義形式を基本とするが、講義の間に簡単な例題や課題を示し、学生の理解を確認しながら講義を進める。テキストの詳細を補う解説、より発展的な話題を扱う記事などをWEB上に資料の形で用意し、自主的な学習の手助けとする。</p> <p>【授業外学習】 講義の前にテキストに目を通してテーマを把握する（予習）。講義の後に、テキストと資料を読んで講義内容を確実に理解する（復習）。WEB上に提示される発展的な話題については、各自の興味に応じて自主的に取り組む。授業の内容に関連して出題される演習課題に取り組み、レポートを提出する（2回程度）。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ G. Cornuejols, R. Tutuncu: Optimization Methods in Finance, Cambridge University Press, 2006. <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福島雅夫：非線形最適化の基礎、朝倉書店、2001。 ・ 田村明久、村松正和：最適化法、共立出版、2002。 ・ 寒野善博、土谷隆：最適化と変分法、丸善出版、2014。 ・ 藤澤 克樹、後藤 順哉、安井 雄一郎：Excelで学ぶOR、オーム社、2011。 ・ 室田一雄、杉原正顯：線形代数I、II、丸善出版、2015、2013。 ・ 齋藤正彦：線型代数学、東京図書、2014。 ・ 齋藤正彦：線型代数入門、東京大学出版会、1966。 ・ 杉浦光夫：解析入門I、II、東京大学出版会、1980、1985。 ・ S. Boyd and L. Vandenberghe: Convex Optimization, Cambridge University Press, 2004. 					
⑤成績評価方法	出席状況とレポート課題により評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>【前提知識】 線形代数の基礎（行列の記法と演算など）、 解析学の基礎（多変数関数の微分など）、 確率論の基礎（確率分布、期待値など）。</p> <p>【オフィスアワー】 原則として木曜5限（メールでアポイントメントをとることが望ましい）。</p>					

2018年度以降入学生	金融データサイエンス	P0718	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	金融データサイエンス	P718	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅱ	研究者養成	2単位
担当教員	林 高樹		前期	木曜日		3時限
①授業方針・テーマ	<ul style="list-style-type: none"> 金融データの分析に有用な統計的データ分析の様々な手法について学習する。 古典的な統計的データ分析の手法ばかりでなく、今日発展の著しい「データサイエンス」の手法についても学び、金融分野への応用可能性について考える。 講義に加えて、授業内で適宜演習の時間を設ける。統計ソフトウェアとしてRを使用する。 					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 多変量解析を中心に統計的データ分析の諸手法について理解を広げ、目的に応じた分析手法を選べるようになる。 分析に使用するデータを自らの手で加工し、適切な手順で分析ができるようになる。 分析内容に関する口頭や文書によるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が向上する。 					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>1. 導入、R入門、記述統計量の計算、データの可視化 2-4. 分散分析、回帰分析 5-6. ロジット回帰分析、一般化線形モデル 7-8. 決定木分析、判別分析 9-10. 主成分分析、因子分析 11-12. 多次元尺度構成法、クラスター分析 13-14. アソシエーション分析、アンサンブル学習、サポート・ベクター・マシーン等 15. (期末試験) 課題プレゼンテーション、まとめ</p> <p>※受講生の理解度や興味等に応じて、授業内容は適宜更新される。 ※補習授業と連携を取りながら、授業運営を図る予定である。</p> <p>授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義とRによる実習を並行して授業を進める。授業内容の理解度を測定し、かつ理解を深めるために授業内容を踏まえた宿題を各セクションごとに出題する。 当科目には補習授業が併設される(担当: 小池祐太特任准教授)。授業内で出された宿題に関する解説授業の他、授業内でカバーしない補足的な内容や発展的内容についての講義や実習が行われる。 <p>授業外学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業終了後、授業内容を講義資料や参考書等で復習するとともに、授業内で出題された宿題に取り組み、指定された期日までに提出すること。 授業の内容理解を深め、コミュニケーション能力を高めるために、クラスメートとの間で授業内容に関する不明点や疑問点は積極的に話し合い、解消・解決に努めること。 					
④テキスト・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> 講義資料は、授業内で適宜配布する。 参考書(必ずしも購入は必要ない) <ul style="list-style-type: none"> (1) 金明哲「Rによるデータサイエンス」、森北出版。 (2) 山田・杉澤・村井「Rによるやさしい統計学」、オーム社。 その他の参考文献は、授業内で適宜指示する。 					
⑤成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業貢献(出席、発言等)20%、宿題30%、期末プレゼンテーション・レポート50% 期末プレゼンテーション・レポートのテーマについては、データ分析課題を出題する。具体的課題は授業内で出題する。 期末プレゼンテーション・レポートは、目的と結果の整合性、内容の新規性、分析手法の選択の妥当性、分析手順の正確性、分析結果の解釈の的確性・客観性、結論の有用性・説得性、文章表現やプレゼンテーションの巧拙等を総合的に判断して評価する。 					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>(他の授業科目との関連性)</p> <ul style="list-style-type: none"> 後期「金融時系列解析」履修希望者は、あらかじめ当科目を履修することが望ましい。 当科目の履修生は、併設される補習演習への出席が求められる。 <p>(オフィスアワー)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に設定しない、質問・相談がある場合には個別に対応する。(事前にメールでアポイントメントを取ることが望ましい) 					

2018年度以降入学生	金融時系列解析	P0719	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	金融時系列解析	P719	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅱ	研究者養成	2単位
担当教員	林 高樹		後期	木曜日		3時限
①授業方針・テーマ	<ul style="list-style-type: none"> 金融時系列モデリング・解析の主要な統計的方法論について学習する。理論を理解するだけでなく、実際のデータを分析する実践力を身につけることを目指す。 統計ソフトウェアとしてRを使用する。 					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 金融時系列解析の諸手法について理解を広げ、目的に応じた手法を選べるようになる。 自ら手を動かして、適切な手順で時系列解析を実践できるようになる。 分析内容に関する口頭や文書プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が向上する。 					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>1. 導入 時系列解析の基礎、金融時系列データの実証的特徴等。</p> <p>2-5. 線形モデル 定常性、自己相関関数、白色ノイズ、ARMAモデル、単位根非正常性、指数平滑化、季節性モデル、長期記憶モデル等。</p> <p>6-7. ボラティリティ・モデル ARCH/GARCHモデル、GARCHモデルの拡張、確率ボラティリティ・モデル等。</p> <p>8-10. 多変量時系列モデル クロス相関行列、VARMAモデル、Granger因果性、見せかけの相関、共和分、誤差修正モデル、多変量GARCHモデル等。</p> <p>11-12. 動的線形モデル 状態空間表現、カルマン・フィルター等。</p> <p>13-14. スペクトル解析 スペクトル密度、線形フィルター、伝達関数、ピリオドグラム等。</p> <p>15. (期末試験) 課題プレゼンテーション、まとめ</p> <p>※ 授業の進捗や受講生のバックグラウンドにより、授業内容の変更や順序の入替等の発生する可能性がある。また、受講生の興味や必要性に応じて、上記以外の内容(例、高頻度データ分析)も扱う。</p> <p>※ 補習授業と連携を取りながら、授業運営を図る予定である。</p> <p>授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義とRによる実習を並行して授業を進める。授業内容の理解度を測定し、かつ理解を深めるために授業内容を踏まえた宿題を各セクションごとに出題する。・当科目には補習授業が併設される(担当:小池祐太特任准教授)。授業内で出された宿題に関する解説授業の他、授業内でカバーしない補足的内容や発展的内容についての講義や実習が行われる。 <p>授業外学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業終了後、授業内容を講義資料や参考書等で復習するとともに、授業内で出題された宿題に取り組み、指定された期日までに提出すること。 授業の内容理解を深め、コミュニケーション能力を高めるために、クラスメートとの間で授業内容に関する不明点や疑問点は積極的に話し合い、解消・解決に努めること。 					
④テキスト・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> 講義資料は、授業内で適宜配布する。 参考書(必ずしも購入は必要ない) (1) Ruey S. Tsay, 'An Introduction to Analysis of Financial Data with R' (Wiley Series in Probability and Statistics), 2013. その他、必要に応じて授業内で指示する。 					
⑤成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業貢献(出席、発言等)20%、宿題30%、期末プレゼンテーション・レポート50% 期末プレゼンテーション・レポートのテーマについては、データ分析課題を出題する。具体的課題は授業内で出題する。 期末プレゼンテーション・レポートは、目的と結果の整合性、内容の新規性、分析手法の選択の妥当性、分析手順の正確性、分析結果の解釈の的確性・客観性、結論の有用性・説得性、文章表現やプレゼンテーションの巧拙等を総合的に判断して評価する。 					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>(他の授業科目との関連性)</p> <ul style="list-style-type: none"> 前期「金融データサイエンス」を履修済であることが望ましい。 当科目の履修生は、併設される補習演習への出席が求められる。(オフィスアワー) 特に設定しない。質問・相談がある場合には、個別に対応する。(事前にメールでアポイントメントを取ることが望ましい) 					

2018年度以降入学生	金融経済学	P0720	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	金融経済学	P720	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅱ	研究者養成	2単位
担当教員	原 千秋		前期	金曜日		2時限
①授業方針・テーマ	本講義では、ファイナンスと経済学の接点に位置する、金融経済学を概観する。ミクロ経済学と一般均衡理論の初等的な概念に触れつつ、証券価格とリスク配分を予測するための分析の枠組と、意思決定主体の効用関数（リスクに対する態度や時間割引率を含む）の特性とその含意を探る。均衡モデルの解釈や応用も随時紹介する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	簡単な証券市場の均衡モデルの証券価格とリスク配分を解く技法を習得することを目標とする。また、意思決定主体の効用関数の変化が、証券価格やリスク配分に与える影響を把握することも目指す。実務への応用のため、均衡モデルを正しく解釈することも重要である。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>講義内容を以下の通りに計画しているが、実際の進度は受講生のバックグラウンドなどに応じて決める。</p> <p>① 効用最大化と均衡 [効用最大化の定式化と解の一階の条件、完備市場、など]</p> <p>② 線形関数による証券の価格付け [一物一価の法則、状態価格の定義、など]</p> <p>③ 裁定取引と正值線形関数による証券の価格付け [裁定取引の定義、状態価格の正值性と裁定取引の非存在の同値性、など]</p> <p>④ 証券価格の評価 [ファイナンスの基本定理、不完備市場における証券の評価額の幅、など]</p> <p>⑤～⑥ 状態価格とリスク中立的確率 [ファイナンスの基本定理の証明、割引債とリスク中立的確率、など]</p> <p>⑦ 期待効用 [独立性公理、曖昧さ回避的効用関数、など]</p> <p>⑧～⑨ リスク回避的態度 [リスク回避度と効用関数の凹性、線形リスク許容度を持つ効用関数、など]</p> <p>⑩ リスク尺度 [確率論的独立性、確率的支配、など]</p> <p>⑪～⑫ 最適ポートフォリオ [平均分散効率的ポートフォリオ、リスクプレミアムなど]</p> <p>⑬～⑭ 最適ポートフォリオの比較静学 [富水準に関する比較静学、期待収益率に関する比較静学、など]</p> <p>⑮ リスクを伴う証券が複数存在する場合の最適ポートフォリオ [リスクプレミアムの含意、線形リスク許容度の最適ポートフォリオ、など]</p> <p>[授業方法] 授業内容に関連する数学的問題より成る宿題を毎週課す。受講生は問題を独力で解くことを試み、別途設けられた演習に出席し、その解法を演習担当者とともに確認することが求められる。</p> <p>[授業外学習] 指定した教科書を授業前に読んでおくこと、また、授業では網羅しなかった証明の細部を授業後に確認すること。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>Principles of Financial Economics' second edition, Stephen LeRoy and Werner, Cambridge University Pressを、教科書として用いる。</p> <p>Dynamic Asset Pricing Theory' third edition, Darrell Duffie, Princeton University Pressは、ファイナンス（特に価格付け）の標準的参考書である。</p> <p>Microeconomic Theory', Andreu Mas-Colell, Michael Whinston, Jerry Green, Oxford University Press. は、ミクロ経済学（特に需要理論、期待効用、一般均衡理論）の標準的参考書である。</p> <p>Jean-Pierre Danthine, John B. Donaldson著、日本証券アナリスト協会編集、祝迫・可児・佐野・中田訳、ときわ総合サービス刊「現代フェナンス分析 投資価格理論」も、本講義の内容を網羅する有用な参考書である。</p>					
⑤成績評価方法	数理的な問題より成る、期末テストの点数に基づいて評価する予定である。受講生の適性や希望に応じて、期末テストは持ち帰り形式とする。場合によっては、宿題の点数を加味することもある。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>学部レベルのミクロ経済学の知識を有していることが望ましいが、それがなくても、内容を十分に理解できるように、講義を進める予定である。</p> <p>[オフィスアワー] 面談希望者は、授業終了後（金曜日の昼休み）に直接その旨を告げること。</p>					

2018年度以降入学生	コーポレートファイナンス	P0721	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	ファイナンス特別講義 (コーポレートファイナンス)	P721	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅱ	研究者養成	2単位
担当教員	西原 理		夏季集中	その他	別途案内	
①授業方針・テーマ	ファイナンス理論は、投資家の観点から考察する「証券投資論」と企業家の立場から考察する「コーポレートファイナンス」に大別される。本講義は、後者の観点からファイナンス理論について概説する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本講義では、コーポレートファイナンスの中心課題である投資行動と資金調達との間の相互作用について、リアルオプション理論を用いて考察する。また、本講義では、リアルオプション理論を用いたコーポレートファイナンスの基礎的なモデルから最新のモデルまでを解説する。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>①イントロダクション コーポレートファイナンス、リアルオプションについて概説する。</p> <p>②～⑤リアルオプション 企業の資金調達を所与とした上で、投資プロジェクトの評価や企業の最適投資問題について紹介する。</p> <p>⑥～⑦資金調達問題 企業の投資行動を所与と上で、構造型モデルに基づく企業の資金調達方法について紹介する。また、企業の最適レバレッジ水準、負債のクレジットスプレッド、企業の倒産確率などの財務指標の計測方法について紹介する。</p> <p>⑧～⑫投資と資金調達の相互作用 企業の投資行動と資金調達の相互作用について紹介する。特に、投資行動と資金調達の双方を考慮した上で、企業の株式価値、負債価値、最適レバレッジ、負債のクレジットスプレッドなどの財務指標の計測方法について紹介する。</p> <p>⑬～⑮最新研究の紹介 最新の関連研究について紹介する。</p>					
④テキスト・参考書等	特に指定しない。適宜、参考文献を紹介する。					
⑤成績評価方法	平常点（出席や発表など）による評価					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	オフィスアワーについては、他大学勤務につき事前にメール等でアポイントメントをとること。					

2018年度以降入学生	ファイナンス特別講義 (証券市場の均衡分析)	P0722	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	ファイナンス特別講義 (証券市場の均衡分析)	P722	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅱ	研究者養成	2単位
担当教員	原 千秋		後期	金曜日		2時限
①授業方針・テーマ	本講義は、同じ担当者による前期開講科目「金融経済学」に引き続き、金融経済学の諸問題のうち、多期間モデル等、若干高度な内容を概観することを目的とする。ミクロ経済学と一般均衡理論の初等的な概念に触れつつ、不完備市場、平均分散分析、同値マルチンゲール測度等を解説する。均衡モデルの解釈や応用も随時紹介する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	証券市場の均衡モデルのうち、標準的だが若干複雑なモデルで証券価格とリスク配分を解く技法を習得することを目標とする。また、均衡分析から政策的含意を導く際の考え方を体得する。実務への応用のため、どのモデルがいかなる状況でもっとも良く当てはまるかを正しく理解することも重要である。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>講義内容を以下の通りに計画しているが、実際の進度は受講生のバックグラウンドなどに応じて決める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 消費に基づく証券価格付け [シャープ比、マーケットポートフォリオなど] ② 完備市場とパレート最適ナリスク配分 [完備市場におけるオプションの役割、線形リスク許容度のパレート最適配分など] ③ 不完備市場における最適性 [制約条件付き最適性、実質的完備市場、など] ④ 平均分散分析 [価格付けカーネル、確率的割引因子、など] ⑤ 平均分散フロンティア [平均分散フロンティアの導出、平均分散効率性、など] ⑥ 資産価格形成モデル (CAPM) [平均分散効用関数、正規分布に従う証券リターン、など] ⑦ ファクターによる価格付け [ファクター構造、価格付け誤差、など] ⑧ 多期間証券市場モデルにおける均衡 [フィルトレーション、効用最大化問題の定式化、など] ⑨ 多期間モデルにおける裁定取引と正值線形関数による証券の価格付け [一物一価の法則、線形価格付け、など] ⑩ 動学的に完備な市場 [二項モデルにおける動学的に完備な市場、パレート最適均衡配分、など] ⑪ 多期間モデルにおける証券価格の評価 [多期間モデルにおける評価関数、ファイナンスの基本定理、など] ⑫ 多期間モデルにおけるリスク中立的確率と価格付けカーネル [リスク中立的確率の下での期待リターン、証券の評価額の幅、など] ⑬ ポートフォリオ収益のマルチンゲール性 [収益過程の定義、自己充足的ポートフォリオの収益、など] ⑭ 多期間モデルにおける消費に基づく証券価格付け [条件付き分散、時間に関して加法分離的な効用関数による価格付け、など] ⑮ 多期間の資産価格形成モデル [二次効用関数による価格付け、マーケットポートフォリオなど] <p>[授業方法] 授業内容に関連する数学的問題より成る宿題を毎週課す。受講生は問題を独力で解くことを試み、別途設けられた演習に出席し、その解法を演習担当者とともに確認することが求められる。</p> <p>[授業外学習] 指定した教科書を授業前に読んでおくこと、また、授業では網羅しなかった証明の細部を授業後に確認すること。</p>					
④テキスト・参考書等	Principles of Financial Economics second edition, Stephen LeRoy and Jan Werner, Cambridge University Press を、教科書として用いる。 Dynamic Asset Pricing Theory third edition, Darrell Duffie, Princeton University Press は、ファイナンス（特に価格付け）の標準的参考書である。 Microeconomic Theory, Andreu Mas-Colell, Michael Whinston, Jerry Green, Oxford University Press. は、ミクロ経済学（特に需要理論、期待効用、一般均衡理論）の標準的参考書である Jean-Pierre Danthine, John B. Donaldson 著、日本証券アナリスト協会編集、祝迫・可児・佐野・中田訳、ときわ総合サービス刊「現代フェナンス分析 投資価格理論」も、本講義の内容を網羅する有用な参考書である。					
⑤成績評価方法	数理的な問題より成る、期末テストの点数に基づいて評価する予定である。受講生の適性や希望に応じて、期末テストは持ち帰り形式とする。場合によっては、宿題の点数を加味することもある。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	前期開講の「金融経済学」を受講したことを前提として、講義は進められる。 [オフィスアワー] 面談希望者は、授業終了後（金曜日の昼休み）に直接その旨を告げること。					

2018年度以降入学生	ファイナンス特別講義 (Bloombergを活用した定量分析)	P0725	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	ファイナンス特別講義 (Bloombergを活用した定量分析)	P725	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅱ	研究者養成	2単位
担当教員	内山 朋規、竹原 浩太 室町 幸雄		夏季集中	別途案内		
①授業方針・テーマ	金融の実務において頻繁に使用されるBloombergの端末で、実際にデータにアクセスしながらさまざまな基本的テーマに関する演習を行う。金融実務では適切なデータへのアクセスと定量分析手法の選択が重要であり、広範な種類のデータを保有し、かつ広範な分析ツールを備えたBloombergがよく使われるが、その使い方は決して簡単ではない。そこで、エキスパートの指導のもと、自分で端末を操作しながらさまざまなテーマの演習を行うことで、データへのアクセス方法と定量分析手法の取り扱いに習熟する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	Bloomberg端末の基本的な使用方法、データへのアクセス方法、データの定量分析ツールの使用方法と結果の解釈に習熟する。到達目標は、自分でBloombergの端末から必要なデータにアクセスし、定量分析ツールを駆使して必要とする分析を行えるようになることである。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>毎回、1テーマごとに2コマ連続で講義を行う。前半に教員が理論的な説明を行い、後半にBloombergを用いた実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 債券 金利スワップ、アセットスワップ、Zスプレッド、OAS 2. 物価連動債とインフレスワップ 物価連動債、インフレスワップ 3. クレジットデリバティブ クレジット・デフォルト・スワップ (CDS)、クレジットリンク債 4. オプションとインプライド・ボラティリティ 上場オプション、Blackモデル、Normalモデル、インプライド・ボラティリティ (IV) 5. スワップション Cap, Floor, スワップション、キャリブレーション 6. 金利モデル Hull-Whiteモデル、Libor Market Model (LMM) 7. 株式ポートフォリオ ポートフォリオの最適化、ファクターモデル、リスク管理、リターンの寄与度分解 8. VIX、バリエーションスワップ モデルフリー・インプライド・ボラティリティ (MFIV)、ボラティリティ・デリバティブ <p>授業外学習：資料をもとに復習をすること。特に、演習課題に関する復習は必須である。</p>					
④テキスト・参考書等	講義前あるいは講義時に配布。					
⑤成績評価方法	毎回の演習課題の内容で評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	集中講義のため、オフィスアワーは特に設定しない。必要があれば講義の前後の時間を使うこと。					

2018年度以降入学生	金融工学特別講義 (Quantitative Investment and Trading)	P0728	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2 単位
2017年度以前入学生	金融工学特別講義 (Quantitative Investment and Trading)	P728	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅱ	研究者養成	2 単位
担当教員	Christopher Hian Ann TING		夏季集中	別途案内		
①授業方針・テーマ	The industry landscape of investment, trading, and risk management has been revolutionized by computing technologies, data science, and financial engineering. To progress in tandem with the changes in the industry, the topics covered in this course include Alternative ETF Construction, Market Microstructure, and Algorithmic Trading. In addition to mathematical modeling, an important part of this course is the practical aspect: computational implementations with statistical tests. Given that implementation and test procedures are involved, this quantitative finance course is algorithmic and hands-on in nature.					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>The objective is to help you understand deeply by applying various algorithms to solve problems of practical relevance to the financial institutions. By the end of this course, you will be able to, for example,</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Compute the Nikkei 225 Index from its component stocks, and the fair value of Nikkei 225 futures contract; 2. Distinguish which stock price is a random walk and which is not; 3. Construct "smart" beta using variance ratio and other exotic factors; 4. Evaluate the effect of a quarterly earnings announcement on stock price; 5. Estimate the liquidity parameters; 6. Design optimal trading strategy for agency execution of large order. <p>To facilitate effective learning, a mini project will be introduced to help you apply the algorithms for designing and evaluating exotic beta portfolio against TOPIX.</p>					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction Recent evolution of Quantitative Finance, Nikkei 225 Index: A Case Study, Fundamental Indexation • Python programming, Project description, requirements, data 2. Random Walks 3. Event Study How does stock price react to new information? • Abnormal return, cumulative abnormal return • Long-short trading strategy in event study 4. Multi-Factor Analysis of Expected Returns Factor neutral portfolio construction, Arbitrage pricing theory, French's data library, ETFs 5. Principal Component Analysis Matrix Calculus, PCA Eigenvector, Singular Vector Decomposition, PCA of Yield Curve 6. Summary Test, Students' Presentation of Project Ideas 7. Introduction to Market Microstructure Liquidity, Limit Order Markets, Quoted Spread, Effective Spread, Realized Spread, Off-line Collection of Bloomberg Tick Data with Python API 8. The Roll Model of Trade Prices Statistical Analysis of Price Series, The Roll Model of Bid, Ask and Transaction Prices, Extensions of the Roll Model 9. Univariate Time Series Analysis Stationarity and Ergodicity, Moving Average Models, Autoregressive Models, Estimation and Forecasting, Strengths and Weaknesses of Linear Time Series Models 10. A Generalized Roll Model of Trade Prices The Structural Model, Statistical Representations, Forecasting and Filtering, Identification in Random-Walk Decompositions 11. Hands-on Programming Implementation of the Roll Model, Implementation of Tee and Ting's Structural Model 12. Multivariate Linear Microstructure Models Modeling Vector Time Series, A Structural Model of Prices and Trades, Resolution of Contemporaneous Effects, The Random-Walk Variance 13. Market Microstructure of Algo Trading Overview of algorithmic agency execution, The Almgren-Chriss model, Implementation shortfall algorithm 14. Market Price of Liquidity Risk and Liquidity Index Price impact, Market price of liquidity risk, Liquidity index 15. Student Project Presentations 					
④テキスト・参考書等	Empirical Market Microstructure: The Institutions, Economics, and Econometrics of Securities Trading, Joel Hasbrouck, Oxford University Press (2007)					
⑤成績評価方法	Homework : 20% Project : 20% Test : 10% Final : 50%					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	Programming Languages Python [2.7.13 —Anaconda 2 -4.1.1 (64-bit)] Questions can be received in the classes.					

2018年度以降入学生	経営学特別演習 (マクロ組織論)	P0040	経営学必修 (選択)	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特別演習	P040	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	高橋 勅徳、桑田 耕太郎		後期	土曜日	1時限、2時限	
①授業方針・テーマ	組織理論(マクロ組織論、制度派組織論、組織変革等)で修士論文等を執筆する予定の学生を対象に、基礎的な文献を学習しつつ、論文のテーマを絞り込んでいくことを目的とする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	組織理論(マクロ組織論、制度論、組織変革論)の基礎的文献に関する知識を習得すると共に、修士論文等を作成の研究計画の策定していくことを到達目標とする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>本講義では、マクロ組織論、制度派組織論、組織変革論の古典の輪読を行うと共に、修士論文作成を前提とした研究計画の報告会を行う。</p> <p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 研究計画報告 第3回 研究計画報告 第4回 輪読 第5回 輪読 第6回 研究計画報告 第7回 研究計画報告 第8回 輪読 第9回 輪読 第10回 研究計画報告 第11回 研究計画報告 第12回 輪読 第13回 輪読 第14回 研究計画報告 第15回 研究計画報告</p> <p>授業外学習</p> <p>各回の課題テキストを当日までに熟読すること。 輪読および研究計画報告の担当者は、報告レジュメを用意すること。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>随時指定する。</p> <p>各自の問題意識に応じて必要文献を紹介するので、随時相談に来ること。</p>					
⑤成績評価方法	修士論文等の問題意識や方向性が明確になっているかどうかを評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	原則として、ビジネスイノベーション特別演習の授業と変則交代で開講するため、開講日程に十分注意すること。2コマ連続授業であるため、欠席しないで授業に積極的に参加すること。					

2018年度以降入学生	経営学特別演習 (ミクロ組織論)	P0022	経営学必修 (選択)	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特別演習	P022	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	長瀬 勝彦、高尾 義明 西村 孝史		後期	火曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	組織行動論、ヒューマン・リソース・マネジメント (人材マネジメント/人的資源管理論)、および行動意思決定論についての知識を深めるとともに、これらの分野を研究するための研究方法について解説します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・組織行動論、ヒューマン・リソース・マネジメント (人材マネジメント/人的資源管理論)、および行動意思決定論に関する文献講読を通じて、これらの領域における理論枠組みについての理解を深める。 ・受講生が当該領域についての学術的かつ独自の問題意識を見出し、修士論文・課題研究論文の土台を作る。 ・文献講読でのディスカッションを通じて、研究を進展させるために不可欠なアカデミック・コミュニケーションを円滑に行う能力を身につける。 					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>前半の授業では、1コマで1～2本の論文を読み、原則として文献ごとに決めた発表担当者が文献内容を発表したうえで、それに基づくディスカッションを行います。後半の授業では、各自が探したレビュー論文を紹介してもらうことや研究計画書を発表してもらうことを予定しています。第1回で受講生の関心を把握し、それを踏まえて論文を決定しますので、どのような論文を取り上げるかについては第2回で説明します。</p> <p>【授業方法】 上記のように、文献講読とそれに基づくディスカッションが中心です。</p> <p>【授業外学習】 毎回の文献を事前に講読してくること、発表を担当する際には文献のレジュメ (要約) を作成することが求められます。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>毎回講読する文献については事前に配付します。</p> <p>以下は参考書です。</p> <p>[1] 宇島基博 (2004) 『人材マネジメント入門』 (日本経済新聞社、本体 830円)</p> <p>[2] 今野浩一郎 (2009) 『人事管理入門 第2版』 (日本経済新聞社、本体 3,000円)</p> <p>[3] 佐藤博樹・藤村博之・八代充史 (2015) 『新しい人事労務管理 第5版』 (有斐閣、本体 2,000円)</p> <p>[4] Robbins, S.P. (2005).Essentials of Organizational Behavior, 8th Edition Prentice-Hall (高木晴夫訳 (2009) 『組織行動のマネジメント』 (ダイヤモンド社、本体 2,800円)</p> <p>[5] 二村敏子 (2004) 『現代ミクロ組織論』 (有斐閣、本体 2,400円)</p> <p>[6] Bazerman, Max H. and Don A. Moore (2008) Judgment in Managerial Decision Making, 7th Edition, Wiley. (長瀬勝彦訳 (2011) 『行動意思決定論：バイアスの罠』 白桃書房、本体 3,800円)</p>					
⑤成績評価方法	授業への参加、発表の担当をはじめとした積極的貢献 (80%) 及びレポート (20%) により評価します。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>【他の授業科目との関連性】 「ヒューマン・リソース・マネジメント」、「経営組織」、「組織行動」、「意思決定」から1科目以上を履修済み (または履修中) であることが望ましい。</p> <p>【オフィスアワー】 オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメールでアポイントメントをとってください。</p> <p>【連絡先】 高尾 (ytakao@tmu.ac.jp)、西村 (nishimura@tmu.ac.jp)、または長瀬 (nagase@tmu.ac.jp)</p> <p>【その他】 資料は原則としてkibaco(web上) にアップします。</p>					

2018年度以降入学生	経営学特別演習（経営戦略）	P0047	経営学必修 （選択）	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特別演習	P047	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	松田 千恵子、松尾 隆 竹田 陽子		後期	土曜日	4時限	
①授業方針・テーマ	経営学特別演習は、演習参加者の問題意識の醸成、研究課題の深掘、研究計画書の精緻化を目的として開講する。前半に、研究方法論についての実習を行い、後半は専門的な研究の実例に触れ研究手法などを学ぶことで、自身の研究の指針とする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	同上					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>① オリエンテーション（研究に向かうマインドセット）（松尾）</p> <p>② 研究領域の決定と既存研究のサーベイ（松尾）</p> <p>③ 研究領域のマップ作成（松尾）</p> <p>④ キー論文の精読（松尾）</p> <p>⑤ 研究テーマ、仮説の決定（松尾）</p> <p>⑥ リサーチデザイン（竹田）</p> <p>⑦ 質的研究・概念構築実習（竹田）</p> <p>⑧ 質的研究・概念構築実習（竹田）</p> <p>⑨ 質的研究・概念構築実習発表（竹田）</p> <p>⑩ リサーチデザインのまとめ（竹田）</p> <p>⑪ 研究計画作成にあたっての具体的なポイント（松田）</p> <p>⑫ 経営戦略分野における研究手法:定量分析の基礎（1）ーイベントスタディ、パフォーマンススタディ等（松田）</p> <p>⑬ 経営戦略分野における研究手法:定量分析の基礎（2）ーケーススタディ等（松田）</p> <p>⑭ 経営戦略分野における研究手法:定量分析の基礎（3）ーインタビュー、アンケート等（松田）</p> <p>⑮ 研究計画の発表とディスカッション（松田）</p> <p>授業外学習 授業で出される個別課題の準備のほか、自分自身の研究計画を精緻化する作業を継続しておこなう必要がある</p>					
④テキスト・参考書等	<p>・適宜パワーポイント等の資料を使用することがある</p> <p>・その他、参考書としては以下の通り。</p> <p>[1] 楠木建『ストーリーとしての競争戦略論』東洋経済新報社</p> <p>[2] 藤本隆宏他『ビジネスアーキテクチャ』有斐閣</p> <p>[3] 吉原英樹他『日本企業の多角化戦略』日本経済新聞社</p> <p>[4] ロバート・C・ヒギンズ『新版ファイナンシャル・マネジメントー企業財務の理論と実践』ダイヤモンド社</p> <p>[5] ティム・コラー他『企業価値評価第5版【上】【下】』ダイヤモンド社</p> <p>[6] 松田千恵子『グループ経営入門』税務経理協会</p> <p>[7] 松田千恵子『コーポレートファイナンス実務の教科書』日本実業出版社</p> <p>[8] 森田果『実証分析入門』日本評論社</p> <p>[9] G.キング他『社会科学のリサーチ・デザインー定性的研究における科学的推論』勁草書房</p> <p>[10] 久米郁男『原因を推論する 政治分析方法論のすゝめ』有斐閣</p> <p>[11] R.イン『ケース・スタディの方法』千倉書房</p> <p>[12] 藤本隆宏他『経営学研究法』有斐閣</p> <p>[13] 山本勲『実証分析のための計量経済学』中央経済社</p> <p>[14] 久保拓弥『データ解析のための統計モデリング入門』岩波書店 ほか</p>					
⑤成績評価方法	課題の発表内容とディスカッション参加度により評価する					
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	<p>前期に、経営戦略論、経営戦略演習、経営学演習（上記担当教員による）のいずれかの講義を受講していること</p> <p>オフィスアワーは特に設けていませんが、質問等はメールでアポイントメントをとってください。教員のメールアドレスは授業中に伝えます。</p>					

2018年度以降入学生	経営学特別演習（会計学）	P0014	経営学必修 （選択）	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特別演習	P014	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	野口 昌良、浅野 敬志 細海 昌一郎		後期	水曜日		5時限
①授業方針・テーマ	会計学研究に必要と思われる基礎知識の修得を目標とする。会計学研究の手引書からセレクトしたいいくつかの論文をとりあげ、基礎的な知識・手法の修得に努めた後に、学術雑誌に掲載された論文を検討することによってその実践方法を理解してもらいたい。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 会計学研究に必要と思われる基礎知識を修得することができる。 2. 1. をベースにした会計学研究の分析手法を修得することができる。 					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】 指定したテキストの構成に基づく授業計画は次のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. -3. 研究アイデアの展開 4. -5. 理論・文献・仮説 6. データ収集 7. データ分析 8. -9. 実験的研究 10. -11. サーベイ研究 12. -13. フィールドワーク 14. -15. アーカイバル研究 <p>【授業方法】 指定したテキストおよび論文の内容に関する、履修学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心とした授業を実施するが、適宜レポート課題（一部グループワークの形式も取り入れる予定）も実施して、学生の理解度を確認しながら、到達目標に必要な知識の修得に努める。</p> <p>【授業外学習】 指定したテキストの内容の予習・復習（レポート課題の実施を含む）が必要となる。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 マルコム・スミス著／平松一夫監修『会計学の研究方法』（中央経済社、2015年）</p> <p>【参考書等】 適宜指示する予定である。</p>					
⑤成績評価方法	<p>プレゼンテーション（60%）とディスカッション（40%）のクオリティに基づいて評価する。レポート課題が提示された場合は、プレゼンテーションに加算するかたちで調整する。</p> <p>到達目標に照らして、会計学研究に関する基礎的知識を修得しているか否かが重要な評価ポイントとなる。</p>					
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	<p>【他の授業科目との関連性】 学部レベルの財務会計に関する知識を前提にディスカッションを実施するため、そうした知識の事前修得が望ましい。</p> <p>【オフィスアワー】 水曜日の3時限目とするが、メールによる質問も受け付ける。</p>					

2018年度以降入学生	経営学特別演習 (マネジメントサイエンス)	P0021	経営学必修 (選択)	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特別演習	P021	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	室田 一雄、森口 聡子 山下 英明		後期	金曜日		5時限
①授業方針・テーマ	実社会における経営科学をテーマとし、経営科学、オペレーションズ・リサーチの事例研究や最近の研究動向をサーベイする。 解説記事、研究論文などを受講生に割り当て、授業中に受講生各自がその内容について解説する輪読方式を採用する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	以下を習得することを目的とする。 1. 経営科学が実社会においてどのように役立っているか 2. オペレーションズ・リサーチ、数理計画による経営上の問題の解決法、意思決定能力 3. 数理モデル化の技術					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実社会におけるオペレーションズ・リサーチ 2. 数理モデルとシミュレーション 3. 待ち行列理論（1）混雑現象 4. 待ち行列理論（2）キャッシュのモデル化 5. 待ち行列理論（3）コールセンター 6. 数理計画を用いた意思決定 7. 計算機（コンピュータ）による求解と計算複雑度 8. 線形計画問題（1）解法 9. 線形計画問題（2）生産計画への応用 10. グラフ理論とネットワーク計画（1）ロジスティクス 11. グラフ理論とネットワーク計画（2）都市計画とネットワークデザイン 12. 組合せ最適化（1）施設配置計画 13. 組合せ最適化（2）シフトスケジューリング 14. 組合せ最適化（3）発見的解法、メタヒューリスティクス 15. 在庫管理とSCM <p>【授業方法】 解説記事、研究論文などを受講生に割り当て、授業中に受講生各自がその内容について解説する輪読方式を採用する。演習に対する発表も求める。</p> <p>【授業外学習】 テキスト・論文の担当者は、本質的な内容を理解し、わかりやすく説明できる（講義ができる）ように準備をしていくこと。</p>					
④テキスト・参考書等	上記の解説記事、研究論文を教材として用いる、教材は配付する。					
⑤成績評価方法	授業中の発表、平常の理解度、レポートに基づいて評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>【前提知識】 マネジメント・サイエンスⅠ、Ⅱを履修済みであることが望ましい。</p> <p>【オフィスアワー】 授業内容の質問については、まず質問者がメールで教員に連絡し、必要があれば教員が面談の日時を質問者と相談の上設定する方式をとる。各教員のメールアドレス等、詳しくは初回の授業において説明する。</p>					

2018年度以降入学生	経営学特別演習 (マーケティング)	P0046	経営学必修 (選択)	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特別演習	P046	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	水越 康介、森 治憲		後期	土曜日	4時限	
①授業方針・テーマ	演習では、主にマーケティング論に関する問題認識の醸成を目的として、先行研究を読み解くとともに、研究方針の検討を行います。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	まず、伝統的な心理学的アプローチを基本に据え、消費者行動の基礎的な理論から先端的な研究動向について学び、その後、具体的な商品やサービスの事例を通して、マーケティング戦略を実行するためのデータ解析の手順や手法について学習する。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>①先行研究の輪読と分析 (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『消費者理解のための 定性的マーケティング・リサーチ』(R.Belk他) ・『1からのマーケティング分析』(恩藏直人、富田健司) <p>②研究方針の検討</p> <p>※具体的な内容については、参加者との打ち合わせを経て変更の可能性がある。</p> <p>【授業外学習】 輪読のための準備や実習課題などを、適宜、自宅学習の課題として設定する予定である。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>テキスト</p> <p>『消費者理解のための 定性的マーケティング・リサーチ』(R.Belk他)</p> <p>『1からのマーケティング分析』(恩藏直人、富田健司)</p> <p>参考書</p> <p>『新しい消費者行動』(清水聡)</p> <p>『マーケティング思考の可能性』(石井淳蔵)</p> <p>『マーケティング入門』(小川孔輔)</p> <p>『マーケティング・サイエンスの基礎』(朝野熙彦)</p>					
⑤成績評価方法	出席状況と、報告・発表内容によって総合的に評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	マーケティング・マネジメント特論、マーケティング・サイエンス特論、マーケティング・サイエンス特別演習を受講していることが望ましい。					

2018年度以降入学生	経済学特別演習 (マクロ経済学)	P0220	経営学C	経済学必修 (選択)	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習 (マクロ経済学)	P697	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	村田 啓子、脇田 成、荒戸 寛樹		後期	水曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	マクロ経済学および隣接分野において修士論文を作成することを希望する学生が、それに必要な能力を習得する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・マクロ経済学および隣接分野に関する文献を読みこなす能力を養う。 ・論文の結果を再現する解析的手法・数値解法に習熟する。 ・仮定の変更に対する結果の頑健性を調べることができるようになる。 					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>《授業計画・内容》</p> <p>第1回の授業で、扱う論文を決定し、参加学生に報告を割り当てる。 第2回以降は参加学生による報告とディスカッションを行う。</p> <p>【第1回】ガイダンス 【第2回～第5回】論文1 【第6回～第9回】論文2 【第10回】中間発表会（予定） 【第11回～第14回】論文3 【第15回】最終報告会</p> <p>※参加する学生の人数によって計画は変更される可能性があるため、第1回の授業に必ず参加すること。</p> <p>《授業方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済学特別演習はゼミナール形式で行う。学生による報告が主体となるので、予習は必須である。 ・3人の教員がリレー形式で行うが、ガイダンス・中間報告会・最終報告会は3人の教員が参加する。また、その他の回でも複数の教員が参加する場合がある。 <p>《授業外学習》</p> <p>与えられた論文を熟読・理解した上で報告を準備すること。 その際、先行研究についてもレビューするのが望ましい。</p>					
④テキスト・参考書等	指定しない。 第1回の授業にて文献を指定する。					
⑤成績評価方法	報告の水準およびディスカッションへの参加度を総合的に判断して評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>大学院経済学プログラム提供科目の「マクロ経済学」・「ミクロ経済学」・「計量経済学」の単位を取得済みであることを履修の前提とする。</p> <p>《オフィス・アワー》</p> <p>特に設定しないが、質問がある場合は各教員が受け付ける。メール等でアポイントメントを取ること。</p>					

2018年度以降入学生	経済学特別演習 (ミクロ経済学)	P0221	経営学C	経済学必修 (選択)	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習 (ミクロ経済学)	P698	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	飯村 卓也、渡辺 隆裕 森本 脩平		後期	月曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	ミクロ経済学の応用：サーベイと試論、三人の教員によるオムニバス演習					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本演習の目的は、ミクロ経済学の応用例に幅広く触れ、自らモデルを構築し、解析する能力を涵養することである。受講生は、紹介される種々のExamplesを理解し、発展の方向を考え、最終的にはモデルを使った応用ミクロ経済分析の試論を試みる。この経験によって、受講生は修士論文執筆のための基礎を獲得することが期待される。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画】 以下の計画で行う。なお、2018年度のテキストは「産業組織」を予定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2－4. テキスト講読Part A. 5－7. テキスト講読Part B. 8－9. テキスト講読Part C. 10. 中間報告 11－13. 試論作成 14－15. 最終報告 <p>【授業方法】 ガイダンスのあとの8回は、ミクロ経済学分野の三人の教員がA、B、Cの各パートを一人一つずつ担当して、テキスト講読を主体とした演習を行う。受講生はこの間に、自分が取り組む試論のテーマを決定する。なお受講生には各パートの最後に、簡単なレポートを提出してもらう。第10回の中間報告では、各自のテーマを報告してもらう。続く3回は試論作成に向けて、受講生の報告を主体とした演習を行う。最後に、受講生による試論の発表会を行う。これらの演習を通じて、受講生は修士論文に向けた準備を行うことになる。</p> <p>【授業外学習】 レポート作成、テーマの策定、中間報告の準備、最終報告の準備は、いずれも授業外の時間で行う</p>					
④テキスト・参考書等	テキスト：Oz Shy (1996), Industrial Organization: Theory and Applications, MIT Press; Jean Tirole (1988), The Theory of Industrial Organization, MIT Press、などのなかから選んで開講時に指示をする。その他参考にすべき必要な文献は随時指示をする。					
⑤成績評価方法	各パートのレポートの評価(20%×3)と中間・最終報告の評価40%で行う。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>【オフィスアワー】 質問をしたい教員に、メール等でアポイントメントをとって下さい。</p>					

2018年度以降入学生	経済学特別演習(計量経済学)	P0222	経営学C	経済学必修 (選択)	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習(計量経済学)	P699	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	飯星 博邦、田中 敬一 小方 浩明		後期	火曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	事前に渡すリーディングリストに掲載されている既存研究論文1本を参加学生各自が選び、その応用(理論の発展、異なる実証方法の検討、異なるデータの分析等)や再検証を考え、研究の成果をレポート(論文の形式に沿った構成と内容)として纏める。その成果が修士論文執筆の基礎となる。最終的にはレポートを完成させることが目的であるが、レポートの執筆は各自が授業外の時間で行う。授業中にはそのために必要な事項や分析方法等について教員がアドバイスする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	修士論文執筆のために必要な、論文の読み方・書き方、分析方法やその注意点、データの入手・処理方法などを会得することが目標である。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】 リーディングリストの論文を読むために必要な知識やトピックス等について教員が講義した後、各学生は応用研究に着手する。学生が進捗状況等を報告し、教員は背景となる理論や分析方法等についてアドバイスする。</p> <p>1-3 3人の教員(飯星・田中・小方)が専門分野のトピックスについて1回ずつ講義(1回目) 4 参加学生(全員)が関心を持つ既存研究論文・トピックス等を紹介 5-7 参加学生が考察する既存研究論文の内容とその応用・再検証のアイデアを報告する 8-10 各教員が専門分野のトピックスについて1回ずつ講義(2回目) 11-12 参加学生が既存研究論文の応用の進捗状況を報告(1回目) 13-14 参加学生が既存研究論文の応用の進捗状況を報告(2回目) 15 参加学生が既存研究論文の応用結果を報告、レポート提出</p> <p>既存研究論文はリーディングリストから選ぶことを原則とするが、他の論文でも内容によっては認めることもあるので、その場合には教員と相談されたい。</p> <p>【授業外学習】 リーディングリストから選んだ論文および関連する論文・書籍等を丹念に読み理解することが必要である。実際にレポートを執筆するのは授業外の時間である。</p>					
④テキスト・参考書等	リーディングリストを1回目の授業時に渡す。 その他参考文献を授業中に指示する。					
⑤成績評価方法	15回目授業の提出レポートの内容、4回の報告(4、5-7、11-12、13-14)、授業への貢献等から総合的に判断する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	計量経済学・経済数学を履修済みであることを前提とする。 計量ソフトウェアは『R』を使うことを推奨する。 開講前に計量ソフトウェアや研究内容について相談に応じるので、履修を希望する学生は7月下旬～8月上旬に担当教員に相談されたい。					

2018年度以降入学生	経済学特別演習（経済史）	P0223	経営学C	経済学必修 （選択）	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習（経済史）	P700	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	竹内 祐介、高見 典和 小林 延人		後期	月曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	この授業では、経済史、経済学史・思想史の論文を書くための技法を習得するとともに、実際に短い論文（レポート）を教員と一緒に作成することで、2年次に執筆する修士論文の作成過程の参考にしてもらうことを狙いとする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済史、経済学史・思想史研究の技法を習得する。 ・上記技法に従って、自ら設定したテーマに関する先行研究の到達点や問題点を理解し、それを乗り越えるための研究レポートを作成する。 					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2-4 経済史の技法 5 レポート構想の発表（1）：期末レポート課題の発表 6-9 テーマに関する先行研究の輪読 10 レポート構想の発表（2）：先行研究の整理と批判 11-14 資料の収集と分析 15 レポート構想の発表（3）：分析結果の発表と先行研究との対比 <p>【授業方法】</p> <p>（1）「経済史の技法」（第2～4回）では、指定のテキストに依拠しながら、経済史の論文の書き方を習得する。</p> <p>（2）「テーマに関する先行研究の輪読」（第6～9回）では、設定したレポート課題に関する先行研究（論文）を調査し、その論文を教員とともに精読することで、先行研究の問題点を発見していく。</p> <p>（3）「資料の収集と分析」（第11～14回）では、（2）でみつけた先行研究の問題点を解決するために必要な資料と分析方法を教員とともに考え、実際に分析を試みる。</p> <p>また、第5回、第10回、第15回では、それまでの進捗状況をまとめ、発表する機会を設ける。</p> <p>【授業外学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定されたテキストや論文を事前に読み、疑問点や論点を考えてくること。 ・第5回、第10回、第15回における研究進捗状況の発表を準備すること。 					
④テキスト・参考書等	〈テキスト〉 武田晴人 [2010]「経済史の技法」（石井寛治・原朗・武田晴人編『日本経済史6 日本経済史研究入門』東京大学出版会）。その他、輪読する論文については、参加者の設定した論文テーマに応じて相談しながら決定する。					
⑤成績評価方法	平常点 50% 期末レポート 50%					
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	<p>前期の「経済史演習」の内容を前提として進める。</p> <p>【オフィスアワー】</p> <p>【竹内】 原則として、毎週水曜3限。前日までにメールで予約をした上で南大沢C研究室（3号館316室）まで。もしくは授業中の議論の時間や、授業前後の時間にも質問などを受け付ける。</p> <p>【高見】 原則として、毎週木曜2限をオフィスアワーに設定します。質問がある場合は、前日17時までには必ずメールで予約をした上で研究室（3号館419室）まで来てください。</p> <p>【小林】 原則として授業前後の時間に設定する。メールで事前に連絡すること。</p>					

2018年度以降入学生	ファイナンス演習	P0729	経営学C	経済学C	ファイナンス必修	2単位
2017年度以前入学生	ファイナンス演習	P729	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅱ	研究者養成	2単位
担当教員	各教員		後期	月曜日		4時限
①授業方針・テーマ	学生自らが興味関心のある問題の中から課題を設定し、検討内容を報告し、参加者と議論することを通して問題の解決を図る。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	問題の発見と解決の手順を経験的に学ぶ。この演習を経験することで、修士論文の研究の土台となる知識・能力を習得する。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>[授業方法]</p> <p>授業内容は参加者の発表とそれに関する議論であり、常に自発的な行動が求められる。まず、関心のある話題の中から特に惹かれるものを選び、その件に関する調査（テキストや論文などを読む）を行い、現状（何がどこまでわかっている、何がわかっていないか）を把握する。次に、現状をもとに、さらに何がわかれば有益か、何を知りたいかを考えて、問題を設定する。そしてそれぞれの問題に適した手法を選択し、解決を図る。</p> <p>また、他のメンバーの発表を聞き、議論に参加することにより、知見を広め、自身の問題の解決に役立てる。</p> <p>具体的には以下を予定しているが、参加者の関心テーマや進捗状況、水準によって適宜、柔軟に変更する。</p> <p>第1回 オリエンテーション：説明、テーマ設定・サーベイ方法の説明・デモ 第2回 テーマの設定：一人15分程度、テーマについて発表 第3回 テーマの設定（2回目）：前回の指導を受けて、テーマの改訂・決定 第4回 研究論文のサーベイ（1回目）：グループ分け。テーマに沿った研究サーベイ 第5回 研究論文のサーベイ（2回目）：サーベイの第2回目 第6回 論文の読み方の指導：論文精読のデモ 第7回 論文発表（1回目）：各学生90分間、選んだ論文を精読し説明（1回目） 第8回 論文発表（2回目）：同上 第9回 論文発表（3回目）：各学生90分間、選んだ論文を精読し説明（2回目） 第10回 論文発表（4回目）：同上 第11回 モデル構築・実証分析の指導：モデル構築・実証分析のデモ 第12回 研究の進捗状況の説明（1回目）：一人20分程度、研究の進捗状況の説明 第13回 研究の進捗状況の説明（2回目）：同上 第14回 研究の進捗状況の説明（3回目）：同上 第15回 まとめ：研究発表会：演習で行った研究成果の発表。一人20分程度</p> <p>[授業外学習]</p> <p>上記の準備。</p>					
④テキスト・参考書等	全体としては特に設定しない。テーマに応じて都度指示する。					
⑤成績評価方法						
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	オフィスアワーは特に設定しないが、質問・相談等は、各教員の研究室で対応する（事前にメール等でコンタクトしてください）。					

2018年度以降入学生	ファイナンス考究	P0731	経営学C	経済学C	ファイナンス必修	2単位
2017年度以前入学生	ファイナンス考究	P731	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅱ	研究者養成	2単位
担当教員	各教員		前期	金曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	<p>本講義では、高度な金融専門人材としての金融理論の応用能力の向上、金融実務に応用可能な各種スキルの向上を図る目的で、複数の具体的かつ実務的な課題を設定し、その問題に対して様々な角度から考察を加え、適切な答えを探るケーススタディを行う。</p> <p>講義では、オプション理論、リスク管理、投資運用などの分野において課題を設定し、考察を加える。より具体的には、2チームに分かれてグループディスカッションを行い、途中段階での研究成果の発表・討議を経て、最終発表、討議を行う。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>上記の3つの分野におけるこれまでの習得知識を再確認し、具体的な課題を解くことを通じて問題発見・解決能力の向上を促し、実務に応用可能なレベルでの知識活用のあり方を学ぶ。</p>					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>授業方法： 講義では、特定分野（例：証券投資、オプション理論、リスク管理など）における研究課題を予め設定し、複数のグループに分かれて各課題についてのグループ内でのディスカッションや各自の考察を通じて研究を深め、その成果をグループごとにまとめて発表し、質疑応答する。 具体的には以下を予定しているが、参加者の関心テーマや進捗状況、水準によって適宜、柔軟に変更する。</p> <p>各講義の主な内容： 1. オリエンテーション、ケースAの説明、チーム編成 2-4. 中間発表（1）～（3） 5. 最終発表 6. ケースBの説明、チーム編成 7-9. 中間発表（1）～（3） 10. 最終発表 11. ケースCの説明、チーム編成 12-14. 中間発表（1）～（3） 15. 最終発表</p> <p>授業外学習： 各講義で適宜事前の考察、ディスカッションを行っておくこと。</p>					
④テキスト・参考書等	講義において適宜参考資料を指定・配布する。					
⑤成績評価方法	課題の発表内容・レポートの提出等（60%）、講義における議論への貢献（40%）					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>オフィスアワーは特に設定しないが、質問・相談等は、各教員の研究室で対応する（事前にメール等でコンタクトしてください）。</p> <p>本科目は原則として二年生次より履修可能となる。</p>					

2018年度以降入学生	経営学特別研究	P0500	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特別講義	P558	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	桑田 耕太郎		前期	金曜日(隔週)	5時限、6時限	
①授業方針・テーマ	企業の戦略行動と組織のダイナミックな関係について研究する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	企業行動のダイナミクスを理解するための、組織の学習やイノベーションのメカニズムに関する基礎知識を習得し、理論的な論文を作成する能力の養成を目的とする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営戦略、組織学習、イノベーション、サイエンス・イノベーションに関する基礎的文献、最近の先端研究に関する論文を輪読する。 2. 参加者の研究テーマにそって、論文の執筆をおこなう。 <p>【授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献の輪読、ディスカッションを通じて、理解を深める。 2. 参加者の論文執筆を促し、授業内で進捗状況を報告してもらい、それに対して指導を行う。 <p>【授業外学習】</p> <p>授業で取り上げる文献はもちろん、各自の研究テーマにそった文献の精読、論文執筆に必要なデータの収集・整理、論文の執筆をおこなうことが求められる。</p>					
④テキスト・参考書等	Academy of Management, Human Relations, Organization Scienceなど最先端の文献 組織学習、サイエンス・イノベーションに関する文献をそれぞれ取り上げる。					
⑤成績評価方法	報告・ディスカッションを通じた授業への貢献と、論文の執筆状況によって評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	経営戦略、経営組織に関する基礎科目を履修していることが望ましい。					

2018年度以降入学生	組織理論特別演習	P0503	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特別講義	P559	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	桑田 耕太郎		後期	金曜日(隔週)	5時限、6時限	
①授業方針・テーマ	企業の戦略行動と組織のダイナミックな関係について研究する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	企業行動のダイナミクスを理解するための、組織の学習やイノベーションのメカニズムに関する基礎知識を習得し、理論的な論文を作成する能力の養成を目的とする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営戦略、組織学習、イノベーション、サイエンス・イノベーションに関する基礎的文献、最近の先端研究に関する論文を輪読する。 2. 参加者の研究テーマにそって、論文の執筆をおこなう。 <p>【授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献の輪読、ディスカッションを通じて、理解を深める。 2. 参加者の論文執筆を促し、授業内で進捗状況を報告してもらい、それに対して指導を行う。 <p>【授業外学習】</p> <p>授業で取り上げる文献はもちろん、各自の研究テーマにそった文献の精読、論文執筆に必要なデータの収集・整理、論文の執筆をおこなうことが求められる。</p>					
④テキスト・参考書等	Academy of Management, Human Relations, Organization Scienceなど最先端の文献 組織学習、サイエンス・イノベーションに関する文献をそれぞれ取り上げる。					
⑤成績評価方法	報告・ディスカッションを通じた授業への貢献と、論文の執筆状況によって評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	経営戦略、経営組織に関する基礎科目を履修していることが望ましい。					

2018年度以降入学生	組織理論特別研究	P0501	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特別講義	P531	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	高尾 義明		前期	火曜日	4時限	
①授業方針・テーマ	組織理論・組織行動論を中心に、経営組織論の文献を講読する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営組織論の古典的文献を踏まえつつ、最新のジャーナルを講読することを通じて、古典と最新のリサーチ・クエスチョンの連続性／非連続性を理解するとともに、研究方法論の変化を把握することを本講義の目的とする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>経営組織論の古典的文献（たとえば、Simon[1997] など）を取り上げた後に、ジャーナル論文の講読に移る。講読する論文は受講生の研究テーマを踏まえて決定するが、Academy of Management Review/JournalやOrganization Science、Journal of Organizational Behaviorなどの英文ジャーナル掲載論文を主に取り上げる。</p> <p>【授業方法】 文献の発表及びそれに基づくディスカッションによって授業が行われる。</p> <p>【授業外学習】 毎回、リーディング・アサイメント（講読文献）を精読して授業に臨むことが求められる。</p>					
④テキスト・参考書等	講読する文献及び参考書は都度指定する。					
⑤成績評価方法	文献講読における発表（75%）及びディスカッションへの貢献（25%）をもとに総合的に評価する。					
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	<p>【オフィスアワー】 オフィスアワーは特に設定しないが、直接質問したい場合は随時受け付けるので、事前にメールでアポイントメントを取ること。</p> <p>【連絡先】ytakao@tmu.ac.jp</p>					

2018年度以降入学生	組織理論特別演習	P0502	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特別講義	P532	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	高尾 義明		後期	火曜日	4時限	
①授業方針・テーマ	組織理論・組織行動論を中心に、経営組織論の文献を講読する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営組織論の古典的文献を踏まえつつ、最新のジャーナルを講読することを通じて、古典と最新のリサーチ・クエスチョンの連続性／非連続性を理解するとともに、研究方法論の変化を把握することを本講義の目的とする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>講読する論文は受講生の研究テーマを踏まえて決定するが、Academy of Management Review/JournalやOrganization Science、Journal of Organizational Behaviorなどの英文ジャーナル掲載論文を主に取り上げる。</p> <p>【授業方法】 文献の発表及びそれに基づくディスカッションによって授業が行われるが、ディスカッションを重視した授業となる。</p> <p>【授業外学習】 毎回、リーディング・アサイメント（講読文献）を精読して授業に臨むことが求められる。</p>					
④テキスト・参考書等	講読する文献及び参考書は都度指定する。					
⑤成績評価方法	文献講読における発表（50%）及びディスカッションへの貢献（50%）をもとに総合的に評価する。					
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	<p>【オフィスアワー】 オフィスアワーは特に設定しないが、直接質問したい場合は随時受け付けるので、事前にメールでアポイントメントを取ること。</p> <p>【連絡先】 ytakao@tmu.ac.jp</p>					

2018年度以降入学生	ヒューマン・リソース・マネジメント特別研究	P0504	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特別講義	P529	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	西村 孝史		前期	水曜日		2時限
①授業方針・テーマ	将来的に研究者を志向する者を対象に人材マネジメントおよび組織行動論に関する文献を輪読する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	人材マネジメントが引き起こす様々な現象を説明するためには、現象間の因果を推論するための理論の蓄積が欠かせない。人材マネジメントでは、そうした理論的な枠組みの多くを組織行動論に依拠している。そこでこの授業では、人材マネジメント分野で定番とされている論文と比較的新しい論文を読むことで人材マネジメント研究の現時点における到達点を知り、それらがどのような理論枠組みから説明されているのかを知ることが目的とする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>基本的には毎回1本（1章）のペースで論文・テキストの輪読をすすめる。 具体的には、経営学の主要な学術雑誌に掲載された論文およびジャーナルに掲載された論文を輪読していくことで論文を読む力を養う。そのため、受講者は事前に次回予定されている論文について内容を理解した上で授業に臨むこと。</p> <p>具体的に以下のようなジャーナルに掲載されている論文、もしくはブックチャプターを指す。 Academy of Management Journal, Journal of Management, Research in Personnel and Human Resource Management, Research in Organizational Behavior, Human Relations, Human Resource Management, International Journal of Human Resource Management, Organization Science, Journal of Applied Psychology, 組織科学、日本経営学会誌、日本労働研究雑誌</p>					
④テキスト・参考書等	現時点では、Strategic Human Resource Managementの中でも、flexibilityに関する論文とその周辺領域、およびsocial capitalに関連する論文を読む予定であるが、受講者と相談しながら決める。					
⑤成績評価方法	発表（50%）及びディスカッションへの貢献度（50%）をもとに総合的に評価する。					
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期・後期の授業では最低1回ずつそれぞれ自分が取り組んでいる研究テーマについて発表してもらう予定 2. オフィスアワーは、水曜日12:00-14:30で研究室（3号館305号室）だが、訪問の際は事前にメールにて教員にアポイントを取ること 					

2018年度以降入学生	ヒューマン・リソース・マネジメント特別演習	P0505	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特別講義	P530	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	西村 孝史		後期	水曜日		2時限
①授業方針・テーマ	将来的に研究者を志向する者を対象に人材マネジメントおよび組織行動論に関する文献を輪読する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	人材マネジメントが引き起こす様々な現象を説明するためには、現象間の因果を推論するための理論の蓄積が欠かせない。人材マネジメントでは、そうした理論的な枠組みの多くを組織行動論に依拠している。そこでこの授業では、人材マネジメント分野で定番とされている論文と比較的新しい論文を読むことで人材マネジメント研究の現時点における到達点を知り、それらがどのような理論枠組みから説明されているのかを知ることが目的とする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>基本的には毎回1本（1章）のペースで論文・テキストの輪読をすすめる。 具体的には、経営学の主要な学術雑誌に掲載された論文およびジャーナルに掲載された論文を輪読していくことで論文を読む力を養う。そのため、受講者は事前に次回予定されている論文について内容を理解した上で授業に臨むこと。</p> <p>具体的に以下のようなジャーナルに掲載されている論文、もしくはブックチャプターを指す。 Academy of Management Journal, Journal of Management, Research in Personnel and Human Resource Management, Research in Organizational Behavior, Human Relations, Human Resource Management, International Journal of Human Resource Management, Organization Science, Journal of Applied Psychology, 組織科学、日本経営学会誌、日本労働研究雑誌</p>					
④テキスト・参考書等	現時点では、Strategic Human Resource Managementの中でも、flexibilityに関する論文とその周辺領域、およびsocial capitalに関連する論文を読む予定であるが、受講者と相談しながら決める。					
⑤成績評価方法	発表（50%）及びディスカッションへの貢献度（50%）をもとに総合的に評価する。					
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期・後期の授業では最低1回ずつそれぞれ自分が取り組んでいる研究テーマについて発表してもらう予定 2. オフィスアワーは、水曜日12:00-14:30で研究室（3号館305号室）だが、訪問の際は事前にメールにて教員にアポイントを取ること 					

2018年度以降入学生	意思決定特別研究	P0506	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特別講義	P509	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	長瀬 勝彦		前期	火曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	行動意思決定論に関する研究					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	行動意思決定論の主な概念と、そのそれぞれが導出された諸研究について深く理解し、また批判できるようになること。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	文献講読を中心に進行する。 【授業外学習】 次の授業で扱う英語論文の要約とその論文への批判的なコメントを作成する。					
④テキスト・参考書等	原則として行動意思決定論に関する英文の研究論文を使用する。					
⑤成績評価方法	提出されたレポートや授業のディスカッションへの参加などで評価する。試験はおこなわない。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	学部レベルの行動意思決定論の知識があることを受講の条件とする。 【質問受付方法】原則として火曜1限をオフィスアワーに設定する。ただしメールもしくは授業前後の直接の申し出による予約制とする。メールでの質問も受け付ける。 【連絡先】nagase@tmu.ac.jp					

2018年度以降入学生	意思決定特別演習	P0507	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特別講義	P510	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	長瀬 勝彦		後期	火曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	行動意思決定論に関する研究					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	行動意思決定論の主な概念と、そのそれぞれが導出された諸研究について深く理解し、また批判できるようになること。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	文献講読を中心に進行する。 【授業外学習】 次の授業で扱う英語論文の要約とその論文への批判的なコメントを作成する。					
④テキスト・参考書等	原則として行動意思決定論に関する英文の研究論文を使用する。					
⑤成績評価方法	提出されたレポートや授業のディスカッションへの参加などで評価する。試験はおこなわない。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	学部レベルの行動意思決定論の知識があることを受講の条件とする。 【質問受付方法】原則として火曜1限をオフィスアワーに設定する。ただしメールもしくは授業前後の直接の申し出による予約制とする。メールでの質問も受け付ける。 【連絡先】nagase@tmu.ac.jp					

2018年度以降入学生	ベンチャービジネス特別研究	P0508	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特別講義	P562	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	高橋 勅徳		前期	金曜日(隔週)	5時限、6時限	
①授業方針・テーマ	企業家研究に基づいた研究論文を作成する上で必要な、理論的系譜と調査方法論について、必読文献の精読を通じて学んでいく。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営組織論、企業家研究に関する必読文献および先端的研究に関する知識と、これらの知見に基づいてフィールドワークを実践するための方法論について、学ぶことを目標とする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>授業内容 桑田・松嶋・高橋(編)『制度的企業家』の輪読および、論文執筆に向けた研究進捗の報告を中心に指導を行う。</p> <p>授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 『制度的企業家』第1章の輪読 第3回 『制度的企業家』第2章の輪読 第4回 『制度的企業家』第3章の輪読 第5回 『制度的企業家』第4章の輪読 第6回 『制度的企業家』第5章の輪読 第7回 研究進捗状況報告 第8回 『制度的企業家』第6章の輪読 第9回 『制度的企業家』第7章の輪読 第10回 『制度的企業家』第8章の輪読 第11回 『制度的企業家』第9章の輪読 第12回 『制度的企業家』第10章の輪読 第13回 『制度的企業家』第11章の輪読 第14回 『制度的企業家』第12章の輪読 第15回 研究進捗状況報告</p> <p>授業外学習 各回の課題テキストを当日までに熟読すること。 輪読の担当者は、1時間程度の報告レジュメを用意すること。</p>					
④テキスト・参考書等	桑田・松嶋・高橋(編)『制度的企業家』、および必要に応じてその都度指定する。					
⑤成績評価方法	授業への出席 30%、報告プレゼンの完成度 30%、期末レポート 40%の割合で評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>特になし</p> <p>オフィスアワーについては、misanori@tmu.ac.jpに連絡の上、スケジュールを調整し随時受け付ける。</p>					

2018年度以降入学生	ベンチャービジネス特別演習	P0509	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特別講義	P563	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	高橋 勅徳		後期	金曜日(隔週)	5時限、6時限	
①授業方針・テーマ	企業家研究に基づいた研究論文を作成する上で必要な、理論的系譜と調査方法論について、必読文献の精読を通じて学んでいく。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営組織論、企業家研究に関する必読文献および先端的研究に関する知識と、これらの知見に基づいてフィールドワークを実践するための方法論について、学ぶことを目標とする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>授業内容</p> <p>バーニー・G. グレイザー・アンセルム・L. ストラウス(著)『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』の輪読および、論文作成に向けた研究進捗報告を行う。</p> <p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第1章の輪読</p> <p>第3回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第2章の輪読</p> <p>第4回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第3章の輪読</p> <p>第5回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第4章の輪読</p> <p>第6回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第5章の輪読</p> <p>第7回 研究進捗状況報告</p> <p>第8回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第6章の輪読</p> <p>第9回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第7章の輪読</p> <p>第10回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第8章の輪読</p> <p>第11回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第9章の輪読</p> <p>第12回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第10章の輪読</p> <p>第13回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第11章の輪読</p> <p>第14回 研究進捗状況報告</p> <p>第15回 研究進捗状況報告</p> <p>授業外学習</p> <p>各回の課題テキストを当日までに熟読すること。</p> <p>輪読の担当者は、1時間程度の報告レジュメを用意すること。</p>					
④テキスト・参考書等	バーニー・G. グレイザー・アンセルム・L. ストラウス(著)『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』および、必要に応じてその都度指定する。					
⑤成績評価方法	授業への出席 30%、報告プレゼンの完成度 30%、期末レポート 40%の割合で評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>特になし</p> <p>オフィスアワーについては、misanori@tmu.ac.jpに連絡の上、スケジュールを調整し随時受け付ける。</p>					

2018年度以降入学生	経営戦略特別研究	P0510	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営戦略特別講義	P675	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	竹田 陽子		前期	火曜日		4時限
①授業方針・テーマ	経営戦略論を中心として、最新または代表的な研究論文と研究方法論のテキストを読みながら、ジャーナル掲載論文の分析をおこない、理論の構築と研究方法論について学ぶ。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	学術研究のための理論構築とリサーチデザインの方法論を身につける					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・授業方法】 研究方法論のテキストと主要ジャーナルに掲載された最新論文または各分野の代表的な論文を交互に読み、ジャーナル掲載論文の分析（論文の構成と全体の論理の流れ、理論構築、リサーチデザイン、各種の研究手法の詳細、理論・実務へのインプリケーション）をおこなう。 題材とする研究論文の掲載誌としては、 Academy of Management Journal Strategic Management Journal Organization Scienceなど 研究方法論のテキストとしては Saunders et al. “Research Methods for Business Students” Pearson Buchanan and Bryman eds. “The SAGE Handbook of Organizational Research” Sage など</p> <p>【授業外学習】 大学院研究レベルになると教員は大まかな方向性を示すだけで、受講生の授業外学習が主になると言って過言ではない。受講生が主体的に考え活動し、授業に貢献する姿勢が求められる。</p>					
④テキスト・参考書等	上記参照					
⑤成績評価方法	授業貢献 50%、期末レポート 50%					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	オフィスアワーは個別にメールでアポイントメントをとってください。 メールアドレスは初回授業で伝えます。					

2018年度以降入学生	経営戦略特別演習	P0511	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営戦略特別講義	P676	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	竹田 陽子		後期	火曜日		4時限
①授業方針・テーマ	経営戦略論を中心として、最新または代表的な研究論文と研究方法論のテキストを読みながら、ジャーナル掲載論文の分析をおこない、理論の構築と研究方法論について学び、研究計画書を作成する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	学術研究のための理論構築とリサーチデザインの方法論を身につける					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・授業方法】</p> <p>前期にひきつづき、研究方法論のテキストと主要ジャーナルに掲載された最新論文または各分野の代表的な論文を交互に読み、ジャーナル掲載論文の分析（論文の構成と全体の論理の流れ、理論構築、リサーチデザイン、各種の研究手法の詳細、理論・実務へのインプリケーション）をおこなう。</p> <p>題材とする研究論文の掲載誌としては、 Academy of Management Journal Strategic Management Journal Organization Scienceなど</p> <p>研究方法論のテキストとしては Saunders et al. “Research Methods for Business Students” Pearson Buchanan and Bryman eds. “The SAGE Handbook of Organizational Research” Sage など</p> <p>学期の終わりには受講者自身の研究課題で文献レビューを含む研究計画書を作成する。</p> <p>【授業外学習】</p> <p>大学院研究レベルになると教員は大まかな方向性を示すだけで、受講生の授業外学習が主になると言って過言ではない。受講生が主体的に考え活動し、授業に貢献する姿勢が求められる。</p>					
④テキスト・参考書等	上記参照					
⑤成績評価方法	授業貢献 50%、期末レポート（研究計画書）50%					
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	オフィスアワーは特に設定しませんが、質問等がある場合は事前にアポイントメントをとってください。メールアドレスは初回授業で告知します。					

2018年度以降入学生	経営戦略特別研究	P0512	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営戦略特別講義	P560	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	松田 千恵子		前期	土曜日	1時限	
①授業方針・テーマ	本講義は、研究手法の理解、および学会等における研究内容発表の推進に重点を置きながら進められる。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	受講者の積極的な参加によって、経営戦略、財務戦略を中心とした経営学分野における研究を深め、学会等での研究発表や学会誌への論文投稿など具体的な活動を行っていくための知見を身に付けることを目的とする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>〈事業計画〉 受講者の関心に合わせて決定する。</p> <p>〈授業方法〉 毎回、事前に定められた内容に関し、講義、発表、ディスカッション等を行う。</p> <p>〈授業外学習〉 各自の研究計画を主体的に進めていくことが求められる。学会等における研究内容発表についても奨励する。</p>					
④テキスト・参考書等	講義中に適宜指示する。					
⑤成績評価方法	講義への積極的な参加、ディスカッション等への貢献を総合的に評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>〈特記事項〉 丸の内サテライトオフィスにて開講予定である。</p> <p>〈オフィスアワー〉 質問や連絡がある場合にはメールにて随時受け付ける。メールアドレスは授業中に指示する。</p>					

2018年度以降入学生	経営戦略特別演習	P0513	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営戦略特別講義	P561	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	松田 千恵子		後期	土曜日	1時限	
①授業方針・テーマ	本講義は、研究手法の理解、および学会等における研究内容発表の推進に重点を置きながら進められる。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	受講者の積極的な参加によって、経営戦略、財務戦略を中心とした経営学分野における研究を深め、学会等での研究発表や学会誌への論文投稿など具体的な活動を行っていくための知見を身に付けることを目的とする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>〈事業計画〉 受講者の関心に合わせて決定する。</p> <p>〈授業方法〉 毎回、事前に定められた内容に関し、講義、発表、ディスカッション等を行う。</p> <p>〈授業外学習〉 各自の研究計画を主体的に進めていくことが求められる。学会等における研究内容発表についても奨励する。</p>					
④テキスト・参考書等	講義中に適宜指示する。					
⑤成績評価方法	講義への積極的な参加、ディスカッション等への貢献を総合的に評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>〈特記事項〉 丸の内サテライトオフィスにて開講予定である。</p> <p>〈オフィスアワー〉 質問や連絡がある場合にはメールにて随時受け付ける。メールアドレスは授業中に指示する。</p>					

2018年度以降入学生	テクノロジー・マネジメント 特別研究	P0514	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営戦略特別講義	P632	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	松尾 隆		前期	土曜日		1時限
①授業方針・テーマ	技術戦略に関する最新の理論文献を輪読する。					
②習得できる知識・ 能力や授業の目的・ 到達目標	技術戦略の新しい展開に関する理解を深め、自らの研究の指針とする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	毎回、文献を指定して、それを輪読し、参加者で検討する。 主にStrategic Management Journal等の論文雑誌から課題文献を選択する。 (事前に文献を精読することが必要となる)					
④テキスト・参考書等	別途指示する。					
⑤成績評価方法	講義への参加、課題への取組、講義中の発言などにより評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	オフィスアワー：事前にメールでアポイントメントをとること。					

2018年度以降入学生	テクノロジー・マネジメント 特別演習	P0515	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営戦略特別講義	P633	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	松尾 隆		後期	土曜日		1時限
①授業方針・テーマ	技術戦略に関する最新の理論文献を輪読する。					
②習得できる知識・ 能力や授業の目的・ 到達目標	技術戦略の新しい展開に関する理解を深め、自らの研究の指針とする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	毎回、文献を指定して、それを輪読し、参加者で検討する。 主にStrategic Management Journal等の論文雑誌から課題文献を選択する。 (事前に文献を精読することが必要となる) 参加者の興味に応じたテーマで文献サーベイを行う。					
④テキスト・参考書等	別途指示する。					
⑤成績評価方法	講義への参加、課題への取組、講義中の発言などにより評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	オフィスアワー：事前にメールでアポイントメントをとること。					

2018年度以降入学生	マーケティング特別研究	P0516	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特別講義	P535	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	水越 康介		前期	水曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	マーケティング論、マーケティング方法論					
②習得できる知識・ 能力や授業の目的・ 到達目標	マーケティング論の理論体系の習得					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	マーケティング論に関する専門書の精読、および批判的考察 授業方法：講義およびディスカッションを行う。 授業外学習：テキストを事前に読み、レポートをまとめること。					
④テキスト・参考書等	授業内に適宜指示					
⑤成績評価方法	授業態度および試験					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	オフィスアワー：授業中に提示するメールアドレスに連絡をし、予約をとること。					

2018年度以降入学生	マーケティング特別演習	P0517	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特別講義	P536	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	水越 康介		後期	水曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	マーケティング論、マーケティング方法論					
②習得できる知識・ 能力や授業の目的・ 到達目標	マーケティング論の理論体系の習得					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	マーケティング論に関する専門書の精読、および批判的考察 授業方法：講義およびディスカッションを行う。 授業外学習：テキストを事前に読み、レポートをまとめること。					
④テキスト・参考書等	授業内に適宜指示					
⑤成績評価方法	授業態度および試験					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	オフィスアワー：授業中に提示するメールアドレスに連絡をし、予約をとること。					

2018年度以降入学生	統計学特別研究	P0520	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	統計学特別講義	P505	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	森 治憲		前期	金曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	数理統計学の理論とその応用					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	数理統計学の理論と、そこで学習する様々な手法を現実の問題に応用する能力。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	数理統計学に関する専門書の輪読が中心となる。ただし、必要に応じて講義も行う。毎回の復習は必須である。発表者が予習をするのは当然だが、担当になっていない受講者も予習をすることが望ましい。					
④テキスト・参考書等	一回目の授業で受講者と相談して決める。					
⑤成績評価方法	出席状況と授業での発表内容を総合的に評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	本講座は統計学の入門ではない。学部レベルの統計学の知識を有していることが前提である。月曜日2時限をオフィスアワーとする。					

2018年度以降入学生	統計学特別演習	P0521	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	統計学特別講義	P506	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	森 治憲		後期	金曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	数理統計学の理論とその応用					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	数理統計学の理論と、そこで学習する様々な手法を現実の問題に応用する能力。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	数理統計学の文献を輪読する。毎回の復習は必須である。発表者が予習をするのは当然だが、担当になっていない受講者も予習をすることが望ましい。					
④テキスト・参考書等	一回目の授業で受講者と相談して決める。					
⑤成績評価方法	出席状況と授業での発表内容を総合的に評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	本講座は統計学の入門ではない。学部レベルの統計学の知識を有していることが前提である。月曜日2時限をオフィスアワーとする。					

2018年度以降入学生	経営科学特別研究	P0522	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営科学特別講義	P525	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	山下 英明		前期	水曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	待ち行列は、あるサービスに対して客が待つ現象で、店舗・病院でのサービスだけでなく、工場の生産ライン、情報ネットワーク、道路交通等でも発生する。待ち行列理論は、待ち行列を確率論に基づいた数理モデルとして表し、待ち時間等の特性を解明する理論である。本講義では、テキストの理論展開、証明等をフォローすることにより、待ち行列理論やその計算手法を理解するとともに、実際の待ち行列現象のモデル化についても学ぶ。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	待ち行列理論の学習を通して、論理的思考力を養うとともに、確率モデルを本質的に理解し、解析する能力を身につける。 実際の待ち行列現象のモデル化を通して、不確定な要因を含むシステムに対する問題解決能力を養う。 テキストの内容をわかり易く発表し、質問に対して的確に回答することにより、コミュニケーション能力を身につける。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】【授業方法】</p> <p>第1回～第11回 反転授業 授業時間内では、前もって学習してきたテキストの内容についての質問に対し、教員が回答することによって理解を深める。講義内容に関する課題について解答を導く時間も設ける。授業時間後には、授業で学習した方法についての演習問題を解き、次の授業において解答を確認し、理解を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション、待ち行列モデル 2. リトルの公式 3. 再生過程 4. 確率過程 5. 出生死滅過程 6. M/M/1 待ち行列モデル 7. 離散マルコフ連鎖 8. 相型分布を用いた待ち行列モデル 9. 準出生死滅過程 10. 待ち行列ネットワーク 11. 非マルコフモデル <p>第12回～第15回 学生発表中心の授業 テキストにある実際のシステムの解析例について発表し、討論する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 12. ハンバーガーショップの待ち行列モデル 13. かんぱん方式による在庫管理 14. コールセンターのリソース設定 15. 無線LANの性能評価 <p>【自宅学習】 反転授業では、授業前にテキストを熟読し、理解できなかった点を明確にして授業に出席する。 毎回、授業で学習した解法についての演習問題を課す。このうち、2週間に1度程度提出を義務づける。 学生発表中心の授業では、テキストの内容を理解し、分かり易く発表する準備を行う。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>テキスト：塩田茂雄他 『待ち行列理論の基礎と応用』 共立出版 (2014)</p> <p>参考書：尾崎敏治 『確率モデル入門』 朝倉書店 (1996)</p> <p>森雅夫、宮沢政清他 『オペレーションズ・リサーチⅡ』 朝倉書店 (1989)</p> <p>森雅夫、松井知己 『オペレーションズ・リサーチ』 朝倉書店 (2004)</p> <p>尾崎俊治 『確率モデル入門』 朝倉書店 1996。</p> <p>L. クラインロック (手塚慶一他訳) 『待ち行列システム理論 (上下)』 マグロウヒル好學社 1978。</p> <p>豊田秀樹 『マルコフ連鎖モンテカルロ法』 朝倉書店 2008。</p> <p>牧本直樹 『ビジネスへの確率モデルアプローチ』 朝倉書店 2006。</p> <p>宮沢政清、『確率と確率過程』 近代科学社 1993。</p>					
⑤成績評価方法	授業での質疑応答、授業中の発表、課題によって評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>初歩的な確率過程論を修得していることが必要である。</p> <p>授業内容の質問については、まず質問者がメールで教員に連絡し、必要があれば教員が面談の日時を質問者と相談の上設定する方式をとる。</p> <p>【連絡先】 hideak@tmu.ac.jp</p>					

2018年度以降入学生	経営科学特別演習	P0523	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営科学特別講義	P526	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	山下 英明		後期	水曜日		3時限
①授業方針・テーマ	この講義では、経営科学、オペレーションズ・リサーチの簡単な事例や最近の事例研究をサーベイし、経営科学が実社会にどのように役立っているかを学習することを目的とする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営科学の理論的解析について本質的に理解し、論理的思考力を身につける。 経営戦略を科学的に決定することの理解を深め、実際の問題を確率モデルにモデル化し、総合的問題思考力を身につける。 テキストの内容をわかり易く発表し、質問に対して的確に回答することにより、コミュニケーション能力を身につける。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】【授業方法】</p> <p>第1回～第14回</p> <p>上記の目的で選定した解説記事、研究論文などを受講生に割り当て、授業中は受講生各自がその内容について解説する輪読方式を採用する。</p> <p>(1) 総論、待ち行列窓口の最適サービス配分 (2) 線形計画問題：物資の輸送を例として 発見的解法：収集/配送経路問題への適用 (3) 最適配置の理論：都市施設の場所について グラフ・ネットワーク・OR (4) 大規模施設の混雑現象 (5) 生産システムにおけるさまざまな待ち (6) キャッシュのモデル化とその応用 (7) 待ち行列理論の応用：コールセンター (8) ゲーム理論を用いたねじれ国会分析 (9) DEAを用いたプロ野球投手の評価 (10) 大学業務におけるシフトスケジューリング (11) 機関車の基地内留置計画 (12) 鉄道の通勤利用モデルと混雑緩和策 (13) 列車ダイヤ乱れ時の再スケジューリングアルゴリズム (14) 施設容量を考慮した救急医療施設の最適配置</p> <p>第15回 学生発表の授業 各自が実際の問題を経営科学の手法を用いて分析することを想定しモデル化を行い、その内容を発表し、討論する。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>テキスト：上記の解説記事、研究論文を教材として用いる。出典は以下の通り。</p> <p>(2)～(3)、(7)～(10)、(14)：オペレーションズ・リサーチ、vol.54, no.7, no.12, 2009. (4)～(6)：オペレーションズ・リサーチ、vol.49, no.7, 2004. (11)：オペレーションズ・リサーチ、vol.55, no.2, 2010. (12)～(13)：オペレーションズ・リサーチ、vol.53, no.8, 2008.</p> <p>参考書：高井英造、真鍋龍太郎『問題解決のためのオペレーションズ・リサーチ入門』 日本評論社 2000。 高橋幸雄、森村英典『混雑と待ち』朝倉書店 2001。 福島雅夫『数理計画入門』朝倉書店 1996。 伏見正則『確率と確率過程』朝倉書店 2004。 牧本直樹『ビジネスへの確率モデルアプローチ』朝倉書店 2006。 森雅夫、松井知己『オペレーションズ・リサーチ』朝倉出版 2004。 森雅夫、宮沢政清他『オペレーションズ・リサーチⅡ 意思決定モデル』朝倉書店 1989。 森雅夫、森戸晋他『オペレーションズ・リサーチⅠ 数理計画モデル』朝倉書店 1991。 森戸晋、逆瀬川浩『システムシミュレーション』朝倉書店 2000。</p>					
⑤成績評価方法	授業での質疑応答、授業中の発表、課題によって評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>初歩的な確率過程論を修得していることが必要である。</p> <p>授業内容の質問については、まず質問者がメールで教員に連絡し、必要があれば教員が面談の日時を質問者と相談の上設定する方式をとる。</p> <p>【連絡先】hideak@tmu.ac.jp</p>					

2018年度以降入学生	経営科学特別研究	P0524	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営科学特別講義	P657	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	室田 一雄		前期	金曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	<p>科学的方法論に基づく合理的な意思決定の手法の一つとして、最適化理論、とくに離散構造の上の最適化のモデルと解法を扱う。最適化理論の枠組みに沿って応用課題を数理的に定式化する手法、および、その結果得られる数理最適化問題を解く手法を中心に扱う。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>最適化手法には、理論（数理）、計算（アルゴリズム）、応用（モデリング）の三つの柱がある。本講義では、テキストを丁寧に輪読し、演習問題に取り組むことにより、最適化の数理的側面を理解し、その考え方を習得することを目的とする。これによって、将来、さまざまな文脈で最適化を使う必要が生じたときに、さらに高度な内容に進むことができる。さらに、微分、勾配、最大化などの数学の概念が、オペレーションズ・リサーチなどにおいてどのように役立つかを理解することによって、数学・数理が実際の社会と繋がっていて有用なものであるという一般的な理解と感覚を身につけることができる。</p>					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】 学生の興味を考慮して、以下のテーマに関するテキストを選定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 離散最適化の典型的な問題（最小木問題、最短路問題、マッチング問題、最大流問題、最小費用流問題、資源配分問題など） 2) 離散最適化の典型的な問題の基本的な解法（アルゴリズム） 3) 離散凸解析の考え方と数学的な枠組み（基本概念、諸定理、諸公式） <p>【授業方法】 テキストを輪読し、その質疑応答や討論を通じて新たな論点を発掘し、宿題とする。</p> <p>【授業外学習】 授業の前にテキストを読み、議論や質問のポイントを自分自身でよく整理する。発表の担当となった場合には、テキストの該当箇所を理解するだけでなく、必要があれば参考書などを調べて、前提となる事実や知識を補足して、レジュメを作成する。授業における質疑応答や討論によって得られた新たな論点について、調査・検討する。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 テキストは適宜指定する。</p> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田村明久、村松正和：最適化法、共立出版、2002。 ・室田一雄：離散凸解析の考えかた、共立出版、2007。 ・室田一雄、塩浦昭義：離散凸解析と最適化アルゴリズム、朝倉書店、2013。 ・穴井宏和、斉藤努：今日から使える！組合せ最適化 離散問題ガイドブック、講談社、2015。 					
⑤成績評価方法	<p>授業への出席・参加状況とレポート課題により評価する。</p>					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>【前提知識】 基礎的な数学（微積分、線形代数）を用いる。</p> <p>【オフィスアワー】 原則として木曜5限（メールでアポイントメントをとることが望ましい）。</p>					

2018年度以降入学生	経営科学特別演習	P0525	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営科学特別講義	P658	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	室田 一雄		後期	金曜日		3時限
①授業方針・テーマ	<p>科学的方法論に基づく合理的な意思決定の手法の一つとして、最適化理論、とくに離散構造の上の最適化のモデルと解法を扱う。最適化理論の枠組みに沿って応用課題を数理的に定式化する手法、および、その結果得られる数理最適化問題を解く手法を中心に扱う。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>最適化手法には、理論（数理）、計算（アルゴリズム）、応用（モデリング）の三つの柱がある。本講義では、テキストを丁寧に輪読し、演習問題に取り組むことにより、最適化の数理的側面を理解し、その考え方を習得することを目的とする。これによって、将来、さまざまな文脈で最適化を使う必要が生じたときに、さらに高度な内容に進むことができる。さらに、微分、勾配、最大化などの数学の概念が、オペレーションズ・リサーチなどにおいてどのように役立つかを理解することによって、数学・数理が実際の社会と繋がっていて有用なものであるという一般的な理解と感覚を身につけることができる。</p>					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】 学生の興味を考慮して、以下のテーマに関するテキストを選定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 離散最適化の典型的な問題（最小木問題、最短路問題、マッチング問題、最大流問題、最小費用流問題、資源配分問題など） 2) 離散最適化の典型的な問題の基本的な解法（アルゴリズム） 3) 離散凸解析の考え方と数学的な枠組み（基本概念、諸定理、諸公式） <p>【授業方法】 テキストを輪読し、その質疑応答や討論を通じて新たな論点を発掘し、宿題とする。 テキストの話題に関連する最適化問題を各自で設定して、問題の定式化、最適化ソフトウェアによる求解、レポートの執筆などの演習を行う。</p> <p>【授業外学習】 授業の前にテキストを読み、議論や質問のポイントを自分自身でよく整理する。発表の担当となった場合には、テキストの該当箇所を理解するだけでなく、必要があれば参考書などを調べて、前提となる事実や知識を補足して、レジュメを作成する。授業における質疑応答や討論によって得られた新たな論点について、調査・検討する。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 テキストは適宜指定する。</p> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田村明久、村松正和：最適化法、共立出版、2002。 ・室田一雄：離散凸解析の考えかた、共立出版、2007。 ・室田一雄、塩浦昭義：離散凸解析と最適化アルゴリズム、朝倉書店、2013。 ・穴井宏和、斉藤努：今日から使える！組合せ最適化 離散問題ガイドブック、講談社、2015。 					
⑤成績評価方法	<p>授業への出席・参加状況とレポート課題により評価する。</p>					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>【前提知識】 基礎的な数学（微積分、線形代数）を用いる。</p> <p>【オフィスアワー】 原則として木曜5限（メールでアポイントメントをとることが望ましい）。</p>					

2018年度以降入学生	経営科学特別研究	P0526	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営科学特別講義	P552	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	森口 聡子		前期	金曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	経営科学は、経営活動において生じる種々の問題に対する合理的な意思決定をするために科学的方法を提供する学問領域である。この講義では、科学的方法に基づく合理的な意思決定のために必要な最適化理論を取り上げる。最適化理論に基づく定式化（モデル化）は、情報技術が支える経営活動において、各現場での短期的、オペレーショナルな問題に対する意思決定から、中長期的な戦略的レベルの課題への意思決定に及ぶまで、様々な場面で活用されている。現実社会における問題のモデル化から、求解のためのアルゴリズムを本講義で扱う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	最適化問題とその解法について理解する。 経営戦略を科学的に決定することの理解を深め、実際の問題を数理モデルにモデル化し、求解する能力、オペレーションズ・リサーチの手法、解法の手間を評価する方法を身に着けることができる。数学・数理が実際の社会と繋がっていて有用なものであるという一般的な理解と感覚を身につけることができる。 本講義では、最適化理論を理解し、その数学的取り扱い方を学ぶことを目的とする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】</p> <p>1) 最適化アルゴリズムによる優位な意思決定の事例（物流、スケジューリング、プロジェクト管理における意思決定での最適計算、最小コスト、最大利益など）</p> <p>2) グラフ理論の基礎とグラフによる問題のモデル化</p> <p>3) ネットワーク計画（最短経路問題、最大流問題など）</p> <p>【授業方法】</p> <p>テキストを輪読し、演習問題を解くことにより、最適化理論を理解し、その数学的取り扱い方を学ぶ。</p> <p>【授業外学習】</p> <p>輪読における担当、演習の発表前に資料を理解し、テーマを把握する（予習）。講義の直後に、他の受講生の発表資料を読み直し、発表内容を確実に理解する（復習）。随時演習課題を課す。各自で自主的に、研究課題の調査に取り組む。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>[1] 久保幹雄『組合せ最適化とアルゴリズム（インターネット時代の数学シリーズ）』共立出版、2000</p> <p>[2] Ravindra K. Ahuja, Thomas L. Magnanti, James B. Orlin『Network Flows: Theory, Algorithms, and Applications』Prentice Hall、1993</p> <p>[3] 藤澤克樹, 後藤順哉, 安井雄一郎『Excelで学ぶOR』オーム社、2011</p>					
⑤成績評価方法	授業への取り組み意欲、発表内容とレポートにより評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>【前提知識】</p> <p>大学初等程度の数学を用いることもある。</p> <p>【オフィスアワー】</p> <p>原則として、木曜12:10-13:00(メールでアポイントメントをとること)。</p>					

2018年度以降入学生	経営科学特別演習	P0527	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営科学特別講義	P553	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	森口 聡子		後期	金曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	経営科学は、経営活動において生じる種々の問題に対する合理的な意思決定をするために科学的方法を提供する学問領域である。この講義では、科学的方法に基づく合理的な意思決定のために必要な最適化理論を取り上げる。最適化理論に基づく定式化（モデル化）は、情報技術が支える経営活動において、各現場での短期的、オペレーショナルな問題に対する意思決定から、中長期的な戦略的レベルの課題への意思決定に及ぶまで、様々な場面で活用されている。現実社会における問題のモデル化から、求解のためのアルゴリズムを本講義で扱う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	最適化問題とその解法について理解する。 経営戦略を科学的に決定することの理解を深め、実際の問題を数理モデルにモデル化し、求解する能力、オペレーションズ・リサーチの手法、解法の手間を評価する方法を身に着けることができる。数学・数理が実際の社会と繋がっていて有用なものであるという一般的な理解と感覚を身につけることができる。 本講義では、最適化理論を理解し、その数学的取り扱い方を学ぶことを目的とする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】</p> <p>1) 最適化アルゴリズムによる優位な意思決定の事例（物流、スケジューリング、プロジェクト管理における意思決定での最適計算、最小コスト、最大利益など）</p> <p>2) グラフ理論の基礎とグラフによる問題のモデル化</p> <p>3) ネットワーク計画（最短経路問題、最大流問題など）</p> <p>【授業方法】</p> <p>テキストを輪読し、演習問題を解くことにより、最適化理論を理解し、その数学的取り扱い方を学ぶ。</p> <p>【授業外学習】</p> <p>輪読における担当、演習の発表前に資料を理解し、テーマを把握する（予習）。講義の直後に、他の受講生の発表資料を読み直し、発表内容を確実に理解する（復習）。随時演習課題を課す。各自で自主的に、研究課題の調査に取り組む。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>[1] 久保幹雄『組合せ最適化とアルゴリズム（インターネット時代の数学シリーズ）』共立出版、2000</p> <p>[2] Ravindra K. Ahuja, Thomas L. Magnanti, James B. Orlin『Network Flows: Theory, Algorithms, and Applications』Prentice Hall、1993</p> <p>[3] 藤澤克樹, 後藤順哉, 安井雄一郎『Excelで学ぶOR』オーム社、2011</p>					
⑤成績評価方法	授業への取り組み意欲、発表内容とレポートにより評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>【前提知識】</p> <p>大学初等程度の数学を用いることもある。</p> <p>【オフィスアワー】</p> <p>原則として、木曜12:10-13:00(メールでアポイントメントをとること)。</p>					

2018年度以降入学生	会計学特別研究	P0530	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	会計学特別講義	P651	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	野口 昌良		前期	水曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	<p>公会計イノベーションの理解に必要と思われる知識・分析視点の修得を目標とする。これから自身の研究手法を確立しようと考えている博士前期課程の学生には強固な礎を整備するための一助として、すでに一定の手法を身につけている博士後期課程の学生にはその幅を拡張するための一助として、本講義を活用してもらいたい。公会計研究の手引書からセレクトしたいくつかの論文をとりあげ、基礎的な知識・手法の修得に努めた後に、PA、PAR、JPAM、AOS、MAR、FAM等に掲載された論文を検討することによってその実践方法を理解してもらいたい。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公会計研究に必要と思われる知識・分析視点を修得することができる。 2. 1. をベースにした公会計研究・分析手法を修得することができる。 3. 1. および2. をベースにした論文作成方法を修得することができる。 					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】 指定したテキストの構成は次のとおり。11. 以降は公会計研究に関する諸論文のテーマに該当する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Defining the Concepts 3. The History of Performance Management 4. Performance Measurement 5. Incorporation of Performance Information 6. The Use of Performance Information 7. Users 8. Non-use 9. The Effects of Using Performance Information 10. The Future of Performance Management 11. Performance measurement innovation – Australia 12. Performance measurement innovation – UK 13. Performance measurement innovation – New Zealand 14. Performance measurement innovation – Japan 15. Conclusion <p>【授業方法】 指定したテキストおよび論文の内容に関する、履修学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心とした授業を実施するが、適宜レポート課題（一部グループワークの形式も取り入れる予定）も実施して、学生の理解度を確認しながら、到達目標に必要な知識の修得に努める。</p> <p>【授業外学習】 指定したテキストの内容の予習・復習（レポート課題の実施を含む）が必要となる。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 Dooren, W. V., Bouckaert, G. and Halligan, J. (2010) Performance Management in the Public Sector (Routledge Masters in Public Management), Routledge.</p> <p>【参考書等】 適宜指示する予定である。</p>					
⑤成績評価方法	<p>プレゼンテーション（60%）とディスカッション（40%）のクオリティに基づいて評価する。レポート課題が提示された場合は、プレゼンテーションに加算するかたちで調整する。 到達目標に照らして、公会計イノベーションに関する必要な知識を修得しているか否かが重要な評価ポイントとなる。</p>					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>【他の授業科目との関連性】 学部レベルの財務会計に関する知識を前提にディスカッションを実施するため、そうした知識の事前修得が望ましい。</p> <p>【オフィスアワー】 水曜日の3時限目とするが、メールによる質問も受け付ける。</p>					

2018年度以降入学生	会計学特別演習	P0531	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	会計学特別講義	P652	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	野口 昌良		後期	水曜日		2時限
①授業方針・テーマ	パブリック・セクターにおける業績評価の理解に必要と思われる知識・分析視点の修得を目標とする。これから自身の研究手法を確立しようと考えている博士前期課程の学生には強固な礎を整備するための一助として、すでに一定の手法を身につけている博士後期課程の学生にはその幅を拡張するための一助として、本講義を活用してもらいたい。公会計研究の手引書からセレクトしたいくつかの論文をとりあげ、基礎的な知識・手法の修得に努めた後に、PA, PAR, JPAM, AOS, MAR, FAM等に掲載された論文を検討することによってその実践方法を理解してもらいたい。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> パブリック・セクターにおける業績評価の理解に必要と思われる知識・分析視点を修得することができる。 1. をベースにした公会計研究・分析手法を修得することができる。 1. および2. をベースにした論文作成方法を修得することができる。 					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】 指定したテキストの構成は次のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> Introduction: Using Public Sector Performance Information Nothing New Under the Sun? Change and Continuity in the Twentieth - Century Performance Movements Advocacy and Learning: An Interactive-Dialogue Approach to Performance Information Use Performance Information and Performance Steering: Integrated System or Loose Coupling? Performance Measurement Beyond Instrumental Use Comparing Performance across Public Sectors Hitting the Target and Missing the Point? Developing an Understanding of Organizational Gaining Performance Management Systems: Providing Accountability and Challenging Collaboration Determinants of Performance Information Utilization in Political Decision Making UK Parliamentary Scrutiny of Public Service Agreements: A Challenge Too Far? Performance Information and Educational Policy Making Rational, Political and Cultural Uses of Performance Monitors: The Case of Dutch Urban Policy Reporting Public Performance Information: The Promise and Challenges of Citizen Involvement Publishing Performance Information: An Illusion of Control? Epilogue: The Many Faces of Use <p>【授業方法】 指定したテキストおよび論文の内容に関する、履修学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心とした授業を実施するが、適宜レポート課題（一部グループワークの形式も取り入れる予定）も実施して、学生の理解度を確認しながら、到達目標に必要な知識の修得に努める。</p> <p>【授業外学習】 指定したテキストの内容の予習・復習（レポート課題の実施を含む）が必要となる。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 Dooren, W. V. and de Walle, S. V. (eds.) (2008) Performance Information in the Public Sector: how it is used, Basingstoke : Palgrave Macmillan.</p> <p>【参考書等】 適宜指示する予定である。</p>					
⑤成績評価方法	プレゼンテーション（60%）とディスカッション（40%）のクオリティに基づいて評価する。レポート課題が提示された場合は、プレゼンテーションに加算するかたちで調整する。到達目標に照らして、パブリック・セクターにおける業績評価を理解するのに必要な知識を修得しているか否かが重要な評価ポイントとなる。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>【他の授業科目との関連性】 学部レベルの財務会計に関する知識を前提にディスカッションを実施するため、そうした知識の事前修得が望ましい。</p> <p>【オフィスアワー】 水曜日の3時限目とするが、メールによる質問も受け付ける。</p>					

2018年度以降入学生	財務会計特別研究	P0532	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	財務会計特別講義	P544	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	浅野 敬志		前期	木曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	「IFRS等の影響による会計情報の変容の実態とその影響」について検討する。会計処理や情報開示における経営者の裁量余地は、IFRS等の影響によって増えている。わが国の会計制度や情報開示制度が変化し、裁量余地が拡大するなかで、経営者はどのような会計目的に基づき、どのような私的選択（会計処理選択、情報開示選択）を行うのか。また経営者の私的選択を考慮してもなお、会計情報の変容が会計目標を達成するような会計情報を供給しているのか。国内外の先行研究のレビューを通じて、これらの疑問に対する客観的かつ公平な議論を行う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	「IFRS等の影響による会計情報の変容の実態やその影響」について、主に資本市場の視点から理解を深めるとともに、上記の疑問に対する仮説を自ら立て、検証できるようになること。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】 会計情報の変容の実態とその影響に関する書籍・論文を取り上げ、それらを題材にディスカッションする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 会計情報の変容の実態 3. 会計情報の質的特性と利益の質 4. 私的選択（会計処理選択、情報開示選択）の目的 5. 取得のれんと利益の質 6. 公正価値変動情報の有用性 7. 減損処理をめぐる不正会計（東芝のケース） 8. マネジメント・アプローチの有効性（経営者の恣意性） 9. マネジメント・アプローチの有効性（比較可能性） 10. セグメント情報の開示選択と影響 11. 非財務情報（ESG、リスク情報）の開示選択と影響 12. 業績予想の開示柔軟化と影響 13. 業績予想の私的選択（利益調整、期待調整）と市場の評価 14. 業績予想の開示選択と影響 15. まとめ <p>【授業方法】 書籍・論文の輪読やディスカッションを通じて授業を行う。</p> <p>【授業外学習】 リーディング・アサインメントを事前に読み、授業に臨むこと。</p>					
④テキスト・参考書等	<ol style="list-style-type: none"> 1. スコット著『財務会計の理論と実証』（中央経済社、2008年） 2. パレプ・ヒーリー・バーナード著『企業分析入門（第2版）』（東京大学出版会、2007年） 3. 柴健次・薄井彰・須田一幸編著『現代のディスクロージャー市場と経営を革新するー』（中央経済社、2008年） 4. 伊藤邦雄・桜井久勝責任編集『会計情報の有用性』（中央経済社、2013年） 5. 浅野敬志『会計情報と資本市場：変容の分析と影響』（中央経済社、2018年） など 					
⑤成績評価方法	出席状況、授業態度、発表内容などを総合的に勘案して評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	講義形式ではなく、演習形式で授業を進めるが、必要に応じて講義形式の授業をすることもある。授業後をオフィスアワーとする。また、メールによる質問も随時受け付ける。					
	【連絡先】 takasano@tmu.ac.jp					

2018年度以降入学生	財務会計特別演習	P0533	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	財務会計特別講義	P545	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	浅野 敬志		後期	木曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	「IFRS等の影響による会計情報の変容の実態とその影響」について検討する。会計処理や情報開示における経営者の裁量余地は、IFRS等の影響によって増えている。わが国の会計制度や情報開示制度が変化し、裁量余地が拡大するなかで、経営者はどのような会計目的に基づき、どのような私的選択（会計処理選択、情報開示選択）を行うのか。また経営者の私的選択を考慮してもなお、会計情報の変容が会計目標を達成するような会計情報を供給しているのか。国内外の先行研究のレビューを通じて、これらの疑問に対する客観的かつ公平な議論を行う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	「IFRS等の影響による会計情報の変容の実態やその影響」について、主に資本市場の視点から理解を深めるとともに、上記の疑問に対する仮説を自ら立て、検証できるようになること。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】 会計情報の変容の実態とその影響に関する書籍・論文を取り上げ、それらを題材にディスカッションする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 会計情報の変容の実態 3. 会計情報の質的特性と利益の質 4. 私的選択（会計処理選択、情報開示選択）の目的 5. 取得のれんと利益の質 6. 公正価値変動情報の有用性 7. 減損処理をめぐる不正会計（東芝のケース） 8. マネジメント・アプローチの有効性（経営者の恣意性） 9. マネジメント・アプローチの有効性（比較可能性） 10. セグメント情報の開示選択と影響 11. 非財務情報（ESG、リスク情報）の開示選択と影響 12. 業績予想の開示柔軟化と影響 13. 業績予想の私的選択（利益調整、期待調整）と市場の評価 14. 業績予想の開示選択と影響 15. まとめ <p>【授業方法】 書籍・論文の輪読やディスカッションを通じて授業を行う。</p> <p>【授業外学習】 リーディング・アサインメントを事前に読み、授業に臨むこと。</p>					
④テキスト・参考書等	<ol style="list-style-type: none"> 1. スコット著『財務会計の理論と実証』（中央経済社、2008年） 2. パレプ・ヒーリー・バーナード著『企業分析入門（第2版）』（東京大学出版会、2007年） 3. 柴健次・薄井彰・須田一幸編著『現代のディスクロージャー市場と経営を革新するー』（中央経済社、2008年） 4. 伊藤邦雄・桜井久勝責任編集『会計情報の有用性』（中央経済社、2013年） 5. 浅野敬志『会計情報と資本市場：変容の分析と影響』（中央経済社、2018年） など 					
⑤成績評価方法	出席状況、授業態度、発表内容などを総合的に勘案して評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	講義形式ではなく、演習形式で授業を進めるが、必要に応じて講義形式の授業をすることもある。授業後をオフィスアワーとする。また、メールによる質問も随時受け付ける。					
	【連絡先】 takasano@tmu.ac.jp					

2018年度以降入学生	管理会計特別研究	P0534	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	管理会計特別講義	P634	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	細海 昌一郎		前期	土曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	本研究では、隣接諸科学とも関連する管理会計の新たな研究分野の英語論文を講読しながら、実証的研究方法の理解と実践を目指します。特に、知的資本 (intellectual capital) の研究に関連する英語論文の講読を中心とします。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本研究では、管理会計の領域で近年注目されている知的資本研究等に関連する英語論文を中心に引き上げて講読することによって、研究を実践する能力を養うことが期待されます。また、そうした研究で用いられている実証的研究方法を理解し、実際に、修士号の取得に向けた論文作成に役立てることを目標としています。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>具体的には、次のような Accounting Journalsの中から知的資本等に関連する英語論文を選択し購読する予定です。Journal of Intellectual Capitalのような知的資本研究に関連する他の研究分野のJournalから選択することもあります。</p> <p>[List of Journals] Journal of Accounting Research Journal of Management Accounting Research ABACUS: A Journal of Accounting and Business Studies Accounting and Business Research Journal of Business Finance and Accounting Journal of Accounting and Organizational Change Journal of Applied Accounting Research Qualitative Research in Accounting and Management Journal of Intellectual Capital R&D Management</p> <p>授業外学習：授業後、取り上げた論文や課題についてよく復習しておいてください。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>[参考文献] [1] Alan Bryan and Emma Bell (2011) Business Research Methods 3rd Edition, Oxford University Press.</p>					
⑤成績評価方法	・英語論文の内容を検討しますが、その発表内容等により評価します。					
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	<ul style="list-style-type: none"> ・管理会計を専攻とする学生以外の履修も歓迎します。また、取り上げる英語論文により、具体的な実証的分析方法を演習形式で検討することがあります。 ・オフィスアワー：原則として木曜日 5時限目としますので、質問等があれば研究室 (3-233)にきてください (事前に、下記連絡先に連絡頂ければ幸いです)。 ・連絡先：hosomi@tmu.ac.jp 					

2018年度以降入学生	管理会計特別演習	P0535	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	管理会計特別講義	P635	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	細海 昌一郎		後期	土曜日		3時限
①授業方針・テーマ	<p>管理会計では、理論と実務の乖離の原因を究明したり、ある管理会計技法が企業業績に与える影響を検証したりといった研究が行われますが、近年、その研究方法において実証的研究方法の重要性が増しています。</p> <p>すなわち、財務会計を含む会計学の領域では、会計の原理や技術的特徴のあるべき姿を探求する規範的研究も必要ですが、現行の会計実務を一応肯定的に受け止め、その存在理由を説明するために統計手法を用いて行う実証的研究の重要性が増しているといえます。また、こうした傾向は会計学研究に限ったことではないと思われます。</p> <p>そこで、本演習では、こうした認識を前提に、修士論文作成に役立つ研究方法として、実証的研究方法（研究手法）の基礎について検討し、研究の実践に役立てることを目的としています（ただし、あくまでも基礎ですので、より高度な研究手法については各自検討されたい）。</p> <p>なお、前述のように、こうした傾向は会計学研究に限ったことではないと思われますので、研究方法や実務の参考にしたいと考えている会計学専攻以外の学生の参加も歓迎します。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>本演習では、こうした認識を前提に、修士論文作成に役立つ研究方法として、実証的研究方法（研究手法）の基礎について検討し、研究の実践に役立てることを目的としています（ただし、あくまでも基礎ですので、より高度な研究手法については各自検討されたい）。</p>					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>[主な内容]</p> <p>(1) データの整理 (2) 記述統計 (3) 仮説検定 (4) 回帰分析など代表的分析手法 (5) その他多変量解析</p> <p>本演習では実証的研究手法の基礎について検討しますが、統計ソフトの利用を前提とした実践的な内容も検討します。</p> <p>授業外学習：授業後、取り上げた論文や課題についてよく復習しておいてください。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>テキストは特に指定しません（レジュメ配布）。</p> <p>[参考文献]</p> <p>[1] 鈴木功一監訳『ビジネス統計学（上）（下）』ダイヤモンド社、2007。 [2] ダン・レメニイ他著『社会科学系大学院生のための研究の進め方ー修士・博士論文を書くまえにー』同文館出版、2002。 [3] 牧厚志他著『経済・経営のための統計学』有斐閣、2005。 [4] 門田安弘『経営・会計の実証分析入門』中央経済社、2003。 [5] Malcolm, Smith, Research Methods in Accounting 2nd Edition, SAGE, 2012.</p>					
⑤成績評価方法	<p>演習参加度と演習課題等に基づいて評価します。</p>					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<ul style="list-style-type: none"> ・管理会計に関する基本的な知識やPCの基本的な能力を前提にして行います。 ・オフィスアワー：原則として木曜日5時限目としますので、質問等があれば研究室（3-233）に来てください（事前に、下記連絡先に連絡頂ければ幸いです）。 ・連絡先：hosomi@tmu.ac.jp 					

2018年度以降入学生	ミクロ経済学特別研究	P0536	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ミクロ経済学特別講義	P540	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	飯村 卓也		前期	火曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	中級から上級のミクロ理論を学ぶ。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ミクロ理論の内容とともに、よく使われる分析技術の習得を目標にする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	消費者・生産者の最適化行動から市場均衡に至るまで、標準的な理論を体系的に学んでゆく。 【授業方法】講義と演習により行う。 【授業外学習】次回の授業範囲を予習しておくこと。					
④テキスト・参考書等	Varian, H. Microeconomic Analysis, 3rd ed., Norton					
⑤成績評価方法	取り組み方、達成度など、総合的に見て判断する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	【オフィスアワー】 毎週水曜3限の時間帯 なお履修する人は初回授業の時間に必ず出席のこと。					

2018年度以降入学生	ミクロ経済学特別演習	P0537	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ミクロ経済学特別講義	P541	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	飯村 卓也		後期	火曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	中級から上級のミクロ理論を学ぶ。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ミクロ理論の内容とともに、よく使われる分析技術の習得を目標にする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	消費者・生産者の最適化行動から市場均衡に至るまで、標準的な理論を体系的に学んでゆく。 【授業方法】講義と演習により行う。 【授業外学習】次回の授業範囲を予習しておくこと。					
④テキスト・参考書等	Varian, H. Microeconomic Analysis, 3rd ed., Norton					
⑤成績評価方法	取り組み方、達成度など、総合的に見て判断する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	【オフィスアワー】 毎週水曜3限の時間帯 なお履修する人は初回授業の時間に必ず出席のこと。					

2018年度以降入学生	マクロ経済学特別研究	P0538	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マクロ経済学特別講義	P546	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	脇田 成		前期	木曜日		1時限
①授業方針・テーマ	本講義は大学院レベルのマクロ経済学を概説する。なお受講者は学部レベルのマクロ経済学を理解し、初歩の線形代数・静学的最適化問題の理解が必須である。これらの準備の不十分なものは学部レベルの教科書などで講義に先立って補充しておくこと。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	講義では教科書に沿って、能率良く現在のマクロ経済学を展望するが、単位取得のためには計算問題の宿題ならびに課題を課す。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>第1回 ケインズ経済学と新古典派のマクロ経済学:マクロ経済学の課題と歴史 学部レベルのマクロ経済学の復習と近年のマクロ経済学の発展を概観した後、数学ならびにエコノメトリックスの最低限に解説を加える。ただしこれらの準備の不十分なものは必ず先立って補充しておくこと。</p> <p>第2回 基本的動学モデル 1: 新古典派最適成長理論・RBCモデルと時間を通じた選択</p> <p>第3回 基本的動学モデル 2: 世代重複モデルと高齢化・少子化 以上が一般均衡動学モデルの基礎であり、また変分法・DP・MPなどの動学的最適化理論の解説は動学モデルに即して適宜行う。このあと部分均衡的な動学モデルを検討する。以下の諸モデルは実証分析が盛んな分野でもあることに注意。</p> <p>第4回 主体均衡分析 1:家計の通時的最適化と消費関数の理論: 高すぎる株式収益率のパズル</p> <p>第5回 主体均衡分析 2:企業の通時的最適化と投資関数の理論:タイミングを決める理論 以上を基礎編とする。さらに応用編として、時間の許す限り</p> <p>第6回 新ケインジアン経済学と協調の失敗: 財市場における不完全競争と名目価格硬直性</p> <p>第7回 契約とサーチの理論:労働市場と実質賃金硬直性の理論</p> <p>第8回 貨幣と信用の諸モデル・金融仲介ならびに国際金融: 日本バブルの物語</p> <p>第9回 内生的成長理論: ますます富める国と貧しいままの国</p> <p>第10回 カオスと複数均衡</p> <p>第11回 マクロ経済政策分析:ゲーム理論の応用</p> <p>第12回 マクロ経済学と実証分析:非定常時系列分析</p> <p>第13回 マクロ経済学と日本的労働慣行</p> <p>第14回 マクロ経済学と日本的経済システム</p> <p>第15回 期末試験と解説</p> <p>の講義も行う予定。なお詳細な講義予定・文献リストは講義の初回に配布する。</p> <p>授業外学習 テキストをよく読むこと</p>					
④テキスト・参考書等	<p>教科書: 脇田成 (1998)『マクロ経済学のパースペクティブ』日本経済新聞社。</p> <p>参考書: Blanchard, O. J., and S. Fischer, Lectures on Macroeconomics, (MIT Press, 1989). Lucas R. E., Jr., Models of Business Cycles, Oxford: Basil Blackwell, 1987(邦訳「マクロ経済学のフロンティア」清水訳東洋経済新報社)。 岩井克人・伊藤元重編 (1994)『現代の経済理論』東京大学出版会。</p>					
⑤成績評価方法	期末試験70% 宿題30%					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>受講希望者はテキストを調整するのでwakita@tmu.ac.jpに第1回の授業前に前もってメールすること</p> <p>授業外学習 テキストをよく読むこと</p> <p>オフィスアワーは木曜4限</p> <p>質問は随時受け付けるのでメールでアポイントを取ること</p>					

2018年度以降入学生	マクロ経済学特別演習	P0539	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マクロ経済学特別講義	P547	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	脇田 成		後期	木曜日		2時限
①授業方針・テーマ	本講義は大学院レベルのマクロ経済学を概説し、問題演習並びに関連論文の輪読を行う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	講義では教科書に沿って、能率良く現在のマクロ経済学を展望するが、単位取得のためには計算問題の宿題ならびに課題を課す。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>第1回 ケインズ経済学と新古典派のマクロ経済学：マクロ経済学の課題と歴史 学部レベルのマクロ経済学の復習と近年のマクロ経済学の発展を概観した後、数学ならびにエコノメトリックスの最低限に解説を加える。ただしこれらの準備の不十分なものは必ず先立って補充しておくこと。</p> <p>第2回 基本的動学モデル 1：新古典派最適成長理論・RBCモデルと時間を通じた選択 第3回 基本的動学モデル 2：世代重複モデルと高齢化・少子化 以上が一般均衡動学モデルの基礎であり、また変分法・DP・MPなどの動学的最適化理論の解説は動学モデルに即して適宜行う。このあと部分均衡的な動学モデルを検討する。以下の諸モデルは実証分析が盛んな分野でもあることに注意。</p> <p>第4回 主体均衡分析 1：家計の通時的最適化と消費関数の理論：高すぎる株式収益率のパズル 第5回 主体均衡分析 2：企業の通時的最適化と投資関数の理論：タイミングを決める理論 以上を基礎編とする。さらに応用編として、時間の許す限り</p> <p>第6回 新ケインジアン経済学と協調の失敗：財市場における不完全競争と名目価格硬直性 第7回 契約とサーチの理論：労働市場と実質賃金硬直性の理論 第8回 貨幣と信用の諸モデル・金融仲介ならびに国際金融：日本のバブルの物語 第9回 内生的成長理論：ますます富める国と貧しいままの国 第10回 カオスと複数均衡 第11回 マクロ経済政策分析：ゲーム理論の応用 第12回 マクロ経済学と実証分析：非定常時系列分析 第13回 マクロ経済学と日本的労働慣行 第14回 マクロ経済学と日本的経済システム 第15回 期末試験と解説</p> <p>の講義も行う予定。なお詳細な講義予定・文献リストは講義の初回に配布する。</p> <p>授業外学習 テキストをよく読むこと</p>					
④テキスト・参考書等	<p>教科書：脇田成（1998）『マクロ経済学のパスバクティブ』日本経済新聞社。</p> <p>参考書： Blanchard, O. J., and S. Fischer, Lectures on Macroeconomics, (MIT Press, 1989)。 Lucas R. E., Jr., Models of Business Cycles, Oxford: Basil Blackwell, 1987(邦訳「マクロ経済学のフロンティア」清水訳東洋経済新報社)。 岩井克人・伊藤元重編（1994）『現代の経済理論』東京大学出版会。</p>					
⑤成績評価方法	期末試験70% 宿題30%					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	受講希望者はテキストを調整するのでwakita@tmu.ac.jpに第1回の授業前に前もってメールすること オフィスアワーは木曜4限（メールでアポイントを取ること）					

2018年度以降入学生	計量経済学特別研究	P0540	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	計量経済学特別講義	P550	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	飯星 博邦		前期	火曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	本科目では、大学院の修士課程で履修すべき計量経済学の基本的項目について扱う。具体的には、線形回帰モデルの推定と検定の行列計算を中心に、非線形モデルの推定法である一般化モーメント法（GMM）や最尤推定法に敷衍する。また、理論的な理解だけでなく、実際にデータ分析ができるように、MATLABやR、EViewsなどの計量ソフトウェアの利用法についても講義していく予定である。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・計量経済学の基本的項目である古典的線形回帰モデルの小標本と大標本の性質を理解できる。 ・非線形モデルに拡張できるGMM（一般化モーメント法）と最尤法の推定法や検定法、漸近的特性を理解できる。 ・MATLABやR、EViewsなどの計量ソフトウェアを使い、古典的線形回帰モデル、GMM、最尤法によるデータ分析ができる。 					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】 各回の講義予定は教科書であるHayashi (2000) Econometricsに基づき、以下のとおりであるが、講義の進捗状況により、前後する場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回 古典的線形回帰モデル（OLS）とその行列表現（OLSの小標本の特性#1） 2回 OLSにおける仮説検定、最尤法とGMM（OLSの小標本の特性#2） 3回 大標本理論（大数の法則と中心極限定理） 4回 大標本理論（OLS推定値での漸近分布） 5回 大標本理論（仮説検定） 6回 大標本理論（不均一分散） 7回 GMM（一般化モーメント法）と操作変数法 8回 GMM（一般化モーメント法）の大標本理論 9回 GMM（一般化モーメント法）尤度比検定 10回 GMM（一般化モーメント法）の不均一分散 11回 GMM（一般化モーメント法）と同時方程式体系 12回 最尤推定法と一致性 13回 最尤推定法と漸近分布 14回 最尤推定法における仮説検定 15回 試験と解説 <p>【授業外学習】 毎回の講義ノートはあらかじめEラーニングシステム「KIBACO」にアップロードするので、教科書と合わせて予習しておくこと。また、レポートとして、教科書にある演習問題と計量ソフトウェア「Matlab」もしくは「R」を利用したデータ分析の出題を行う。</p>					
④テキスト・参考書等	Hayashi (2000) Econometrics, Princeton Univ. Press					
⑤成績評価方法	講義中に出題するレポート2題（50%）および期末試験（50%）により評価を行う。					
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	<ul style="list-style-type: none"> ・計量ソフトウェアとして「Matlab」もしくは「R」を利用する。 ・本科目は、後期に実施予定の「経済学特別演習（計量経済学）」の前提科目である。 					

2018年度以降入学生	計量経済学特別演習	P0541	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	計量経済学特別講義	P551	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	飯星 博邦		後期	火曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	本講義では、前期で扱った計量経済学の古典的回帰モデルの講義内容をベースとして、その応用として時系列モデルの理論的解説と経済時系列データを使った推定法について扱う。また、統計ソフトウェアによる実習も並行して進めていく予定である。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	計量経済学の基礎および時系列分析の理論的な理解およびその推定手法の習得					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】 下記内容について講義する予定です。講義内容は履修者の関心と理解レベルに応じて適宜、修正しようと思っています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 計量経済学の方法（回帰分析と最尤法） 2. 時系列データの特性と定常性 3. 自己回帰（AR）モデルと ARMAモデル、ARIMAモデル 4. 単位根（ランダム・ウォーク）モデル 5. 金融時系列モデル（ARCH、GARCH、EGARCH、TGARCH、GARCH-M） 6. 多変量のARモデル（VAR）と共和分 7. マーケットストラクチャとRealized Volatility 8. 長期記憶の時系列モデル <p>なお、詳細な講義日程と講義内容については私のホームページ http://www.comp.tmu.ac.jp/iiboshi/ をご覧ください。</p> <p>【授業外学習】 毎回の講義ノートはあらかじめEラーニングシステム「KIBACO」にアップロードするので、教科書と合わせて予習しておくこと。また、レポートとして、教科書にある演習問題と計量ソフトウェア「Matlab」もしくは「R」を利用したデータ分析の出題を行う。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>[1] 山本拓著（1988）『経済の時系列分析』創文社 [2] 刈屋武昭著（2003）“金融時系列分析入門”『経済時系列の統計』、第1部、p3-101、岩波書店 [3] 渡部敏明著（2000）『ボラティリティ変動モデル』朝倉書店 [4] 田中勝人（2006）『現代時系列分析』岩波書店</p>					
⑤成績評価方法	講義中に出題するレポート2題（50%）および期末試験（50%）により評価を行う。					
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	・計量ソフトウェアとして「Matlab」もしくは「R」を利用する。					

2018年度以降入学生	金融経済学特別研究	P0544	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	金融経済学特別講義	P533	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	田中 敬一		前期	火曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	ファイナンスに必要な確率解析を修得するとともに、関連トピックスで代表的な論文等を輪読する。					
②習得できる知識・ 能力や授業の目的・ 到達目標	ファイナンスに必要な確率解析					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業内容】 テキスト・論文の輪読 関心のある論文を選び、その内容を報告する。 分野としては デリバティブ、金利期間構造モデル、クレジットリスク、リスク管理 等である。 必要に応じてテキストに挙げた書籍の輪読もしくは講義を行う。</p> <p>【授業外学習】 論文発表の準備</p>					
④テキスト・参考書等	Nunno et al., Malliavin Calculus for Levy Processes with Applications to Finance Touzi, Optimal Stochastic Control, Stochastic Target Problems, and Backward SDE					
⑤成績評価方法	発表および授業への貢献度により評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	オフィスアワー：火曜 4限					

2018年度以降入学生	金融経済学特別演習	P0545	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	金融経済学特別講義	P534	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	田中 敬一		後期	火曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	ファイナンスに必要な確率解析を修得するとともに、関連トピックスで代表的な論文等を輪読する。 金融経済学特別研究で得た知識を活用して、最新の研究論文の輪読およびその内容の検討を行う。					
②習得できる知識・ 能力や授業の目的・ 到達目標	ファイナンスに必要な確率解析					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業内容】 理論展開の本質を理解し、その内容の拡張の可能性を探ることや、数値計算を再現し、その特徴を把握することなどを試みる。このような作業を経て、理論・数値計算・実証に関する論文執筆の準備を行うことが目標である。 分野としては デリバティブ、金利期間構造モデル、クレジットリスク、リスク管理 等である。 必要に応じてテキストに挙げた書籍の輪読もしくは講義を行う。</p> <p>【授業外学習】 論文発表の準備</p>					
④テキスト・参考書等	Nunno et al., Malliavin Calculus for Levy Processes with Applications to Finance Touzi, Optimal Stochastic Control, Stochastic Target Problems, and Backward SDE					
⑤成績評価方法	発表および授業への貢献度により評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	オフィスアワー：火曜 4限					

2018年度以降入学生	日本経済論特別研究	P0546	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習（日本経済論）	P503	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	村田 啓子		前期	月曜日		2時限
①授業方針・テーマ	日本経済の実証分析。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	日本経済の実証分析についての先行研究を学び、実証研究を行う能力を身につける。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	受講者の意向も考慮するが、まずは家計行動（消費・貯蓄）の実証研究（英文、サーベイ論文含む。必要があれば理論の文献で補強）についての文献を輪読する予定。					
④テキスト・参考書等	授業時に提示する。					
⑤成績評価方法	平常点及びレポート。					
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	特になし。					

2018年度以降入学生	日本経済論特別演習	P0547	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習（日本経済論）	P504	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	村田 啓子		後期	月曜日		2時限
①授業方針・テーマ	日本経済の実証分析。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	日本経済の実証分析についての先行研究を学び、実証研究を行う能力を身につける。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	受講者の意向も考慮するが、まずは労働市場（日本的雇用慣行とその変化、近年の課題）に関する実証研究（英文、サーベイ論文含む。必要があれば理論の文献で補強）についての文献を輪読する予定。					
④テキスト・参考書等	授業時に提示する。					
⑤成績評価方法	平常点及びレポート。					
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	特になし。					

2018年度以降入学生	ゲーム理論特別研究	P0548	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ゲーム理論特別講義	P513	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	渡辺 隆裕		前期	火曜日	4時限	
①授業方針・テーマ	まず、経済数学等のテキストの講義と輪読と演習を行い、ゲーム理論を学ぶために必要な数学を身につけます。 次に、ゲーム理論の講義と輪読によって、高度で専門的なゲーム理論の知識を身につけることを目的とします。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	集合、制約条件付き最適化、動的計画などの数学力を身につける。合理的アプローチのゲーム理論の発展（戦略形ゲーム、展開形ゲーム、支配戦略、ナッシュ均衡）を学ぶ。数学による形式化を完全に行うこと、基本的な定理の証明などができる力を身につけることを目標とする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画】 数学の基礎：集合・二項関係・順序関係、制約条件付き最適化、動的計画 ゲーム理論の基礎：戦略形ゲーム、展開形ゲームの基礎</p> <p>【授業方法】 テキストと教材を定めて、演習と輪読を繰り返してゆく形式で講義を行います。</p> <p>【授業外学習】 輪読で当番となった部分は、内容をよく理解し、レジメを作って発表の準備をすることが求められます。 また、宿題となった演習問題を自宅で解くことが求められます。</p>					
④テキスト・参考書等	S. Taldes, Game Theory: An Introduction, Princeton University Press. R. K. Sundaram, A First Course in Optimization Theory, Cambridge University Press, 1996.					
⑤成績評価方法	普段の出席・参加状況と演習課題の解答により評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	オフィスアワーは特に設定しませんが、質問は積極的に受け付けます。 事前にメール、kibacoでアポイントメントをとり、私の研究室（3号館4F411号室）へ来て下さい。					

2018年度以降入学生	ゲーム理論特別演習	P0549	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ゲーム理論特別講義	P514	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	渡辺 隆裕		後期	火曜日		4時限
①授業方針・テーマ	ゲーム理論の講義と輪読によって、前期のゲーム理論特別講義よりも、さらに発展した内容のゲーム理論を身につけることを目的とします。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ゲーム理論の発展的内容（均衡の精緻化、不完備情報の戦略形ゲーム、不完備情報の展開形ゲーム、繰り返しゲーム、交渉ゲーム、進化ゲーム、協力ゲーム）を学ぶ。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画】 第1回 ガイダンス 第2回-第3回 一般の展開形ゲームと均衡の精緻化 第4回-第5回 不完備情報の戦略形ゲーム 第6回-第7回 不完備情報の展開形ゲーム・シグナリングゲーム 第8回-第9回 繰り返しゲーム 第10回 交渉ゲーム 第11回 進化ゲーム 第12回-第13回 協力ゲーム 第14回-第15回 まとめ</p> <p>【授業方法】 テキストと教材を定めて、演習と輪読を繰り返してゆく形式で講義を行います。</p> <p>【授業外学習】 輪読で当番となった部分は、内容をよく理解し、レジメを作って発表の準備をすることが求められます。 また、宿題となった演習問題を自宅で解くことが求められます。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>【参考書】 S. Taldes, Game Theory: An Introduction, Princeton University Press.</p>					
⑤成績評価方法	普段の出席・参加状況と演習課題の解答により評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>オフィスアワーは特に設定しませんが、質問は積極的に受け付けます。 事前にメール、kibacoでアポイントメントをとり、私の研究室（3号館4F411号室）へ来て下さい。</p>					

2018年度以降入学生	数理統計学特別研究	P0550	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	統計学特別講義	P501	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	小方 浩明		前期	木曜日		3時限
①授業方針・テーマ	経済時系列データの特色、ならびに時系列データの基本的な解析方法について学ぶ。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	時系列データの特徴を理解する。 さまざまな時系列データ解析の方法を理解する。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	テキスト（洋書）を輪読する。テキストは相談のうえ決めるが、例えば以下が挙げられる。 【授業外学習】輪読するテキストを事前に読み、内容を理解し、授業中に発表できる状態にしておくこと。					
④テキスト・参考書等	Ruey S. Tsay. (2010) (I) Analysis of Financial time series. 3rd ed. (I) Wiley.					
⑤成績評価方法	出席、授業への参加状況を総合的に評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	統計学I・IIで扱われるような基本的な統計学の知識を前提とする。また、数理的側面の強い統計学のテキストを読むことを前提としている。なお、初回の授業に必ず出席すること。 【オフィスアワー】時間は特に設定しないので、質問等がある場合はメールで事前にアポイントメントを取ること。					

2018年度以降入学生	数理統計学特別演習	P0551	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	統計学特別講義	P502	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	小方 浩明		後期	木曜日		3時限
①授業方針・テーマ	時系列データの特徴、ならびに時系列データの基本的な解析方法について学ぶ。 自ら興味のあるデータを取得し、実際に解析を行う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	時系列データの特徴を理解する。 さまざまな時系列データ解析の方法を理解する。 統計ソフトウェアRにより時系列解析が行える。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	自らが取得したデータを、統計ソフトウェアRを用いて解析し、進捗状況を授業中に報告する形で進める。 【授業外学習】データの解析。					
④テキスト・参考書等	特に指定しない。					
⑤成績評価方法	出席、授業への参加状況を総合的に評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	数理統計学特別研究を受講済みのこと。 【オフィスアワー】時間は特に設定しないので、質問等がある場合はメールで事前にアポイントメントを取ること。					

2018年度以降入学生	公共経済学特別研究	P0552	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	公共経済特別講義	P665	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	森本 脩平		前期	火曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	大学院レベルの公共経済学について学ぶ。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	公共経済学の専門的知識と分析手法の習得を目標とする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	公共経済学関連の専門書の輪読や講義を主に行う。 【授業外学習】 授業中に指示する文献に目を通し授業内容の予習と復習を行うこと。					
④テキスト・参考書等	受講者と相談の上決定する。					
⑤成績評価方法	授業に取り組む姿勢、討論への参加状況、授業での報告、レポートなどにより評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。 【オフィスアワー】 水曜3限					

2018年度以降入学生	公共経済学特別演習	P0553	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	公共経済特別講義	P666	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	森本 脩平		後期	火曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	大学院レベルの公共経済学について学ぶ。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	公共経済学の専門的知識と分析手法の習得を目標とする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	公共経済学関連の専門書の輪読や問題演習を主に行う。 【授業外学習】 授業中に指示する文献に目を通し授業内容の予習と復習を行うこと。					
④テキスト・参考書等	受講者と相談の上決定する。					
⑤成績評価方法	授業に取り組む姿勢、討論への参加状況、授業での報告、レポートなどにより評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。 【オフィスアワー】 水曜3限					

2018年度以降入学生	国際金融論特別研究	P0554	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	国際金融特別講義	P527	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	荒戸 寛樹		前期	月曜日		1時限
①授業方針・テーマ	マクロ経済学・国際マクロ経済学についての基本文献を読む。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マクロ経済学・国際マクロ経済学についての基本文献が読めるようになる。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>《授業計画・内容》 Handbook of Macroeconomics, Handbook of Economic Growth, Handbook of Monetary Economics, Handbook of International Economics等の文献から各自の興味に合わせて論文を選定し、学生が内容を報告する。</p> <p>《授業方法》 輪読形式で行う。</p> <p>《授業外学習》 文献の内容を理解し、報告の準備を行うこと。 その際、先行研究のレビューも行うと望ましい。</p>					
④テキスト・参考書等	上述のHandbookシリーズを用いる。					
⑤成績評価方法	報告の内容やディスカッションへの参加度を総合的に判断する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<ul style="list-style-type: none"> ・経済学プログラム科目「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「経済数学」「計量経済学」を全て履修済みか、それと同等の知識を持っていることが履修の前提となる。 ・履修希望者は1回目の授業に必ず出席すること。 <p>《オフィス・アワー》 特定の時間を設定することはないが、質問がある場合は遠慮なくメールでアポイントメントを取ること。</p>					

2018年度以降入学生	国際金融論特別演習	P0555	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	国際金融特別講義	P528	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	荒戸 寛樹		後期	月曜日		1時限
①授業方針・テーマ	マクロ経済学・国際マクロ経済学についての基本文献を読む。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マクロ経済学・国際マクロ経済学についての基本文献が読めるようになる。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>《授業計画・内容》 Handbook of Macroeconomics, Handbook of Economic Growth, Handbook of Monetary Economics, Handbook of International Economics等の文献から各自の興味に合わせて論文を選定し、学生が内容を報告する。</p> <p>《授業方法》 輪読形式で行う。</p> <p>《授業外学習》 文献の内容を理解し、報告の準備を行うこと。 その際、先行研究のレビューも行うと望ましい。</p>					
④テキスト・参考書等	上述のHandbookシリーズを用いる。					
⑤成績評価方法	報告の内容やディスカッションへの参加度を総合的に判断する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<ul style="list-style-type: none"> ・経済学プログラム科目「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「経済数学」「計量経済学」を全て履修済みか、それと同等の知識を持っていることが履修の前提となる。 ・履修希望者は1回目の授業に必ず出席すること。 <p>《オフィス・アワー》 特定の時間を設定することはないが、質問がある場合は遠慮なくメールでアポイントメントを取ること。</p>					

2018年度以降入学生	都市環境経済学特別研究	P0556	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習 (環境経済学特論)	P539	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	朝日 ちさと		前期	金曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	<p>持続可能性へのパラダイムシフトや人口減少・技術革新といったマクロ経済環境の構造変化にともない、政策の形成や実施において、資源配分への影響をエビデンス（根拠）に基づいて分析し評価することの重要性が増しています。</p> <p>本講義では、都市・地域・環境経済学の理論および分析手法を用いて、政策介入の経済的分析、事業評価、規制インパクト分析の理論と手法について学びます。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>以下を習得します。</p> <p>① 都市・地域経済学の理論と分析手法 ② 環境経済学の理論と分析手法 ③ 政策の分析・評価のための手法（費用便益分析／環境・リスクの経済的評価／地域経済分析等）</p>					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】 第1回 イントロダクション 第2～7回 都市・地域経済学の理論と手法 第8回 事例研究：費用便益分析・地域経済分析 第9～13回 環境経済学の理論と手法 第14回 事例研究：環境・リスクの経済的評価 第15回 まとめ、レポート提出 （※受講者の状況に応じて構成を変更することがあります。）</p> <p>【授業方法】 テキストを輪読・報告し、後半に報告内容に基づくディスカッションを行います。</p> <p>【授業外学習】 テキストの次回の範囲を予習する。 自らの研究テーマに関連させたディスカッションの準備をする。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 開講時に指示します（受講者の知識・研究テーマ・関心に基づいて対応します）。</p> <p>【参考文献】 授業時に随時紹介します。</p>					
⑤成績評価方法	<p>評価対象とウェイトは次の通りです。 出席【20%】 報告・参加【30%】 期末レポート【50%】</p>					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<ul style="list-style-type: none"> ・ミクロ経済学の既修が望ましい。 ・特定のオフィスアワーは設けませんので、授業に関する質問・連絡がある場合には、事前にメールでアポイントをとってください。 ・e-mail：asahi@tmu.ac.jp 					

2018年度以降入学生	都市環境経済学特別演習	P0557	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習 (環境経済学特論)	P631	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	朝日 ちさと		後期	金曜日		3時限
①授業方針・テーマ	<p>持続可能性へのパラダイムシフトや人口減少・技術革新といったマクロ経済環境の構造変化にともない、政策の形成や実施において、資源配分への影響をエビデンス（根拠）に基づいて分析し評価することの重要性が増しています。</p> <p>本講義では、都市環境経済学講義で習得した都市・地域・環境経済学の理論および分析手法を用いて、受講者自らが設定したテーマについて経済学的な実証分析を行います。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>以下を習得します。</p> <p>① 都市・地域経済学の理論と分析手法の応用 ② 環境経済学の理論と分析手法の応用 ③ 政策の効果に関する実証分析の方法（費用便益分析／環境・リスクの経済的評価／地域経済分析等）</p>					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】 第1回 インTRODダクション 第2～7回 研究テーマの設定、理論モデルの構築、データ収集と予備的分析 第8回 中間報告会 第9～14回 データ分析、仮説検証、レポート執筆 第15回 まとめ、レポート提出 （※受講者の状況に応じて構成を変更することがあります。）</p> <p>【授業方法】 受講者が自らの研究テーマに基づく作業を進め、適宜進捗の報告およびディスカッションを行います。</p> <p>【授業外学習】 分析に必要な理論・手法・データの下調べ。 自らの報告およびディスカッションの準備をする。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 使用しません。</p> <p>【参考文献】 授業時に随時紹介します。</p>					
⑤成績評価方法	<p>評価対象とウェイトは次の通りです。 出席【10%】 報告・参加【20%】 期末レポート【70%】</p>					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>原則として、都市環境経済学講義を履修済みであること。 特定のオフィスアワーは設けませんので、授業に関する質問・連絡がある場合には、事前にメールでアポイントをとってください。 e-mail : asahi@tmu.ac.jp</p>					

2018年度以降入学生	財政学特別研究	P0558	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習 (財政学－公共政策分析)	P507	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	金子 憲		前期	火曜日		1時限
①授業方針・テーマ	この講義では、現在の日本が直面している様々な政策課題に焦点をあてながら、国や地方公共団体などの公共部門が果たす役割を、理論面・制度面・政策面から分析を行う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	国や地方公共団体などの公共部門が行う政策を、財政構造と関連させながら政策的観点から分析を行うことによって、今後の日本の政治・経済・財政全般に関する幅広い視野と政策形成に資する能力を身に付けることを目標とする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【講義計画・内容】 本年度は、日本の住宅政策を取り上げる予定である。</p> <p>【授業外学習】 講義前：事前配布資料を一読し、論点をまとめておくこと。 講義後：講義内に提示する課題について、レポートを作成して提出すること。</p>					
④テキスト・参考書等	講義の際、適宜紹介する。必要に応じてレジュメ等を配布する。					
⑤成績評価方法	出席状況・報告内容・期末レポート等、平常点を基に総合的に評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>【オフィスアワー】 特定のオフィスアワーは設けませんので、授業に関する質問等がある場合は、事前にメールでアポイントを取ってください。</p>					

2018年度以降入学生	財政学特別演習	P0559	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習 (財政学－公共政策分析)	P508	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	金子 憲		前期	火曜日		2時限
①授業方針・テーマ	この講義では、現在の日本が直面している様々な政策課題に焦点をあてながら、国や地方公共団体などの公共部門が果たす役割を、理論面・制度面・政策面から分析を行う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	国や地方公共団体などの公共部門が行う政策を、財政構造と関連させながら政策的観点から分析を行うことによって、今後の日本の政治・経済・財政全般に関する幅広い視野と政策形成に資する能力を身に付けることを目標とする。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【講義計画・内容】 本年度は、日本の住宅政策を取り上げる予定である。</p> <p>【授業外学習】 講義前：事前配布資料を一読し、論点をまとめておくこと。 講義後：講義内に提示する課題について、レポートを作成して提出すること。</p>					
④テキスト・参考書等	講義の際、適宜紹介する。必要に応じてレジュメ等を配布する。					
⑤成績評価方法	出席状況・報告内容・期末レポート等、平常点を基に総合的に評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>【オフィスアワー】 特定のオフィスアワーは設けませんので、授業に関する質問等がある場合は、事前にメールでアポイントを取ってください。</p>					

2018年度以降入学生	日本経済史特別研究	P0560	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	日本経済史特別講義	P542	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	小林 延人		前期	水曜日	4時限	
①授業方針・テーマ	近世後期～現在に至るまで（19～21世紀）の日本経済史を扱う。本授業では、経済史の応用的な方法論を学ぶとともに、修士論文の執筆に向けた準備をする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・先行研究を正確に理解し、通説として受け入れられている歴史的事実を知識として習得するとともに、先行研究を批判的に検討する姿勢を学ぶ。 ・文献や重要語句の意味を自身で検索し、また短い期間で論文の主旨や問題点を析出する訓練を積むことで、修士論文執筆の上で必要な基礎的技能を身につけることができる。 					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】</p> <p>第1回 近世日本の制度的基盤 第2回 幕府財政 第3回 開港に伴う経済構造の変容 第4回 近世後期の貨幣制度 第5回 明治維新と維新政府の経済政策 第6回 松方財政 第7回 地方自治と農村経済 第8回 官営事業と殖産興業政策 第9回 産業革命論 第10回 日清戦後経営 第11回 戦間期の日本経済 第12回 戦時統制経済 第13回 戦後復興 第14回 高度経済成長 第15回 現代日本経済</p> <p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として講義形式で授業を実施するが、あらかじめリーディングリストを配布し、課題論文を提示する。 ・講義を行った後、講義内容を踏まえた短時間のディスカッションを行う。 <p>【授業外学習】</p> <p>参加者には毎回、課題論文に対するコメントを用意してもらう。事前に課題論文を講読していることを前提として授業を進める。</p>					
④テキスト・参考書等	リーディングリストを配布し、課題論文を提示する。					
⑤成績評価方法	議論への参加 [30%]、期末レポート [70%] <ul style="list-style-type: none"> ・レポートについては、適切に課題が設定されているか、先行研究と関連付けて課題が説明されているか、史料的根拠に立脚して自身の見解を述べているか等を評価項目とし、構成と論理性を重視して評価する。 ・正当な理由がなく4回以上授業を欠席した場合は、原則として成績評価の対象としない。 					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	日本経済史に関わる修士論文を執筆する学生対象の授業であるが、それ以外の学生の参加も認める。 【オフィスアワー】 ：原則として毎週木曜2限に設定する。メールで事前に連絡すること。					

2018年度以降入学生	日本経済史特別演習	P0561	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	日本経済史特別講義	P543	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	小林 延人		後期	月曜日		2時限
①授業方針・テーマ	主として、近世中期～昭和戦前期（18世紀～20世紀前半）の日本経済史を扱う。本演習では、経済史の応用的な方法論を学ぶとともに、修士論文の執筆に向けた準備をする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・先行研究を整理し、通説として受け入れられている歴史的事実を知識として習得するとともに、先行研究を批判的に検討する姿勢を学ぶ。 ・個人研究報告を行い、批判を受けることで、自己の研究を見直してさらに議論を深めることができる。 					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】</p> <p>第1回 江戸期商人の活躍と取引、商慣行 第2回 商人と商業組織 第3回 近世後期における信用制度、交易、交通、インフラの成立と商業 第4回 開国にともなう貿易・社会インフラ・流通機構の変容 第5回 近代的商業経営の成立 第6回 近代商業の発展と貿易の拡大 第7回 近代日用品市場の成立と展開 第8回 新たな小売業態の発展と中小小売商 第9回 生産の量的・質的拡大に対する商業者の反応 第10回 戦時配給統制とヤミ市の相克 第11回 戦時配給組織化と商業機能の喪失 第12回 戦争と商業経営者の存亡 第13回 個人研究報告（1） ※ 第14回 個人研究報告（2） ※ 第15回 個人研究報告（3） ※</p> <p>※履修者の人数に応じて、個人研究報告の時間を設定する。</p> <p>【授業方法】</p> <p>①テキストの輪読（第1回～第12回）、②個人研究報告（第13回～第15回）、を組み合わせ実施する。 ①を通じて、基礎的知識の習得と文献を批判的に読み解く能力を養う。 ②を通じて、修士論文の執筆につながるような、研究テーマを探る。研究テーマは、教員が直接的には提示せず、演習参加者が自身の関心に沿って選択する方法を探る。</p> <p>【授業外学習】</p> <p>①の輪読では、毎回報告者を定め、文献の要約・論点をレジュメに作成してきてもらう。報告者以外の演習参加者も事前に文献を講読していることを前提として授業を進める。②では45分～60分程度の報告を行うために、報告者にはレジュメおよびパワーポイント資料を作成することが求められる。</p>					
④テキスト・参考書等	<p>テキスト：廣田誠・山田雄久・木山実・長廣利崇・藤岡里圭『日本商業史—商業・流通の発展プロセスをとらえる』（有斐閣、2017年）定価2,500円＋税 演習参加者には、テキストを事前に入手することを求める。</p>					
⑤成績評価方法	<p>議論への参加〔20%〕、個人研究報告〔40%〕、期末レポート〔40%〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートについては、適切に課題が設定されているか、先行研究と関連付けて課題が説明されているか、史料的根拠に立脚して自身の見解を述べているか等を評価項目とし、構成と論理性を重視して評価する。 ・正当な理由がなく4回以上授業を欠席した場合は、原則として成績評価の対象としない。 					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>日本経済史に関わる修士論文を執筆する学生対象の授業であるが、それ以外の学生の参加も認める。</p> <p>【オフィスアワー】：原則として毎週木曜2限に設定する。メールで事前に連絡すること。</p>					

2018年度以降入学生	経済思想史特別研究	P0562	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学説史特別講義	P661	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	高見 典和		前期	月曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	近年の欧米での経済学史研究を解説します。直接には、近年の研究を参照して執筆した担当講師の記事（日本語）に依拠します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	現在の数理的計量的経済学の直接の起源は、20世紀半ばの一連の数理経済学者の研究にあります。かれらがどのような知的背景をもち、どのような経済学を目指したかを見ることで、経済学は完成された知識ではなく、つねに新しい視点を取り入れてきた学問であることが理解できます。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	担当講師が『経済セミナー』に連載した記事やその他の執筆原稿を用いて、計量経済学、ゲーム理論、行動経済学、IS-LMモデル、成長理論それぞれの誕生や発展の経緯にかんして議論をします。 【授業外学習】 輪読形式をとりますので、各週の担当になった受講者はレジュメを作成してもらいます。					
④テキスト・参考書等	高見典和「連載：経済学説史」『経済セミナー』（2017年6・7月号～2018年2・3月号）					
⑤成績評価方法	授業への貢献50%、レポート50%					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	当科目の履修には担当教員の許可が必要です。初回講義で履修を許可するかどうかを決定しますので、必ず出席してください。 原則として、毎週木曜2限をオフィスアワーに設定します。質問がある場合は、前日17時までに必ずメールで予約をした上で研究室（3号館419室）まで来てください。					

2018年度以降入学生	経済思想史特別演習	P0563	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学説史特別講義	P662	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	高見 典和		後期	月曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	近年の欧米での経済学史研究を解説します。主に20世紀前半から半ばにかけての主流派経済学の歴史にかんする著作や論文をとりあげます。翻訳のあるものは少ないので、主として英文の文献を取り上げるようになります。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	現在の数理的計量的経済学の直接の起源は、20世紀半ばの一連の数理経済学者の研究にあります。かれらがどのような知的背景をもち、どのような経済学を目指したかを見ることで、経済学は完成された知識ではなく、つねに新しい視点を取り入れてきた学問であることが理解できます。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	初回授業で、リーディングリストを配布します。計量経済学、ミクロ消費者理論、マクロ政策論争などにかんする著作や論文をあつかう予定です。 【授業外学習】 輪読形式をとりますので、各週の担当になった受講者はレジュメを作成してもらいます。					
④テキスト・参考書等	適宜指定					
⑤成績評価方法	授業への貢献50%、レポート50%					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	当科目の履修には担当教員の許可が必要です。初回講義で履修を許可するかどうかを決定しますので、必ず出席してください。 原則として、毎週木曜2限をオフィスアワーに設定します。質問がある場合は、前日17時までに必ずメールで予約をした上で研究室（3号館419室）まで来てください。					

2018年度以降入学生	アジア経済史特別研究	P0566	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	アジア経済史特別講義	P645	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	竹内 祐介		前期	金曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	アジア経済史の最新の研究成果を批判的に検討することが目的。対象とするのは、主に19～20世紀で、アジア各国史ではない、地域横断的な研究成果を、講義での解説を通じて確認する。解説を通してマクロ的視野でアジア経済の歴史および現状を考えられるようにする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済史研究をおこなう上での基礎的素養の習得。 ・帝国論、グローバルヒストリー等、近年のアジア経済史研究を巡る新しい方法論の習得。 ・国際交流に不可欠な、日本と世界とのかかわりについての理解を歴史的・経済的側面から深めること。 					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】</p> <p>第1回 ガイダンス：アジア経済史研究の現在 第2回 アジアとヨーロッパの「大分岐」 第3回 アジア間貿易の形成と構造（1）：19世紀末～第一次大戦期 第4回 アジア間貿易の形成と構造（2）：両大戦間期 第5回 日本帝国経済論 第6回 日本植民地経済史研究（1） 第7回 日本植民地経済史研究（2） 第8回 「大東亜共栄圏」経済史研究 第9回 アジアの脱植民地化過程と冷戦体制 第10回 アジア太平洋経済圏の興隆 第11回 キャッチアップ型工業化論 第12回 開発主義 第13回 中国経済の台頭とアジア経済の変容 第14回 現代アジア経済論 第15回 講義のまとめ</p> <p>【授業方法】 配布資料にもとづき、黒板（ホワイトボード）やスライドを使って解説する。</p> <p>【授業外学習】 各講義で指示された指定文献を読むことによる復習。</p>					
④テキスト・参考書等	参考書：杉原薫 [2003]『アジア太平洋経済圏の興隆』大阪大学出版会。各回講義で読むべき文献は、各回で指示する。					
⑤成績評価方法	平常点 50% 期末レポート 50%					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	履修する場合には、必ず初回授業に参加すること。					
	<p>【オフィスアワー】 原則として、毎週水曜日3限。前日までにメールで予約をした上で南大沢Cの研究室（3-316）まで。もしくは授業前後に質問などを受け付ける。</p>					

2018年度以降入学生	アジア経済史特別演習	P0567	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	アジア経済史特別講義	P646	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	竹内 祐介		後期	金曜日		3時限
①授業方針・テーマ	アジア経済史の最新の研究成果を批判的に検討することが目的。対象とするのは、主に19～20世紀で、アジア各国史ではない、地域横断的な研究成果を、文献（主に論文）輪読を通じて確認する。輪読を通してマクロ的視野でアジア経済の歴史および現状を考えられるようにする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済史研究をおこなう上での基礎的素養の習得。 ・帝国論、グローバルヒストリー等、近年のアジア経済史研究を巡る新しい方法論の習得。 ・国際交流に不可欠な、日本と世界とのかかわりについての理解を歴史的・経済的側面から深めること。 					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】</p> <p>第1回 ガイダンス：アジア経済史研究の現在 第2回 アジアとヨーロッパの「大分岐」 第3回 アジア間貿易の形成と構造（1）：19世紀末～第一次大戦期 第4回 アジア間貿易の形成と構造（2）：両大戦間期 第5回 日本帝国経済論 第6回 日本植民地経済史研究（1） 第7回 日本植民地経済史研究（2） 第8回 「大東亜共栄圏」経済史研究 第9回 アジアの脱植民地化過程と冷戦体制 第10回 アジア太平洋経済圏の興隆 第11回 キャッチアップ型工業化論 第12回 開発主義 第13回 中国経済の台頭とアジア経済の変容 第14回 現代アジア経済論 第15回 講義のまとめ</p> <p>【授業方法】 受講者に輪読文献の要約と論点を記した配布資料を作成してもらい、それをもとに議論する。</p> <p>【授業外学習】 各講義で指示された指定文献を読むことによる予習。</p>					
④テキスト・参考書等	参考書：杉原薫 [2003]『アジア太平洋経済圏の興隆』大阪大学出版会。各回講義で読むべき文献は、前期および初回授業で指示する。					
⑤成績評価方法	平常点 50% 期末レポート 50%					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	履修する場合には、必ず初回授業に参加すること。					
	<p>【オフィスアワー】 原則として、毎週水曜日3限。前日までにメールで予約をした上で南大沢Cの研究室（3-316）まで。もしくは授業前後に質問などを受け付ける。</p>					

2018年度以降入学生	金融工学特別研究	P0568	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	金融工学特別講義	P548	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	内山 朋規		前期	木曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	本講義では、金融工学やファイナンスに関する最新の論文を輪読したり、学生自身の研究を発表する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融工学やファイナンスに関する知識・能力を習得する。到達目標は、最新の論文を輪読し、独創性に富んだ新しい論文を執筆できる能力を養うことにある。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	毎回、出席者による報告 【授業外学習】 論文輪読や研究報告・発表の準備					
④テキスト・参考書等	特になし					
⑤成績評価方法	毎回の報告内容と参加態度による総合評価					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	ファイナンス・金融工学では、動学的かつ確率的な枠組みのもとで理論が展開されるため、確率過程や確率解析、統計などで相応のレベルの数学が必須である。例えば以下のテキストのレベルの数学を理解できることが求められる。 Darrell Duffie (2001) Dynamic Asset Pricing Theory, Third Ed., Princeton Univ Pr. ただし、授業では数学だけでなく経済学的なインプリケーションを重視する。 【オフィスアワー】 原則として、火・水・金の午後。これ以外の時間帯でも在席時には随時受け付ける。場所は丸の内サテライトキャンパス。					

2018年度以降入学生	金融工学特別演習	P0569	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	金融工学特別講義	P549	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	内山 朋規		後期	木曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	本講義では、金融工学やファイナンスに関する最新の論文を輪読したり、学生自身の研究を発表する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融工学やファイナンスに関する知識・能力を習得する。到達目標は、最新の論文を輪読し、独創性に富んだ新しい論文を執筆できる能力を養うことにある。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	毎回、出席者による報告 【授業外学習】 論文輪読や研究報告・発表の準備					
④テキスト・参考書等	特になし					
⑤成績評価方法	毎回の報告内容と参加態度による総合評価					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	ファイナンス・金融工学では、動学的かつ確率的な枠組みのもとで理論が展開されるため、確率過程や確率解析、統計などで相応のレベルの数学が必須である。例えば以下のテキストのレベルの数学を理解できることが求められる。 Darrell Duffie (2001) Dynamic Asset Pricing Theory, Third Ed., Princeton Univ Pr. ただし、授業では数学だけでなく経済学的なインプリケーションを重視する。 【オフィスアワー】 原則として、火・水・金の午後。これ以外の時間帯でも在席時には随時受け付ける。場所は丸の内サテライトキャンパス。					

2018年度以降入学生	金融リスク特別研究	P0570	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	金融リスク特別講義	P511	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	室町 幸雄		前期	木曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	金融リスクの定量的評価に関する文献の輪読による基礎知識の習得					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融リスクの定量的評価に必要な基礎知識を習得し、実際に使えるようになることを目指す。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	金融リスクの定量的評価に関する英語テキストの輪読を行う。毎回、担当者がテキストの内容を発表する。担当者は内容を吟味しながら読み進め、レジュメなどを使用しながら参加者に説明する。数式に関しては逐一追跡する。必要があれば、参考文献として他のテキストや論文も読み進める。発表者以外の参加者も、事前にテキストを一読し、疑問点を整理しておくこと。 使用するテキストは初回に参加者と話し合っ決定する。ちなみに、以前使用していたテキストは、McNeil, Frey Embrechts, Quantitative Risk Management: Concepts, Techniques and Tools である。 授業外学習：予習と復習は必須。					
④テキスト・参考書等	初回に決定する。					
⑤成績評価方法	講義への参加姿勢と内容の習得度をもとに評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	数理的な面が強い講義になるので、参加者は基礎的な数学、統計学、ファイナンスの知識を習得していることが必要である。 オフィスアワー：木曜4限（ただし第2、3木曜を除く）。 質問等はメール（muromachi-yukio@tmu.ac.jp）でも受け付ける。					

2018年度以降入学生	金融リスク特別演習	P0571	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	金融リスク特別講義	P512	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	室町 幸雄		後期	木曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	金融リスクの定量的評価に関する文献の輪読による基礎知識の習得					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融リスクの定量的評価に必要な基礎知識を習得し、実際に使えるようになることを目指す。					
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	金融リスクの定量的評価に関する英語テキストの輪読を行う。毎回、担当者がテキストの内容を発表する。担当者は内容を吟味しながら読み進め、レジュメなどを使用しながら参加者に説明する。数式に関しては逐一追跡する。必要があれば、参考文献として他のテキストや論文も読み進める。発表者以外の参加者も、事前にテキストを一読し、疑問点を整理しておくこと。 使用するテキストは初回に参加者と話し合っ決定する。ちなみに、以前使用していたテキストは、McNeil, Frey, Embrechts, Quantitative Risk Management: Concepts, Techniques and Tools である。 内容の理解だけでなく、演習的な要素も適宜加える。 授業外学習：予習と復習は必須。					
④テキスト・参考書等	初回に決定する。					
⑤成績評価方法	講義への参加姿勢と内容の習得度をもとに評価する。					
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	数理的な面が強い講義になるので、参加者は基礎的な数学、統計学、ファイナンスの知識を習得していることが必要である。 オフィスアワー：木曜4限（ただし第2、3木曜を除く）。 質問等はメール（muromachi-yukio@tmu.ac.jp）でも受け付ける。					

Ⅲ 授業概要

(博士後期課程)

2018年度以降入学生	経営学特殊研究	P0401	2 単位
2013～2017年度入学生	経営学特殊講義	P623	2 単位
2012年度以前入学生	—	—	—
担当教員	桑田 耕太郎	前期	金曜日（隔週） 5 時限、6 時限
①授業方針・テーマ	企業の戦略行動と組織のダイナミックな関係について研究する。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	企業行動のダイナミクスを理解するための、組織の学習やイノベーションのメカニズムに関する基礎知識を習得し、理論的な論文を作成する能力の養成を目的とする。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営戦略、組織学習、イノベーション、サイエンス・イノベーションに関する基礎的文献、最近の先端研究に関する論文を輪読する。 2. 参加者の研究テーマにそって、論文の執筆をおこなう。 <p>【授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献の輪読、ディスカッションを通じて、理解を深める。 2. 参加者の論文執筆を促し、授業内で進捗状況を報告してもらい、それに対して指導を行う。 <p>【授業外学習】</p> <p>授業で取り上げる文献はもちろん、各自の研究テーマにそった文献の精読、論文執筆に必要なデータの収集・整理、論文の執筆をおこなうことが求められる。</p>		
④テキスト・参考書等	Academy of Management, Human Relations, Organization Scienceなど最先端の文献 組織学習、サイエンス・イノベーションに関する文献をそれぞれ取り上げる。		
⑤成績評価方法	報告・ディスカッションを通じた授業への貢献と、論文の執筆状況によって評価する。		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	経営戦略、経営組織に関する基礎科目を履修していることが望ましい。		

2018年度以降入学生	経営学特殊演習	P0402	2 単位
2013～2017年度入学生	経営学特殊講義	P624	2 単位
2012年度以前入学生	—	—	—
担当教員	桑田 耕太郎	後期	金曜日（隔週） 5 時限、6 時限
①授業方針・テーマ	企業の戦略行動と組織のダイナミックな関係について研究する。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	企業行動のダイナミクスを理解するための、組織の学習やイノベーションのメカニズムに関する基礎知識を習得し、理論的な論文を作成する能力の養成を目的とする。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営戦略、組織学習、イノベーション、サイエンス・イノベーションに関する基礎的文献、最近の先端研究に関する論文を輪読する。 2. 参加者の研究テーマにそって、論文の執筆をおこなう。 <p>【授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献の輪読、ディスカッションを通じて、理解を深める。 2. 参加者の論文執筆を促し、授業内で進捗状況を報告してもらい、それに対して指導を行う。 <p>【授業外学習】</p> <p>授業で取り上げる文献はもちろん、各自の研究テーマにそった文献の精読、論文執筆に必要なデータの収集・整理、論文の執筆をおこなうことが求められる。</p>		
④テキスト・参考書等	Academy of Management, Human Relations, Organization Scienceなど最先端の文献 組織学習、サイエンス・イノベーションに関する文献をそれぞれ取り上げる。		
⑤成績評価方法	報告・ディスカッションを通じた授業への貢献と、論文の執筆状況によって評価する。		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	経営戦略、経営組織に関する基礎科目を履修していることが望ましい。		

2018年度以降入学生	—	—	—
2013～2017年度入学生	—	—	—
2012年度以前入学生	経営学特殊研究		P468 4単位
担当教員	桑田 耕太郎	通年	金曜日（隔週） 5時限、6時限
①授業方針・テーマ	企業の戦略行動と組織のダイナミックな関係について研究する。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	企業行動のダイナミクスを理解するための、組織の学習やイノベーションのメカニズムに関する基礎知識を習得し、理論的な論文を作成する能力の養成を目的とする。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営戦略、組織学習、イノベーション、サイエンス・イノベーションに関する基礎的文献、最近の先端研究に関する論文を輪読する。 2. 参加者の研究テーマにそって、論文の執筆をおこなう。 <p>【授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献の輪読、ディスカッションを通じて、理解を深める。 2. 参加者の論文執筆を促し、授業内で進捗状況を報告してもらい、それに対して指導を行う。 <p>【授業外学習】</p> <p>授業で取り上げる文献はもちろん、各自の研究テーマにそった文献の精読、論文執筆に必要なデータの収集・整理、論文の執筆をおこなうことが求められる。</p>		
④テキスト・参考書等	Academy of Management, Human Relations, Organization Scienceなど最先端の文献 組織学習、サイエンス・イノベーションに関する文献をそれぞれ取り上げる。		
⑤成績評価方法	報告・ディスカッションを通じた授業への貢献と、論文の執筆状況によって評価する。		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	経営戦略、経営組織に関する基礎科目を履修していることが望ましい。		

2018年度以降入学生	組織理論特殊研究	P0403	2単位
2013～2017年度入学生	組織理論特殊研究	P596	2単位
2012年度以前入学生	—	—	—
担当教員	高尾 義明	前期	火曜日 4時限
①授業方針・テーマ	組織理論・組織行動論を中心に、経営組織論の文献を講読する。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営組織論の古典的文献を踏まえつつ、最新のジャーナルを講読することを通じて、古典と最新のリサーチ・クエスチョンの連続性／非連続性を理解するとともに、研究方法論の変化を把握することを本講義の目的とする。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>経営組織論の古典的文献（たとえば、Simon [1997] など）を取り上げた後に、ジャーナル論文の講読に移る。講読する論文は受講生の研究テーマを踏まえて決定するが、Academy of Management Review/JournalやOrganization Science, Journal of Organizational Behaviorなどの英文ジャーナル掲載論文を主に取り上げる。</p> <p>【授業方法】 文献の発表及びそれに基づくディスカッションによって授業が行われる。</p> <p>【授業外学習】 毎回、リーディング・アサイメント（講読文献）を精読して授業に臨むことが求められる。</p>		
④テキスト・参考書等	講読する文献及び参考書は都度指定する。		
⑤成績評価方法	文献講読における発表（75%）及びディスカッションへの貢献（25%）をもとに総合的に評価する。		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>【オフィスアワー】 オフィスアワーは特に設定しないが、直接質問したい場合は随時受け付けるので、事前にメールでアポイントメントを取ること。</p> <p>【連絡先】 ytakao@tmu.ac.jp</p>		

2018年度以降入学生	組織理論特殊演習		P0404	2単位
2013～2017年度入学生	組織理論特殊研究		P597	2単位
2012年度以前入学生	—		—	—
担当教員	高尾 義明	後期	火曜日	4時限
①授業方針・テーマ	組織理論・組織行動論を中心に、経営組織論の文献を講読する。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営組織論の古典的文献を踏まえつつ、最新のジャーナルを講読することを通じて、古典と最新のリサーチ・クエスチョンの連続性／非連続性を理解するとともに、研究方法論の変化を把握することを本演習の目的とする。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	講読する論文は受講生の研究テーマを踏まえて決定するが、Academy of Management Review/JournalやOrganization Science, Journal of Organizational Behaviorなどの英文ジャーナル掲載論文を主に取り上げる。 【授業方法】 文献の発表及びそれに基づくディスカッションによって授業が行われるが、ディスカッションを重視した授業となる。 【授業外学習】 毎回、リーディング・アサイメント（講読文献）を精読して授業に臨むことが求められる。			
④テキスト・参考書等	講読する文献及び参考書は都度指定する。			
⑤成績評価方法	文献講読における発表（50%）及びディスカッションへの貢献（50%）をもとに総合的に評価する。			
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	【オフィスアワー】 オフィスアワーは特に設定しないが、直接質問したい場合は随時受け付けるので、事前にメールでアポイントメントを取ること。 【連絡先】 ytakao@tmu.ac.jp			

2018年度以降入学生	—		—	—
2013～2017年度入学生	—		—	—
2012年度以前入学生	組織理論特殊研究		P451	4単位
担当教員	高尾 義明	通年	火曜日	4時限
①授業方針・テーマ	組織理論・組織行動論を中心に、経営組織論の文献を講読する。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営組織論の古典的文献を踏まえつつ、最新のジャーナルを講読することを通じて、古典と最新のリサーチ・クエスチョンの連続性／非連続性を理解するとともに、研究方法論の変化を把握することを本講義の目的とする。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	経営組織論の古典的文献（たとえば、Simon[1997] など）を取り上げた後に、ジャーナル論文の講読に移る。講読する論文は受講生の研究テーマを踏まえて決定するが、Academy of Management Review/JournalやOrganization Science, Journal of Organizational Behaviorなどの英文ジャーナル掲載論文を主に取り上げる。 【授業方法】 文献の発表及びそれに基づくディスカッションによって授業が行われる。 【授業外学習】 毎回、リーディング・アサイメント（講読文献）を精読して授業に臨むことが求められる。			
④テキスト・参考書等	講読する文献及び参考書は都度指定する。			
⑤成績評価方法	文献講読における発表（60%）及びディスカッションへの貢献（40%）をもとに総合的に評価する。			
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	【オフィスアワー】 オフィスアワーは特に設定しないが、直接質問したい場合は随時受け付けるので、事前にメールでアポイントメントを取ること。 【連絡先】 ytakao@tmu.ac.jp			

2018年度以降入学生	ヒューマン・リソース・マネジメント特殊研究	P0405	2 単位
2013～2017年度入学生	組織理論特殊研究	P594	2 単位
2012年度以前入学生	—	—	—
担当教員	西村 孝史	前期	水曜日 2 時限
①授業方針・テーマ	将来的に研究者を志向する者を対象に人材マネジメントおよび組織行動論に関する文献を輪読する。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	人材マネジメントが引き起こす様々な現象を説明するためには、現象間の因果を推論するための理論の蓄積が欠かせない。人材マネジメントでは、そうした理論的な枠組みの多くを組織行動論に依拠している。そこでこの授業では、人材マネジメント分野で定番とされている論文と比較的新しい論文を読むことで人材マネジメント研究の現時点における到達点を知り、それらがどのような理論枠組みから説明されているのかを知ることを目的とする。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>基本的には毎回1本（1章）のペースで論文・テキストの輪読をすすめる。</p> <p>具体的には、経営学の主要な学術雑誌に掲載された論文およびジャーナルに掲載された論文を輪読していくことで論文を読む力を養う。そのため、受講者は事前に次回予定されている論文について内容を理解した上で授業に臨むこと。</p> <p>具体的に以下のようなジャーナルに掲載されている論文、もしくはブックチャプターを指す。 Academy of Management Journal, Journal of Management, Research in Personnel and Human Resource Management, Research in Organizational Behavior, Human Relations, Human Resource Management, International Journal of Human Resource Management, Organization Science, Journal of Applied Psychology、組織科学、日本経営学会誌、日本労働研究雑誌</p>		
④テキスト・参考書等	現時点では、Strategic Human Resource Managementの中でも、flexibilityに関する論文とその周辺領域、およびsocial capitalに関連する論文を読む予定であるが、受講者と相談しながら決める。		
⑤成績評価方法	発表（50%）及びディスカッションへの貢献度（50%）をもとに総合的に評価する。		
⑥特記事項 （他の授業科目との関連性）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期・後期の授業では最低1回ずつそれぞれ自分が取り組んでいる研究テーマについて発表してもらう予定 2. オフィスアワーは、水曜日12:00-14:30で研究室（3号館305号室）だが、訪問の際は事前にメールにて教員にアポイントを取ることを 		

2018年度以降入学生	ヒューマン・リソース・マネジメント特殊演習	P0406	2 単位
2013～2017年度入学生	組織理論特殊研究	P595	2 単位
2012年度以前入学生	—	—	—
担当教員	西村 孝史	後期	水曜日 2 時限
①授業方針・テーマ	将来的に研究者を志向する者を対象に人材マネジメントおよび組織行動論に関する文献を輪読する。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	人材マネジメントが引き起こす様々な現象を説明するためには、現象間の因果を推論するための理論の蓄積が欠かせない。人材マネジメントでは、そうした理論的な枠組みの多くを組織行動論に依拠している。そこでこの授業では、人材マネジメント分野で定番とされている論文と比較的新しい論文を読むことで人材マネジメント研究の現時点における到達点を知り、それらがどのような理論枠組みから説明されているのかを知ることを目的とする。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>基本的には毎回1本（1章）のペースで論文・テキストの輪読をすすめる。 具体的には、経営学の主要な学術雑誌に掲載された論文およびジャーナルに掲載された論文を輪読していくことで論文を読む力を養う。そのため、受講者は事前に次回予定されている論文について内容を理解した上で授業に臨むこと。</p> <p>具体的に以下のようなジャーナルに掲載されている論文、もしくはブックチャプターを指す。 Academy of Management Journal, Journal of Management, Research in Personnel and Human Resource Management, Research in Organizational Behavior, Human Relations, Human Resource Management, International Journal of Human Resource Management, Organization Science, Journal of Applied Psychology、組織科学、日本経営学会誌、日本労働研究雑誌</p>		
④テキスト・参考書等	現時点では、Strategic Human Resource Managementの中でも、flexibilityに関する論文とその周辺領域、およびsocial capitalに関連する論文を読む予定であるが、受講者と相談しながら決める。		
⑤成績評価方法	発表（50%）及びディスカッションへの貢献度（50%）をもとに総合的に評価する。		
⑥特記事項 （他の授業科目との関連性）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期・後期の授業では最低1回ずつそれぞれ自分が取り組んでいる研究テーマについて発表してもらう予定 2. オフィスアワーは、水曜日12:00-14:30で研究室（3号館305号室）だが、訪問の際は事前にメールにて教員にアポイントを取ること 		

2018年度以降入学生	—	—	—
2013～2017年度入学生	—	—	—
2012年度以前入学生	組織理論特殊研究		P450 4単位
担当教員	西村 孝史	通年	水曜日 2時限
①授業方針・テーマ	将来的に研究者を志向する者を対象に人材マネジメントおよび組織行動論に関する文献を輪読する。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	人材マネジメントが引き起こす様々な現象を説明するためには、現象間の因果を推論するための理論の蓄積が欠かせない。人材マネジメントでは、そうした理論的な枠組みの多くを組織行動論に依拠している。そこでこの授業では、人材マネジメント分野で定番とされている論文と比較的新しい論文を読むことで人材マネジメント研究の現時点における到達点を知り、それらがどのような理論枠組みから説明されているのかを知ることを目的とする。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>基本的には毎回1本（1章）のペースで論文・テキストの輪読をすすめる。</p> <p>具体的には、経営学の主要な学術雑誌に掲載された論文およびジャーナルに掲載された論文を輪読していくことで論文を読む力を養う。そのため、受講者は事前に次回予定されている論文について内容を理解した上で授業に臨むこと。</p> <p>具体的に以下のようなジャーナルに掲載されている論文、もしくはブックチャプターを指す。 Academy of Management Journal, Journal of Management, Research in Personnel and Human Resource Management, Research in Organizational Behavior, Human Relations, Human Resource Management, International Journal of Human Resource Management, Organization Science, Journal of Applied Psychology、組織科学、日本経営学会誌、日本労働研究雑誌</p>		
④テキスト・参考書等	現時点では、Strategic Human Resource Managementの中でも、flexibilityに関する論文とその周辺領域、およびsocial capitalに関連する論文を読む予定であるが、受講者と相談しながら決める。		
⑤成績評価方法	発表（50%）及びディスカッションへの貢献度（50%）をもとに総合的に評価する。		
⑥特記事項 （他の授業科目との関連性）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期・後期の授業では最低1回ずつそれぞれ自分が取り組んでいる研究テーマについて発表してもらう予定 2. オフィスアワーは、水曜日12:00～14:30で研究室（3号館305号室）だが、訪問の際は事前にメールにて教員にアポイントを取ること 		

2018年度以降入学生	意思決定特殊研究	P0407	2 単位
2013～2017年度入学生	組織理論特殊研究	P574	2 単位
2012年度以前入学生	組織理論特殊研究	P438	2 単位
担当教員	長瀬 勝彦	前期	火曜日 2 時限
①授業方針・テーマ	行動意思決定論に関する研究		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	行動意思決定論の主な概念と、そのそれぞれが導出された諸研究について深く理解し、また批判できるようになること。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	文献講読を中心に進行する。 【授業外学習】 次の授業で扱う英語論文の要約とその論文への批判的なコメントを作成する。		
④テキスト・参考書等	原則として行動意思決定論に関する英文の研究論文を使用する。		
⑤成績評価方法	提出されたレポートや授業のディスカッションへの参加などで評価する。試験はおこなわない。		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	修士レベルの行動意思決定論の知識があることを受講の条件とする。 【質問受付方法】 原則として火曜 1 限をオフィスアワーに設定する。ただしメールもしくは授業前後の直接の申し出による予約制とする。メールでの質問も受け付ける。 【連絡先】 nagase@tmu.ac.jp		

2018年度以降入学生	意思決定特殊演習	P0408	2 単位
2013～2017年度入学生	組織理論特殊研究	P575	2 単位
2012年度以前入学生	組織理論特殊研究	P439	2 単位
担当教員	長瀬 勝彦	後期	火曜日 2 時限
①授業方針・テーマ	行動意思決定論に関する研究		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	行動意思決定論の主な概念と、そのそれぞれが導出された諸研究について深く理解し、また批判できるようになること。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	文献講読を中心に進行する。 【授業外学習】 次の授業で扱う英語論文の要約とその論文への批判的なコメントを作成する。		
④テキスト・参考書等	原則として行動意思決定論に関する英文の研究論文を使用する。		
⑤成績評価方法	提出されたレポートや授業のディスカッションへの参加などで評価する。試験はおこなわない。		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	修士レベルの行動意思決定論の知識があることを受講の条件とする。 【質問受付方法】 原則として火曜 1 限をオフィスアワーに設定する。ただしメールもしくは授業前後の直接の申し出による予約制とする。メールでの質問も受け付ける。 【連絡先】 nagase@tmu.ac.jp		

2018年度以降入学生	ベンチャービジネス特殊研究		P0409	2単位
2013～2017年度入学生	経営学特殊講義		P627	2単位
2012年度以前入学生	—		—	—
担当教員	高橋 勅徳	前期	金曜日（隔週）	5時限、6時限
①授業方針・テーマ	企業家研究に基づいた研究論文を作成する上で必要な、理論的系譜と調査方法論について、必読文献の精読を通じて学んでいく。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営組織論、企業家研究に関する必読文献および先端的研究に関する知識と、これらの知見に基づいてフィールドワークを実践するための方法論について、学ぶことを目標とする。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>授業内容 桑田・松嶋・高橋（編）『制度的企業家』の輪読および、論文執筆に向けた研究進捗の報告を中心に指導を行う。</p> <p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 『制度的企業家』第1章の輪読 第3回 『制度的企業家』第2章の輪読 第4回 『制度的企業家』第3章の輪読 第5回 『制度的企業家』第4章の輪読 第6回 『制度的企業家』第5章の輪読 第7回 研究進捗状況報告 第8回 『制度的企業家』第6章の輪読 第9回 『制度的企業家』第7章の輪読 第10回 『制度的企業家』第8章の輪読 第11回 『制度的企業家』第9章の輪読 第12回 『制度的企業家』第10章の輪読 第13回 『制度的企業家』第11章の輪読 第14回 『制度的企業家』第12章の輪読 第15回 研究進捗状況報告</p> <p>授業外学習 各回の課題テキストを当日までに熟読すること。 輪読の担当者は、1時間程度の報告レジュメを用意すること。</p>			
④テキスト・参考書等	テキスト・参考書については桑田・松嶋・高橋（編）『制度的企業家』、および必要に応じてその都度指定する。			
⑤成績評価方法	授業への出席 30%、報告プレゼンの完成度 30%、期末レポート 40%の割合で評価する。			
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	<p>特になし</p> <p>オフィスアワーについては、misanori@tmu.ac.jpに連絡の上、スケジュールを調整し随時受け付ける。</p>			

2018年度以降入学生	ベンチャービジネス特殊演習		P0410	2単位
2013～2017年度入学生	経営学特殊講義		P628	2単位
2012年度以前入学生	—		—	—
担当教員	高橋 勅徳	後期	金曜日 (隔週)	5時限、6時限
①授業方針・テーマ	企業家研究に基づいた研究論文を作成する上で必要な、理論的系譜と調査方法論について、必読文献の精読を通じて学んでいく。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営組織論、企業家研究に関する必読文献および先端的研究に関する知識と、これらの知見に基づいてフィールドワークを実践するための方法論について、学ぶことを目標とする。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>授業内容</p> <p>バーニー・G. グレイザー・アンセルム・L. ストラウス (著)『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』の輪読および、論文作成に向けた研究進捗報告を行う。</p> <p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第1章の輪読 第3回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第2章の輪読 第4回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第3章の輪読 第5回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第4章の輪読 第6回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第5章の輪読 第7回 研究進捗状況報告 第8回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第6章の輪読 第9回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第7章の輪読 第10回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第8章の輪読 第11回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第9章の輪読 第12回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第10章の輪読 第13回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第11章の輪読 第14回 研究進捗状況報告 第15回 研究進捗状況報告</p> <p>授業外学習</p> <p>各回の課題テキストを当日までに熟読すること。 輪読の担当者は、1時間程度の報告レジュメを用意すること。</p>			
④テキスト・参考書等	バーニー・G. グレイザー・アンセルム・L. ストラウス (著)『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』および、必要に応じてその都度指定する。			
⑤成績評価方法	授業への出席 30%、報告プレゼンの完成度 30%、期末レポート 40%の割合で評価する。			
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>特になし</p> <p>オフィスアワーについては、misanori@tmu.ac.jpに連絡の上、スケジュールを調整し随時受け付ける。</p>			

2018年度以降入学生	—	—	—
2013～2017年度入学生	—	—	—
2012年度以前入学生	経営学特殊研究		P471 4単位
担当教員	高橋 勅徳	通年	金曜日（隔週） 5時限、6時限
①授業方針・テーマ	企業家研究に基づいた研究論文を作成する上で必要な、理論的系譜と調査方法論について、必読文献の精読を通じて学んでいく。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営組織論、企業家研究に関する必読文献および先端的研究に関する知識と、これらの知見に基づいてフィールドワークを実践するための方法論について、学ぶことを目標とする。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>授業内容 桑田・松嶋・高橋（編）『制度的企業家』および、バーニー・G. グレイザー・アンセルム・L. ストラウス（著）『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』の輪読および、学会報告や投稿論文の執筆に合わせた研究進捗の報告を中心に指導を行う。</p> <p>授業計画 前期（15回） 第1回 ガイダンス 第2回 『制度的企業家』第1章の輪読 第3回 『制度的企業家』第2章の輪読 第4回 『制度的企業家』第3章の輪読 第5回 『制度的企業家』第4章の輪読 第6回 『制度的企業家』第5章の輪読 第7回 研究進捗状況報告 第8回 『制度的企業家』第6章の輪読 第9回 『制度的企業家』第7章の輪読 第10回 『制度的企業家』第8章の輪読 第11回 『制度的企業家』第9章の輪読 第12回 『制度的企業家』第10章の輪読 第13回 『制度的企業家』第11章の輪読 第14回 『制度的企業家』第12章の輪読 第15回 研究進捗状況報告</p> <p>後期（15回） 第1回 ガイダンス 第2回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第1章の輪読 第3回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第2章の輪読 第4回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第3章の輪読 第5回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第4章の輪読 第6回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第5章の輪読 第7回 研究進捗状況報告 第8回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第6章の輪読 第9回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第7章の輪読 第10回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第8章の輪読 第11回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第9章の輪読 第12回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第10章の輪読 第13回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第11章の輪読 第14回 研究進捗状況報告 第15回 研究進捗状況報告</p> <p>授業外学習 各回の課題テキストを当日までに熟読すること。 輪読の担当者は、1時間程度の報告レジュメを用意すること。</p>		
④テキスト・参考書等	桑田・松嶋・高橋（編）『制度的企業家』 バーニー・G. グレイザー・アンセルム・L. ストラウス（著）『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』 その他、必要に応じてその都度指定する。		
⑤成績評価方法	授業への出席 30%、報告プレゼンの完成度 30%、期末レポート 40%の割合で評価する。		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	特になし オフィスアワーについては、misanori@tmu.ac.jpに連絡の上、スケジュールを調整し随時受け付ける。		

2018年度以降入学生	経営戦略特殊研究	P0411	2単位
2013～2017年度入学生	経営戦略特殊研究	P673	2単位
2012年度以前入学生	経営戦略特殊研究	P432	2単位
担当教員	竹田 陽子	前期	火曜日 4時限
①授業方針・テーマ	経営学の理論構築とリサーチデザイン、論文作成の方法を学ぶ。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	研究方法論を理論構築からリサーチデザインまで身につけ、本格的な学術研究のための研究計画書作成ができるようになる。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・授業方法】 受講者と相談の上設定した研究課題について、文献精査、レビュー論文（小レポート）の作成、リサーチデザイン、研究計画書作成までのプロセスを実習する。</p> <p>【授業外学習】 文献レビュー、実証研究の実施（プリテストなど）、レポート執筆に毎週精力的にとりくむ必要がある。受講者の学位論文作成プロセスとできうる限りシナジーを効かせてよい。</p>		
④テキスト・参考書等	授業中に紹介する		
⑤成績評価方法	授業貢献 50%、期末レポート（研究計画書）50%		
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	<p>オフィスアワーは個別にメールでアポイントメントをとってください。メールアドレスは初回授業で伝えます。</p> <p>経営学の修士号を保持していない受講者は、修士レベルの経営戦略と経営組織に関する授業、学部レベルのミクロ経済学、統計学に関する授業を履修していることを前提とします。</p>		

2018年度以降入学生	経営戦略特殊演習	P0412	2単位
2013～2017年度入学生	経営戦略特殊研究	P674	2単位
2012年度以前入学生	経営戦略特殊研究	P433	2単位
担当教員	竹田 陽子	後期	火曜日 4時限
①授業方針・テーマ	経営学の理論構築とリサーチデザインについて学び、実証研究を実施しながら論文作成の方法を学ぶ。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	研究方法論を理論構築から実証研究実施まで身につけ、本格的な学術論文作成ができるようになる。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・授業方法】 受講者と相談の上設定した研究課題について、文献精査、リサーチデザイン、実証研究実施、論文作成までのプロセスを実習する。</p> <p>【授業外学習】 文献レビュー、実証研究の実施、レポート執筆に毎週精力的にとりくむ必要がある。受講者の学位論文作成プロセスとできうる限りシナジーを効かせてよい。</p>		
④テキスト・参考書等	授業中に紹介する		
⑤成績評価方法	授業貢献 50%、期末レポート（小論文）50%		
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	<p>特記事項 オフィスアワーは個別にメールでアポイントメントをとってください。メールアドレスは初回授業で伝えます。</p> <p>経営学の修士号を保持していない受講者は、修士レベルの経営戦略と経営組織に関する授業、学部レベルのミクロ経済学、統計学に関する授業を履修していることを前提とします。</p>		

2018年度以降入学生	経営戦略特殊研究	P0413	2 単位
2013～2017年度入学生	経営戦略特殊研究	P625	2 単位
2012年度以前入学生	経営戦略特殊研究	P469	2 単位
担当教員	松田 千恵子	前期	土曜日 1 時限
①授業方針・テーマ	本講義は、研究手法の理解、および学会等における研究内容発表の推進に重点を置きながら進められる。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	受講者の積極的な参加によって、経営戦略、財務戦略を中心とした経営学分野における研究を深め、学会等での研究発表や学会誌への論文投稿など具体的な活動を行っていくための知見を身に付けることを目的とする。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>〈事業計画〉 受講者の関心に合わせて決定する。</p> <p>〈授業方法〉 毎回、事前に定められた内容に関し、講義、発表、ディスカッション等を行う。</p> <p>〈授業外学習〉 各自の研究計画を主体的に進めていくことが求められる。学会等における研究内容発表についても奨励する。</p>		
④テキスト・参考書等	講義中に適宜指示する。		
⑤成績評価方法	講義への積極的な参加、ディスカッション等への貢献を総合的に評価する。		
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	<p>〈特記事項〉 丸の内サテライトオフィスにて開講予定である。</p> <p>〈オフィスアワー〉 質問や連絡がある場合にはメールにて随時受け付ける。メールアドレスは授業中に指示する。</p>		

2018年度以降入学生	経営戦略特殊演習	P0414	2 単位
2013～2017年度入学生	経営戦略特殊研究	P626	2 単位
2012年度以前入学生	経営戦略特殊研究	P470	2 単位
担当教員	松田 千恵子	後期	土曜日 1 時限
①授業方針・テーマ	本講義は、研究手法の理解、および学会等における研究内容発表の推進に重点を置きながら進められる。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	受講者の積極的な参加によって、経営戦略、財務戦略を中心とした経営学分野における研究を深め、学会等での研究発表や学会誌への論文投稿など具体的な活動を行っていくための知見を身に付けることを目的とする。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>〈事業計画〉 受講者の関心に合わせて決定する。</p> <p>〈授業方法〉 毎回、事前に定められた内容に関し、講義、発表、ディスカッション等を行う。</p> <p>〈授業外学習〉 各自の研究計画を主体的に進めていくことが求められる。学会等における研究内容発表についても奨励する。</p>		
④テキスト・参考書等	講義中に適宜指示する。		
⑤成績評価方法	講義への積極的な参加、ディスカッション等への貢献を総合的に評価する。		
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	<p>〈特記事項〉 丸の内サテライトオフィスにて開講予定である。</p> <p>〈オフィスアワー〉 質問や連絡がある場合にはメールにて随時受け付ける。メールアドレスは授業中に指示する。</p>		

2018年度以降入学生	テクノロジー・マネジメント特殊研究		P0415	2単位
2013～2017年度入学生	経営戦略特殊研究		P639	2単位
2012年度以前入学生	—		—	—
担当教員	松尾 隆	前期	土曜日	1時限
①授業方針・テーマ	技術戦略に関する最新の理論文献を輪読する。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	技術戦略の新しい展開に関する理解を深め、自らの研究の指針とする。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	毎回、文献を指定して、それを輪読し、参加者で検討する。 主にStrategic Management Journal等の論文雑誌から課題文献を選択する。 (事前に文献を精読することが必要となる)			
④テキスト・参考書等	別途指示する。			
⑤成績評価方法	講義への参加、課題への取組、講義中の発言などにより評価する。			
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	オフィスアワー：事前にメールでアポイントメントをとること。			

2018年度以降入学生	テクノロジー・マネジメント特殊演習		P0416	2単位
2013～2017年度入学生	経営戦略特殊研究		P640	2単位
2012年度以前入学生	—		—	—
担当教員	松尾 隆	後期	土曜日	1時限
①授業方針・テーマ	技術戦略に関する最新の理論文献を輪読する。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	技術戦略の新しい展開に関する理解を深め、自らの研究の指針とする。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	毎回、文献を指定して、それを輪読し、参加者で検討する。 主にStrategic Management Journal等の論文雑誌から課題文献を選択する。 (事前に文献を精読することが必要となる) 参加者の興味に応じたテーマで文献サーベイを行う。			
④テキスト・参考書等	別途指示する。			
⑤成績評価方法	講義への参加、課題への取組、講義中の発言などにより評価する。			
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	オフィスアワー：事前にメールでアポイントメントをとること。			

2018年度以降入学生	—	—	—
2013～2017年度入学生	—	—	—
2012年度以前入学生	経営戦略特殊研究		P477 4単位
担当教員	松尾 隆	通年	土曜日 1時限
①授業方針・テーマ	技術戦略に関する最新の理論文献を輪読する。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	技術戦略の新しい展開に関する理解を深め、自らの研究の指針とする。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	毎回、文献を指定して、それを輪読し、参加者で検討する。 主にStrategic Management Journal等の論文雑誌から課題文献を選択する。 (事前に文献を精読することが必要となる) 参加者の興味に応じたテーマで文献サーベイを行う。		
④テキスト・参考書等	別途指示する。		
⑤成績評価方法	講義への参加、課題への取組、講義中の発言などにより評価する。		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	オフィスアワー：事前にメールでアポイントメントをとること。		

2018年度以降入学生	マーケティング特殊研究	P0417	2単位
2013～2017年度入学生	組織理論特殊研究	P600	2単位
2012年度以前入学生	組織理論特殊研究	P453	2単位
担当教員	水越 康介	前期	水曜日 3時限
①授業方針・テーマ	マーケティング論、マーケティング方法論		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マーケティング論の理論体系の習得		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	マーケティング論に関する専門書の精読、および批判的考察 授業方法：講義およびディスカッションを行う。 授業外学習：テキストを事前に読み、レポートをまとめること。		
④テキスト・参考書等	授業内に適宜指示		
⑤成績評価方法	授業態度および試験		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	オフィスアワー：授業中に提示するメールアドレスに連絡をし、予約をとること。		

2018年度以降入学生	マーケティング特殊演習		P0418	2単位
2013～2017年度入学生	組織理論特殊研究		P601	2単位
2012年度以前入学生	組織理論特殊研究		P454	2単位
担当教員	水越 康介	後期	水曜日	3時限
①授業方針・テーマ	マーケティング論、マーケティング方法論			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マーケティング論の理論体系の習得			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	マーケティング論に関する専門書の精読、および批判的考察 授業方法：講義およびディスカッションを行う。 授業外学習：テキストを事前に読み、レポートをまとめること。			
④テキスト・参考書等	授業内に適宜指示			
⑤成績評価方法	授業態度および試験			
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	オフィスアワー：授業中に提示するメールアドレスに連絡をし、予約をとること。			

2018年度以降入学生	統計学特殊研究		P0421	2単位
2013～2017年度入学生	統計学特殊研究		P570	2単位
2012年度以前入学生	—		—	—
担当教員	森 治憲	前期	金曜日	2時限
①授業方針・テーマ	数理統計学の理論とその応用			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	数理統計学の理論と、そこで学習する様々な手法を現実の問題に応用する能力。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	数理統計学に関する専門書の輪読が中心となる。ただし、必要に応じて講義も行う。 毎回の復習は必須である。発表者が予習をするのは当然だが、担当になっていない受講者も予習をすることが望ましい。			
④テキスト・参考書等	一回目の授業で受講者と相談して決める。			
⑤成績評価方法	出席状況と授業での発表内容を総合的に評価する。			
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	本講座は統計学の入門ではない。学部レベルの統計学の知識を有していることが前提である。 月曜日2時限をオフィスアワーとする。			

2018年度以降入学生	統計学特殊演習		P0422	2単位
2013～2017年度入学生	統計学特殊研究		P571	2単位
2012年度以前入学生	—		—	—
担当教員	森 治憲	後期	金曜日	2時限
①授業方針・テーマ	数理統計学の理論とその応用			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	数理統計学の理論と、そこで学習する様々な手法を現実の問題に応用する能力。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	数理統計学の文献を輪読する。 毎回の復習は必須である。発表者が予習をするのは当然だが、担当になっていない受講者も予習をすることが望ましい。			
④テキスト・参考書等	一回目の授業で受講者と相談して決める。			
⑤成績評価方法	出席状況と授業での発表内容を総合的に評価する。			
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	本講座は統計学の入門ではない。学部レベルの統計学の知識を有していることが前提である。 月曜日2時限をオフィスアワーとする。			

2018年度以降入学生	—		—	—
2013～2017年度入学生	—		—	—
2012年度以前入学生	統計学特殊研究		P436	4単位
担当教員	森 治憲	通年	金曜日	2時限
①授業方針・テーマ	数理統計学の理論とその応用			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	数理統計学の理論と、そこで学習する様々な手法を現実の問題に応用する能力。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	数理統計学に関する専門書の輪読が中心となる。ただし、必要に応じて講義も行う。 毎回の復習は必須である。発表者が予習をするのは当然だが、担当になっていない受講者も予習をすることが望ましい。			
④テキスト・参考書等	一回目の授業で受講者と相談して決める。			
⑤成績評価方法	出席状況と授業での発表内容を総合的に評価する。			
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	本講座は統計学の入門ではない。学部レベルの統計学の知識を有していることが前提である。 月曜日2時限をオフィスアワーとする。			

2018年度以降入学生	経営科学特殊研究		P0423	2単位
2013～2017年度入学生	経営科学特殊研究		P590	2単位
2012年度以前入学生	—		—	—
担当教員	山下 英明	前期	水曜日	3時限
①授業方針・テーマ	待ち行列は、あるサービスに対して客が待つ現象で、店舗・病院でのサービスだけでなく、工場の生産ライン、情報ネットワーク、道路交通等でも発生する。待ち行列理論は、待ち行列を確率論に基づいた数理モデルとして表し、待ち時間等の特性を説明する理論である。本講義では、テキストの理論展開、証明等をフォローすることにより、待ち行列理論やその計算手法を理解するとともに、実際の待ち行列現象のモデル化についても学ぶ。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	待ち行列理論の学習を通して、論理的思考力を養うとともに、確率モデルを本質的に理解し、解析する能力を身につける。 実際の待ち行列現象のモデル化を通して、不確定な要因を含むシステムに対する問題解決能力を養う。 テキストの内容をわかり易く発表し、質問に対して的確に回答することにより、コミュニケーション能力を身につける。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】【授業方法】</p> <p>第1回～第11回 反転授業 授業時間内では、前もって学習してきたテキストの内容についての質問に対し、教員が回答することによって理解を深める。講義内容に関する課題について解答を導く時間も設ける。授業時間後には、授業で学習した方法についての演習問題を解き、次の授業において解答を確認し、理解を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション、待ち行列モデル 2. リトルの公式 3. 再生過程 4. 確率過程 5. 出生死滅過程 6. M/M/1 待ち行列モデル 7. 離散マルコフ連鎖 8. 相型分布を用いた待ち行列モデル 9. 準出生死滅過程 10. 待ち行列ネットワーク 11. 非マルコフモデル <p>第12回～第15回 学生発表中心の授業 テキストにある実際のシステムの解析例について発表し、討論する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 12. ハンバーガーショップの待ち行列モデル 13. かんぱん方式による在庫管理 14. コールセンターのリソース設定 15. 無線LANの性能評価 <p>【自宅学習】 反転授業では、授業前にテキストを熟読し、理解できなかった点を明確にして授業に出席する。 毎回、授業で学習した解法についての演習問題を課す。このうち、2週間に1度程度提出を義務づける。 学生発表中心の授業では、テキストの内容を理解し、分かり易く発表する準備を行う。</p>			
④テキスト・参考書等	<p>テキスト：塩田茂雄他 『待ち行列理論の基礎と応用』 共立出版 (2014)</p> <p>参考書：尾崎敏治 『確率モデル入門』 朝倉書店 (1996) 森雅夫、宮沢政清他 『オペレーションズ・リサーチⅡ』 朝倉書店 (1989) 森雅夫、松井知己 『オペレーションズ・リサーチ』 朝倉書店 (2004) 尾崎俊治 『確率モデル入門』 朝倉書店 1996。 L. クラインロック (手塚慶一他訳) 『待ち行列システム理論 (上下)』 マグロウヒル好学好社 1978。 豊田秀樹 『マルコフ連鎖モンテカルロ法』 朝倉書店 2008。 牧本直樹 『ビジネスへの確率モデルアプローチ』 朝倉書店 2006。 宮沢政清、『確率と確率過程』 近代科学社 1993。</p>			
⑤成績評価方法	授業での質疑応答、授業中の発表、課題によって評価する。			
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>初歩的な確率過程論を修得していることが必要である。 授業内容の質問については、まず質問者がメールで教員に連絡し、必要があれば教員が面談の日時を質問者と相談の上設定する方式をとる。 【連絡先】hideak@tmu.ac.jp</p>			

2018年度以降入学生	経営科学特殊演習		P0424	2単位
2013～2017年度入学生	経営科学特殊研究		P591	2単位
2012年度以前入学生	—		—	—
担当教員	山下 英明	後期	水曜日	3時限
①授業方針・テーマ	この講義では、経営科学、オペレーションズ・リサーチの簡単な事例や最近の事例研究をサーベイし、経営科学が実社会にどのように役立っているかを学習することを目的とする。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営科学の理論的解析について本質的に理解し、論理的思考力を身につける。 経営戦略を科学的に決定することの理解を深め、実際の問題を確率モデルにモデル化し、総合的問題思考力を身につける。 テキストの内容をわかり易く発表し、質問に対して的確に回答することにより、コミュニケーション能力を身につける。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】【授業方法】</p> <p>第1回～第14回 上記の目的で選定した解説記事、研究論文などを受講生に割り当て、授業中は受講生各自がその内容について解説する輪読方式を採用する。</p> <p>(1) 総論、待ち行列窓口の最適サービス配分 (2) 線形計画問題：物資の輸送を例として 発見的解法：収集/配送経路問題への適用 (3) 最適配置の理論：都市施設の場所について グラフ・ネットワーク・OR (4) 大規模施設の混雑現象 (5) 生産システムにおけるさまざまな待ち (6) キャッシュのモデル化とその応用 (7) 待ち行列理論の応用：コールセンター (8) ゲーム理論を用いたねじれ国会分析 (9) DEAを用いたプロ野球投手の評価 (10) 大学業務におけるシフトスケジューリング (11) 機関車の基地内留置計画 (12) 鉄道の通勤利用モデルと混雑緩和策 (13) 列車ダイヤ乱れ時の再スケジューリングアルゴリズム (14) 施設容量を考慮した救急医療施設の最適配置</p> <p>第15回 学生発表の授業 各自が実際の問題を経営科学の手法を用いて分析することを想定しモデル化を行い、その内容を発表し、討論する。</p>			
④テキスト・参考書等	<p>テキスト：上記の解説記事、研究論文を教材として用いる。出典は以下の通り。</p> <p>(2)～(3)、(7)～(10)、(14)：オペレーションズ・リサーチ、vol.54, no.7, no.12, 2009. (4)～(6)：オペレーションズ・リサーチ、vol.49, no.7, 2004. (11)：オペレーションズ・リサーチ、vol.55, no.2, 2010. (12)～(13)：オペレーションズ・リサーチ、vol.53, no.8, 2008.</p> <p>参考書：高井英造、真鍋龍太郎『問題解決のためのオペレーションズ・リサーチ入門』 日本評論社 2000。 高橋幸雄、森村英典『混雑と待ち』朝倉書店 2001。 福島雅夫『数理計画入門』朝倉書店 1996。 伏見正則『確率と確率過程』朝倉書店 2004。 牧本直樹『ビジネスへの確率モデルアプローチ』朝倉書店 2006。 森雅夫、松井知己『オペレーションズ・リサーチ』朝倉出版 2004。 森雅夫、宮沢政清他『オペレーションズ・リサーチⅡ 意思決定モデル』朝倉書店 1989。 森雅夫、森戸晋他『オペレーションズ・リサーチⅠ 数理計画モデル』朝倉書店 1991。 森戸晋、逆瀬川浩『システムシミュレーション』朝倉書店 2000。</p>			
⑤成績評価方法	授業での質疑応答、授業中の発表、課題によって評価する。			
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>初歩的な確率過程論を修得していることが必要である。</p> <p>授業内容の質問については、まず質問者がメールで教員に連絡し、必要があれば教員が面談の日時を質問者と相談の上設定する方式をとる。</p> <p>【連絡先】hideak@tmu.ac.jp</p>			

2018年度以降入学生	—	—	—
2013～2017年度入学生	—	—	—
2012年度以前入学生	経営科学特殊研究		P448 4単位
担当教員	山下 英明	通年	水曜日 3時限
①授業方針・テーマ	待ち行列は、あるサービスに対して客が待つ現象で、店舗・病院でのサービスだけでなく、工場の生産ライン、情報ネットワーク、道路交通等でも発生する。待ち行列理論は、待ち行列を確率論に基づいた数理モデルとして表し、待ち時間等の特性を解明する理論である。本講義では、テキストの理論展開、証明等をフォローすることにより、待ち行列理論やその計算手法を理解するとともに、実際の待ち行列現象のモデル化についても学ぶ。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	待ち行列理論の学習を通して、論理的思考力を養うとともに、確率モデルを本質的に理解し、解析する能力を身につける。 実際の待ち行列現象のモデル化を通して、不確定な要因を含むシステムに対する問題解決能力を養う。 テキストの内容をわかり易く発表し、質問に対して的確に回答することにより、コミュニケーション能力を身につける。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】【授業方法】</p> <p>第1回～第11回 反転授業 授業時間内では、前もって学習してきたテキストの内容についての質問に対し、教員が回答することによって理解を深める。講義内容に関する課題について解答を導く時間も設ける。授業時間後には、授業で学習した方法についての演習問題を解き、次の授業において解答を確認し、理解を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション、待ち行列モデル 2. リトルの公式 3. 再生過程 4. 確率過程 5. 出生死滅過程 6. M/M/1 待ち行列モデル 7. 離散マルコフ連鎖 8. 相型分布を用いた待ち行列モデル 9. 準出生死滅過程 10. 待ち行列ネットワーク 11. 非マルコフモデル <p>第12回～第15回 学生発表中心の授業 テキストにある実際のシステムの解析例について発表し、討論する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 12. ハンバーガーショップの待ち行列モデル 13. かんぱん方式による在庫管理 14. コールセンターのリソース設定 15. 無線LANの性能評価 <p>【自宅学習】 反転授業では、授業前にテキストを熟読し、理解できなかった点を明確にして授業に出席する。 毎回、授業で学習した解法についての演習問題を課す。このうち、2週間に1度程度提出を義務づける。 学生発表中心の授業では、テキストの内容を理解し、分かり易く発表する準備を行う。</p>		
④テキスト・参考書等	<p>テキスト：塩田茂雄他 『待ち行列理論の基礎と応用』 共立出版 (2014)</p> <p>参考書：尾崎敏治 『確率モデル入門』 朝倉書店 (1996)</p> <p>森雅夫、宮沢政清他 『オペレーションズ・リサーチⅡ』 朝倉書店 (1989)</p> <p>森雅夫、松井知己 『オペレーションズ・リサーチ』 朝倉書店 (2004)</p> <p>尾崎俊治 『確率モデル入門』 朝倉書店 1996。</p> <p>L. クラインロック (手塚慶一他訳) 『待ち行列システム理論 (上下)』 マグロウヒル好学社 1978。</p> <p>豊田秀樹 『マルコフ連鎖モンテカルロ法』 朝倉書店 2008。</p> <p>牧本直樹 『ビジネスへの確率モデルアプローチ』 朝倉書店 2006。</p> <p>宮沢政清、『確率と確率過程』 近代科学社 1993。</p>		
⑤成績評価方法	授業での質疑応答、授業中の発表、課題によって評価する。		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>初歩的な確率過程論を修得していることが必要である。</p> <p>授業内容の質問については、まず質問者がメールで教員に連絡し、必要があれば教員が面談の日時を質問者と相談の上設定する方式をとる。</p> <p>【連絡先】 hideak@tmu.ac.jp</p>		

2018年度以降入学生	経営科学特殊研究		P0425	2単位
2013～2017年度入学生	経営科学特殊研究		P659	2単位
2012年度以前入学生	—		—	—
担当教員	室田 一雄	前期	金曜日	3時限
①授業方針・テーマ	<p>科学的方法論に基づく合理的な意思決定の手法の一つとして、最適化理論、とくに離散構造の上の最適化のモデルと解法を扱う。最適化理論の枠組みに沿って応用課題を数理的に定式化する手法、および、その結果得られる数理最適化問題を解く手法を中心に扱う。</p>			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>最適化手法には、理論（数理）、計算（アルゴリズム）、応用（モデリング）の三つの柱がある。本講義では、テキストを丁寧に輪読し、演習問題に取り組むことにより、最適化の数理的側面を理解し、その考え方を習得することを目的とする。これによって、将来、さまざまな文脈で最適化を使う必要が生じたときに、さらに高度な内容に進むことができる。さらに、微分、勾配、最大化などの数学の概念が、オペレーションズ・リサーチなどにおいてどのように役立つかを理解することによって、数学・数理が実際の社会と繋がっていて有用なものであるという一般的な理解と感覚を身につけることができる。</p>			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】 学生の興味を考慮して、以下のテーマに関するテキストを選定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 離散最適化の典型的な問題（最小木問題、最短路問題、マッチング問題、最大流問題、最小費用流問題、資源配分問題など） 2) 離散最適化の典型的な問題の基本的な解法（アルゴリズム） 3) 離散凸解析の考え方と数学的な枠組み（基本概念、諸定理、諸公式） <p>【授業方法】 テキストを輪読し、その質疑応答や討論を通じて新たな論点を発掘し、宿題とする。</p> <p>【授業外学習】 授業の前にテキストを読み、議論や質問のポイントを自分自身でよく整理する。発表の担当となった場合には、テキストの該当箇所を理解するだけでなく、必要があれば参考書などを調べて、前提となる事実や知識を補足して、レジュメを作成する。授業における質疑応答や討論によって得られた新たな論点について、調査・検討する。</p>			
④テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 テキストは適宜指定する。</p> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寒野善博、土谷隆：最適化と変分法、丸善出版、2014。 ・室田一雄：離散凸解析、共立出版、2001。 ・室田一雄、塩浦昭義：離散凸解析と最適化アルゴリズム、朝倉書店、2013。 ・K. Murota：Discrete Convex Analysis, SIAM, 2003. 			
⑤成績評価方法	<p>授業への出席・参加状況とレポート課題により評価する。</p>			
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>【前提知識】 基礎的な数学（微積分、線形代数）を用いる。</p> <p>【オフィスアワー】 原則として木曜5限（メールでアポイントメントをとることが望ましい）。</p>			

2018年度以降入学生	経営科学特殊演習	P0426	2単位
2013～2017年度入学生	経営科学特殊研究	P660	2単位
2012年度以前入学生	—	—	—
担当教員	室田 一雄	後期	金曜日 3時限
①授業方針・テーマ	<p>科学的方法論に基づく合理的な意思決定の手法の一つとして、最適化理論、とくに離散構造の上の最適化のモデルと解法を扱う。最適化理論の枠組みに沿って応用課題を数理的に定式化する手法、および、その結果得られる数理最適化問題を解く手法を中心に扱う。</p>		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>最適化手法には、理論（数理）、計算（アルゴリズム）、応用（モデリング）の三つの柱がある。本講義では、テキストを丁寧に輪読し、演習問題に取り組むことにより、最適化の数理的側面を理解し、その考え方を習得することを目的とする。これによって、将来、さまざまな文脈で最適化を使う必要が生じたときに、さらに高度な内容に進むことができる。さらに、微分、勾配、最大化などの数学の概念が、オペレーションズ・リサーチなどにおいてどのように役立つかを理解することによって、数学・数理が実際の社会と繋がっていて有用なものであるという一般的な理解と感覚を身につけることができる。</p>		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】 学生の興味を考慮して、以下のテーマに関するテキストを選定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 離散最適化の典型的な問題（最小木問題、最短路問題、マッチング問題、最大流問題、最小費用流問題、資源配分問題など） 2) 離散最適化の典型的な問題の基本的な解法（アルゴリズム） 3) 離散凸解析の考え方と数学的な枠組み（基本概念、諸定理、諸公式） <p>【授業方法】 テキストを輪読し、その質疑応答や討論を通じて新たな論点を発掘し、宿題とする。 テキストの話題に関連する最適化問題を各自で設定して、問題の定式化、最適化ソフトウェアによる求解、レポートの執筆などの演習を行う。</p> <p>【授業外学習】 授業の前にテキストを読み、議論や質問のポイントを自分自身でよく整理する。発表の担当となった場合には、テキストの該当箇所を理解するだけでなく、必要があれば参考書などを調べて、前提となる事実や知識を補足して、レジュメを作成する。授業における質疑応答や討論によって得られた新たな論点について、調査・検討する。</p>		
④テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 テキストは適宜指定する。</p> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寒野善博、土谷隆：最適化と変分法、丸善出版、2014。 ・室田一雄：離散凸解析、共立出版、2001。 ・室田一雄、塩浦昭義：離散凸解析と最適化アルゴリズム、朝倉書店、2013。 ・K. Murota：Discrete Convex Analysis, SIAM, 2003。 		
⑤成績評価方法	<p>授業への出席・参加状況とレポート課題により評価する。</p>		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>【前提知識】 基礎的な数学（微積分、線形代数）を用いる。</p> <p>【オフィスアワー】 原則として木曜5限（メールでアポイントメントをとることが望ましい）。</p>		

2018年度以降入学生	—	—	—
2013～2017年度入学生	—	—	—
2012年度以前入学生	経営科学特殊研究		P446 4単位
担当教員	室田 一雄	通年	金曜日 3時限
①授業方針・テーマ	<p>科学的方法論に基づく合理的な意思決定の手法の一つとして、最適化理論、とくに離散構造の上の最適化のモデルと解法を扱う。最適化理論の枠組みに沿って応用課題を数理的に定式化する手法、および、その結果得られる数理最適化問題を解く手法を中心に扱う。</p>		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>最適化手法には、理論（数理）、計算（アルゴリズム）、応用（モデリング）の三つの柱がある。本講義では、テキストを丁寧に輪読し、演習問題に取り組むことにより、最適化の数理的側面を理解し、その考え方を習得することを目的とする。これによって、将来、さまざまな文脈で最適化を使う必要が生じたときに、さらに高度な内容に進むことができる。さらに、微分、勾配、最大化などの数学の概念が、オペレーションズ・リサーチなどにおいてどのように役立つかを理解することによって、数学・数理が実際の社会と繋がっていて有用なものであるという一般的な理解と感覚を身につけることができる。</p>		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】 学生の興味を考慮して、以下のテーマに関するテキストを選定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 離散最適化の典型的な問題（最小木問題、最短路問題、マッチング問題、最大流問題、最小費用流問題、資源配分問題など） 2) 離散最適化の典型的な問題の基本的な解法（アルゴリズム） 3) 離散凸解析の考え方と数学的な枠組み（基本概念、諸定理、諸公式） <p>【授業方法】 テキストを輪読し、その質疑応答や討論を通じて新たな論点を発掘し、宿題とする。</p> <p>【授業外学習】 授業の前にテキストを読み、議論や質問のポイントを自分自身でよく整理する。発表の担当となった場合には、テキストの該当箇所を理解するだけでなく、必要があれば参考書などを調べて、前提となる事実や知識を補足して、レジュメを作成する。授業における質疑応答や討論によって得られた新たな論点について、調査・検討する。</p>		
④テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 テキストは適宜指定する。</p> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寒野善博、土谷隆：最適化と変分法、丸善出版、2014。 ・室田一雄：離散凸解析、共立出版、2001。 ・室田一雄、塩浦昭義：離散凸解析と最適化アルゴリズム、朝倉書店、2013。 ・K. Murota：Discrete Convex Analysis, SIAM, 2003. 		
⑤成績評価方法	<p>授業への出席・参加状況とレポート課題により評価する。</p>		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>【前提知識】 基礎的な数学（微積分、線形代数）を用いる。</p> <p>【オフィスアワー】 原則として木曜5限（メールでアポイントメントをとることが望ましい）。</p>		

2018年度以降入学生	経営科学特殊研究	P0427	2単位
2013～2017年度入学生	経営科学特殊研究	P617	2単位
2012年度以前入学生	—	—	—
担当教員	森口 聡子	前期	金曜日 3時限
①授業方針・テーマ	経営科学は、経営活動において生じる種々の問題に対する合理的な意思決定をするために科学的方法を提供する学問領域である。この講義では、科学的方法に基づく合理的な意思決定のために必要な最適化理論を取り上げる。最適化理論に基づく定式化（モデル化）は、情報技術が支える経営活動において、各現場での短期的、オペレーショナルな問題に対する意思決定から、中長期的な戦略的レベルの課題への意思決定に及ぶまで、様々な場面で活用されている。現実社会における問題のモデル化から、求解のためのアルゴリズムを本講義で扱う。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	最適化問題とその解法について理解する。 経営戦略を科学的に決定することの理解を深め、実際の問題を数理モデルにモデル化し、求解する能力、オペレーションズ・リサーチの手法、解法の手間を評価する方法を身に着けることができる。数学・数理が実際の社会と繋がっていて有用なものであるという一般的な理解と感覚を身につけることができる。 本講義では、最適化理論を理解し、その数学的取り扱い方を学ぶことを目的とする。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 最適化アルゴリズムによる優位な意思決定の事例（物流、スケジューリング、プロジェクト管理における意思決定での最適計算、最小コスト、最大利益など） グラフ理論の基礎とグラフによる問題のモデル化 ネットワーク計画（最短経路問題、最大流問題など） <p>【授業方法】 テキストを輪読し、演習問題を解くことにより、最適化理論を理解し、その数学的取り扱い方を学ぶ。</p> <p>【授業外学習】 輪読における担当、演習の発表前に資料を理解し、テーマを把握する（予習）。講義の直後に、他の受講生の発表資料を読み直し、発表内容を確実に理解する（復習）。随時演習課題を課す。各自で自主的に、研究課題の調査に取り組む。</p>		
④テキスト・参考書等	<p>[1] 久保幹雄『組合せ最適化とアルゴリズム（インターネット時代の数学シリーズ）』共立出版、2000</p> <p>[2] Ravindra K. Ahuja, Thomas L. Magnanti, James B. Orlin『Network Flows: Theory, Algorithms, and Applications』Prentice Hall, 1993</p> <p>[3] 藤澤克樹、後藤順哉、安井雄一郎『Excelで学ぶOR』オーム社、2011</p>		
⑤成績評価方法	授業への取り組み意欲、発表内容とレポートにより評価する。		
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	<p>【前提知識】 大学初等程度の数学を用いることもある。</p> <p>【オフィスアワー】 原則として、木曜12：10～13：00(メールでアポイントメントをとること)。</p>		

2018年度以降入学生	経営科学特殊演習	P0428	2単位
2013～2017年度入学生	経営科学特殊研究	P618	2単位
2012年度以前入学生	—	—	—
担当教員	森口 聡子	後期	金曜日 2時限
①授業方針・テーマ	経営科学は、経営活動において生じる種々の問題に対する合理的な意思決定をするために科学的方法を提供する学問領域である。この講義では、科学的方法に基づく合理的な意思決定のために必要な最適化理論を取り上げる。最適化理論に基づく定式化（モデル化）は、情報技術が支える経営活動において、各現場での短期的、オペレーショナルな問題に対する意思決定から、中長期的な戦略的レベルの課題への意思決定に及ぶまで、様々な場面で活用されている。現実社会における問題のモデル化から、求解のためのアルゴリズムを本講義で扱う。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	最適化問題とその解法について理解する。 経営戦略を科学的に決定することの理解を深め、実際の問題を数理モデルにモデル化し、求解する能力、オペレーションズ・リサーチの手法、解法の手間を評価する方法を身に着けることができる。数学・数理が実際の社会と繋がっていて有用なものであるという一般的な理解と感覚を身につけることができる。 本講義では、最適化理論を理解し、その数学的取り扱い方を学ぶことを目的とする。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】</p> <p>1) 最適化アルゴリズムによる優位な意思決定の事例（物流、スケジューリング、プロジェクト管理における意思決定での最適計算、最小コスト、最大利益など）</p> <p>2) グラフ理論の基礎とグラフによる問題のモデル化</p> <p>3) ネットワーク計画（最短経路問題、最大流問題など）</p> <p>【授業方法】</p> <p>テキストを輪読し、演習問題を解くことにより、最適化理論を理解し、その数学的取り扱い方を学ぶ。</p> <p>【授業外学習】</p> <p>輪読における担当、演習の発表前に資料を理解し、テーマを把握する（予習）。講義の直後に、他の受講生の発表資料を読み直し、発表内容を確実に理解する（復習）。随時演習課題を課す。各自で自主的に、研究課題の調査に取り組む。</p>		
④テキスト・参考書等	<p>[1] 久保幹雄『組合せ最適化とアルゴリズム（インターネット時代の数学シリーズ）』共立出版、2000</p> <p>[2] Ravindra K. Ahuja, Thomas L. Magnanti, James B. Orlin『Network Flows : Theory, Algorithms, and Applications』Prentice Hall, 1993</p> <p>[3] 藤澤克樹、後藤順哉、安井雄一郎『Excelで学ぶOR』オーム社、2011</p>		
⑤成績評価方法	授業への取り組み意欲、発表内容とレポートにより評価する。		
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	<p>【前提知識】</p> <p>大学初等程度の数学を用いることもある。</p> <p>【オフィスアワー】</p> <p>原則として、木曜12：10～13：00(メールでアポイントメントをとること)。</p>		

2018年度以降入学生	—	—	—
2013～2017年度入学生	—	—	—
2012年度以前入学生	経営科学特殊研究		P465 4単位
担当教員	森口 聡子	通年	金曜日 前期：3時限 後期：2時限
①授業方針・テーマ	経営科学は、経営活動において生じる種々の問題に対する合理的な意思決定をするために科学的方法を提供する学問領域である。この講義では、科学的方法に基づく合理的な意思決定のために必要な最適化理論を取り上げる。最適化理論に基づく定式化（モデル化）は、情報技術が支える経営活動において、各現場での短期的、オペレーショナルな問題に対する意思決定から、中長期的な戦略的レベルの課題への意思決定に及ぶまで、様々な場面で活用されている。現実社会における問題のモデル化から、求解のためのアルゴリズムを本講義で扱う。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	最適化問題とその解法について理解する。 経営戦略を科学的に決定することの理解を深め、実際の問題を数理モデルにモデル化し、求解する能力、オペレーションズ・リサーチの手法、解法の手間を評価する方法を身につけることができる。 数学・数理が実際の社会と繋がっていて有用なものであるという一般的な理解と感覚を身につけることができる。 本講義では、最適化理論を理解し、その数学的取り扱い方を学ぶことを目的とする。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 最適化アルゴリズムによる優位な意思決定の事例（物流、スケジューリング、プロジェクト管理における意思決定での最適計算、最小コスト、最大利益など） 2) グラフ理論の基礎とグラフによる問題のモデル化 3) ネットワーク計画（最短路問題、最大流問題など） <p>【授業方法】 テキストを輪読し、演習問題を解くことにより、最適化理論を理解し、その数学的取り扱い方を学ぶ。</p> <p>【授業外学習】 輪読における担当、演習の発表前に資料を理解し、テーマを把握する（予習）。講義の直後に、他の受講生の発表資料を読み直し、発表内容を確実に理解する（復習）。随時演習課題を課す。各自で自主的に、研究課題の調査に取り組む。</p>		
④テキスト・参考書等	<p>[1] 久保幹雄『組合せ最適化とアルゴリズム（インターネット時代の数学シリーズ）』共立出版、2000</p> <p>[2] Ravindra K. Ahuja, Thomas L. Magnanti, James B. Orlin『Network Flows : Theory, Algorithms, and Applications』Prentice Hall,1993</p> <p>[3] 藤澤克樹、後藤順哉、安井雄一郎『Excelで学ぶOR』オーム社、2011</p>		
⑤成績評価方法	授業への取り組み意欲、発表内容とレポートにより評価する。		
⑥特記事項 （他の授業科目との関連性）	<p>【前提知識】 大学初等程度の数学を用いることもある。</p> <p>【オフィスアワー】 原則として、木曜12：10～13：00（メールでアポイントメントをとること）。</p>		

2018年度以降入学生	会計学特殊研究	P0431	2 単位
2013～2017年度入学生	会計学特殊研究	P653	2 単位
2012年度以前入学生	—	—	—
担当教員	野口 昌良	前期	水曜日 2 時限
①授業方針・テーマ	<p>公会計イノベーションの理解に必要と思われる知識・分析視点の修得を目標とする。これから自身の研究手法を確立しようと考えている博士前期課程の学生には強固な礎を整備するための一助として、すでに一定の手法を身につけている博士後期課程の学生にはその幅を拡張するための一助として、本講義を活用してもらいたい。公会計研究の手引書からセレクトしたいくつかの論文をとりあげ、基礎的な知識・手法の修得に努めた後に、PA、PAR、JPAM、AOS、MAR、FAM等に掲載された論文を検討することによってその実践方法を理解してもらいたい。</p>		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公会計研究に必要と思われる知識・分析視点を修得することができる。 2. 1. をベースにした公会計研究・分析手法を修得することができる。 3. 1. および2. をベースにした論文作成方法を修得することができる。 		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】 指定したテキストの構成は次のとおり。11. 以降は公会計研究に関する諸論文のテーマに該当する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Defining the Concepts 3. The History of Performance Management 4. Performance Measurement 5. Incorporation of Performance Information 6. The Use of Performance Information 7. Users 8. Non-use 9. The Effects of Using Performance Information 10. The Future of Performance Management 11. Performance measurement innovation – Australia 12. Performance measurement innovation – UK 13. Performance measurement innovation – New Zealand 14. Performance measurement innovation – Japan 15. Conclusion <p>【授業方法】 指定したテキストおよび論文の内容に関する、履修学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心とした授業を実施するが、適宜レポート課題（一部グループワークの形式も取り入れる予定）も実施して、学生の理解度を確認しながら、到達目標に必要な知識の修得に努める。</p> <p>【授業外学習】 指定したテキストの内容の予習・復習（レポート課題の実施を含む）が必要となる。</p>		
④テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 Dooren, W. V., Bouckaert, G. and Halligan, J. (2010) Performance Management in the Public Sector (Routledge Masters in Public Management), Routledge.</p> <p>【参考書等】 適宜指示する予定である。</p>		
⑤成績評価方法	<p>プレゼンテーション（60%）とディスカッション（40%）のクオリティに基づいて評価する。レポート課題が提示された場合は、プレゼンテーションに加算するかたちで調整する。到達目標に照らして、公会計イノベーションに関する必要な知識を修得しているか否かが重要な評価ポイントとなる。</p>		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>【他の授業科目との関連性】 学部レベルの財務会計に関する知識を前提にディスカッションを実施するため、そうした知識の事前修得が望ましい。</p> <p>【オフィスアワー】 水曜日の3時限目とするが、メールによる質問も受け付ける。</p>		

2018年度以降入学生	会計学特殊演習	P0432	2 単位
2013～2017年度入学生	会計学特殊研究	P654	2 単位
2012年度以前入学生	—	—	—
担当教員	野口 昌良	後期	水曜日 2 時限
①授業方針・テーマ	パブリック・セクターにおける業績評価の理解に必要と思われる知識・分析視点の修得を目標とする。これから自身の研究手法を確立しようと考えている博士前期課程の学生には強固な礎を整備するための一助として、すでに一定の手法を身につけている博士後期課程の学生にはその幅を拡張するための一助として、本講義を活用してもらいたい。公会計研究の手引書からセレクトしたいくつかの論文をとりあげ、基礎的な知識・手法の修得に努めた後に、PA、PAR、JPAM、AOS、MAR、FAM等に掲載された論文を検討することによってその実践方法を理解してもらいたい。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> パブリック・セクターにおける業績評価の理解に必要と思われる知識・分析視点を修得することができる。 1. をベースにした公会計研究・分析手法を修得することができる。 1. および2. をベースにした論文作成方法を修得することができる。 		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】 指定したテキストの構成は次のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> Introduction : Using Public Sector Performance Information Nothing New Under the Sun? Change and Continuity in the Twentieth-Century Performance Movements Advocacy and Learning : An Interactive-Dialogue Approach to Performance Information Use Performance Information and Performance Steering : Integrated System or Loose Coupling? Performance Measurement Beyond Instrumental Use Comparing Performance across Public Sectors Hitting the Target and Missing the Point? Developing an Understanding of Organizational Gaining Performance Management Systems : Providing Accountability and Challenging Collaboration Determinants of Performance Information Utilization in Political Decision Making UK Parliamentary Scrutiny of Public Service Agreements : A Challenge Too Far? Performance Information and Educational Policy Making Rational, Political and Cultural Uses of Performance Monitors : The Case of Dutch Urban Policy Reporting Public Performance Information : The Promise and Challenges of Citizen Involvement Publishing Performance Information : An Illusion of Control? Epilogue : The Many Faces of Use <p>【授業方法】 指定したテキストおよび論文の内容に関する、履修学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心とした授業を実施するが、適宜レポート課題（一部グループワークの形式も取り入れる予定）も実施して、学生の理解度を確認しながら、到達目標に必要な知識の修得に努める。</p> <p>【授業外学習】 指定したテキストの内容の予習・復習（レポート課題の実施を含む）が必要となる。</p>		
④テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 Dooren, W. V. and de Walle, S. V. (eds.) (2008) Performance Information in the Public Sector : how it is used, Basingstoke : Palgrave Macmillan.</p> <p>【参考書等】 適宜指示する予定である。</p>		
⑤成績評価方法	プレゼンテーション（60%）とディスカッション（40%）のクオリティに基づいて評価する。レポート課題が提示された場合は、プレゼンテーションに加算するかたちで調整する。到達目標に照らして、パブリック・セクターにおける業績評価を理解するのに必要な知識を修得しているか否かが重要な評価ポイントとなる。		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>【他の授業科目との関連性】 学部レベルの財務会計に関する知識を前提にディスカッションを実施するため、そうした知識の事前修得が望ましい。</p> <p>【オフィスアワー】 水曜日の3時限目とするが、メールによる質問も受け付ける。</p>		

2018年度以降入学生	—	—	—
2013～2017年度入学生	—	—	—
2012年度以前入学生	会計学特殊研究		P485 4単位
担当教員	野口 昌良	通年	水曜日 2時限
①授業方針・テーマ	<p>公会計イノベーションとパブリック・セクターにおける業績評価の理解に必要と思われる知識・分析視点の修得を目標とする。これから自身の研究手法を確立しようと考えている博士前期課程の学生には強固な礎を整備するための一助として、すでに一定の手法を身につけている博士後期課程の学生にはその幅を拡張するための一助として、本講義を活用してもらいたい。公会計研究の手引書からセレクトしたいくつかの論文をとりあげ、基礎的な知識・手法の修得に努めた後に、PA、PAR、JPAM、AOS、MAR、FAM等に掲載された論文を検討することによってその実践方法を理解してもらいたい。</p>		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公会計研究に必要と思われる知識・分析視点を修得することができる。 2. 1. をベースにした公会計研究・分析手法を修得することができる。 3. 1. および2. をベースにした論文作成方法を修得することができる。 		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】 指定したテキストの構成は次のとおり。11. 以降は公会計研究に関する諸論文のテーマに該当する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Defining the Concepts 3. The History of Performance Management 4. Performance Measurement 5. Incorporation of Performance Information 6. The Use of Performance Information 7. Users 8. Non-use 9. The Effects of Using Performance Information 10. The Future of Performance Management 11. Performance measurement innovation – Australia 12. Performance measurement innovation – UK 13. Performance measurement innovation – New Zealand 14. Performance measurement innovation – Japan 15. Conclusion <p>【授業方法】 指定したテキストおよび論文の内容に関する、履修学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心とした授業を実施するが、適宜レポート課題（一部グループワークの形式も取り入れる予定）も実施して、学生の理解度を確認しながら、到達目標に必要な知識の修得に努める。</p> <p>【授業外学習】 指定したテキストの内容の予習・復習（レポート課題の実施を含む）が必要となる。</p>		
④テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 Dooren, W. V., Bouckaert, G. and Halligan, J. (2010) Performance Management in the Public Sector (Routledge Masters in Public Management), Routledge.</p> <p>【参考書等】 適宜指示する予定である。</p>		
⑤成績評価方法	<p>プレゼンテーション（60%）とディスカッション（40%）のクオリティに基づいて評価する。レポート課題が提示された場合は、プレゼンテーションに加算するかたちで調整する。 到達目標に照らして、公会計イノベーションとパブリック・セクターにおける業績評価の理解に必要な知識を修得しているか否かが重要な評価ポイントとなる。</p>		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>【他の授業科目との関連性】 学部レベルの財務会計に関する知識を前提にディスカッションを実施するため、そうした知識の事前修得が望ましい。</p> <p>【オフィスアワー】 水曜日の3時限目とするが、メールによる質問も受け付ける。</p>		

2018年度以降入学生	財務会計特殊研究		P0433	2単位
2013～2017年度入学生	財務会計特殊研究		P609	2単位
2012年度以前入学生	—		—	—
担当教員	浅野 敬志	前期	木曜日	2時限
①授業方針・テーマ	「IFRS等の影響による会計情報の変容の実態とその影響」について検討する。会計処理や情報開示における経営者の裁量余地は、IFRS等の影響によって増えている。わが国の会計制度や情報開示制度が変化し、裁量余地が拡大するなかで、経営者はどのような会計目的に基づき、どのような私的選択（会計処理選択、情報開示選択）を行うのか。また経営者の私的選択を考慮してもなお、会計情報の変容が会計目標を達成するような会計情報を供給しているのか。国内外の先行研究のレビューを通じて、これらの疑問に対する客観的かつ公平な議論を行う。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	「IFRS等の影響による会計情報の変容の実態やその影響」について、主に資本市場の視点から理解を深めるとともに、上記の疑問に対する仮説を自ら立て、検証できるようになること。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】 会計情報の変容の実態とその影響に関する書籍・論文を取り上げ、それらを題材にディスカッションする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 会計情報の変容の実態 3. 会計情報の質的特性と利益の質 4. 私的選択（会計処理選択、情報開示選択）の目的 5. 取得のれんと利益の質 6. 公正価値変動情報の有用性 7. 減損処理をめぐる不正会計（東芝のケース） 8. マネジメント・アプローチの有効性（経営者の恣意性） 9. マネジメント・アプローチの有効性（比較可能性） 10. セグメント情報の開示選択と影響 11. 非財務情報（ESG、リスク情報）の開示選択と影響 12. 業績予想の開示柔軟化と影響 13. 業績予想の私的選択（利益調整、期待調整）と市場の評価 14. 業績予想の開示選択と影響 15. まとめ <p>【授業方法】 書籍・論文の輪読やディスカッションを通じて授業を行う。</p> <p>【授業外学習】 リーディング・アサインメントを事前に読み、授業に臨むこと。</p>			
④テキスト・参考書等	<ol style="list-style-type: none"> 1. スコット著『財務会計の理論と実証』（中央経済社、2008年） 2. パレプ・ヒーラー・バーナード著『企業分析入門（第2版）』（東京大学出版会、2007年） 3. 柴健次・薄井彰・須田一幸編著『現代のディスクロージャー市場と経営を革新するー』（中央経済社、2008年） 4. 伊藤邦雄・桜井久勝責任編集『会計情報の有用性』（中央経済社、2013年） 5. 浅野敬志『会計情報と資本市場：変容の分析と影響』（中央経済社、2018年） など 			
⑤成績評価方法	出席状況、授業態度、発表内容などを総合的に勘案して評価する。			
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	講義形式ではなく、演習形式で授業を進めるが、必要に応じて講義形式の授業をすることもある。授業後をオフィスアワーとする。また、メールによる質問も随時受け付ける。			
	【連絡先】 takasano@tmu.ac.jp			

2018年度以降入学生	財務会計特殊演習	P0434	2単位
2013～2017年度入学生	財務会計特殊研究	P610	2単位
2012年度以前入学生	—	—	—
担当教員	浅野 敬志	後期	木曜日 2時限
①授業方針・テーマ	「IFRS等の影響による会計情報の変容の実態とその影響」について検討する。会計処理や情報開示における経営者の裁量余地は、IFRS等の影響によって増えている。わが国の会計制度や情報開示制度が変化し、裁量余地が拡大するなかで、経営者はどのような会計目的に基づき、どのような私的選択（会計処理選択、情報開示選択）を行うのか。また経営者の私的選択を考慮してもなお、会計情報の変容が会計目標を達成するような会計情報を供給しているのか。国内外の先行研究のレビューを通じて、これらの疑問に対する客観的かつ公平な議論を行う。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	「IFRS等の影響による会計情報の変容の実態やその影響」について、主に資本市場の視点から理解を深めるとともに、上記の疑問に対する仮説を自ら立て、検証できるようになること。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】 会計情報の変容の実態とその影響に関する書籍・論文を取り上げ、それらを題材にディスカッションする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 会計情報の変容の実態 3. 会計情報の質的特性と利益の質 4. 私的選択（会計処理選択、情報開示選択）の目的 5. 取得のれんと利益の質 6. 公正価値変動情報の有用性 7. 減損処理をめぐる不正会計（東芝のケース） 8. マネジメント・アプローチの有効性（経営者の恣意性） 9. マネジメント・アプローチの有効性（比較可能性） 10. セグメント情報の開示選択と影響 11. 非財務情報（ESG、リスク情報）の開示選択と影響 12. 業績予想の開示柔軟化と影響 13. 業績予想の私的選択（利益調整、期待調整）と市場の評価 14. 業績予想の開示選択と影響 15. まとめ <p>【授業方法】 書籍・論文の輪読やディスカッションを通じて授業を行う。</p> <p>【授業外学習】 リーディング・アサインメントを事前に読み、授業に臨むこと。</p>		
④テキスト・参考書等	<ol style="list-style-type: none"> 1. スコット著『財務会計の理論と実証』（中央経済社、2008年） 2. パレプ・ヒーラー・バーナード著『企業分析入門（第2版）』（東京大学出版会、2007年） 3. 柴健次・薄井彰・須田一幸編著『現代のディスクロージャー市場と経営を革新するー』（中央経済社、2008年） 4. 伊藤邦雄・桜井久勝責任編集『会計情報の有用性』（中央経済社、2013年） 5. 浅野敬志『会計情報と資本市場：変容の分析と影響』（中央経済社、2018年） など 		
⑤成績評価方法	出席状況、授業態度、発表内容など総合的に判断して評価します。		
⑥特記事項 （他の授業科目との関連性）	講義形式ではなく、演習形式で授業を進めるが、必要に応じて講義形式の授業をすることもある。授業後をオフィスアワーとする。また、メールによる質問も随時受け付ける。		
	【連絡先】 takasano@tmu.ac.jp		

2018年度以降入学生	—	—	—
2013～2017年度入学生	—	—	—
2012年度以前入学生	財務会計特殊研究		P460 4単位
担当教員	浅野 敬志	通年	木曜日 2時限
①授業方針・テーマ	「IFRS等の影響による会計情報の変容の実態とその影響」について検討する。会計処理や情報開示における経営者の裁量余地は、IFRS等の影響によって増えている。わが国の会計制度や情報開示制度が変化し、裁量余地が拡大するなかで、経営者はどのような会計目的に基づき、どのような私的選択（会計処理選択、情報開示選択）を行うのか。また経営者の私的選択を考慮してもなお、会計情報の変容が会計目標を達成するような会計情報を供給しているのか。国内外の先行研究のレビューを通じて、これらの疑問に対する客観的かつ公平な議論を行う。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	「IFRS等の影響による会計情報の変容の実態やその影響」について、主に資本市場の視点から理解を深めるとともに、上記の疑問に対する仮説を自ら立て、検証できるようになること。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】 会計情報の変容の実態とその影響に関する書籍・論文を取り上げ、それらを題材にディスカッションする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 会計情報の変容の実態 3. 会計情報の質的特性と利益の質 4. 私的選択（会計処理選択、情報開示選択）の目的 5. 取得のれんと利益の質 6. 公正価値変動情報の有用性 7. 減損処理をめぐる不正会計（東芝のケース） 8. マネジメント・アプローチの有効性（経営者の恣意性） 9. マネジメント・アプローチの有効性（比較可能性） 10. セグメント情報の開示選択と影響 11. 非財務情報（ESG、リスク情報）の開示選択と影響 12. 業績予想の開示柔軟化と影響 13. 業績予想の私的選択（利益調整、期待調整）と市場の評価 14. 業績予想の開示選択と影響 15. まとめ <p>【授業方法】 書籍・論文の輪読やディスカッションを通じて授業を行う。</p> <p>【授業外学習】 リーディング・アサインメントを事前に読み、授業に臨むこと。</p>		
④テキスト・参考書等	<ol style="list-style-type: none"> 1. スコット著『財務会計の理論と実証』（中央経済社、2008年） 2. パレプ・ヒーラー・バーナード著『企業分析入門（第2版）』（東京大学出版会、2007年） 3. 柴健次・薄井彰・須田一幸編著『現代のディスクロージャー市場と経営を革新するー』（中央経済社、2008年） 4. 伊藤邦雄・桜井久勝責任編集『会計情報の有用性』（中央経済社、2013年） 5. 浅野敬志『会計情報と資本市場：変容の分析と影響』（中央経済社、2018年） など 		
⑤成績評価方法	出席状況、授業態度、発表内容などを総合的に勘案して評価する。		
⑥特記事項 （他の授業科目との関連性）	講義形式ではなく、演習形式で授業を進めるが、必要に応じて講義形式の授業をすることもある。授業後をオフィスアワーとする。また、メールによる質問も随時受け付ける。		
	【連絡先】 takasano@tmu.ac.jp		

2018年度以降入学生	管理会計特殊研究	P0435	2単位
2013～2017年度入学生	会計学特殊研究	P641	2単位
2012年度以前入学生	—	—	—
担当教員	細海 昌一郎	前期	土曜日 3時限
①授業方針・テーマ	本研究では、隣接諸科学とも関連する管理会計の新たな研究分野の英語論文を講読しながら、実証的研究方法の理解と実践を目指します。特に、知的資本 (intellectual capital) の研究に関連する英語論文の講読を中心とします。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本研究では、管理会計の領域で近年注目されている知的資本研究等に関連する英語論文を中心に引き上げて講読することによって、研究を実践する能力を養うことが期待されます。また、そうした研究で用いられている実証的研究方法を理解し、実際に、博士号の取得に向けた論文作成に役立てることを目標としています。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>具体的には、次のような Accounting Journalsの中から知的資本等に関連する英語論文を選択し購読する予定です。Journal of Intellectual Capitalのような知的資本研究に関連する他の研究分野のJournalから選択することもあります。</p> <p>[List of Journals] Journal of Accounting Research Journal of Management Accounting Research ABACUS: A Journal of Accounting and Business Studies Accounting and Business Research Journal of Business Finance and Accounting Journal of Accounting and Organizational Change Journal of Applied Accounting Research Qualitative Research in Accounting and Management Journal of Intellectual Capital R&D Management</p> <p>授業外学習：授業後、取り上げた論文や課題についてよく復習しておいてください。</p>		
④テキスト・参考書等	<p>[参考文献] [1] Alan Bryan and Emma Bell (2011) Business Research Methods 3rd Edition, Oxford University Press.</p>		
⑤成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 英語論文の内容を検討しますが、その発表内容等により評価します。 		
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	<ul style="list-style-type: none"> 管理会計を専攻とする学生以外の履修も歓迎します。また、取り上げる英語論文により、具体的な実証的分析方法を演習形式で検討することがあります。 オフィスアワー：原則として木曜日5時限目としますので、質問等があれば研究室(3-233)に来てください(事前に、下記連絡先に連絡頂ければ幸いです)。 連絡先：hosomi@tmu.ac.jp 		

2018年度以降入学生	管理会計特殊演習	P0436	2 単位
2013～2017年度入学生	会計学特殊研究	P642	2 単位
2012年度以前入学生	—	—	—
担当教員	細海 昌一郎	後期	土曜日 3 時限
①授業方針・テーマ	<p>管理会計では、理論と実務の乖離の原因を究明したり、ある管理会計技法が企業業績に与える影響を検証したりといった研究が行われますが、近年、その研究方法において実証的研究方法の重要性が増しています。</p> <p>すなわち、財務会計を含む会計学の領域では、会計の原理や技術的特徴のあるべき姿を探求する規範的研究も必要ですが、現行の会計実務を一応肯定的に受け止め、その存在理由を説明するために統計手法を用いて行う実証的研究の重要性が増しているといえます。また、こうした傾向は会計学研究に限ったことではないと思われます。</p> <p>そこで、本演習では、こうした認識を前提に、博士論文作成に役立つ研究方法として、実証的研究方法（研究手法）の基礎について検討し、研究の実践に役立てることを目的としています（ただし、あくまでも基礎ですので、より高度な研究手法については各自検討されたい）。</p> <p>なお、前述のように、こうした傾向は会計学研究に限ったことではないと思われますので、研究方法や実務の参考にしたいと考えている会計学専攻以外の学生の参加も歓迎します。</p>		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>本演習では、こうした認識を前提に、修士論文作成に役立つ研究方法として、実証的研究方法（研究手法）の基礎について検討し、研究の実践に役立てることを目的としています（ただし、あくまでも基礎ですので、より高度な研究手法については各自検討されたい）。</p>		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>[主な内容]</p> <p>(1) データの整理 (2) 記述統計 (3) 仮説検定 (4) 回帰分析など代表的分析手法 (5) その他多変量解析</p> <p>本演習では実証的研究手法の基礎について検討しますが、統計ソフトの利用を前提とした実践的な内容も検討します。</p> <p>授業外学習：授業後、取り上げた論文や課題についてよく復習しておいてください。</p>		
④テキスト・参考書等	<p>[参考文献]</p> <p>[1] 鈴木功一監訳『ビジネス統計学（上）（下）』ダイヤモンド社、2007。 [2] ダン・レメニイ他著『社会科学系大学院生のための研究の進め方—修士・博士論文を書くまえに—』同文館出版、2002。 [3] 牧厚志他著『経済・経営のための統計学』有斐閣、2005。 [4] 門田安弘『経営・会計の実証分析入門』中央経済社、2003。 [5] Malcolm, Smith, Research Methods in Accounting 2nd Edition, SAGE, 2012.</p>		
⑤成績評価方法	<p>演習参加度と演習課題等に基づいて評価します。</p>		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<ul style="list-style-type: none"> ・管理会計に関する基本的な知識やPCの基本的な能力を前提にして行います。 ・オフィスアワー：原則として木曜日 5 時限目としますので、質問等があれば研究室（3-233）に来てください（事前に、下記連絡先に連絡頂ければ幸いです）。 ・連絡先：hosomi@tmu.ac.jp 		

2018年度以降入学生	—	—	—
2013～2017年度入学生	—	—	—
2012年度以前入学生	会計学特殊研究		P473 4単位
担当教員	細海 昌一郎	通年	土曜日 3時限
①授業方針・テーマ	本研究では、隣接諸科学とも関連する管理会計の新たな研究分野の英語論文を講読しながら、実証的研究方法の理解と実践を目指します。特に、知的資本 (intellectual capital) の研究に関連する英語論文の講読を中心とします。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本研究では、管理会計の領域で近年注目されている知的資本研究等に関連する英語論文を中心に取上げて講読することによって、研究を実践する能力を養うことが期待されます。また、そうした研究で用いられている実証的研究方法を理解し、実際に、論文作成に役立てることを目標としています。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>具体的には、次のようなAccounting Journalsの中から知的資本等に関連する英語論文を選択し購読する予定です。Journal of Intellectual Capitalのような知的資本研究に関連する他の研究分野のJournalから選択することもあります。</p> <p>[List of Journals] Journal of Accounting Research Journal of Management Accounting Research ABACUS: A Journal of Accounting and Business Studies Accounting and Business Research Journal of Business Finance and Accounting Journal of Accounting and Organizational Change Journal of Applied Accounting Research Qualitative Research in Accounting and Management Journal of Intellectual Capital R&D Management</p> <p>授業外学習：授業後、取り上げた論文や課題についてよく復習しておいてください。</p>		
④テキスト・参考書等	<p>[参考文献] [1] Alan Bryan and Emma Bell (2011) Business Research Methods 3rd Edition, Oxford University Press.</p>		
⑤成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 英語論文を講読しますが、その発表内容により評価します。 		
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	<ul style="list-style-type: none"> 管理会計を専攻とする学生以外の履修も歓迎します。また、取り上げる英語論文により、具体的な実証的分析方法を演習形式で検討することがあります。 オフィスアワー：原則として木曜日5時限目としますので、質問等があれば研究室(3-233)に来てください(事前に、下記連絡先に連絡頂ければ幸いです)。 連絡先：hosomi@tmu.ac.jp 		

2018年度以降入学生	ミクロ経済学特殊研究	P0437	2 単位
2013～2017年度入学生	ミクロ経済学特殊研究	P605	2 単位
2012年度以前入学生	—	—	—
担当教員	飯村 卓也	前期	火曜日 2 時限
①授業方針・テーマ	中級から上級のミクロ理論を学ぶ。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ミクロ理論の内容とともに、よく使われる分析技術の習得を目標にする。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	消費者・生産者の最適化行動から市場均衡に至るまで、標準的な理論を体系的に学んでゆく。 【授業方法】講義と演習により行う。 【授業外学習】次回の授業範囲を予習しておくこと。		
④テキスト・参考書等	Varian,H. Microeconomic Analysis,3rd ed.,Norton		
⑤成績評価方法	取り組み方、達成度など、総合的に見て判断する。		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	【オフィスアワー】 毎週水曜 3 限の時間帯 なお履修する人は初回授業の時間に必ず出席のこと。		

2018年度以降入学生	ミクロ経済学特殊演習	P0438	2 単位
2013～2017年度入学生	ミクロ経済学特殊研究	P606	2 単位
2012年度以前入学生	—	—	—
担当教員	飯村 卓也	後期	火曜日 2 時限
①授業方針・テーマ	中級から上級のミクロ理論を学ぶ。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ミクロ理論の内容とともに、よく使われる分析技術の習得を目標にする。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	消費者・生産者の最適化行動から市場均衡に至るまで、標準的な理論を体系的に学んでゆく。 【授業方法】講義と演習により行う。 【授業外学習】次回の授業範囲を予習しておくこと。		
④テキスト・参考書等	Varian,H. Microeconomic Analysis,3rd ed.,Norton		
⑤成績評価方法	取り組み方、達成度など、総合的に見て判断する。		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	【オフィスアワー】 毎週水曜 3 限の時間帯 なお履修する人は初回授業の時間に必ず出席のこと。		

2018年度以降入学生	—	—	—
2013～2017年度入学生	—	—	—
2012年度以前入学生	ミクロ経済学特殊研究		P458 4単位
担当教員	飯村 卓也	通年	火曜日 2時限
①授業方針・テーマ	<p>*本通年科目は、次の二つの半期科目を合わせたものです。講義内容等はそれぞれの科目のシラバスをご参照ください。</p> <p>前期 火曜日 2限 P605</p> <p>後期 火曜日 2限 P606</p>		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習			
④テキスト・参考書等			
⑤成績評価方法			
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)			

2018年度以降入学生	マクロ経済学特殊研究	P0439	2 単位
2013～2017年度入学生	マクロ経済学特殊研究	P611	2 単位
2012年度以前入学生	—	—	—
担当教員	脇田 成	前期	木曜日 1 時限
①授業方針・テーマ	本講義は大学院レベルのマクロ経済学を概説する。なお受講者は学部レベルのマクロ経済学を理解し、初歩の線形代数・静学的最適化問題の理解が必須である。これらの準備の不十分なものは学部レベルの教科書などで講義に先立って補充しておくこと。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	講義では教科書に沿って、能率良く現在のマクロ経済学を展望するが、単位取得のためには計算問題の宿題ならびに課題を課す。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>第1回 ケインズ経済学と新古典派のマクロ経済学：マクロ経済学の課題と歴史 学部レベルのマクロ経済学の復習と近年のマクロ経済学の発展を概観した後、数学ならびにエコノメトリックスの最低限に解説を加える。ただしこれらの準備の不十分なものは必ず先立って補充しておくこと。</p> <p>第2回 基本的動学モデル 1：新古典派最適成長理論・RBCモデルと時間を通じた選択 第3回 基本的動学モデル 2：世代重複モデルと高齢化・少子化 以上が一般均衡動学モデルの基礎であり、また変分法・DP・MPなどの動学的最適化理論の解説は動学モデルに即して適宜行う。このあと部分均衡的な動学モデルを検討する。以下の諸モデルは実証分析が盛んな分野でもあることに注意。</p> <p>第4回 主体均衡分析 1:家計の通時的最適化と消費関数の理論：高すぎる株式収益率のパズル 第5回 主体均衡分析 2:企業の通時的最適化と投資関数の理論：タイミングを決める理論 以上を基礎編とする。さらに応用編として、時間の許す限り</p> <p>第6回 新ケインジアン経済学と協調の失敗：財市場における不完全競争と名目価格硬直性 第7回 契約とサーチの理論:労働市場と実質賃金硬直性の理論 第8回 貨幣と信用の諸モデル・金融仲介ならびに国際金融：日本のバブルの物語 第9回 内生的成長理論：ますます富める国と貧しいままの国 第10回 カオスと複数均衡 第11回 マクロ経済政策分析:ゲーム理論の応用 第12回 マクロ経済学と実証分析:非定常時系列分析 第13回 マクロ経済学と日本的労働慣行 第14回 マクロ経済学と日本的経済システム 第15回 期末試験と解説</p> <p>の講義も行う予定。なお詳細な講義予定・文献リストは講義の初回に配布する。</p> <p>授業外学習 テキストをよく読むこと</p>		
④テキスト・参考書等	<p>教科書：脇田成（1998）『マクロ経済学のパースペクティブ』日本経済新聞社。 参考書：Blanchard, O. J., and S. Fischer, Lectures on Macroeconomics, (MIT Press,1989). Lucas R. E., Jr., Models of Business Cycles, Oxford : Basil Blackwell, 1987(邦訳「マクロ経済学のフロンティア」清水訳東洋経済新報社)。 岩井克人・伊藤元重編（1994）『現代の経済理論』東京大学出版会。</p>		
⑤成績評価方法	期末試験70% 宿題30%		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>受講希望者はテキストを調整するのでwakita@tmu.ac.jpに第1回の授業前に前もってメールすること 授業外学習 テキストをよく読むこと オフィスアワーは木曜4限 質問は随時受け付けるのでメールでアポイントを取ること</p>		

2018年度以降入学生	マクロ経済学特殊演習	P0440	2単位
2013～2017年度入学生	マクロ経済学特殊研究	P612	2単位
2012年度以前入学生	—	—	—
担当教員	脇田 成	後期	木曜日 2時限
①授業方針・テーマ	本講義は大学院レベルのマクロ経済学を概説し、問題演習並びに関連論文の輪読を行う。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	講義では教科書に沿って、能率良く現在のマクロ経済学を展望するが、単位取得のためには計算問題の宿題ならびに課題を課す。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>第1回 ケインズ経済学と新古典派のマクロ経済学：マクロ経済学の課題と歴史 学部レベルのマクロ経済学の復習と近年のマクロ経済学的发展を概観した後、数学ならびにエコノメトリックスの最低限に解説を加える。ただしこれらの準備の不十分なものは必ず先立って補充しておくこと。</p> <p>第2回 基本的動学モデル 1：新古典派最適成長理論・RBCモデルと時間を通じた選択 第3回 基本的動学モデル 2：世代重複モデルと高齢化・少子化 以上が一般均衡動学モデルの基礎であり、また変分法・DP・MPなどの動学的最適化理論の解説は動学モデルに即して適宜行う。このあと部分均衡的な動学モデルを検討する。以下の諸モデルは実証分析が盛んな分野でもあることに注意。</p> <p>第4回 主体均衡分析 1：家計の通時的最適化と消費関数の理論：高すぎる株式収益率のパズル 第5回 主体均衡分析 2：企業の通時的最適化と投資関数の理論：タイミングを決める理論 以上を基礎編とする。さらに応用編として、時間の許す限り</p> <p>第6回 新ケインジアン経済学と協調の失敗：財市場における不完全競争と名目価格硬直性 第7回 契約とサーチの理論：労働市場と実質賃金硬直性の理論 第8回 貨幣と信用の諸モデル・金融仲介ならびに国際金融：日本のバブルの物語 第9回 内生的成長理論：ますます富める国と貧しいままの国 第10回 カオスと複数均衡 第11回 マクロ経済政策分析：ゲーム理論の応用 第12回 マクロ経済学と実証分析：非定常時系列分析 第13回 マクロ経済学と日本的労働慣行 第14回 マクロ経済学と日本的経済システム 第15回 期末試験と解説</p> <p>の講義も行う予定。なお詳細な講義予定・文献リストは講義の初回に配布する。</p> <p>授業外学習 テキストをよく読むこと</p>		
④テキスト・参考書等	<p>教科書：脇田成（1998）『マクロ経済学のパースペクティブ』日本経済新聞社。 参考書：Blanchard, O. J., and S. Fischer, Lectures on Macroeconomics, (MIT Press, 1989)。 Lucas R. E., Jr., Models of Business Cycles, Oxford: Basil Blackwell, 1987(邦訳「マクロ経済学のフロンティア」清水訳東洋経済新報社)。 岩井克人・伊藤元重編（1994）『現代の経済理論』東京大学出版会。</p>		
⑤成績評価方法	期末試験70% 宿題30%		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>受講希望者はテキストを調整するのでwakita@tmu.ac.jpに第1回の授業前に前もってメールすること 授業外学習 テキストをよく読むこと オフィスアワーは木曜4限 質問は随時受け付けるのでメールでアポイントを取ること</p>		

2018年度以降入学生	—	—	—
2013～2017年度入学生	—	—	—
2012年度以前入学生	マクロ経済学特殊研究		P461 4単位
担当教員	脇田 成	通年	木曜日 前期：1時限 後期：2時限
①授業方針・テーマ	本講義は大学院レベルのマクロ経済学を概説する。なお受講者は学部レベルのマクロ経済学を理解し、初歩の線形代数・静学的最適化問題の理解が必須である。これらの準備の不十分なものは学部レベルの教科書などで講義に先立って補充しておくこと。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	講義では教科書に沿って、能率良く現在のマクロ経済学を展望するが、単位取得のためには計算問題の宿題ならびに課題を課す。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>第1回 ケインズ経済学と新古典派のマクロ経済学：マクロ経済学の課題と歴史 学部レベルのマクロ経済学の復習と近年のマクロ経済学の発展を概観した後、数学ならびにエコノメトリックスの最低限に解説を加える。ただしこれらの準備の不十分なものは必ず先立って補充しておくこと。</p> <p>第2回 基本的動学モデル 1：新古典派最適成長理論・RBCモデルと時間を通じた選択 第3回 基本的動学モデル 2：世代重複モデルと高齢化・少子化 以上が一般均衡動学モデルの基礎であり、また変分法・DP・MPなどの動学的最適化理論の解説は動学モデルに即して適宜行う。このあと部分均衡的な動学モデルを検討する。以下の諸モデルは実証分析が盛んな分野でもあることに注意。</p> <p>第4回 主体均衡分析 1：家計の通時的最適化と消費関数の理論：高すぎる株式収益率のパズル 第5回 主体均衡分析 2：企業の通時的最適化と投資関数の理論：タイミングを決める理論 以上を基礎編とする。さらに応用編として、時間の許す限り</p> <p>第6回 新ケインジアン経済学と協調の失敗：財市場における不完全競争と名目価格硬直性 第7回 契約とサーチの理論：労働市場と実質賃金硬直性の理論 第8回 貨幣と信用の諸モデル・金融仲介ならびに国際金融：日本のバブルの物語 第9回 内生的成長理論：ますます富める国と貧しいままの国 第10回 カオスと複数均衡 第11回 マクロ経済政策分析：ゲーム理論の応用 第12回 マクロ経済学と実証分析：非定常時系列分析 第13回 マクロ経済学と日本的労働慣行 第14回 マクロ経済学と日本的経済システム 第15回 期末試験と解説</p> <p>の講義も行う予定。なお詳細な講義予定・文献リストは講義の初回到に配布する。</p> <p>授業外学習 テキストをよく読むこと</p>		
④テキスト・参考書等	<p>教科書：脇田成（1998）『マクロ経済学のパースペクティブ』日本経済新聞社。 参考書：Blanchard, O. J., and S. Fischer, Lectures on Macroeconomics, (MIT Press, 1989)。 Lucas R. E., Jr., Models of Business Cycles, Oxford : Basil Blackwell, 1987(邦訳「マクロ経済学のフロンティア」清水訳東洋経済新報社)。 岩井克人・伊藤元重編（1994）『現代の経済理論』東京大学出版会。</p>		
⑤成績評価方法	期末試験70% 宿題30%		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>受講希望者はテキストを調整するのでwakita@tmu.ac.jpに第1回の授業前に前もってメールすること 授業外学習 テキストをよく読むこと オフィスアワーは木曜4限 質問は随時受け付けるのでメールでアポイントを取ること</p>		

2018年度以降入学生	計量経済学特殊研究	P0441	2単位
2013～2017年度入学生	計量経済学特殊研究	P615	2単位
2012年度以前入学生	—	—	—
担当教員	飯星 博邦	前期	火曜日 3時限
①授業方針・テーマ	<p>本科目では、大学院の修士課程で履修すべき計量経済学の基本的項目について扱う。具体的には、線形回帰モデルの推定と検定の行列計算を中心に、非線形モデルの推定法である一般化モーメント法(GMM)や最尤推定法に敷衍する。また、理論的な理解だけでなく、実際にデータ分析ができるように、MATLABやR、EViewsなどの計量ソフトウェアの利用法についても講義していく予定である。</p>		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・計量経済学の基本的項目である古典的線形回帰モデルの小標本と大標本の性質を理解できる。 ・非線形モデルに拡張できるGMM(一般化モーメント法)と最尤法の推定法や検定法、漸近的特性を理解できる。 ・MATLABやR、EViewsなどの計量ソフトウェアを使い、古典的線形回帰モデル、GMM、最尤法によるデータ分析ができる。 		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】</p> <p>各回の講義予定は教科書であるHayashi(2000) Econometricsに基づき、以下のとおりであるが、講義の進捗状況により、前後する場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回 古典的線形回帰モデル(OLS)とその行列表現(OLSの小標本の特性#1) 2回 OLSにおける仮説検定、最尤法とGMM(OLSの小標本の特性#2) 3回 大標本理論(大数の法則と中心極限定理) 4回 大標本理論(OLS推定値での漸近分布) 5回 大標本理論(仮説検定) 6回 大標本理論(不均一分散) 7回 GMM(一般化モーメント法)と操作変数法 8回 GMM(一般化モーメント法)の大標本理論 9回 GMM(一般化モーメント法)尤度比検定 10回 GMM(一般化モーメント法)の不均一分散 11回 GMM(一般化モーメント法)と同時方程式体系 12回 最尤推定法と一致性 13回 最尤推定法と漸近分布 14回 最尤推定法における仮説検定 15回 試験と解説 <p>【授業外学習】</p> <p>毎回の講義ノートはあらかじめEラーニングシステム「KIBACO」にアップロードするので、教科書と合わせて予習しておくこと。また、レポートとして、教科書にある演習問題と計量ソフトウェア「Matlab」もしくは「R」を利用したデータ分析の出題を行う。</p>		
④テキスト・参考書等	Hayashi(2000) Econometrics、Princeton Univ. Press		
⑤成績評価方法	講義中に出題するレポート2題(50%)および期末試験(50%)により評価を行う。		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<ul style="list-style-type: none"> ・計量ソフトウェアとして「Matlab」もしくは「R」を利用する。 ・本科目は、後期に実施予定の「経済学特別演習(計量経済学)」の前提科目である。 		

2018年度以降入学生	計量経済学特殊演習	P0442	2 単位
2013～2017年度入学生	計量経済学特殊研究	P616	2 単位
2012年度以前入学生	—	—	—
担当教員	飯星 博邦	後期	火曜日 3 時限
①授業方針・テーマ	本講義では、前期で扱った計量経済学の古典的回帰モデルの講義内容をベースとして、その応用として時系列モデルの理論的解説と経済時系列データを使った推定法について扱う。また、統計ソフトウェアによる実習も並行して進めていく予定である。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	計量経済学の基礎および時系列分析の理論的な理解およびその推定手法の習得		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】</p> <p>下記内容について講義する予定です。講義内容は履修者の関心と理解レベルに応じて適宜、修正しようと思っています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 計量経済学の方法（回帰分析と最尤法） 2. 時系列データの特性と定常性 3. 自己回帰（AR）モデルと ARMAモデル、ARIMAモデル 4. 単位根（ランダム・ウォーク）モデル 5. 金融時系列モデル（ARCH、GARCH、EGARCH、TGARCH、GARCH-M） 6. 多変量のARモデル（VAR）と共和分 7. マーケットストラクチャとRealized Volatility 8. 長期記憶の時系列モデル <p>なお、詳細な講義日程と講義内容については私のホームページ http://www.comp.tmu.ac.jp/iiboshi/ をご覧ください。</p> <p>【授業外学習】</p> <p>毎回の講義ノートはあらかじめEラーニングシステム「KIBACO」にアップロードするので、教科書と合わせて予習しておくこと。また、レポートとして、教科書にある演習問題と計量ソフトウェア「Matlab」もしくは「R」を利用したデータ分析の出題を行う。</p>		
④テキスト・参考書等	<p>[1] 山本拓著（1988）『経済の時系列分析』創文社</p> <p>[2] 刈屋武昭著（2003）“金融時系列分析入門”『経済時系列の統計』、第1部、p3-101、岩波書店</p> <p>[3] 渡部敏明著（2000）『ボラティリティ変動モデル』朝倉書店</p> <p>[4] 田中勝人（2006）『現代時系列分析』岩波書店</p>		
⑤成績評価方法	講義中に出題するレポート2題（50%）および期末試験（50%）により評価を行う。		
⑥特記事項 （他の授業科目との関連性）	・計量ソフトウェアとして「Matlab」もしくは「R」を利用する。		

2018年度以降入学生	—	—	—
2013～2017年度入学生	—	—	—
2012年度以前入学生	計量経済学特殊研究		P464 4単位
担当教員	飯星 博邦	通年	火曜日 3時限
①授業方針・テーマ	<p>本科目では、前期では 大学院の修士課程で履修すべき計量経済学の基本的項目について扱う。具体的には、線形回帰モデルの推定と検定の行列計算を中心に、非線形モデルの推定法である一般化モーメント法 (GMM) や最尤推定法に敷衍する。後期では、前期で扱った計量経済学の古典的回帰モデルの講義内容をベースとして、その応用として時系列モデルの理論的解説と経済時系列データを使った推定法について扱う。また、理論的な理解だけでなく、実際にデータ分析ができるように、MATLABやR、EViewsなどの計量ソフトウェアの利用法についても講義していく予定である。</p>		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・計量経済学の基本的項目である古典的線形回帰モデルの小標本と大標本の性質を理解できる。 ・非線形モデルに拡張できるGMM(一般化モーメント法) と最尤法の推定法や検定法、漸近的特性が理解できる。 ・MATLABやR、EViewsなどの計量ソフトウェアを使い、古典的線形回帰モデル、GMM、最尤法によるデータ分析ができる。 		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】 各回の講義予定は教科書であるHayashi(2000) Econometricsに基づき、以下のとおりであるが、講義の進捗状況により、前後する場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回 古典的線形回帰モデル (OLS) とその行列表現 (OLSの小標本の特性 #1) 2回 OLSにおける仮説検定、最尤法とGMM(OLSの小標本の特性 #2) 3回 大標本理論 (大数の法則と中心極限定理) 4回 大標本理論 (OLS推定値での漸近分布) 5回 大標本理論 (仮説検定) 6回 大標本理論 (不均一分散) 7回 GMM(一般化モーメント法) と操作変数法 8回 GMM(一般化モーメント法) の大標本理論 9回 GMM(一般化モーメント法) 尤度比検定 10回 GMM(一般化モーメント法) の不均一分散 11回 GMM(一般化モーメント法) と同時方程式体系 12回 最尤推定法と一致性 13回 最尤推定法と漸近分布 14回 最尤推定法における仮説検定 15回 試験と解説 <ol style="list-style-type: none"> 16回 計量経済学の方法 (回帰分析と最尤法) 17-18回 時系列データの特性と定常性 19-20回 自己回帰 (AR) モデルと ARMAモデル、ARIMAモデル 21-22回 単位根 (ランダム・ウォーク) モデル 23-24回 金融時系列モデル (ARCH、GARCH、EGARCH、TGARCH、GARCH-M) 25-26回 多変量のARモデル (VAR) と共和分 27-28回 マーケットストラクチャとRealized Volatility 29回 長期記憶の時系列モデル 30回 試験と解説 <p>【授業外学習】 毎回の講義ノートはあらかじめEラーニングシステム「KIBACO」にアップロードするので、教科書と合わせて予習しておくこと。また、レポートとして、教科書にある演習問題と計量ソフトウェア「Matlab」もしくは「R」を利用したデータ分析の出題を行う。</p>		
④テキスト・参考書等	<ol style="list-style-type: none"> [1] Hayashi(2000) Econometrics、Princeton Univ. Press [2] 山本拓著 (1988)『経済の時系列分析』創文社 [3] 刈屋武昭著 (2003) “金融時系列分析入門”『経済時系列の統計』、第1部、p3-101、岩波書店 [4] 渡部敏明著 (2000)『ボラティリティ変動モデル』朝倉書店 [5] 田中勝人 (2006)『現代時系列分析』岩波書店 		
⑤成績評価方法	講義中に出题するレポート2題 (50%) および期末試験 (50%) により評価を行う。		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<ul style="list-style-type: none"> ・計量ソフトウェアとして「Matlab」もしくは「R」を利用する。 ・本科目は、後期に実施予定の「経済学特別演習 (計量経済学)」の前提科目である。 		

2018年度以降入学生	金融経済学特殊研究	P0445	2 単位
2013～2017年度入学生	金融経済学特殊研究	P598	2 単位
2012年度以前入学生	—	—	—
担当教員	田中 敬一	前期	火曜日 5 時限
①授業方針・テーマ	ファイナンスに必要な確率解析を修得する。 英語テキストを用いて、確率論・確率解析・ファイナンスについて講義する。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ファイナンスに必要な確率解析 ファイナンスの各分野における論文で用いられている数学的手法やファイナンスの概念等を広く理解できることを目標とする。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	【授業内容】 確率論・確率解析・ファイナンスについて講義する。 内容は、確率解析・ジャンプ過程・マルコフ過程・レジームスイッチング・金利モデル・信用リスクモデル・CAPM・無差別価格等である。 【授業外学習】 論文発表の準備		
④テキスト・参考書等	Nunno et al., Malliavin Calculus for Levy Processes with Applications to Finance Touzi, Optimal Stochastic Control, Stochastic Target Problems, and Backward SDE		
⑤成績評価方法	発表および授業への貢献度により評価する。		
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	オフィスアワー：火曜 4 限		

2018年度以降入学生	金融経済学特殊演習	P0446	2 単位
2013～2017年度入学生	金融経済学特殊研究	P599	2 単位
2012年度以前入学生	—	—	—
担当教員	田中 敬一	後期	火曜日 5 時限
①授業方針・テーマ	ファイナンスに必要な確率解析を修得するとともに、関連トピックスで代表的な論文等を輪読する。 金融経済学特殊研究で得た知識を活用して、最新の研究論文の輪読およびその内容の検討を行う。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ファイナンスに必要な確率解析		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	【授業内容】 理論展開の本質を理解し、その内容の拡張の可能性を探ることや、数値計算を再現し、その特徴を把握することなどを試みる。このような作業を経て、理論・数値計算・実証に関する論文執筆の準備を行うことが目標である。 分野としては デリバティブ、金利期間構造モデル、クレジットリスク、リスク管理 等である。 必要に応じてテキストに挙げた書籍の輪読もしくは講義を行う。 【授業外学習】 論文発表の準備		
④テキスト・参考書等	Nunno et al., Malliavin Calculus for Levy Processes with Applications to Finance Touzi, Optimal Stochastic Control, Stochastic Target Problems, and Backward SDE		
⑤成績評価方法	発表および授業への貢献度により評価する。		
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	オフィスアワー：火曜 4 限		

2018年度以降入学生	—	—	—
2013～2017年度入学生	—	—	—
2012年度以前入学生	金融経済学特殊研究		P452 4単位
担当教員	田中 敬一	通年	火曜日 5時限
①授業方針・テーマ	ファイナンスに必要な確率解析を修得する。 英語テキストを用いて、確率論・確率解析・ファイナンスについて講義する。 そこで得た知識を活用して、最新の研究論文の輪読およびその内容の検討を行う。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ファイナンスに必要な確率解析 ファイナンスの各分野における論文で用いられている数学的手法やファイナンスの概念等を広く理解できることを目標とする。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	【授業内容】 確率論・確率解析・ファイナンスについて講義する。 内容は、確率解析・ジャンプ過程・マルコフ過程・レジームスイッチング・金利モデル・信用リスクモデル・CAPM・無差別価格等である。 理論展開の本質を理解し、その内容の拡張の可能性を探ることや、数値計算を再現し、その特徴を把握することなどを試みる。このような作業を経て、理論・数値計算・実証に関する論文執筆の準備を行うことが目標である。 【授業外学習】 論文発表の準備		
④テキスト・参考書等	Nunno et al., Malliavin Calculus for Levy Processes with Applications to Finance Touzi, Optimal Stochastic Control, Stochastic Target Problems, and Backward SDE		
⑤成績評価方法	発表および授業への貢献度により評価する。		
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	オフィスアワー：火曜4限		

2018年度以降入学生	日本経済論特殊研究		P0447 2単位
2013～2017年度入学生	経済学特殊演習（日本経済論）		P568 2単位
2012年度以前入学生	—		—
担当教員	村田 啓子	前期	月曜日 2時限
①授業方針・テーマ	日本経済の実証分析。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	日本経済の実証分析についての先行研究を学び、実証研究を行う能力を身につける。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	受講者の意向も考慮するが、まずは家計行動（消費・貯蓄）の実証研究（英文、サーベイ論文含む。必要があれば理論の文献で補強）についての文献を輪読する予定。		
④テキスト・参考書等	授業時に提示する。		
⑤成績評価方法	平常点及びレポート。		
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	特になし。		

2018年度以降入学生	日本経済論特殊演習		P0448	2単位
2013～2017年度入学生	経済学特殊演習（日本経済論）		P569	2単位
2012年度以前入学生	—		—	—
担当教員	村田 啓子	後期	月曜日	2時限
①授業方針・テーマ	日本経済の実証分析。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	日本経済の実証分析についての先行研究を学び、実証研究を行う能力を身につける。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	受講者の意向も考慮するが、まずは労働市場（日本の雇用慣行とその変化、近年の課題）に関する実証研究（英文、サーベイ論文含む。必要があれば理論の文献で補強）についての文献を輪読する予定。			
④テキスト・参考書等	授業時に提示する。			
⑤成績評価方法	平常点及びレポート。			
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	特になし。			

2018年度以降入学生	—		—	—
2013～2017年度入学生	—		—	—
2012年度以前入学生	経済学特殊講義（日本経済論）		P435	4単位
担当教員	村田 啓子	通年	月曜日	2時限
①授業方針・テーマ	日本経済の実証分析。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	日本経済の実証分析についての先行研究を学び、実証研究を行う能力を身につける。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	受講者の意向も考慮するが、まずは家計行動（消費・貯蓄）の実証研究（英文、サーベイ論文含む。必要があれば理論の文献で補強）についての文献を輪読する予定。			
④テキスト・参考書等	授業時に提示する。			
⑤成績評価方法	平常点及びレポート。			
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	特になし。			

2018年度以降入学生	ゲーム理論特殊研究	P0449	2単位
2013～2017年度入学生	ゲーム理論特殊研究	P578	2単位
2012年度以前入学生	—	—	—
担当教員	渡辺 隆裕	前期	火曜日 4時限
①授業方針・テーマ	まず、経済数学等のテキストの講義と輪読と演習を行い、ゲーム理論を学ぶために必要な数学を身につけます。 次に、ゲーム理論の講義と輪読によって、大学院レベルのゲーム理論を身につけることを目的とします。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	集合、制約条件付き最適化、動的計画などの数学力を身につける。合理的アプローチのゲーム理論の発展（戦略形ゲーム、展開形ゲーム、支配戦略、ナッシュ均衡）を学ぶ。数学による形式化を完全に行うこと、基本的な定理の証明などができる力を身につけることを目標とする。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画】 数学の基礎： 集合、制約条件付き最適化、動的計画 ゲーム理論基礎：戦略形ゲーム、展開形ゲームの基礎</p> <p>【授業方法】 テキストと教材を定めて、演習と輪読を繰り返してゆく形式で講義を行います。</p> <p>【授業外学習】 輪読で当番となった部分は、内容をよく理解し、レジメを作って発表の準備をすることが求められます。 また、宿題となった演習問題を自宅で解くことが求められます。</p>		
④テキスト・参考書等	<p>【参考書】 S. Taldes, Game Theory : An Introduction, Princeton University Press. R. K. Sundaram, A First Course in Optimization Theory, Cambridge University Press, 1996.</p>		
⑤成績評価方法	普段の出席・参加状況と演習課題の解答により評価する。		
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	オフィスアワーは特に設定しませんが、質問は積極的に受け付けます。 事前にメール、kibacoでアポイントメントをとり、私の研究室（3号館4F411号室）へ来て下さい。		

2018年度以降入学生	ゲーム理論特殊演習	P0450	2単位
2013～2017年度入学生	ゲーム理論特殊研究	P579	2単位
2012年度以前入学生	—	—	—
担当教員	渡辺 隆裕	後期	火曜日 4時限
①授業方針・テーマ	ゲーム理論の講義と輪読によって、前期のゲーム理論特殊講義よりも、さらに発展した内容のゲーム理論を身につけることを目的とします。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ゲーム理論の発展的内容（均衡の精緻化、不完備情報の戦略形ゲーム、不完備情報の展開形ゲーム、繰り返しゲーム、交渉ゲーム、進化ゲーム、協力ゲーム）を学ぶ。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画】 第1回 ガイダンス 第2回～第3回 一般の展開形ゲームと均衡の精緻化 第4回～第5回 不完備情報の戦略形ゲーム 第6回～第7回 不完備情報の展開形ゲーム・シグナリングゲーム 第8回～第9回 繰り返しゲーム 第10回 交渉ゲーム 第11回 進化ゲーム 第12回～第13回 協力ゲーム 第14回～第15回 まとめ</p> <p>【授業方法】 テキストと教材を定めて、演習と輪読を繰り返してゆく形式で講義を行います。</p> <p>【授業外学習】 輪読で当番となった部分は、内容をよく理解し、レジメを作って発表の準備をすることが求められます。 また、宿題となった演習問題を自宅で解くことが求められます。</p>		
④テキスト・参考書等	<p>【参考書】 S. Taldes, Game Theory : An Introduction, Princeton University Press.</p>		
⑤成績評価方法	普段の出席・参加状況と演習課題の解答により評価する。		
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	<p>オフィスアワーは特に設定しませんが、質問は積極的に受け付けます。 事前にメール、kibacoでアポイントメントをとり、私の研究室（3号館4F411号室）へ来て下さい。</p>		

2018年度以降入学生	—	—	—
2013～2017年度入学生	—	—	—
2012年度以前入学生	ゲーム理論特殊研究		P442 4単位
担当教員	渡辺 隆裕	通年	火曜日 4時限
①授業方針・テーマ	<p>まず、経済数学等のテキストの講義と輪読と演習を行い、ゲーム理論を学ぶために必要な数学を身につけます。</p> <p>次に、ゲーム理論の講義と輪読によって、大学院レベルのゲーム理論の知識を身につけることを目的とします。</p>		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>集合、制約条件付き最適化、動的計画などの数学力を身につける。合理的アプローチのゲーム理論の基礎（戦略形ゲーム、展開形ゲーム、支配戦略、ナッシュ均衡）、および発展的内容（均衡の精緻化、不完備情報の戦略形ゲーム、不完備情報の展開形ゲーム、繰り返しゲーム、交渉ゲーム、進化ゲーム、協力ゲーム）を学ぶ。数学による形式化を完全に行うこと、基本的な定理の証明などができる力を身につけることを目標とする。</p>		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画】 前期： 数学の基礎：集合、制約条件付き最適化、動的計画 ゲーム理論基礎：戦略形ゲーム、展開形ゲームの基礎 後期： 均衡の精緻化、不完備情報の戦略形ゲーム、不完備情報の展開形ゲーム、繰り返しゲーム、交渉ゲーム、進化ゲーム、協力ゲーム</p> <p>【授業方法】 テキストと教材を定めて、演習と輪読を繰り返してゆく形式で講義を行います。</p> <p>【授業外学習】 輪読で当番となった部分は、内容をよく理解し、レジメを作って発表の準備をすることが求められます。 また、宿題となった演習問題を自宅で解くことが求められます。</p>		
④テキスト・参考書等	<p>【参考書】 S. Taldes, Game Theory : An Introduction, Princeton University Press. R. K. Sundaram, A First Course in Optimization Theory, Cambridge University Press, 1996.</p>		
⑤成績評価方法	<p>普段の出席・参加状況と演習課題の解答により評価する。</p>		
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	<p>オフィスアワーは特に設定しませんが、質問は積極的に受け付けます。 事前にメール、kibacoでアポイントメントをとり、私の研究室（3号館4F411号室）へ来て下さい。</p>		

2018年度以降入学生	数理統計学特殊研究		P0451	2単位
2013～2017年度入学生	統計学特殊研究		P566	2単位
2012年度以前入学生	—		—	—
担当教員	小方 浩明	前期	木曜日	3時限
①授業方針・テーマ	時系列データの特徴、ならびに時系列データの高度な解析方法について学ぶ。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	時系列データの特徴を理解する。 高度な時系列データ解析の方法を理解する。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	テキスト（洋書）を輪読する。テキストは相談のうえ決めるが、例えば以下が挙げられる。 【授業外学習】輪読するテキストを事前に読み、内容を理解し、授業中に発表できる状態にしておくこと。			
④テキスト・参考書等	Ruey S. Tsay.(2010)〈I〉Analysis of Financial time series. 3rd ed.〈I〉Wiley.			
⑤成績評価方法	出席、授業への参加状況を総合的に評価する。			
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	数理統計学の知識を前提とする。また、数理的側面の強い統計学のテキストを読むことを前提としている。なお、初回の授業に必ず出席すること。 【オフィスアワー】 時間は特に設定しないので、質問等がある場合はメールで事前にアポイントメントを取ること。			

2018年度以降入学生	数理統計学特殊演習		P0452	2単位
2013～2017年度入学生	統計学特殊研究		P567	2単位
2012年度以前入学生	—		—	—
担当教員	小方 浩明	後期	木曜日	3時限
①授業方針・テーマ	時系列データの特徴、ならびに時系列データの高度な解析方法について学ぶ。 自ら興味のあるデータを取得し、実際に解析を行う。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経済時系列データの特徴を理解する。 さまざまな時系列データ解析の方法を理解する。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	時系列データの特徴を理解する。 高度な時系列データ解析の方法を理解する。 統計ソフトウェアRにより時系列解析が行える。			
④テキスト・参考書等	特に指定しない。			
⑤成績評価方法	出席、授業への参加状況を総合的に評価する。			
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	数理統計学特殊研究を受講済みのこと。 【オフィスアワー】 時間は特に設定しないので、質問等がある場合はメールで事前にアポイントメントを取ること。			

2018年度以降入学生	—	—	—	—
2013～2017年度入学生	—	—	—	—
2012年度以前入学生	統計学特殊研究		P434	4単位
担当教員	小方 浩明	通年	木曜日	3時限
①授業方針・テーマ	時系列データの特色、ならびに時系列データの高度な解析方法について学ぶ。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	時系列データの特徴を理解する。 高度な時系列データ解析の方法を理解する。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	テキスト（洋書）を輪読する。テキストは相談のうえ決めるが、例えば以下が挙げられる。 【授業外学習】輪読するテキストを事前に読み、内容を理解し、授業中に発表できる状態にしておくこと。			
④テキスト・参考書等	Ruey S. Tsay.(2010)〈I〉 Analysis of Financial time series. 3rd ed.</I〉 Wiley.			
⑤成績評価方法	出席、授業への参加状況を総合的に評価する。			
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	数理統計学の知識を前提とする。また、数理的側面の強い統計学のテキストを読むことを前提としている。なお、初回の授業に必ず出席すること。 【オフィスアワー】時間は特に設定しないので、質問等がある場合はメールで事前にアポイントメントを取ること。			

2018年度以降入学生	公共経済学特殊研究		P0453	2単位
2013～2017年度入学生	公共経済特殊研究		P667	2単位
2012年度以前入学生	—		—	—
担当教員	森本 脩平	前期	火曜日	5時限
①授業方針・テーマ	大学院レベルの公共経済学について学ぶ。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	公共経済学の専門的な研究を行うために必要となる知識や分析手法の習得を目標とする。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	公共経済学関連の論文の輪読や講義を主に行う。 【授業外学習】授業中に指示する文献に目を通し授業内容の予習と復習を行うこと。			
④テキスト・参考書等	受講者と相談の上決定する。			
⑤成績評価方法	授業に取り組む姿勢、討論への参加状況、授業での報告、レポートなどにより評価する。			
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。 【オフィスアワー】水曜3限			

2018年度以降入学生	公共経済学特殊演習		P0454	2単位
2013～2017年度入学生	公共経済特殊研究		P668	2単位
2012年度以前入学生	—		—	—
担当教員	森本 脩平	後期	火曜日	5時限
①授業方針・テーマ	大学院レベルの公共経済学について学ぶ。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	公共経済学の専門的な研究を行うために必要となる知識や分析手法の習得を目標とする。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	公共経済学関連の論文の輪読や問題演習を主に行う。 【授業外学習】 授業中に指示する文献に目を通し授業内容の予習と復習を行うこと。			
④テキスト・参考書等	受講者と相談の上決定する。			
⑤成績評価方法	授業に取り組む姿勢、討論への参加状況、授業での報告、レポートなどにより評価する。			
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。 【オフィスアワー】 水曜3限			

2018年度以降入学生	—		—	—
2013～2017年度入学生	—		—	—
2012年度以前入学生	経済学特殊講義（公共経済学特論）		P487	4単位
担当教員	森本 脩平	通年	火曜日	5時限
①授業方針・テーマ	大学院レベルの公共経済学について学ぶ。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	公共経済学の専門的な研究を行うために必要となる知識や分析手法の習得を目標とする。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	公共経済学関連の論文の輪読、講義、および問題演習を主に行う。 【授業外学習】 授業中に指示する文献に目を通し授業内容の予習と復習を行うこと。			
④テキスト・参考書等	受講者と相談の上決定する。			
⑤成績評価方法	授業に取り組む姿勢、討論への参加状況、授業での報告、レポートなどにより評価する。			
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。 【オフィスアワー】 水曜3限			

2018年度以降入学生	国際金融論特殊研究		P0455	2単位
2013～2017年度入学生	国際金融特殊研究		P592	2単位
2012年度以前入学生	—		—	—
担当教員	荒戸 寛樹	前期	月曜日	1時限
①授業方針・テーマ	マクロ経済学・国際マクロ経済学についての基本文献を読む。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マクロ経済学・国際マクロ経済学についての基本文献が読めるようになる。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>《授業計画・内容》 Handbook of Macroeconomics, Handbook of Economic Growth, Handbook of Monetary Economics, Handbook of International Economics等の文献から各自の興味に合わせて論文を選定し、学生が内容を報告する。</p> <p>《授業方法》 輪読形式で行う。</p> <p>《授業外学習》 文献の内容を理解し、報告の準備を行うこと。 その際、先行研究のレビューも行うと望ましい。</p>			
④テキスト・参考書等	上述のHandbookシリーズを用いる。			
⑤成績評価方法	報告の内容やディスカッションへの参加度を総合的に判断する。			
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<ul style="list-style-type: none"> ・経済学プログラム科目「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「経済数学」「計量経済学」を全て履修済みか、それと同等の知識を持っていることが履修の前提となる。 ・履修希望者は1回目の授業に必ず出席すること。 <p>《オフィス・アワー》 特定の時間を設定することはないが、質問がある場合は遠慮なくメールでアポイントメントを取ること。</p>			

2018年度以降入学生	国際金融論特殊演習		P0456	2単位
2013～2017年度入学生	国際金融特殊研究		P593	2単位
2012年度以前入学生	—		—	—
担当教員	荒戸 寛樹	後期	月曜日	1時限
①授業方針・テーマ	マクロ経済学・国際マクロ経済学についての基本文献を読む。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マクロ経済学・国際マクロ経済学についての基本文献が読めるようになる。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>《授業計画・内容》 Handbook of Macroeconomics, Handbook of Economic Growth, Handbook of Monetary Economics, Handbook of International Economics等の文献から各自の興味に合わせて論文を選定し、学生が内容を報告する。</p> <p>《授業方法》 輪読形式で行う。</p> <p>《授業外学習》 文献の内容を理解し、報告の準備を行うこと。 その際、先行研究のレビューも行うと望ましい。</p>			
④テキスト・参考書等	上述のHandbookシリーズを用いる。			
⑤成績評価方法	報告の内容やディスカッションへの参加度を総合的に判断する。			
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<ul style="list-style-type: none"> ・経済学プログラム科目「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「経済数学」「計量経済学」を全て履修済みか、それと同等の知識を持っていることが履修の前提となる。 ・履修希望者は1回目の授業に必ず出席すること。 <p>《オフィス・アワー》 特定の時間を設定することはないが、質問がある場合は遠慮なくメールでアポイントメントを取ること。</p>			

2018年度以降入学生	—	—	—
2013～2017年度入学生	—	—	—
2012年度以前入学生	マクロ経済学特殊研究		P449 4単位
担当教員	荒戸 寛樹	通年	月曜日 1時限
①授業方針・テーマ	マクロ経済学・国際マクロ経済学についての基本文献を読む。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マクロ経済学・国際マクロ経済学についての基本文献が読めるようになる。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>《授業計画・内容》 Handbook of Macroeconomics, Handbook of Economic Growth, Handbook of Monetary Economics, Handbook of International Economics等の文献から各自の興味に合わせて論文を選定し、学生が内容を報告する。</p> <p>《授業方法》 輪読形式で行う。</p> <p>《授業外学習》 文献の内容を理解し、報告の準備を行うこと。 その際、先行研究のレビューも行うと望ましい。</p>		
④テキスト・参考書等	上述のHandbookシリーズを用いる。		
⑤成績評価方法	報告の内容やディスカッションへの参加度を総合的に判断する。		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<ul style="list-style-type: none"> ・経済学プログラム科目「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「経済数学」「計量経済学」を全て履修済みか、それと同等の知識を持っていることが履修の前提となる。 ・履修希望者は1回目の授業に必ず出席すること。 <p>《オフィス・アワー》 特定の時間を設定することはないが、質問がある場合は遠慮なくメールでアポイントメントを取ること。</p>		

2018年度以降入学生	都市環境経済学特殊研究		P0457	2単位
2013～2017年度入学生	経済学特殊演習（環境経済学特論）		P604	2単位
2012年度以前入学生	—		—	—
担当教員	朝日 ちさと	前期	水曜日	1時限
①授業方針・テーマ	都市経済学・地域経済学・環境経済学の分野のテキストおよび論文を購読し、受講生自らの研究テーマに関する基礎知識および方法論を習得します。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	都市・地域・環境問題に関する経済学的分析の基礎知識および方法論を習得することを目的とします。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	受講者が自らの研究テーマを設定し、段階的に学会発表および論文執筆を行うことを念頭に置いた研究指導を行います。 テキストおよび論文の購読をレジュメにより報告し、方法論・結論等を習得するとともに、自らの研究テーマに即した応用について議論します。 授業外学習として、テキスト・論文の内容について、知識の確認、レジュメの作成、自らの研究テーマとの関係についての考察等を行います。			
④テキスト・参考書等	テキストおよび論文は、受講者のテーマ設定に応じて初回講義時に決定します。 参考書類については随時紹介します。			
⑤成績評価方法	授業における報告、レポート等によって評価します。			
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	特定のオフィスアワーは設けませんので、質問・連絡がある場合には、事前にメールでアポイントをとってください。 e-mail : asahi@tmu.ac.jp			

2018年度以降入学生	都市環境経済学特殊演習		P0458	2単位
2013～2017年度入学生	経済学特殊演習（環境経済学特論）		P638	2単位
2012年度以前入学生	—		—	—
担当教員	朝日 ちさと	後期	水曜日	1時限
①授業方針・テーマ	都市環境経済学特殊研究によって検討してきた自らの研究テーマについて、個別の調査および分析を進めます。その進捗状況を報告し、受講者間の討論によって調査分析の改善をはかります。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	自らの調査分析の報告を通じて分析内容の改善を図るとともに、受講者間の討論によって、関連分野の知見を蓄積し、調査分析に関する客観的批判的な視座を養います。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	受講者が自らの研究テーマを設定し、関連学会での発表および論文執筆に向けての研究指導を行います。また、博士論文執筆を進めていくための指導も行います。			
④テキスト・参考書等	受講者の研究テーマに応じた参考文献を随時紹介します。			
⑤成績評価方法	授業における報告、レポート等によって評価します。			
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	特定のオフィスアワーは設けませんので、質問・連絡がある場合には、事前にメールでアポイントをとってください。 e-mail : asahi@tmu.ac.jp			

2018年度以降入学生	—	—	—
2013～2017年度入学生	—	—	—
2012年度以前入学生	経済学特殊講義（環境経済学特論）		P475 4単位
担当教員	朝日 ちさと	通年	水曜日 1時限
①授業方針・テーマ	都市経済学・地域経済学・環境経済学の分野のテキストおよび論文を購読し、受講生自らの研究テーマに関する基礎知識および方法論を習得するとともに、調査および実証的な分析を行います。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	都市・地域・環境問題に関する経済学的分析の基礎知識および方法論を習得することを目的とします。さらに、自らの調査分析の報告を通じて分析内容の改善を図るとともに、受講者間の討論によって、関連分野の知見を蓄積し、調査分析に関する客観的批判的な視座を養います。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	受講者が自らの研究テーマを設定し、段階的に学会発表および論文執筆を行うことを念頭に置いた研究指導を行います。 テキストおよび論文の購読をレジュメにより報告し、方法論・結論等を習得するとともに、自らの研究テーマに即した応用について議論します。 授業外学習として、テキスト・論文の内容について、知識の確認、レジュメの作成、自らの研究テーマとの関係についての考察等を行います。		
④テキスト・参考書等	テキストおよび論文は、受講者のテーマ設定に応じて初回講義時に決定します。 参考書類については随時紹介します。		
⑤成績評価方法	授業における報告、レポート等によって評価します。		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	特定のオフィスアワーは設けませんので、質問・連絡がある場合には、事前にメールでアポイントをとってください。 e-mail : asahi@tmu.ac.jp		

2018年度以降入学生	財政学特殊研究		P0459	2単位
2013～2017年度入学生	経済学特殊演習（財政学—公共政策分析）		P572	2単位
2012年度以前入学生	—		—	—
担当教員	金子 憲	前期	火曜日	1時限
①授業方針・テーマ	この講義では、現在の日本が直面している様々な政策課題に焦点をあてながら、国や地方公共団体などの公共部門が果たす役割を、理論面・制度面・政策面から分析を行う。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	国や地方公共団体などの公共部門が行う政策を、財政構造と関連させながら政策的観点から分析を行うことによって、今後の日本の政治・経済・財政全般に関する幅広い視野と政策形成に資する能力を身に付けることを目標とする。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	【講義計画・内容】 本年度は、日本の住宅政策を取り上げる予定である。 【授業外学習】 講義前：事前配布資料を一読し、論点をまとめておくこと。 講義後：講義内に提示する課題について、レポートを作成して提出すること。			
④テキスト・参考書等	講義の際、適宜紹介する。必要に応じてレジュメ等を配布する。			
⑤成績評価方法	出席状況・報告内容・期末レポート等、平常点を基に総合的に評価する。			
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	【オフィスアワー】 特定のオフィスアワーは設けませんので、授業に関する質問等がある場合は、事前にメールでアポイントを取ってください。			

2018年度以降入学生	財政学特殊演習		P0460	2単位
2013～2017年度入学生	経済学特殊演習（財政学－公共政策分析）		P573	2単位
2012年度以前入学生	—		—	—
担当教員	金子 憲	前期	火曜日	2時限
①授業方針・テーマ	この講義では、現在の日本が直面している様々な政策課題に焦点をあてながら、国や地方公共団体などの公共部門が果たす役割を、理論面・制度面・政策面から分析を行う。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	国や地方公共団体などの公共部門が行う政策を、財政構造と関連させながら政策的観点から分析を行うことによって、今後の日本の政治・経済・財政全般に関する幅広い視野と政策形成に資する能力を身に付けることを目標とする。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	【講義計画・内容】 本年度は、日本の住宅政策を取り上げる予定である。 【授業外学習】 講義前：事前配布資料を一読し、論点をまとめておくこと。 講義後：講義内に提示する課題について、レポートを作成して提出すること。			
④テキスト・参考書等	講義の際、適宜紹介する。必要に応じてレジュメ等を配布する。			
⑤成績評価方法	出席状況・報告内容・期末レポート等、平常点を基に総合的に評価する。			
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	【オフィスアワー】 特定のオフィスアワーは設けませんので、授業に関する質問等がある場合は、事前にメールでアポイントを取ってください。			

2018年度以降入学生	—		—	—
2013～2017年度入学生	—		—	—
2012年度以前入学生	経済学特殊講義（財政学－公共政策分析）		P437	4単位
担当教員	金子 憲	前期	火曜日	1時限、2時限
①授業方針・テーマ	この講義では、現在の日本が直面している様々な政策課題に焦点をあてながら、国や地方公共団体などの公共部門が果たす役割を、理論面・制度面・政策面から分析を行う。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	国や地方公共団体などの公共部門が行う政策を、財政構造と関連させながら政策的観点から分析を行うことによって、今後の日本の政治・経済・財政全般に関する幅広い視野と政策形成に資する能力を身に付けることを目標とする。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	【講義計画・内容】 本年度は、日本の住宅政策を取り上げる予定である。 【授業外学習】 講義前：事前配布資料を一読し、論点をまとめておくこと。 講義後：講義内に提示する課題について、レポートを作成して提出すること。			
④テキスト・参考書等	講義の際、適宜紹介する。必要に応じてレジュメ等を配布する。			
⑤成績評価方法	出席状況・報告内容・期末レポート等、平常点を基に総合的に評価する。			
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	【オフィスアワー】 特定のオフィスアワーは設けませんので、授業に関する質問等がある場合は、事前にメールでアポイントを取ってください。			

2018年度以降入学生	日本経済史特殊研究		P0461	2単位
2013～2017年度入学生	日本経済史特殊研究		P607	2単位
2012年度以前入学生	—		—	—
担当教員	小林 延人	前期	水曜日	4時限
①授業方針・テーマ	近世後期～現在に至るまで（19～21世紀）の日本経済史を扱う。本授業では、経済史の応用的な方法論を学ぶとともに、博士論文の執筆に向けた準備をする。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・先行研究を正確に理解し、通説として受け入れられている歴史的事実を知識として習得するとともに、先行研究を批判的に検討する姿勢を学ぶ。 ・文献や重要語句の意味を自身で検索し、また短い期間で論文の主旨や問題点を析出する訓練を積むことで、博士論文執筆の上で必要な基礎的技能を身につけることができる。 			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】</p> <p>第1回 近世日本の制度的基盤 第2回 幕府財政 第3回 開港に伴う経済構造の変容 第4回 近世後期の貨幣制度 第5回 明治維新と維新政府の経済政策 第6回 松方財政 第7回 地方自治と農村経済 第8回 官営事業と殖産興業政策 第9回 産業革命論 第10回 日清戦後経営 第11回 戦間期の日本経済 第12回 戦時統制経済 第13回 戦後復興 第14回 高度経済成長 第15回 現代日本経済</p> <p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として講義形式で授業を実施するが、あらかじめリーディングリストを配布し、課題論文を提示する。 ・講義を行った後、講義内容を踏まえた短時間のディスカッションを行う。 <p>【授業外学習】</p> <p>参加者には毎回、課題論文に対するコメントを用意してもらう。事前に課題論文を講読していることを前提として授業を進める。</p>			
④テキスト・参考書等	リーディングリストを配布し、課題論文を提示する。			
⑤成績評価方法	<p>議論への参加 [30%]、期末レポート [70%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートについては、適切に課題が設定されているか、先行研究と関連付けて課題が説明されているか、史料的根拠に立脚して自身の見解を述べているか等を評価項目とし、構成と論理性を重視して評価する。 ・正当な理由がなく4回以上授業を欠席した場合は、原則として成績評価の対象としない。 			
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>日本経済史に関わる博士論文を執筆する学生対象の授業であるが、それ以外の学生の参加も認める。</p> <p>【オフィスアワー】：原則として毎週木曜2限に設定する。メールで事前に連絡すること。</p>			

2018年度以降入学生	日本経済史特殊演習	P0462	2単位
2013～2017年度入学生	日本経済史特殊研究	P608	2単位
2012年度以前入学生	—	—	—
担当教員	小林 延人	後期	月曜日 2時限
①授業方針・テーマ	主として、近世中期～昭和戦前期（18世紀～20世紀前半）の日本経済史を扱う。本演習では、経済史の応用的な方法論を学ぶとともに、博士論文の執筆に向けた準備をする。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・先行研究を整理し、通説として受け入れられている歴史的事実を知識として習得するとともに、先行研究を批判的に検討する姿勢を学ぶ。 ・個人研究報告を行い、批判を受けることで、自己の研究を見直してさらに議論を深めることができる。 		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】</p> <p>第1回 江戸期商人の活躍と取引、商慣行 第2回 商人と商業組織 第3回 近世後期における信用制度、交易、交通、インフラの成立と商業 第4回 開国にともなう貿易・社会インフラ・流通機構の変容 第5回 近代的商業経営の成立 第6回 近代商業の発展と貿易の拡大 第7回 近代日用品市場の成立と展開 第8回 新たな小売業態の発展と中小小売商 第9回 生産の量的・質的拡大に対する商業者の反応 第10回 戦時配給統制とヤミ市の相克 第11回 戦時配給組織化と商業機能の喪失 第12回 戦争と商業経営者の存亡 第13回 個人研究報告（1）※ 第14回 個人研究報告（2）※ 第15回 個人研究報告（3）※</p> <p>※履修者の人数に応じて、個人研究報告の時間を設定する。</p> <p>【授業方法】</p> <p>①テキストの輪読（第1回～第12回）、②個人研究報告（第13回～第15回）、を組み合わせ実施する。 ①を通じて、基礎的知識の習得と文献を批判的に読み解く能力を養う。 ②を通じて、修士論文の執筆につながるような、研究テーマを探る。研究テーマは、教員が直接的には提示せず、演習参加者が自身の関心に沿って選択する方法を探る。</p> <p>【授業外学習】</p> <p>①の輪読では、毎回報告者を定め、文献の要約・論点をレジュメに作成してきてもらう。報告者以外の演習参加者も事前に文献を講読していることを前提として授業を進める。②では45分～60分程度の報告を行うために、報告者にはレジュメおよびパワーポイント資料を作成することが求められる。</p>		
④テキスト・参考書等	<p>テキスト：廣田誠・山田雄久・木山実・長廣利崇・藤岡里圭『日本商業史—商業・流通の発展プロセスをとらえる』（有斐閣、2017年）定価2,500円＋税 演習参加者には、テキストを事前に入手することを求める。</p>		
⑤成績評価方法	<p>議論への参加〔20%〕、個人研究報告〔40%〕、期末レポート〔40%〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートについては、適切に課題が設定されているか、先行研究と関連付けて課題が説明されているか、史料的根拠に立脚して自身の見解を述べているか等を評価項目とし、構成と論理性を重視して評価する。 ・正当な理由がなく4回以上授業を欠席した場合は、原則として成績評価の対象としない。 		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>日本経済史に関わる博士論文を執筆する学生対象の授業であるが、それ以外の学生の参加も認める。</p> <p>【オフィスアワー】：原則として毎週木曜2限に設定する。メールで事前に連絡すること。</p>		

2018年度以降入学生	—	—	—
2013～2017年度入学生	—	—	—
2012年度以前入学生	日本経済史特殊研究		P459 4単位
担当教員	小林 延人	通年	前期：水曜日 後期：月曜日 前期：4時限 後期：2時限
①授業方針・テーマ	近世後期～現在に至るまで（19～21世紀）の日本経済史を扱う。本授業では、経済史の応用的な方法論を学ぶとともに、博士論文の執筆に向けた準備をする。前期では講義形式による解説を中心に授業を実施し、後期では演習形式による文献輪読と個別研究報告を行う。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・先行研究を正確に理解し、通説として受け入れられている歴史的事実を知識として習得するとともに、先行研究を批判的に検討する姿勢を学ぶ。 ・文献や重要語句の意味を自身で検索し、また短い期間で論文の主旨や問題点を析出する訓練を積むことで、博士論文執筆の上で必要な基礎的技能を身につけることができる。 ・個人研究報告を行い、批判を受けることで、自己の研究を見直してさらに議論を深めることができる。 		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期 第1回 近世日本の制度的基盤 第2回 幕府財政 第3回 開港に伴う経済構造の変容 第4回 近世後期の貨幣制度 第5回 明治維新と維新政府の経済政策 第6回 松方財政 第7回 地方自治と農村経済 第8回 官営事業と殖産興業政策 第9回 産業革命論 第10回 日清戦後経営 第11回 戦間期の日本経済 第12回 戦時統制経済 第13回 戦後復興 第14回 高度経済成長 第15回 現代日本経済 ・後期 <p>テキストの輪読、個別研究報告（履修者の人数に応じて、個人研究報告の時間を設定する。）</p> <p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期は、主として講義形式で授業を実施するが、あらかじめリーディングリストを配布し、課題論文を提示する。講義を行った後、講義内容を踏まえた短時間のディスカッションを行う。 ・後期は、①テキストの輪読（第1回～第12回）、②個人研究報告（第13回～第15回）、を組み合わせる。①を通じて、基礎的知識の習得と文献を批判的に読み解く能力を養う。②を通じて、博士論文の執筆につながるような、研究テーマを探る。研究テーマは、教員が直接的には提示せず、授業参加者が自身の関心に沿って選択する方法を採る。 <p>【授業外学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期は、参加者には毎回、課題論文に対するコメントを用意してもらう。事前に課題論文を講読していることを前提として授業を進める。 ・後期は、①の輪読では、毎回報告者を定め、文献の要約・論点をレジュメに作成してきてもらう。報告者以外の授業参加者も事前に文献を講読していることを前提として授業を進める。②では45分～60分程度の報告を行うために、報告者にはレジュメおよびパワーポイント資料を作成することが求められる。 		
④テキスト・参考書等	<p>テキスト：廣田誠・山田雄久・木山実・長廣利崇・藤岡里圭『日本商業史—商業・流通の発展プロセスをとらえる』（有斐閣、2017年）定価2,500円＋税</p> <p>テキストは後期で用いる。演習参加者には、テキストを事前に入手することを求める。</p> <p>なお、前期はリーディングリストを配布し、課題論文を提示する。</p>		
⑤成績評価方法	<p>議論への参加 [20%]、個人研究報告 [40%]、期末レポート [40%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートについては、適切に課題が設定されているか、先行研究と関連付けて課題が説明されているか、史料的根拠に立脚して自身の見解を述べているか等を評価項目とし、構成と論理性を重視して評価する。 ・正当な理由がなく通年6回以上授業を欠席した場合は、原則として成績評価の対象としない。 		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	<p>日本経済史、日本近世史、日本近代史に関わる博士論文を執筆する学生対象の授業であるが、それ以外の学生の参加も認める。</p> <p>【オフィスアワー】：原則として毎週木曜2限に設定する。メールで事前に連絡すること。</p>		

2018年度以降入学生	経済思想史特殊研究	P0463	2単位
2013～2017年度入学生	経済学説史特殊研究	P663	2単位
2012年度以前入学生	—	—	—
担当教員	高見 典和	前期	月曜日 3時限
①授業方針・テーマ	近年の欧米での経済学史研究を解説します。直接には、近年の研究を参照して執筆した担当講師の記事（日本語）に依拠します。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	現在の数理的計量的経済学の直接の起源は、20世紀半ばの一連の数理経済学者の研究にあります。かれらがどのような知的背景をもち、どのような経済学を目指したかを見ることで、経済学は完成された知識ではなく、つねに新しい視点を取り入れてきた学問であることが理解できます。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	担当講師が『経済セミナー』に連載した記事やその他の執筆原稿を用いて、計量経済学、ゲーム理論、行動経済学、IS-LMモデル、成長理論それぞれの誕生や発展の経緯にかんして議論をします。 【授業外学習】 輪読形式をとりますので、各週の担当になった受講者はレジュメを作成してもらいます。		
④テキスト・参考書等	高見典和「連載：経済学説史」『経済セミナー』（2017年6・7月号～2018年2・3月号）		
⑤成績評価方法	授業への貢献50%、レポート50%		
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	当科目の履修には担当教員の許可が必要です。初回講義で履修を許可するかどうかを決定しますので、必ず出席してください。 原則として、毎週木曜2限をオフィスアワーに設定します。質問がある場合は、前日17時までに必ずメールで予約をした上で研究室（3号館419室）まで来てください。		

2018年度以降入学生	経済思想史特殊演習	P0464	2単位
2013～2017年度入学生	経済学説史特殊研究	P664	2単位
2012年度以前入学生	—	—	—
担当教員	高見 典和	後期	月曜日 3時限
①授業方針・テーマ	近年の欧米での経済学史研究を解説します。主に20世紀前半から半ばにかけての主流派経済学の歴史にかんする著作や論文をとりあげます。翻訳のあるものは少ないので、主として英文の文献を取り上げることになります。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	現在の数理的計量的経済学の直接の起源は、20世紀半ばの一連の数理経済学者の研究にあります。かれらがどのような知的背景をもち、どのような経済学を目指したかを見ることで、経済学は完成された知識ではなく、つねに新しい視点を取り入れてきた学問であることが理解できます。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	初回授業で、リーディングリストを配布します。計量経済学、ミクロ消費者理論、マクロ政策論争などにかんする著作や論文をあつかう予定です。 【授業外学習】 輪読形式をとりますので、各週の担当になった受講者はレジュメを作成してもらいます。		
④テキスト・参考書等	適宜指定		
⑤成績評価方法	授業への貢献50%、レポート50%		
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	当科目の履修には担当教員の許可が必要です。初回講義で履修を許可するかどうかを決定しますので、必ず出席してください。 原則として、毎週木曜2限をオフィスアワーに設定します。質問がある場合は、前日17時までに必ずメールで予約をした上で研究室（3号館419室）まで来てください。		

2018年度以降入学生	—	—	—
2013～2017年度入学生	—	—	—
2012年度以前入学生	経済学説史特殊研究		P486 4単位
担当教員	高見 典和	通年	月曜日 3時限
①授業方針・テーマ	近年の欧米での経済学史研究を解説します。前期には、近年の研究を参照して執筆した担当講師の記事（日本語）に依拠します。後期には、学術雑誌に掲載された英文記事を用います。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	現在の数理的計量的経済学の直接の起源は、20世紀半ばの一連の数理経済学者の研究にあります。かれらがどのような知的背景をもち、どのような経済学を目指したかを見ることで、経済学は完成された知識ではなく、つねに新しい視点を取り入れてきた学問であることが理解できます。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	担当講師が『経済セミナー』に連載した記事やその他の論文を用いて、計量経済学、ゲーム理論、行動経済学、IS-LMモデル、成長理論それぞれの誕生や発展の経緯にかんして議論をします。 【授業外学習】 輪読形式をとりますので、各週の担当になった受講者はレジュメを作成してもらいます。		
④テキスト・参考書等	高見典和「連載：経済学説史」『経済セミナー』（2017年6・7月号～2018年2・3月号） その他、適宜指定		
⑤成績評価方法	授業への貢献50%、レポート50%		
⑥特記事項 （他の授業科目との 関連性）	当科目の履修には担当教員の許可が必要です。初回講義で履修を許可するかどうかを決定しますので、必ず出席してください。 原則として、毎週木曜2限をオフィスアワーに設定します。質問がある場合は、前日17時までに必ずメールで予約をした上で研究室（3号館419室）まで来てください。		

2018年度以降入学生	アジア経済史特殊研究		P0467	2単位
2013～2017年度入学生	アジア経済史特殊研究		P647	2単位
2012年度以前入学生	—		—	—
担当教員	竹内 祐介	前期	金曜日	3時限
①授業方針・テーマ	アジア経済史の最新の研究成果を批判的に検討することが目的。対象とするのは、主に19～20世紀で、アジア各国史ではない、地域横断的な研究成果を、講義での解説を通じて確認する。解説を通してマクロ的視野でアジア経済の歴史および現状を考えられるようにする。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済史研究をおこなう上での基礎的素養の習得。 ・帝国論、グローバルヒストリー等、近年のアジア経済史研究を巡る新しい方法論の習得。 ・国際交流に不可欠な、日本と世界とのかわりについての理解を歴史的・経済的側面から深めること。 			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】</p> <p>第1回 ガイダンス：アジア経済史研究の現在 第2回 アジアとヨーロッパの「大分岐」 第3回 アジア間貿易の形成と構造（1）：19世紀末～第一次大戦期 第4回 アジア間貿易の形成と構造（2）：両大戦間期 第5回 日本帝国経済論 第6回 日本植民地経済史研究（1） 第7回 日本植民地経済史研究（2） 第8回 「大東亜共栄圏」経済史研究 第9回 アジアの脱植民地化過程と冷戦体制 第10回 アジア太平洋経済圏の興隆 第11回 キャッチアップ型工業化論 第12回 開発主義 第13回 中国経済の台頭とアジア経済の変容 第14回 現代アジア経済論 第15回 講義のまとめ</p> <p>【授業方法】 配布資料にもとづき、黒板（ホワイトボード）やスライドを使って解説する。</p> <p>【授業外学習】 各講義で指示された指定文献を読むことによる復習。</p>			
④テキスト・参考書等	参考書：杉原薫 [2003]『アジア太平洋経済圏の興隆』大阪大学出版会。各回講義で読むべき文献は、各回で指示する。			
⑤成績評価方法	平常点 50% 期末レポート 50%			
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	履修する場合には、必ず初回授業に参加すること。			
	<p>【オフィスアワー】 原則として、毎週水曜日3限。前日までにメールで予約をした上で南大沢Cの研究室（3-316）まで。もしくは授業前後に質問などを受け付ける。</p>			

2018年度以降入学生	アジア経済史特殊演習		P0468	2単位
2013～2017年度入学生	アジア経済史特殊研究		P648	2単位
2012年度以前入学生	—		—	—
担当教員	竹内 祐介	後期	金曜日	3時限
①授業方針・テーマ	アジア経済史の最新の研究成果を批判的に検討することが目的。対象とするのは、主に19～20世紀で、アジア各国史ではない、地域横断的な研究成果を、文献（主に論文）輪読を通じて確認する。輪読を通してマクロ的視野でアジア経済の歴史および現状を考えられるようにする。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済史研究をおこなう上での基礎的素養の習得。 ・帝国論、グローバルヒストリー等、近年のアジア経済史研究を巡る新しい方法論の習得。 ・国際交流に不可欠な、日本と世界とのかかわりについての理解を歴史的・経済的側面から深めること。 			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】</p> <p>第1回 ガイダンス：アジア経済史研究の現在 第2回 アジアとヨーロッパの「大分岐」 第3回 アジア間貿易の形成と構造（1）：19世紀末～第一次大戦期 第4回 アジア間貿易の形成と構造（2）：両大戦間期 第5回 日本帝国経済論 第6回 日本植民地経済史研究（1） 第7回 日本植民地経済史研究（2） 第8回 「大東亜共栄圏」経済史研究 第9回 アジアの脱植民地化過程と冷戦体制 第10回 アジア太平洋経済圏の興隆 第11回 キャッチアップ型工業化論 第12回 開発主義 第13回 中国経済の台頭とアジア経済の変容 第14回 現代アジア経済論 第15回 講義のまとめ</p> <p>【授業方法】 受講者に輪読文献の要約と論点を記した配布資料を作成してもらい、それをもとに議論する。</p> <p>【授業外学習】 各講義で指示された指定文献を読むことによる予習。</p>			
④テキスト・参考書等	参考書：杉原薫 [2003] 『アジア太平洋経済圏の興隆』 大阪大学出版会。各回講義で読むべき文献は、前期および初回授業で指示する。			
⑤成績評価方法	平常点 50% 期末レポート 50%			
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	履修する場合には、必ず初回授業に参加すること。 【オフィスアワー】 原則として、毎週水曜日3限。前日までにメールで予約をした上で南大沢Cの研究室（3-316）まで。もしくは授業前後に質問などを受け付ける。			

2018年度以降入学生	—	—	—
2013～2017年度入学生	—	—	—
2012年度以前入学生	経済学特殊講義（アジア経済史）		P447 4単位
担当教員	竹内 祐介	通年	金曜日 3時限
①授業方針・テーマ	アジア経済史の最新の研究成果を批判的に検討することが目的。対象とするのは、主に19～20世紀で、アジア各国史ではない、地域横断的な研究成果を、講義による解説と文献（主に論文）輪読を通じて確認する。以上を通してマクロ的視野でアジア経済の歴史および現状を考えられるようにする。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済史研究をおこなう上での基礎的素養の習得。 ・帝国論、グローバルヒストリー等、近年のアジア経済史研究を巡る新しい方法論の習得。 ・国際交流に不可欠な、日本と世界とのかわりについての理解を歴史的・経済的側面から深めること。 		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>【授業計画・内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期（講義） 第1回 ガイダンス：アジア経済史研究の現在 第2回 アジアとヨーロッパの「大分岐」 第3回 アジア間貿易の形成と構造（1）：19世紀末～第一次大戦期 第4回 アジア間貿易の形成と構造（2）：両大戦間期 第5回 日本帝国経済論 第6回 日本植民地経済史研究（1） 第7回 日本植民地経済史研究（2） 第8回 「大東亜共栄圏」経済史研究 第9回 アジアの脱植民地化過程と冷戦体制 第10回 アジア太平洋経済圏の興隆 第11回 キャッチアップ型工業化論 第12回 開発主義 第13回 中国経済の台頭とアジア経済の変容 第14回 現代アジア経済論 第15回 講義のまとめ ・後期（演習：文献輪読） <p>*前期の各回の内容に対応する文献を輪読する。</p> <p>【授業方法】 前期は配布資料にもとづき、黒板（ホワイトボード）やスライドを使って解説する。後期は受講者に輪読文献の要約と論点を記した配布資料を作成してもらい、それをもとに議論する。</p> <p>【授業外学習】 各講義で指示された指定文献を読むことによる予習／復習。</p>		
④テキスト・参考書等	参考書：杉原薫 [2003]『アジア太平洋経済圏の興隆』大阪大学出版会。各回講義で読むべき文献は、前期および後期の初回授業で指示する。		
⑤成績評価方法	平常点 50% 期末レポート 50%		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	履修する場合には、必ず初回授業に参加すること。 【オフィスアワー】 原則として、毎週水曜日3限。前日までにメールで予約をした上で南大沢Cの研究室（3-316）まで。もしくは授業前後に質問などを受け付ける。		

2018年度以降入学生	金融工学特殊研究	P0469	2 単位
2013～2017年度入学生	金融工学特殊研究	P613	2 単位
2012年度以前入学生	金融工学特殊研究	P462	2 単位
担当教員	内山 朋規	前期	木曜日 6 時限
①授業方針・テーマ	本講義では、金融工学やファイナンスに関する最新の論文を輪読したり、学生自身の研究を発表する。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融工学やファイナンスに関する知識・能力を習得する。到達目標は、最新の論文を輪読し、独創性に富んだ新しい論文を執筆できる能力を養うことにある。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	毎回、出席者による報告 【授業外学習】 論文輪読や研究報告・発表の準備		
④テキスト・参考書等	特になし		
⑤成績評価方法	毎回の報告内容と参加態度による総合評価		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	ファイナンス・金融工学では、動学的かつ確率的な枠組みのもとで理論が展開されるため、確率過程や確率解析、統計などで相応のレベルの数学が必須である。例えば以下のテキストのレベルの数学を理解できることが求められる。 Darrell Duffie(2001) Dynamic Asset Pricing Theory, Third Ed., Princeton Univ Pr. ただし、授業では数学だけでなく経済学的なインプリケーションを重視する。 【オフィスアワー】 原則として、火・水・金の午後。これ以外の時間帯でも在席時には随時受け付ける。場所は丸の内サテライトキャンパス。		

2018年度以降入学生	金融工学特殊演習	P0470	2 単位
2013～2017年度入学生	金融工学特殊研究	P614	2 単位
2012年度以前入学生	金融工学特殊研究	P463	2 単位
担当教員	内山 朋規	後期	木曜日 6 時限
①授業方針・テーマ	本講義では、金融工学やファイナンスに関する最新の論文を輪読したり、学生自身の研究を発表する。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融工学やファイナンスに関する知識・能力を習得する。到達目標は、最新の論文を輪読し、独創性に富んだ新しい論文を執筆できる能力を養うことにある。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	毎回、出席者による報告 【授業外学習】 論文輪読や研究報告・発表の準備		
④テキスト・参考書等	特になし		
⑤成績評価方法	毎回の報告内容と参加態度による総合評価		
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	ファイナンス・金融工学では、動学的かつ確率的な枠組みのもとで理論が展開されるため、確率過程や確率解析、統計などで相応のレベルの数学が必須である。例えば以下のテキストのレベルの数学を理解できることが求められる。 Darrell Duffie(2001) Dynamic Asset Pricing Theory, Third Ed., Princeton Univ Pr. ただし、授業では数学だけでなく経済学的なインプリケーションを重視する。 【オフィスアワー】 原則として、火・水・金の午後。これ以外の時間帯でも在席時には随時受け付ける。場所は丸の内サテライトキャンパス。		

2018年度以降入学生	金融リスク特殊研究	P0471	2 単位
2013～2017年度入学生	金融リスク特殊研究	P576	2 単位
2012年度以前入学生	金融リスク特殊研究	P440	2 単位
担当教員	室町 幸雄	前期	木曜日 6 時限
①授業方針・テーマ	金融リスクの定量的評価に関する文献の輪読による基礎知識の習得		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融リスクの定量的評価に必要な基礎知識を習得し、実際に使えるようになることを目指す。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	金融リスクの定量的評価に関する英語テキストの輪読を行う。毎回、担当者がテキストの内容を発表する。担当者は内容を吟味しながら読み進め、レジュメなどを使用しながら参加者に説明する。数式に関しては逐一追跡する。必要があれば、参考文献として他のテキストや論文も読み進める。発表者以外の参加者も、事前にテキストを一読し、疑問点を整理しておくこと。 使用するテキストは初回に参加者と話し合っ決定する。ちなみに、以前使用していたテキストは、McNeil, Frey, Embrechts, Quantitative Risk Management: Concepts, Techniques and Tools である。 授業外学習：予習と復習は必須。		
④テキスト・参考書等	初回に決定する。		
⑤成績評価方法	講義への参加姿勢と内容の習得度をもとに評価する。		
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	数理的な面が強い講義になるので、参加者は基礎的な数学、統計学、ファイナンスの知識を習得していることが必要である。 オフィスアワー：木曜 4 限（ただし第 2、3 木曜を除く）。 質問等はメール（muromachi-yukio@tmu.ac.jp）でも受け付ける。		

2018年度以降入学生	金融リスク特殊演習	P0472	2 単位
2013～2017年度入学生	金融リスク特殊研究	P577	2 単位
2012年度以前入学生	金融リスク特殊研究	P441	2 単位
担当教員	室町 幸雄	後期	木曜日 6 時限
①授業方針・テーマ	金融リスクの定量的評価に関する文献の輪読による基礎知識の習得		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融リスクの定量的評価に必要な基礎知識を習得し、実際に使えるようになることを目指す。		
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	金融リスクの定量的評価に関する英語テキストの輪読を行う。毎回、担当者がテキストの内容を発表する。担当者は内容を吟味しながら読み進め、レジュメなどを使用しながら参加者に説明する。数式に関しては逐一追跡する。必要があれば、参考文献として他のテキストや論文も読み進める。発表者以外の参加者も、事前にテキストを一読し、疑問点を整理しておくこと。 使用するテキストは初回に参加者と話し合っ決定する。ちなみに、以前使用していたテキストは、McNeil, Frey Embrechts, Quantitative Risk Management: Concepts, Techniques and Tools である。 内容の理解だけでなく、演習的な要素も適宜加える。 授業外学習：予習と復習は必須。		
④テキスト・参考書等	初回に決定する。		
⑤成績評価方法	講義への参加姿勢と内容の習得度をもとに評価する。		
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	数理的な面が強い講義になるので、参加者は基礎的な数学、統計学、ファイナンスの知識を習得していることが必要である。 オフィスアワー：木曜 4 限（ただし第 2、3 木曜を除く）。 質問等はメール（muromachi-yukio@tmu.ac.jp）でも受け付ける。		

2018年度以降入学生	オプション理論特殊研究		P0473	2単位
2013～2017年度入学生	—		—	—
2012年度以前入学生	—		—	—
担当教員	竹原 浩太	前期	火曜日	1時限
①授業方針・テーマ	高度なオプションの評価、リスク管理			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	高度なオプションの評価、リスク管理に必要な知識や理論、また最新の知見を学ぶ。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>オプション評価やリスク管理に関するテキストの輪読を行う。 対象となる文献については、書籍・論文を問わずできる限り最新のものの、また英文のものを中心とする予定である。 担当者が発表を行う形とするが、主にレジュメやホワイトボードを使用し、単に文献の主張や成果をそのまま述べるのではなく、批判的な視点から検討を行う。</p> <p>[授業外学習] 論文精読、発表準備</p>			
④テキスト・参考書等	L. Bergomi, 'Stochastic Volatility Modeling', Chapman and Hall/CRC, 2016.			
⑤成績評価方法	出席及び自身の発表を含む全体への貢献で評価する。			
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	<p>[オフィスアワー] 原則として毎週月・水曜4限をオフィスアワーとして設定する。 それ以外の時間帯に来訪する場合には、事前にメールでアポイントメントを取ること。</p>			

2018年度以降入学生	オプション理論特殊演習		P0474	2単位
2013～2017年度入学生	—		—	—
2012年度以前入学生	—		—	—
担当教員	竹原 浩太	後期	火曜日	1時限
①授業方針・テーマ	高度なオプションの評価、リスク管理			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	高度なオプションの評価、リスク管理に必要な知識や理論、また最新の知見を学ぶ。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	<p>オプション評価やリスク管理に関するテキストの輪読を行う。 対象となる文献については、書籍・論文を問わずできる限り最新のものの、また英文のものを中心とする予定である。 担当者が発表を行う形とするが、主にレジュメやホワイトボードを使用し、単に文献の主張や成果をそのまま述べるのではなく、批判的な視点から検討を行う。</p> <p>[授業外学習] 論文精読、発表準備</p>			
④テキスト・参考書等	L. Bergomi, 'Stochastic Volatility Modeling', Chapman and Hall/CRC, 2016.			
⑤成績評価方法	出席及び自身の発表を含む全体への貢献で評価する。			
⑥特記事項 (他の授業科目との関連性)	<p>[オフィスアワー] 原則として毎週月・水曜4限をオフィスアワーとして設定する。 それ以外の時間帯に来訪する場合には、事前にメールでアポイントメントを取ること。</p>			

2018年度以降入学生	金融数値解法特殊研究		P0475	2単位
2013～2017年度入学生	—		—	—
2012年度以前入学生	—		—	—
担当教員	八木 恭子	前期	火曜日	2時限
①授業方針・テーマ	金融数値解法に関するテキストの輪読による理論的な知識や能力の習得			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融数値解法に関する理論的な知識や能力を習得し、独創性のある新たな論文を執筆する基礎的な能力を養う。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	金融数値解法に関するテキストの輪読を行う。 【授業外学習】テキストの輪読の準備。担当範囲は講義内で指示する。			
④テキスト・参考書等	初回に決定する。			
⑤成績評価方法	講義への参加態度と内容の習得度をもとに総合的に評価する。			
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	金融数値解法を学ぶためには、金融工学の基礎と理系学部程度の数学の知識は必要不可欠である。また、テキスト内の数値計算やシミュレーションを再現するために、基礎的なコンピュータ技術を必要とする。 【オフィスアワー】 オフィスアワーは特に設定しないが、質問等がある場合は事前にメールでアポイントメントをとってください。 【連絡先】 kyagi@tmu.ac.jp			

2018年度以降入学生	金融数値解法特殊演習		P0476	2単位
2013～2017年度入学生	—		—	—
2012年度以前入学生	—		—	—
担当教員	八木 恭子	後期	火曜日	2時限
①授業方針・テーマ	金融数値解法に関する最新の論文を輪読し、金融数値解法に関する能力を高める。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融数値解法特殊研究を通じて養った知識や能力を用いて、金融数値解法に関する最新の論文を輪読し、金融数値解法に関する能力を高め、学術論文を執筆する。			
③授業計画・内容 授業方法 授業外学習	金融数値解法に関する最新の論文の輪読と研究報告 【授業外学習】 論文輪読と研究報告の準備。			
④テキスト・参考書等	特になし			
⑤成績評価方法	毎回の報告内容と参加態度をもとに総合的に評価する。			
⑥特記事項 (他の授業科目との 関連性)	金融数値解法を学ぶためには、金融工学の基礎と理系学部程度の数学の知識は必要不可欠である。また、最新の論文内の数値計算やシミュレーションを再現するために、基礎的なコンピュータ技術を必要とする。 【オフィスアワー】 オフィスアワーは特に設定しないが、質問等がある場合は事前にメールでアポイントメントをとってください。 【連絡先】 kyagi@tmu.ac.jp			

IV 各キャンパス授業時間割について

丸の内サテライトキャンパス及び南大沢キャンパスの授業時間は以下のとおりです。平日と土曜日で授業時間が異なります。またキャンパスごとも授業時間が異なりますのでご注意ください。

1 丸の内サテライトキャンパス

【月曜日～金曜日】

時限	授業時間	主な授業実施プログラム
1時限	9:30～11:00	ファイナンスプログラム (高度金融専門人材養成プログラム)
2時限	11:15～12:45	
3時限	14:00～15:30	
4時限	15:45～17:15	
5時限	18:20～19:50	経営学プログラム(高度専門職業人養成プログラム※) 及び経済学プログラム
6時限	20:00～21:30	

※2015年度までの高度専門職業人養成プログラムの1時限及び2時限は、2016年度から5時限及び6時限という表記に変更しました。授業時間に変更はありません。

【土曜日】

時限	授業時間	主な授業実施プログラム
1時限	10:30～12:00	経営学プログラム(高度専門職業人養成プログラム) 及び経済学プログラム
2時限	13:00～14:30	
3時限	14:40～16:10	
4時限	16:20～17:50	

2 南大沢キャンパス

【月曜日～金曜日】

時限	授業時間
1時限	8:50～10:20
2時限	10:30～12:00
3時限	13:00～14:30
4時限	14:40～16:10
5時限	16:20～17:50
6時限	18:00～19:30

V 交通機関運休の場合等の授業の取り扱いについて

○丸の内サテライトキャンパスにおける交通機関運休の場合等の授業の取り扱いについて

丸の内サテライトキャンパスにおける授業の休講について、取り扱いは次のとおりとします。

1 休講等を検討する場合

- (1) JR線及び地下鉄各線が著しく「運休」し、通学に支障をきたす場合
- (2) 東京23区に気象警報（大雨、洪水、暴風、暴風雪、大雪等）が発令されている場合
- (3) 首都圏を対象とした「大規模地震の警戒宣言」が発令された場合
→ (1)、(2) の場合は状況をもとに休講について検討する。(3) の場合は発令された時点で休講とする。

(注)「運休」とは、テレビ及びラジオ等により当該路線の全線の運転休止が確認されているものをいう。

2 休講を決定する時刻

平日 第1時限～第2時限（9:30～12:45）については午前7時までに決定する。
第3時限～第4時限（14:00～17:15）については午前11時までに決定する。
第5時限～第6時限（18:20～21:30）については午後4時までに決定する。

土曜日 第1時限（10:30～12:00）については午前8時までに決定する。
第2時限から第4時限（13:00～17:50）については午前10時30分までに決定する。

3 周知方法

上記各項に基づく休講措置については、原則としてメール配信にて提供する。

○丸の内サテライトキャンパス内における緊急時の対応について

授業中等に地震や火災の発生により防災センターから避難放送が流れる場合があります。その場合は避難放送の指示に従い行動します。避難指示があるまでは教室で待機してください。

なお、待機中は、永楽ビルディング内の他テナント所有部分等に立ち入ることのないよう、注意して下さい。

○南大沢キャンパスにおける交通機関運休の場合等の授業の取扱いについて

博士後期課程及び博士前期課程B2科目などの南大沢キャンパスで開講される授業について、交通機関が、積雪、風水害、事故、ストライキ等により運休した場合等の授業の取扱いは、次のとおりとし、(4)の方法により確認することができます。

(注)「運休」とは、テレビ及びラジオ等により当該路線の全線の運転休止が確認されてい

るものをいう。

- (1) 午前6時現在、京王相模原線・京王線、J R横浜線、小田急小田原線のいずれかが運休している場合は、第1時限～第2時限（8:50～12:00）を休講とする。
- (2) 前項に掲げる各路線及び小田急多摩線、J R南武線・中央線・山手線、多摩モノレールのいずれかの全部又は一部の運休など、通学に著しい支障をもたらす状況が生じている場合、若しくは生じることが予想される場合には、その都度休講等を決定する。

休講を決定する時刻

第1時限、第2時限については、午前6時までに決定する。

第3時限、第4時限（13:00～16:00）については、午前10時までに決定する。

第5時限、第6時限（16:20～19:30）については、午後1時までに決定する。

- (3) 定期試験等についても、授業と同様の扱いとする。別途事後措置を行うことがある。
- (4) 確認の方法
首都大学東京公式Twitter (https://twitter.com/TMU_PR) により、確認することができる。

VI 学生生活の手引き（南大沢キャンパス※）

- 1 社会科学研究科・経営学研究科の学籍に関する事務は、文系学務課大学院担当が行う。
ただし、学籍以外の施設に関すること等（院生室の使用、備品の使用等）は、指導教員が所属する関連学部等が行うので十分に注意すること。
- 2 学生への連絡は掲示により行うので、日常インフォメーションギャラリーの社会科学研究科掲示板、電子掲示板に充分注意すること。また、文系の事務室前にも簡易掲示板あり。
- 3 Webで成績等の確認をしたり、学内メールアドレスを使用する際にはパスワードが必要です。入学時に登録したパスワードを忘れないようにして下さい。
- 4 新学期用書類は、4月上旬（入学式以降の日）日時を決めて配布する。
なお、この時同時に
 - ①日本学生支援機構の申請書類を配布する。
 - ②日本学術振興会特別研究員の募集予約を受付ける。
- 5 授業料の納入期日は、前期分は4月中、後期分は10月中となっているので、この期間内に納入すること。
- 6 住所（本人または保証人）、本籍地、保証人等を変更した場合は速やかに文系学務課に届け出ること。
- 7 毎年4月下旬に行われる健康診断は必ず受診すること。
- 8 各種証明書の交付は、「証明書発行願」用紙により申請すること。発行は申し込みの翌日の午後以降、英文の証明書は1週間後となるので余裕を見て申請すること。
なお、証明書等の受領時には、学生証を提出すること。
- 9 授業料の減免・分納の申請については、4月上旬と10月上旬、学生サポートセンターで受付ける。掲示板に注意すること。
- 10 期の初日から休学を許可された場合は、授業料は免除される。ただし、復学した日の属するその期分の授業料は徴収する。
- 11 退学する場合は、その期分の授業料を納入していなければならない。

※ 丸の内キャンパスに関することは別途案内する。

Ⅶ 首都大学東京学位規則（抜粋）

（目的）

第1条 この規則は、学位規則（昭和28年文部省令第9号）第13条第1項の規定に基づき、首都大学東京の学位に関する事項を定めることを目的とする。

（学位の種類）

第2条 授与する学位は、次のとおりとする。

- （1）学士
- （2）修士
- （3）博士
- （4）法務博士（専門職）

2 学士、修士及び博士の学位を授与するに当たっては、別表第1に定めるところにより、専攻分野の名称を付記するものとする。

（平17規則202・平19規則79・別表改正、平20規則78・一部改正・別表改正、平21規則49・平23規則27・別表改正）

（修士の学位授与要件）

第4条 首都大学東京大学院学則（平成17年度法人規則第49号。以下「大学院学則」という。）第35条第1項の規定により、博士前期課程を修了した者に対し、修士の学位を授与する。

（博士の学位授与要件）

第5条 大学院学則第35条第1項の規定により、博士後期課程を修了した者に対し、博士の学位を授与する。

2 大学院学則第35条第2項の規定により学位論文の審査及び試験に合格し、前項の博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を試問によって確認された者に対し博士の学位を授与する。

（学位申請の方法、時期等）

第7条 学位申請の方法及び時期は、別表第2のとおりとする。

（修士の学位申請資格）

第8条 第4条の規定により修士の学位を得るため学位論文（特定の課題の研究成果を含む。以下同じ。）の審査を申請し得る者は、博士前期課程に在学し、既に所定の単位を修得した者又は学位論文審査終了までに所定の単位を修得し得ると認められたものに限る。

（博士の学位申請資格）

第9条 第5条第1項の規定により博士の学位を得るため学位論文審査を申請し得る者は、博士後期課程に在学し、既に所定の単位を修得した者又は学位論文審査終了までに所定の単位を修得し得ると認められたものに限る。ただし、第5条第2項の規定により学位の申請をする場合は、この限りでない。

(論文博士の申請等)

第10条 第5条第2項の規定により博士の学位を得るための申請をする者は、第7条で定める申請書類及び関連書類に学位論文審査手数料を添えて、第2条第2項に規定する専攻分野を指定し、当該研究科を経て、学長に申請する。

2 学位論文審査手数料の額、免除その他の事項は、別に定めるところによる。

(学位申請の受理)

第11条 第4条の規定により修士の学位を得るための申請及び第5条第1項の規定により博士の学位を得るための申請の受理は、関連研究科において行う。

2 第5条第2項の規定により博士の学位を得るための申請の受理は、研究科の教授会(以下「研究科教授会」という。)において審査可能な論文であるか否かを審査の上、受理又は不受理を決定する。

3 前項の規定により、受理を決定したときは、申請受理証を交付する。

4 学長は、前2項の規定により学位申請の受理を決定したときは、その学位の専攻分野に応じて当該研究科教授会に審査させる。

(学位論文)

第12条 学位論文は、主論文1編とする。ただし、参考論文を添付することができる。

2 論文の用語は、研究科教授会において定める。

3 一旦受理した学位論文は、いかなる事由があっても返付しない。

(審査会)

第13条 学位論文の審査は、研究科教授会に審査会を設置し、その審査報告に基づいて決定する。

2 前項に定める学位論文の審査会は次のとおりに構成する。

(1) 第8条及び第9条による学位論文については、指導教員を持って主査とし、当該研究科教授会を構成する教員の中から研究科教授会の推薦により学長の指名する2名以上の教員を加えたものとする。

(2) 第10条の規定による学位論文については、当該研究科教授会を構成する教員の中から主査1名、委員2名以上により構成するものとし、研究科教授会の推薦により学長が指名する。

3 研究科教授会は必要と認めるときは、前項の規定にかかわらず他の研究科の教員又は他の大学院若しくは研究所等の教員等を審査委員に推薦することができる。

(審査期間)

第14条 第8条及び第9条による学位論文については在学中に提出させ審査を修了するものとする。

2 第10条の規定による学位論文の審査は、学位の授与の申請を受理した後1年以内に終了しなければならない。

3 特別の理由があるときは、前2項の規定にかかわらず、研究科教授会の議を経てその期間を延長することができる。

(試験)

第15条 審査会は、学位論文審査と同時に学位論文を中心として、その関連科目について最終試験又は試験を行う。

2 前項の最終試験又は試験は、口頭又は筆頭により行うものとする。

(試問)

第16条 第5条第2項の規定による試問は、口頭及び筆頭により行うものとする。

2 本学博士課程に1年以上在学し、所定の単位を修得した者が、退学後第5条第2項の規定により博士の学位を得るための申請をする場合は、当該各研究科であらかじめ定めるところにより、前項の試問を免除することができる。

(公聴会)

第17条 研究科教授会は、あらかじめ定めるところにより、最終試験又は試験の一部として、公開の発表会（以下「公聴会」という。）を開催し、学位論文提出者に公聴会での発表等を課すことができる。公聴会の実施に関する事項は、審査会で定める。

(研究科教授会への報告)

第18条 審査会は、審査終了後ただちにその結果を研究科教授会に報告しなければならない。

2 研究科教授会は、学位論文審査に必要なときは学位論文の副本、邦訳、模型又は標本等を提出させ、場合によっては、学位論文提出者に対し、当該学位論文について説明を求めることができる。

(合否の決定)

第19条 研究科教授会は、審査会の報告に基づいて無記名投票により学位論文及び最終試験等の合否を決定する。

2 前項の研究科教授会を開くためには、当該研究科教授会の3分の2以上の出席を要し、合格の決定をするには、出席者の3分の2以上の賛成を要する。ただし、公務のための欠席者は、前記の定数に参入しない。

第20条 前条の研究科教授会において合格と決定したときは、研究科長は学位論文に関する審査の要旨及び最終試験又は試験の成績を添えて学長に報告する。

2 第5条第2項の規定により学位の申請をする者については、試問の成績も添えなければならない。

3 不合格と決定したときも、また前項に準ずる。ただし、審査要旨の添付を要しない。

(学位の授与)

第21条 学長は、学部又は研究科の教授会の報告に基づいて、別記様式により、学位を授与するものとする。

2 学士の学位授与の時期は、3月とする。ただし、本学に4年以上在学し、教授会が特に必要と認めた者については、学位授与の時期を9月とすることができる。

3 修士の学位授与の時期は、3月及び9月の年2回とする。

4 博士の学位授与の時期は、そのつど定める。

5 法務博士（専門職）の学位授与の時期は、3月及び9月の年2回とする。

（平17規則202・平19規則79・平20規則78・別記様式改正、平21規則49・一部改正・別記様式改正、平22規則15・別記様式改正）

(学位論文要旨の公表)

第22条 本学は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から3月以内に、その学位論文の内容の要旨及び学位論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとし、その方法については、別に定める。

(平25規則5・一部改正)

(学位論文の公表)

第23条 博士の学位を授与された者は、授与された日から1年以内に、その学位論文の全文を公表しなければならない。ただし、学位を授与される前に既に公表したときは、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、当該研究科教授会の承認を得て、当該学位論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、当該研究科は、当該学位論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 博士の学位を授与された者が行う前2項の規定による公表は、本学の協力を得て、インターネットの利用により行うものとし、その方法については、別に定める。

4 前3項の規定により学位授与以降に学位論文を公表する場合は、その学位論文に「首都大学東京審査学位論文(博士)」と明記しなければならない。

(学位の名称)

第24条 この規則の定めるところにより学位を授与された者が学位の名称を用いるときは、首都大学東京の名称を付記するものとする。

(学位の取消)

第25条 不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は当該研究科教授会の議に基づいて学位を取り消すことができる。

2 研究科教授会が前項の議決を行う場合は、出席者の4分の3以上の賛成を得なければならない。出席者数その他に関する事項は、第19条の規定を準用する。

別表第1（第2条関係）

社会科学部及び経営学研究科の学位の種類等

専攻	修士の学位の名称	博士の学位の名称
経営学専攻	修士（経営学）	博士（経営学）
	修士（経済学）*	博士（経済学）*
	修士（ファイナンス）*2	

*は2009年度入学者から

*2は2016年度入学者から

別表第2（第7条関係）

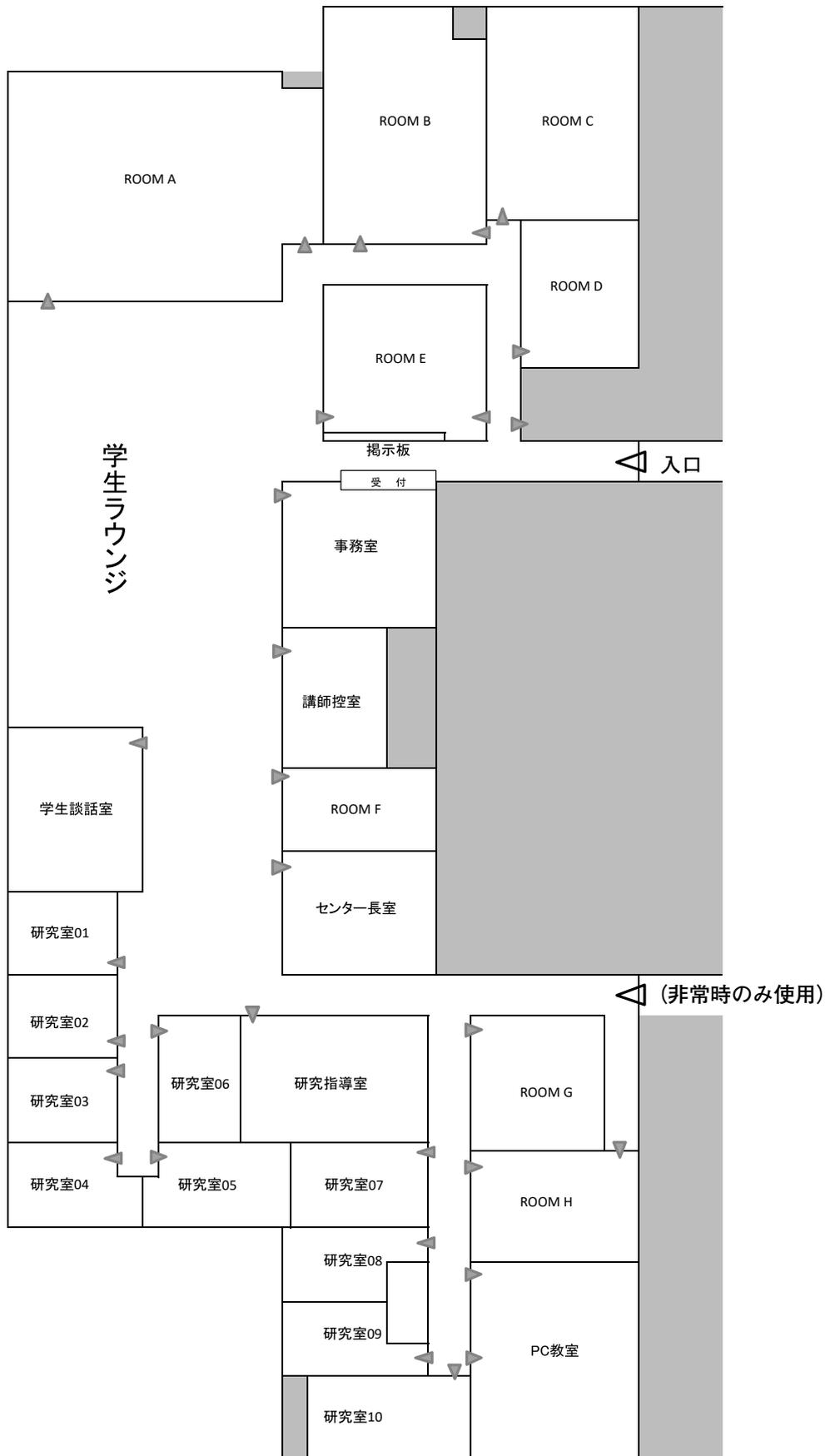
区分	申請日 (原則として)	学位授与日	申請書類等	部数
第4条の規定による学位 (修士) 博士前期課程に2年以上在学 (見込)中で30単位以上修得 (見込)の者	7月31日	9月30日	1 学位申請書	1
	1月10日	3月25日	2 学位論文 3 学位論文要旨	3 1
第5条第1項の規定による学位 (課程による博士) 博士後期課程に3年以上在学 (見込)中で20単位以上修得 (見込)の者	4月30日	9月30日	1 学位申請書	1
	10月31日	3月25日	2 学位論文 3 学位論文要旨 4 研究業績一覧 5 履歴書	3 3 2 2
第5条第2項の規定による学位 (論文による博士)	4月末日 及び 8月末日	9月下旬 及び 2月下旬 (予定)	1 学位申請書 2 学位論文 3 学位論文要旨 4 学位論文目録 5 研究業績一覧 6 履歴書 7 住民票記載事項 証明書	1 3 3 1 2 2 1

〔注記〕

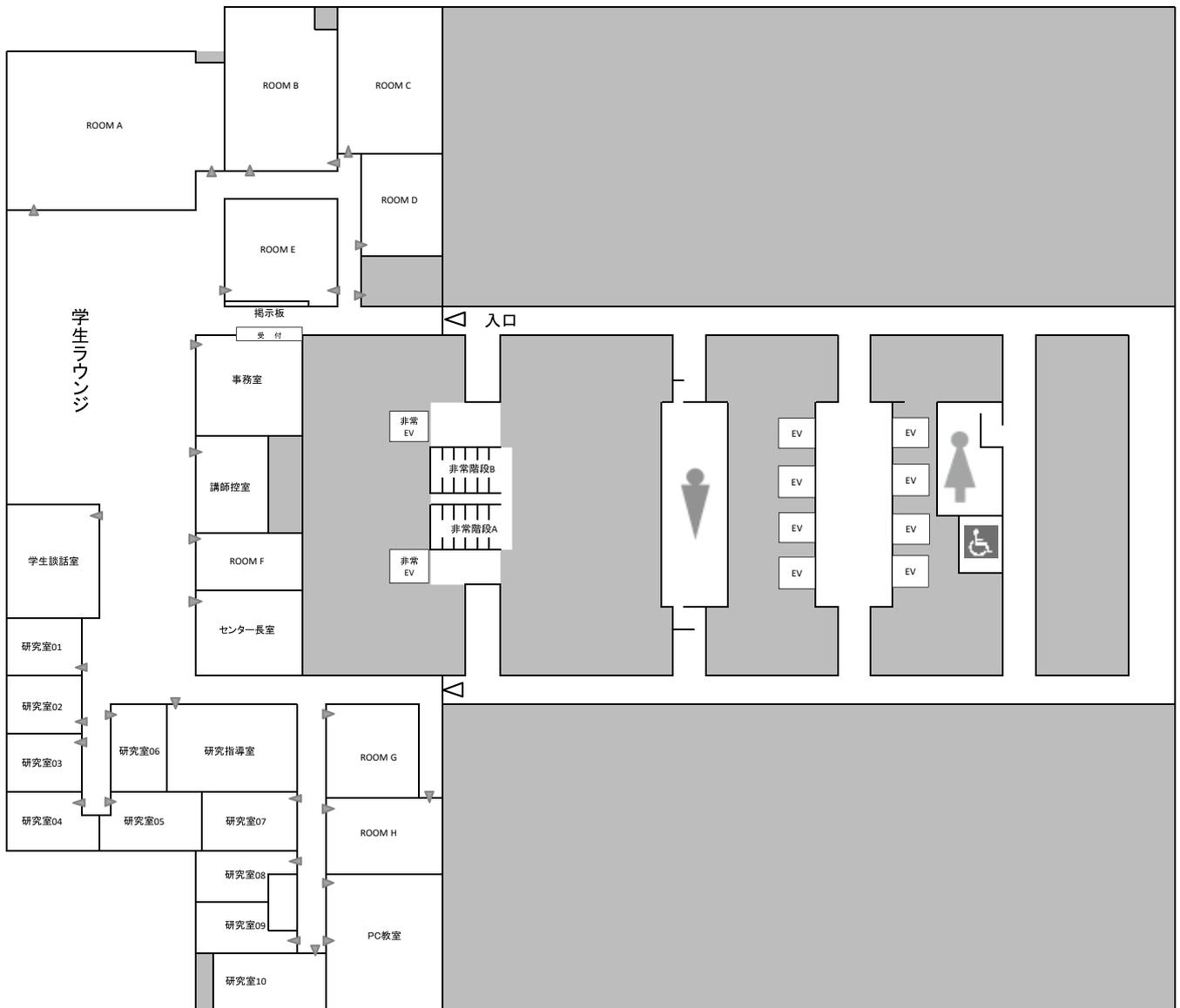
- ①学位申請者は、指導教員との連絡を十分に行うこと。
- ②経営学専攻博士後期課程の学生で平成21年度以降の入学者は、学位申請に先行して博士候補者（candidate）資格の申請が必要となる。
- ③その他詳細は、文系学務課（大学院担当）に照会のこと。

VIII 丸の内サテライトキャンパス平面図

(1) 首都大学東京エリア (拡大図)



(2) 丸の内永楽ビルディング18階 (全体図)



2018（平成30）年度
経営学研究科
社会科学研究科経営学専攻
授業概要・履修案内

平成30年4月1日発行

発行 首都大学東京大学院経営学研究科
東京都八王子市南大沢一丁目1番地
〒192-0397 電話 042（677）2303

印刷 株式会社 サンニチ印刷
東京都渋谷区代々木2-10-8
〒151-0053 電話 042（567）6233